

品川区  
障害児福祉計画策定実態・意向調査  
報告書

平成 29 年 11 月



## 目 次

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査の目的と方法 .....	1
(1) 調査の目的 .....	1
(2) 調査の概要 .....	1
(3) アンケート調査報告のみかた.....	1
2 調査結果概要 .....	2
(1) お子さん・世帯の状況について（未就学児、就学児以上18歳以下の方） .....	2
(2) お子さんの障害・疾病の状況について（未就学児、就学児以上18歳以下の方） .....	3
(3) 困りごとの相談、介助者への支援について（未就学児、就学児以上18歳以下の方） ..	4
(4) 医療的ケアの必要なお子さんについて（未就学児、就学児以上18歳以下の方） .....	6
(5) お子さんの生活について（未就学児） .....	7
(6) お子さんの進路・将来について（就学児以上18歳以下の方） .....	8
(7) 児童福祉法による障害児通所支援について（未就学児、就学児以上18歳以下の方） ..	9
(8) 障害福祉サービスの利用状況・利用希望について （未就学児、就学児以上18歳以下の方） .....	13
(9) 障害に対する理解について（未就学児、就学児以上18歳以下の方） .....	15
(10) 生活の状況・区の施策について（未就学児、就学児以上18歳以下の方） .....	18
<b>II アンケート調査集計報告</b> .....	<b>20</b>
1 未就学児への調査 .....	20
お子さん・世帯の状況について.....	20
お子さんの障害・疾病の状況について.....	27
困りごとの相談、介助者への支援について.....	33
医療的ケアの必要なお子さんについて.....	47
お子さんの生活について .....	55
児童福祉法による障害児通所支援について.....	61
障害福祉サービスの利用状況・利用希望について.....	78
障害に対する理解について .....	93
生活の状況・区の施策について.....	98
2 就学児以上18歳以下の方への調査.....	105
お子さん・世帯の状況について.....	105
お子さんの障害・疾病の状況について.....	112
困りごとの相談、介助者への支援について.....	119
医療的ケアの必要なお子さんについて.....	133

お子さんの進路・将来について.....	137
児童福祉法による障害児通所支援について.....	146
障害福祉サービスの利用状況・利用希望について.....	160
障害に対する理解について .....	209
生活の状況・区の施策について.....	214
<b>Ⅲ 資料編.....</b>	<b>223</b>
1 未就学児へのアンケート調査票.....	223
2 就学児以上 18 歳以下の方へのアンケート調査票.....	239

# I 調査の概要

## 1 調査の目的と方法

### (1) 調査の目的

この調査は、『品川区障害児福祉計画』の策定に向けて、障害児を取り巻く状況把握のために実施したものです。

### (2) 調査の概要

○調査対象：18歳以下の障害児のいる世帯の保護者全員。（平成29年6月末日現在。）

未就学児：308人

就学児以上18歳以下の方：533人

○調査期間：平成29年8月10日～平成29年8月28日

○調査方法：郵送による配付・回収

○配付・回収状況：

対象	配付数	回収数（有効回答）	回収率
未就学児	308票	176票	57.1%
就学児以上18歳以下の方	533票	259票	48.6%

### (3) アンケート調査報告のみかた

この調査の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

○「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。

○百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。したがって、回答比の合計が100%にならない場合もあります。

また、複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがあります。

○各設問に、属性別のクロス集計表を掲載しています。各属性において最も割合が高い項目は着色しています。なお、属性別のクロス集計のコメントは、特徴的な項目のみ記述しています。

○「1つに○」の設問について、回答がみられなかった選択肢は数字の表示を削除しています。

## 2 調査結果概要

## (1) お子さん・世帯の状況について（未就学児、就学児以上18歳以下の方）

○障害の種類は未就学児では「いずれも持っていない」が過半数、就学児以上18歳以下の方では「愛の手帳」の割合が最も高いが、2種類の所持者が一定数みられる。

(未就学児：問3、就学児以上18歳以下の方：問3)

調査対象者が所持している障害者手帳の種類は、未就学児では「いずれも持っていない」が51.7%、「愛の手帳」が25.6%、就学児以上18歳以下の方では「愛の手帳」が56.4%、「身体障害者手帳」が25.5%となっています。

手帳の重複状況（下表）をみると、1種類のみ所持者は未就学児では44.3%、就学児以上18歳以下の方では68.4%となっています。

2種類の所持では「身体障害者手帳」と「愛の手帳」の所持者は未就学児で4.0%、就学児以上18歳以下の方で7.7%みられます。

したがって、身体障害のある児童では、知的障害を併せ持つケースが比較的多いとみられます。

手帳の種類		未就学児 (176人)		就学児以上18歳以下の方 (259人)					
		回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合		
1種類	身体障害者手帳	25	14.2%	78	44.3%	46	17.8%	177	68.4%
	愛の手帳	38	21.6%			125	48.3%		
	精神障害者保健福祉手帳	0	0.0%			1	0.4%		
	特定医療費(指定難病)受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証	15	8.5%			5	1.9%		
2種類	身体障害者手帳	7	4.0%	7	4.0%	20	7.7%	21	8.1%
	愛の手帳								
	愛の手帳					1	0.4%		
	精神障害者保健福祉手帳	0	0.0%						
いずれも持っていない		91	51.7%			57	22.0%		
無回答		0	0.0%			4	1.5%		

## (2) お子さんの障害・疾病の状況について (未就学児、就学児以上 18 歳以下の方)

○障害に最初に気付いた時期について、身体障害や知的障害、重症心身障害では「出生時」、発達障害では「1歳」の割合が高い。

(未就学児：問7と問9、就学児以上18歳以下の方：問6と問8)

障害の種類別に障害に最初に気付いた時期について、未就学児、就学児以上18歳以下の方を合算すると、下表のとおりです。

このうち、「身体障害」の5種類と「重症心身障害」では「出生時」の割合が高く、3歳までに気付くケースが多数となっています。なお、身体障害でも「聴覚障害・平衡機能障害」と「音声・言語・そしゃく障害」では「9～11歳」の回答があり、就学してから障害に気付いたケースもみられます。

知的障害では、「出生時」が28.0%と高い割合となっていますが、2歳以下の各区分で10～20%台みられるほか、「4歳」を除く各年齢層で回答がみられ、成長してから障害に気付くケースがみられます。

発達障害では、「1歳」が27.7%、「2歳」が26.9%、「3歳」で19.2%となっており、1～3歳で7割以上となっています。なお「12歳以上」までの各年齢階層で回答がみられ、成長してから障害に気付くケースがみられます。

上段：回答者数、下段：割合

		障害に最初に気付いたのはいつ頃か (就学児以上18歳以下の方、未就学児の回答を合算)											
		出生時	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6～8歳	9～11歳	12歳以上	無回答	
全体		435	108 24.8	55 12.6	95 21.8	81 18.6	59 13.6	7 1.6	9 2.1	10 2.3	7 1.6	2 0.5	2 0.5
障害の種類 (複数回答)	身体障害(視覚障害)	14	7 50.0	3 21.4	3 21.4	0 0.0	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	身体障害(聴覚障害・平衡機能障害)	35	21 60.0	5 14.3	5 14.3	2 5.7	1 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.9	0 0.0	0 0.0
	身体障害(音声・言語・そしゃく障害)	37	18 48.6	7 18.9	5 13.5	4 10.8	2 5.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.7	0 0.0	0 0.0
	身体障害(肢体不自由)	55	28 50.9	18 32.7	7 12.7	0 0.0	2 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	身体障害(内部障害)	30	26 86.7	3 10.0	1 3.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	175	49 28.0	25 14.3	43 24.6	32 18.3	14 8.0	0 0.0	2 1.1	5 2.9	4 2.3	1 0.6	0 0.0
	重症心身障害	13	7 53.8	3 23.1	1 7.7	0 0.0	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高次脳機能障害	5	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
	発達障害	260	20 7.7	22 8.5	72 27.7	70 26.9	50 19.2	7 2.7	8 3.1	6 2.3	4 1.5	1 0.4	0 0.0
	その他	27	6 22.2	2 7.4	8 29.6	2 7.4	5 18.5	0 0.0	1 3.7	3 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

(3) 困りごとの相談、介助者への支援について  
(未就学児、就学児以上 18 歳以下の方)

**○主な介助者は「母親」が 78.4%。夫婦で介助している世帯が多いが、「サポートしてくれる人はいない」も 1 割以上みられる。**

(未就学児：問 11 と問 12、就学児以上 18 歳以下の方：問 10 と問 11)

主な介助者と主な介助者をサポートしてくれる親族・知人について、未就学児、就学児以上 18 歳以下の方を合算すると、下表のとおりです。

主な介助者は、「母親」が 78.4% (435 人中 341 人)、「父親」が 6.0% (435 人中 26 人)、「同居している祖父母」が 0.2% (435 人中 1 人) となっています。

主な介助者別に主な介助者をサポートしてくれる親族・知人をみると、主な介助者が「母親」の世帯では、「父親」が 73.0%、「その他親族」が 17.6%となっているほか、「兄弟姉妹」も 15.8%となっています。

主な介助者が「父親」の世帯では、「母親」が 42.3% (26 人中 11 人)、「その他親族」が 26.9% (26 人中 7 人) となっており、主な介助者が「母親」の世帯と比べて「その他親族」の支援を受けている世帯が多くなっています。

なお、「サポートしてくれる人はいない」は、主な介助者が「父親」の世帯で 15.4% (26 人中 4 人)、「母親」の世帯で 12.0%となっており、父親のみまたは母親のみで介助している世帯が 1 割以上みられます。

上段：回答者数、下段：割合

		主な介助者をサポートしてくれる親族・知人 (複数回答)									
		父親	母親	兄弟姉妹	同居している祖父母	その他親族	近所の人	その他	サポートしてくれる人はいない	無回答	非該当
全体	368	258 70.1	30 8.2	55 14.9	19 5.2	67 18.2	12 3.3	28 7.6	45 12.2	12 3.3	67
主な介助者	父親	26	11 42.3	1 3.8	1 3.8	7 26.9	2 7.7	2 7.7	4 15.4	0 0.0	0
	母親	341	249 73.0	54 15.8	18 5.3	60 17.6	10 2.9	26 7.6	41 12.0	12 3.5	0
	同居している祖父母	1	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。また、主な介助者は回答のあった項目のみ表示。

※主な介助者と主な介助者をサポートしてくれる親族・知人が同一の回答 (父親—父親 8 人、母親—母親 18 人) は集計表から削除。

父親のみ、または、母親のみで介助している世帯の世帯構成 (下表) をみると、両親がいても一方のみが子どもを介助している世帯が全体の 66%になります。

介助者	世帯構成別該当者数	
	両親がいる世帯	ひとり親世帯
父親：4 人	3 人	1 人
母親：41 人	27 人	14 人



**○子育てについて困っていることは、未就学児では「お子さんから目が離せない」、就学児以上18歳以下の方では「気持ちが休まらない」の割合が最も高い。**

(未就学児：問13、就学児以上18歳以下の方：問12)

子育てについて困っていることは、未就学児では「お子さんから目が離せない」が33.0%と最も割合が高く、次いで「気持ちが休まらない」が30.7%となっています。また、就学児以上18歳以下の方では「気持ちが休まらない」が34.4%と最も割合が高く、次いで「お子さんから目が離せない」が22.8%となっており、未就学児の回答と1位、2位が入れ替わっているものの、ほぼ同じ傾向といえます。

**○相談窓口の相談しやすさについて、概ね「気軽に相談できる」という評価だが、一部窓口では「時間や手間がかかる」「相談しにくい」の回答もみられる。**

(未就学児：問14と問15②、就学児以上18歳以下の方：問13と問14②)

家族や知人以外の相談先の相談しやすさについて、未就学児、就学児以上18歳以下の方を合算すると、下表のとおりです。

全体では「気軽に相談できる」が60.0%と半数以上となっています。また、機関・窓口別でも「気軽に相談できる」の回答が多くみられます。

その一方で、「障害者福祉課以外の区の窓口」では該当者4人中2人が「相談しにくい」と回答しています。また、「区の障害者福祉課」も14.0%が「相談しにくい」と回答しています。

上段：回答者数、下段：割合

		その相談先は、相談しやすいか				
		気軽に相談できる	時間や手間はかかるが、相談に応じてもらえる	相談しにくい	無回答	
全体	435	261 60.0	95 21.8	15 3.4	64 14.7	
家族や知人以外の相談先 (複数回答)	医療機関	139	78 56.1	51 36.7	4 2.9	6 4.3
	区の障害者福祉課	43	20 46.5	13 30.2	6 14.0	4 9.3
	保健センター	4	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0
	障害者福祉課以外の区の窓口	4	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0
	品川児童学園「子ども発達相談室」	53	36 67.9	14 26.4	1 1.9	2 3.8
	幼稚園・保育園	49	41 83.7	3 6.1	3 6.1	2 4.1
	利用している療育施設	155	118 76.1	33 21.3	3 1.9	1 0.6
	相談支援事業所	7	3 42.9	4 57.1	0 0.0	0 0.0
	利用しているサービス	65	49 75.4	14 21.5	2 3.1	0 0.0
	障害者の会や家族の会	25	20 80.0	4 16.0	1 4.0	0 0.0
	その他	82	62 75.6	13 15.9	2 2.4	5 6.1

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。また、相談先は回答のあった項目のみ表示。

**○区や事業者などの相談窓口に期待することについて、未就学児、就学児以上18歳以下の方ともに「お子さんに適したサービス情報の提供」の割合が最も高い。**

(未就学児：問16、就学児以上18歳以下の方：問15)

区や事業者などの相談窓口に期待することについて、「お子さんに適したサービス情報の提供」が未就学児で73.3%、就学児以上18歳以下の方で66.8%と最も高い割合となっています。

なお、未就学児では「障害・病気に適した専門的なアドバイス」、就学児以上18歳以下の方では「新しい施策やサービスなどの情報提供」の割合が比較的高く、年齢層によって、期待する内容に違いがみられます。

**○主な介助者・子育てに必要な支援について、未就学児では「早期の療育」、就学児以上18歳以下の方は「専門的な相談支援体制」の割合が最も高い。**

(未就学児：問17、就学児以上18歳以下の方：問16)

主な介助者・子育てへの支援について、未就学児では「早期の療育」が52.8%、「専門的な相談支援体制」が46.0%となっています。また、就学児以上18歳以下の方は「専門的な相談支援体制」が43.2%と最も割合が高く、次いで「経済的な支援」が30.9%となっており、お子さんの年齢層に応じて異なる支援が期待されています。

その一方で「専門的な相談支援体制」は未就学児、就学児以上18歳以下の方ともに4割以上となっており、相談体制の充実が期待されているとみられます。

**(4) 医療的ケアの必要なお子さんについて  
(未就学児、就学児以上18歳以下の方)**

**○医療的ケアの必要なおさんは、未就学児で11.4%、就学児以上18歳以下の方で6.2%が該当している。医療的ケアは「母親」が担っている世帯が多い。**

(未就学児：問18と問19①、就学児以上18歳以下の方：問17と問18①)

医療的ケアの必要なおさんは、未就学児で11.4% (176人中20人)、就学児以上18歳以下の方で6.2% (259人中16人) となっており、未就学児で比較的高い割合が高く、回答者の1割以上となっています。

その内訳は、未就学児では「たん吸引」と「酸素吸入」がともに4.5%、「その他」が4.0%となっています。また、就学児以上18歳以下の方で「その他」が3.1%、「胃瘻・腸瘻」が1.9%となっており、その他の医療的ケアは1%以下となっています。

医療的ケアを行っている人は、「母親」が未就学児で85.0% (20人中17人)、就学児以上18歳以下の方で81.3% (16人中13人) となっており、いずれも8割以上となっています。なお、「母親」以外の回答は、未就学児では3人のうち2人が「父親」、1人は無回答、就学児以上18歳以下の方では「父親」「医師・看護師」「その他」が各1人となっています。

**(5) お子さんの生活について（未就学児）**

**○幼稚園・保育園・療育施設等の生活での困りごと・心配ごとについて、「周囲の子どもとの関係」「通わせる施設の選択肢が少ない」の割合が高い。また、幼稚園・保育園・療育施設等以外の過ごし方の希望について、「習い事・スポーツ」「同世代の子どもとの遊び」の回答が多くみられる。**

(未就学児：問20①③)

幼稚園・保育園・療育施設等の生活での困りごと・心配ごとについて、「周囲の子どもとの関係」が36.2%と最も割合が高く、次いで「通わせる施設の選択肢が少ない」が28.8%となっています。

また、幼稚園・保育園・療育施設等以外の過ごし方の希望について、「習い事・スポーツ」「同世代の子どもとの遊び」の回答が多くみられます。これは、自宅で家族と過ごすお子さんが多いことから、同世代の子どもとのコミュニケーションの経験を積むこと、体を動かす活動の希望が多いものとみられます。

**○お子さんの小学校入学時の進路について、「小学校の通常学級」が31.3%と多いものの、「わからない」も25.8%みられる。また、進学先の判断や進学後の学校生活を心配する保護者は多い。**

(未就学児：問21と問22)

小学校入学時の進路希望について、「小学校の通常学級」が31.3%、「小学校の通常学級（特別支援教室・通級指導学級）」が17.2%となっていますが、「わからない」が25.8%となっています。

なお、「わからない」の回答者（163人中42人）の年齢別の内訳は以下のとおりです。

3歳、4歳、5歳の各年齢において、10人以上が「わからない」と回答しています。

「わからない」の回答者（42人）の年齢別人数	
1歳	1人
2歳	7人
3歳	11人
4歳	12人
5歳	11人

また、今後の生活や進学等についての心配ごとにおいても、「進学先の選択について」「学業・学校生活について」の回答が多くみられたことから、入学直前まで、判断に悩む保護者が多いとみられます。

## (6) お子さんの進路・将来について（就学児以上 18 歳以下の方）

**○お子さんの進路・将来について、中学校（中等部）卒業後は「高等学校」または「特別支援学校の高等部」、高等学校（高等部）卒業後は「企業等へ就職する（一般就労）」の希望が多い。**

（就学児以上 18 歳以下の方：問 20 と問 21）

小学校（小学部）、中学校（中等部）に通学している児童・生徒の中学校（中等部）卒業後の進路希望は「特別支援学校の高等部」が 38.7%、「高等学校（夜間を含む）」が 37.6%となっており、合わせて 76.3%が進学を希望しています。

なお、「わからない」が 19.6%（194 人中 38 人）みられます。その内訳は下表のとおりです。

38 人のうち、35 人が小学校（小学部）、3 人が中学校（中等部）となっており、小学校（小学部）の段階では、進路を決めかねている状況があります。

「わからない」の回答者（38 人）の通学状況別人数		
小学校の通常学級	4 人	35 人
小学校の通常学級（特別支援教室・通級指導学級）	10 人	
小学校の特別支援学級	13 人	
特別支援学校の小学部	8 人	
中学校の通常級（通級指導学級）	1 人	3 人
中学校の特別支援学級	2 人	

高等学校（高等部）に通学している生徒の卒業後の進路希望は、「企業等へ就職する（一般就労）」が 39.7%と最も割合が高く、次いで「生活介護の施設へ通う」が 17.2%、「就労継続支援事業所や就労移行支援事業所へ通う」が 15.5%となっています。なお、「大学や短期大学へ通う」は 6.9%、「専門学校や専修学校へ通う」は 0.0%となっています。

なお、「大学や短期大学へ通う」の回答者（4 人）は、いずれも身体障害者手帳所持者となっています。障害の種類は「内部障害」が 2 人、「聴覚障害・平衡機能障害」が 1 人、「聴覚障害・平衡機能障害」と「発達障害」が 1 人となっています。

**○現在の生活での困りごと・心配ごとについて、「通わせる施設の選択肢が少ない」「周囲の子どもとの関係」の割合が高い。また、放課後や長期休暇中などの過ごし方の希望では「療育・福祉サービス」「塾・習い事」「同世代の子どもとの遊び・交流」の回答が多くみられる。**

（就学児以上 18 歳以下の方：問 22①③）

現在の生活での困りごと・心配ごとについて、「通わせる施設の選択肢が少ない」が 30.2%と最も割合が高く、次いで「周囲の子どもとの関係」が 27.8%となっています。

また、放課後や長期休暇中などの過ごし方の希望では「療育・福祉サービス」「塾・習い事」「同世代の子どもとの遊び・交流」の回答が多くなっています。

## (7) 児童福祉法による障害児通所支援について (未就学児、就学児以上 18 歳以下の方)

**○児童発達支援は回答者の 80.1%が利用している。そのうち、80.9%が今後も利用を希望している。**

(未就学児：問23)

児童発達支援は、回答者の 80.1% (176 人中 141 人) が「利用している」と回答しています。このうち、「(今後も) 利用したい」が 80.9% (141 人中 114 人)、「利用希望はない」が 0.0%、「わからない」が 2.1%となっており、現在の利用者の多くが継続的な利用を希望しています。

上段：回答者数、下段：割合

			児童発達支援				
			(今後も)利 用したい	利用したい が、できない	利用希望は ない	わからない	無回答
全体		176	117 66.5	10 5.7	10 5.7	11 6.3	28 15.9
児童発達支援	利用している	141	114 80.9	6 4.3	0 0.0	3 2.1	18 12.8
	利用していない	31	3 9.7	4 12.9	10 32.3	8 25.8	6 19.4

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

また、現在「利用していない」と回答した 31 人のうち、「(今後も) 利用したい」は 3 人 (9.7%) となっています。その年齢は 0 歳、4 歳、5 歳が各 1 人となっています。

**○医療型児童発達支援は回答者の 11.9%が利用している。そのうち、76.2%が今後も利用を希望している。**

(未就学児：問23)

医療型児童発達支援は、回答者の 11.9% (176 人中 21 人) が「利用している」と回答しています。このうち、「(今後も) 利用したい」が 76.2% (21 人中 16 人)、「利用希望はない」が 0.0%、「わからない」が 4.8% (21 人中 1 人) となっており、現在の利用者の多くが継続的な利用を希望しています。

上段：回答者数、下段：割合

			医療型児童発達支援の利用希望				
			(今後も)利 用したい	利用したい が、できない	利用希望は ない	わからない	無回答
全体		176	26 14.8	14 8.0	25 14.2	25 14.2	86 48.9
医療型児童発達支 援の利用状況	利用している	21	16 76.2	2 9.5	0 0.0	1 4.8	2 9.5
	利用していない	82	10 12.2	9 11.0	23 28.0	20 24.4	20 24.4

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

また、現在「利用していない」と回答した 82 人のうち、「(今後も) 利用したい」は 10 人 (12.2%) となっています。その年齢は 0 歳が 2 人、3 歳が 3 人、4 歳が 2 人、5 歳が 3 人となっています。

**○放課後等デイサービスは回答者の53.7%が利用している。そのうち、82.0%が今後も利用を希望している。** (就学児以上18歳以下の方：問23)

放課後等デイサービスは、回答者の53.7%（259人中139人）が「利用している」と回答しています。このうち、「(今後も) 利用したい」が82.0%（139人中114人）となっており、現在の利用者の多くが継続的な利用を希望しています。なお、現在の利用者のうち「利用したいが、できない」と回答した6人の通学状況は、「小学校の通常学級」が3人、「中学校の特別支援学級」が1人、「特別支援学校の高等部」が2人となっています。

上段：回答者数、下段：割合

			放課後等デイサービスの利用希望				
			(今後も) 利用したい	利用したいが、できない	利用希望はない	わからない	無回答
全体		259	128 49.4	23 8.9	30 11.6	41 15.8	37 14.3
放課後等デイサービスの利用状況	利用している	139	114 82.0	6 4.3	0 0.0	4 2.9	15 10.8
	利用していない	110	13 11.8	16 14.5	26 23.6	37 33.6	18 16.4

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

また、現在「利用していない」と回答した110人のうち、「(今後も) 利用したい」は13人(11.8%)となっています。その通学状況は、下表のとおり小学生が6人となっていますが、各年齢層に分散しています。

新規の利用希望者（13人）の通学状況別人数		
小学校の通常学級	2人	6人
小学校の通常学級(特別支援教室・通級指導学級)	1人	
小学校の特別支援学級	1人	
特別支援学校の小学部	2人	3人
中学校の特別支援学級	1人	
特別支援学校の中学部	2人	
特別支援学校の高等部	4人	4人

**○保育所等訪問支援は、未就学児では3.4%（6人）が利用しており、その半数が今後も利用を希望している。また、就学児以上18歳未満では回答者の0.4%（1人）が利用しており、今後も利用を希望している。**（未就学児：問23、就学児以上18歳以下の方：問23）

未就学児の保育所等訪問支援は、回答者の3.4%（176人中6人）が「利用している」と回答しており、そのうち半数の3人が今後も利用を希望しています。

上段：回答者数、下段：割合

			保育所等訪問支援				
			(今後も)利用したい	利用したいが、できない	利用希望はない	わからない	無回答
全体		176	17 9.7	11 6.3	22 12.5	35 19.9	91 51.7
保育所等訪問支援の利用状況	利用している	6	3 50.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7
	利用していない	96	14 14.6	9 9.4	19 19.8	30 31.3	24 25.0

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

また、現在「利用していない」と回答した96人のうち、「(今後も)利用したい」は14人(14.6%)となっています。その年齢は0歳と2歳が各1人、3歳が6人、4歳と5歳が各3人となっており、3歳から5歳で新規のニーズが想定できます。

就学児以上18歳未満の保育所等訪問支援は、回答者の0.4%（259人中1人）が「利用している」と回答しており、今後も利用を希望しています。

上段：回答者数、下段：割合

			保育所等訪問支援				
			(今後も)利用したい	利用したいが、できない	利用希望はない	わからない	無回答
全体		259	8 3.1	7 2.7	58 22.4	42 16.2	144 55.6
保育所等訪問支援の利用状況	利用している	1	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	利用していない	149	7 4.7	7 4.7	54 36.2	41 27.5	40 26.8

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

また、現在「利用していない」と回答した149人のうち、「(今後も)利用したい」は7人(4.7%)となっています。その通学状況は、下表のとおりです。

新規の利用希望者（13人）の通学状況別人数		
小学校の通常学級（特別支援教室・通級指導学級）	2人	4人
特別支援学校の小学部	2人	
特別支援学校の中学部		2人
特別支援学校の高等部		1人

**○利用している障害児福祉サービスの満足度について、各サービスとも「満足」「やや満足」の回答が多い。**  
 (未就学児：問24①④、就学児以上18歳以下の方：問24①④)

利用している障害児福祉サービスの満足度について、「児童発達支援」（未就学児のみ141人）では、「満足」が44.0%、「やや満足」が39.0%となっており、合わせて83.0%が満足しているとみられます。その一方で、「やや不満」が12.8%、「不満」が2.1%となっています。「やや不満」「不満」の理由として、「職員の専門性が低い」が61.9%と半数以上となっています。

「医療型児童発達支援」（未就学児のみ21人）では、「満足」が23.8%、「やや満足」が47.6%となっており、合わせて71.4%が満足しているとみられます。その一方で、「やや不満」が23.8%となっています。「やや不満」（5人）の理由として、「要望・苦情への対応が遅い」と「その他」（事業者や土日の利用の選択肢が少ない、アクセスが悪く予約がとりづらい）が各2人となっています。

「放課後デイサービス」（就学児以上18歳以下の方のみ139人）では、「満足」が33.8%、「やや満足」が43.2%となっており、合わせて77.0%が満足しているとみられます。その一方で、「やや不満」が18.7%、「不満」が2.9%となっており、合わせて21.6%が不満を感じているとみられます。また、不満を感じている回答者（30人）の理由については「職員の専門性が低い」が43.3%、「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」が30.0%となっています。また、「その他」（支給日数が少ない）「費用が高い」「“療育”より“学習塾”に思える」「意識が低い」などが50.0%となっており、不満が多くみられます。

保育所等訪問支援（未就学児6人、就学児以上18歳以下の方1人）について、未就学児では「満足」が66.7%、「やや満足」が16.7%となっており、「やや不満」「不満」の回答は0.0%となっています。また、就学児以上18歳以下の方から「やや不満」の回答を得ています。その理由については「利用したくても品川区の支給決定が出ないと利用できず、なかなか支給決定が出ない」という区の手続きに対する不満となっています。

**○障害児福祉サービスを「利用したいが、利用できない」理由について、未就学児では「利用方法がわからない」、就学児以上18歳以下の方では「その他」（年齢的な理由、時間が合わない、本人が利用したがるらない など）の回答が多い。**

(未就学児：問25、就学児以上18歳以下の方：問25)

障害児福祉サービスを「利用したいが、利用できない」理由について、未就学児（30人）では「利用方法がわからない」が46.7%と最も割合が高く、次いで「近くに施設がない」と「定員に空きがない」が33.3%となっています。

また、就学児以上18歳以下の方（25人）では「利用方法がわからない」が28.0%、「近くに施設がない」が20.0%となっています。また、その他52.0%の声として、「本人が利用したがるらない」「時間が合わない」などがあります。

未就学児、就学児以上18歳以下の方ともに、利用方法についての情報提供の工夫が必要です。



## (8) 障害福祉サービスの利用状況・利用希望について (未就学児、就学児以上18歳以下の方)

### ○障害福祉サービスの利用状況と利用希望を比較すると、5種類のサービスで利用希望者が多くみられる。

(未就学児：問26、就学児以上18歳以下の方：問26)

障害福祉サービスの利用状況と利用希望を比較すると、下表のとおりとなります。

未就学児では、「(今後も) 利用したい」から「利用している」への割合の上昇が「居宅介護(ホームヘルプ)」では5.2ポイント(1.1%→6.3%)、「短期入所(ショートステイ)」では6.3ポイント(1.7%→8.0%)となっています。

就学児以上18歳以下の方では、「居宅介護(ホームヘルプ)」「行動援護」「短期入所(ショートステイ)」「移動支援事業」「日中一時支援事業」の5サービスで、「(今後も) 利用したい」が「利用している」を5ポイント以上上回っています。この中で特に「短期入所(ショートステイ)」では13.9ポイント(4.6%→18.5%)、「移動支援事業」では17.3ポイント(6.6%→23.9%)上回っており、この2サービスの利用希望は大きいものとみられます。また、現在「利用している」が0.0%の「同行援護」「要約筆記者派遣事業」2サービスでは、「(今後も) 利用したい」がそれぞれ2.3%、3.9%と利用希望がみられます。

各サービスのうち、「居宅介護(ホームヘルプ)」「短期入所(ショートステイ)」の2サービスは、未就学児、就学児以上18歳以下の方ともに利用希望が比較的大きいサービスといえます。

	未就学児(176人)				就学児以上18歳以下の方(259人)			
	利用している		(今後も)利用したい		利用している		(今後も)利用したい	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
居宅介護(ホームヘルプ)	2	1.1%	11	6.3%	5	1.9%	20	7.7%
同行援護					0	0.0%	6	2.3%
行動援護	1	0.6%	9	5.1%	1	0.4%	15	5.8%
短期入所(ショートステイ)	3	1.7%	14	8.0%	12	4.6%	48	18.5%
移動支援事業					17	6.6%	62	23.9%
日中一時支援事業					30	11.6%	52	20.1%
手話通訳者派遣事業					2	0.8%	13	5.0%
要約筆記者派遣事業					0	0.0%	10	3.9%
日常生活用具給付等事業					18	6.9%	26	10.0%

※「利用している」から「(今後も) 利用したい」の割合が5ポイント以上上昇したサービスを着色。

### ○現在利用している障害福祉サービスの満足度について、概ね「満足」「やや満足」の割合が高いが、「短期入所」「日中一時支援事業」では「やや不満」の割合が比較的高い。

(未就学児：問27①、就学児以上18歳以下の方：問27①)

現在利用している障害福祉サービスの満足度について、未就学児では「居宅介護(ホームヘルプ)」(2人)で「やや満足」、「行動援護」(1人)で「満足」と回答し、「やや不満」「不満」の回答はみられません。なお、「短期入所(ショートステイ)」では、3人中2人が「やや満足」と回答していますが、1人が「やや不満」と回答しています。

就学児以上18歳以下の方では、「居宅介護(ホームヘルプ)」と「行動援護」では「満足」と「やや満足」のみの回答となっており、その他のサービスでも「満足」と「やや満足」の比率が高くなっています。その中で比較的「やや不満」「不満」の高いものは、「短期入所(ショートステイ)」(12人)では「やや不満」が33.3%(4人)、「不満」が8.3%(1人)となっています。また、「日中

## I - 2 調査結果概要

一時支援事業」(30人)では「やや不満」が26.7%(8人)、「不満」が3.3%(1人)となっています。

### **○現在利用しているサービスについての困りごとについて、「利用できる時間や日数、回数が少ない」の回答が多い。**

(未就学児：問27②、就学児以上18歳以下の方：問27②)

現在利用しているサービスについての困りごとについて、未就学児では「居宅介護（ホームヘルプ）」(2人)で「利用できる時間や日数、回数が少ない」と「利用者負担が大きい」が各1人、「短期入所（ショートステイ）」(3人)では、4項目に各1人（複数回答あり）が回答しています。

就学児以上18歳以下の方では、「居宅介護（ホームヘルプ）」「短期入所（ショートステイ）」「移動支援事業」「日中一時支援事業」の4サービスで「利用できる時間や日数、回数が少ない」が最も高い割合となっています。

なお、「利用者負担が大きい」の回答について、「居宅介護」で40.0%、「日常生活用具給付等事業」や「日中一時支援」で16.7%となっています。

### **○障害福祉サービスを利用しない理由について、各サービスとも「必要がない」の割合が最も高い。**

(未就学児：問28、就学児以上18歳以下の方：問28)

障害福祉サービスを利用しない理由について、各サービスとも「必要がない」の割合が最も高くなっています。

その他の回答をみると、各サービスとも「サービスを知らなかった」「利用方法がわからない」の割合が比較的高く、未就学児が利用できる3サービスでは16.1%~21.0%の範囲内で回答がみられます。また、就学児以上18歳以下の方では「短期入所（ショートステイ）」「移動支援事業」において「利用方法がわからない」がそれぞれ16.1%、18.2%となっており、相談支援の中で対象者にサービスの内容・利用方法についての情報提供の工夫が必要です。

## (9) 障害に対する理解について（未就学児、就学児以上18歳以下の方）

## ○障害や病気への差別・偏見について、障害の種類に係わらず、「ときどき感じる」の割合が高い。

（未就学児：問29、就学児以上18歳以下の方：問29）

障害や病気への差別・偏見の感じ方について、未就学児、就学児以上18歳以下の方を合算すると、下表のとおりです。

回答者全体では「ときどき感じる」が55.2%と半数以上となり、「あまり感じない」が16.6%、「常に感じる」が16.1%となっています。

これを障害の種類別でみると、障害の種類に係わらず「ときどき感じる」の割合が高く、特に「身体障害(肢体不自由)」では61.8%となり、「常に感じる」(21.8%)と合わせると83.6%(55人中46人)が差別や偏見を感じているとみられます。

また、「常に感じる」と「ときどき感じる」を合わせて「差別・偏見を感じる」とすると、ほとんどの障害が7割を超えています。中でも「身体障害(視覚障害)」で92.9%、「身体障害(肢体不自由)」で83.6%、「高次脳機能障害」で80.0%(5人中4人)が8割以上となっています。「発達障害」では69.6%、「その他」では48.1%となっており、身体障害や知的障害などと比べて、低い割合となっています。

上段：回答者数、下段：割合

		普段の暮らしの中で、障害や病気への差別・偏見を感じる時						差別・偏見を感じる	
		常に感じる	ときどき感じる	あまり感じない	まったく感じない	わからない	無回答		
全体		435	70 16.1	240 55.2	72 16.6	18 4.1	23 5.3	12 2.8	310 71.3
障害の種類 (複数回答)	身体障害(視覚障害)	14	5 35.7	8 57.1	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 92.9
	身体障害(聴覚障害・平衡機能障害)	35	9 25.7	18 51.4	1 2.9	2 5.7	2 5.7	3 8.6	27 77.1
	身体障害(音声・言語・そしゃく障害)	37	9 24.3	20 54.1	3 8.1	1 2.7	2 5.4	2 5.4	29 78.4
	身体障害(肢体不自由)	55	12 21.8	34 61.8	8 14.5	0 0.0	0 0.0	1 1.8	46 83.6
	身体障害(内部障害)	30	6 20.0	17 56.7	2 6.7	3 10.0	2 6.7	0 0.0	23 76.7
	知的障害	175	38 21.7	100 57.1	26 14.9	3 1.7	4 2.3	4 2.3	138 78.9
	重症心身障害	13	3 23.1	7 53.8	2 15.4	0 0.0	0 0.0	1 7.7	10 76.9
	高次脳機能障害	5	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 80.0
	発達障害	260	40 15.4	141 54.2	47 18.1	7 2.7	17 6.5	8 3.1	181 69.6
	その他	27	1 3.7	12 44.4	9 33.3	3 11.1	2 7.4	0 0.0	13 48.1

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

**○品川区の暮らしやすさについて、視覚障害、重症心身障害を除く各障害で「どちらかという暮らしやすい」の割合が高い。また、差別・偏見を感じるほど暮らしにくさを感じる傾向が強い。**

(未就学児：問31、就学児以上18歳以下の方：問31)

品川区の暮らしやすさについて、未就学児、就学児以上18歳以下の方を合算すると、下表（2種）のとおりです。

回答者全体では、「どちらかという暮らしやすい」が48.7%と最も割合が高く、次いで「わからない」が14.9%、「どちらかという暮らしにくい」が13.6%となっています。なお、「とても暮らしやすい」と「どちらかという暮らしやすい」を合わせて「暮らしやすさを感じる」とすると、61.6%が「暮らしやすさを感じる」に該当します。

これを障害の種類別でみると、視覚障害、重症心身障害を除く各障害で「どちらかという暮らしやすい」の割合が最も高く、「暮らしやすさを感じる」でみても、比較的高い割合となっています。また、視覚障害、重症心身障害では暮らしにくさを感じる傾向が強いとみられます。

上段：回答者数、下段：割合

		品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちか						暮らしやすさを感じる	暮らしにくさを感じる	
		とても暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	わからない	無回答			
全体	435	56 12.9	212 48.7	59 13.6	34 7.8	65 14.9	9 2.1	268 61.6	93 21.4	
障害の種類 (複数回答)	身体障害(視覚障害)	14 7.1	2 14.3	4 28.6	3 21.4	4 28.6	0 0.0	3 21.4	7 50.0	
	身体障害(聴覚障害・平衡機能障害)	35 8.6	3 48.6	17 8.6	3 14.3	5 20.0	7 20.0	0 0.0	20 57.1	8 22.9
	身体障害(音声・言語・そしゃく障害)	37 5.4	2 32.4	12 10.8	4 16.2	6 27.0	10 8.1	3 37.8	14 27.0	
	身体障害(肢体不自由)	55 10.9	6 32.7	18 16.4	9 16.4	9 21.8	12 1.8	1 43.6	24 32.7	
	身体障害(内部障害)	30 16.7	5 43.3	13 0.0	0 6.7	2 33.3	10 0.0	0 60.0	18 6.7	
	知的障害	175 8.6	15 44.0	77 17.1	30 13.1	23 15.4	27 1.7	3 52.6	92 30.3	53 30.3
	重症心身障害	13 7.7	1 23.1	3 15.4	2 15.4	2 30.8	4 7.7	1 30.8	4 30.8	4 30.8
	高次脳機能障害	5 0.0	0 60.0	3 0.0	0 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0
	発達障害	260 13.5	35 50.8	132 14.2	37 6.5	17 12.3	32 2.7	7 64.2	167 20.8	54 20.8
	その他	27 3.7	1 63.0	17 18.5	5 3.7	1 11.1	3 11.1	0 0.0	18 66.7	6 22.2

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

品川区の暮らしやすさを差別・偏見の感じ方別でみると、各分類とも「どちらかという暮らしやすい」の割合が最も高くなっています。

このうち、差別・偏見を「常を感じる」では、「とても暮らしやすい」の7.1%に対して、「暮らしにくい」は21.4%と3倍の割合となっています。また、「暮らしにくさを感じる」でも、「常を感じる」回答者では40.0%が該当しますが、差別・偏見の感じ方が弱くなるほど、「暮らしにくさを感じる」の割合も低くなっています。

上段：回答者数、下段：割合

		品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちか						暮らしやすさを感じる	暮らしにくさを感じる	
		とても暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	わからない	無回答			
全体		435	56 12.9	212 48.7	59 13.6	34 7.8	65 14.9	9 2.1	268 61.6	93 21.4
差別・偏見の感じ方	常を感じる	70	5 7.1	26 37.1	13 18.6	15 21.4	11 15.7	0 0.0	31 44.3	28 40.0
	ときどき感じる	240	23 9.6	126 52.5	34 14.2	15 6.3	40 16.7	2 0.8	149 62.1	49 20.4
	あまり感じない	72	17 23.6	39 54.2	9 12.5	2 2.8	5 6.9	0 0.0	56 77.8	11 15.3
	まったく感じない	18	5 27.8	8 44.4	0 0.0	1 5.6	4 22.2	0 0.0	13 72.2	1 5.6
	わからない	23	6 26.1	10 43.5	1 4.3	1 4.3	5 21.7	0 0.0	16 69.6	2 8.7

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

(10) 生活の状況・区の施策について（未就学児、就学児以上 18 歳以下の方）

○障害のある方のために重要な施策について、「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」が 45.7%。暮らしにくさを感じる回答者では、回答が分散する傾向がみられる。

（未就学児：問 32、就学児以上 18 歳以下の方：問 32）

障害のある方のために重要な施策について、未就学児、就学児以上 18 歳以下の方を合算すると、下表のとおりです。

回答者全体では、「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」が 45.7%と最も割合が高く、次いで「一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実」が 31.3%、「障害の有無に係わらずともに生活できる、理解と共感が深まる意識啓発」が 25.7%となっています。

これを品川区の暮らしやすさ別でみると、「とても暮らしやすい」「どちらかという暮らしやすい」「どちらかという暮らしにくい」の 3 区分では「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」の割合が最も高くなっています。また、「暮らしにくい」の回答者では「障害の有無に係わらずともに生活できる、理解と共感が深まる意識啓発」が 32.4%（34 人中 11 人）と最も高い割合となっていますが、「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」と「一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実」がともに 29.4%（34 人中 10 人）となっており、回答が分散しています。

上段：回答者数、下段：割合

		障害のある方が地域で安心して暮らしていくため重要な施策（複数回答）												
		気軽に相談できる、相談支援体制の充実	地域で自立した生活をおくるための、地域生活支援体制の充実	子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実	緊急時や災害時の安全を確保するための、安心・安全な生活基盤の確保	障害のある方の生活をサポートする、人材育成	一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実	就労支援体制の充実	一人ひとりの権利や尊厳を守る、権利擁護体制の構築	障害の有無に係わらずともに生活できる、理解と共感が深まる意識啓発	その他	特になし	無回答	
全体		435	84 19.3	102 23.4	199 45.7	35 8.0	49 11.3	136 31.3	100 23.0	18 4.1	112 25.7	17 3.9	1 0.2	13 3.0
品川区の暮らしやすさ	とても暮らしやすい	56	14 25.0	17 30.4	31 55.4	6 10.7	2 3.6	8 14.3	10 17.9	0 0.0	17 30.4	1 1.8	0 0.0	2 3.6
	どちらかという暮らしやすい	212	45 21.2	48 22.6	97 45.8	11 5.2	28 13.2	60 28.3	62 29.2	12 5.7	62 29.2	9 4.2	1 0.5	3 1.4
	どちらかという暮らしにくい	59	11 18.6	14 23.7	31 52.5	6 10.2	8 13.6	22 37.3	8 13.6	2 3.4	10 16.9	4 6.8	0 0.0	1 1.7
	暮らしにくい	34	4 11.8	8 23.5	10 29.4	3 8.8	4 11.8	10 29.4	9 26.5	2 5.9	11 32.4	1 2.9	0 0.0	4 11.8
	わからない	65	8 12.3	14 21.5	27 41.5	7 10.8	7 10.8	32 49.2	10 15.4	2 3.1	12 18.5	2 3.1	0 0.0	1 1.5

※各区分において、最も回答が多かった項目を着色。

**○障害のある方への支援施策（自由意見）について、未就学児では「行政施策・体制について」、就学児以上18歳未満の方では「サービス・質の向上について」の回答が多くみられる。**

（未就学児：問33、就学児以上18歳以下の方：問33）

障害のある方への支援施策（自由記述）について記述内容を分類すると、未就学児では「行政施策・体制について」の内容が最も多く、次いで「サービス・質の向上について」の内容が多くみられます。また、就学児以上18歳未満では「サービス・質の向上について」の内容が最も多く、次いで「行政施策・体制について」の内容が多くみられます。

このうち、「サービス・質の向上について」では、福祉事業所や支援学級の不足、サービスの支給時間・日数に関する意見が多くみられます。また、「スタッフの専門性の向上」や「親切な対応」など、事業所の取り組みに対する意見もみられます。

「行政施策・体制について」では、区の職員の対応や、国・都を含めた障害者施策への不満・要望がみられます。また、「担当職員が少ない」「身近な特別支援学校から遠方（東京テレポート駅の方）へ区域が変更されるらしい」といった意見もみられます。

このほか、サービスと行政施策の両方にまたがる意見も多く、「放課後等デイサービスの支給量「基本10日」の方針を廃止してください。ガイドライン違反です。」（就学児以上18歳以下の方、愛の手帳所持者）など、区の施策に対しての具体的な意見もみられます。

さらに、少数ですが、他自治体と比較して、サービス支給量の少なさを訴える意見や、保護者が働き続けられる環境整備に関する意見もみられます。

## Ⅱ アンケート調査集計報告

### 1 未就学児への調査

#### お子さん・世帯の状況について

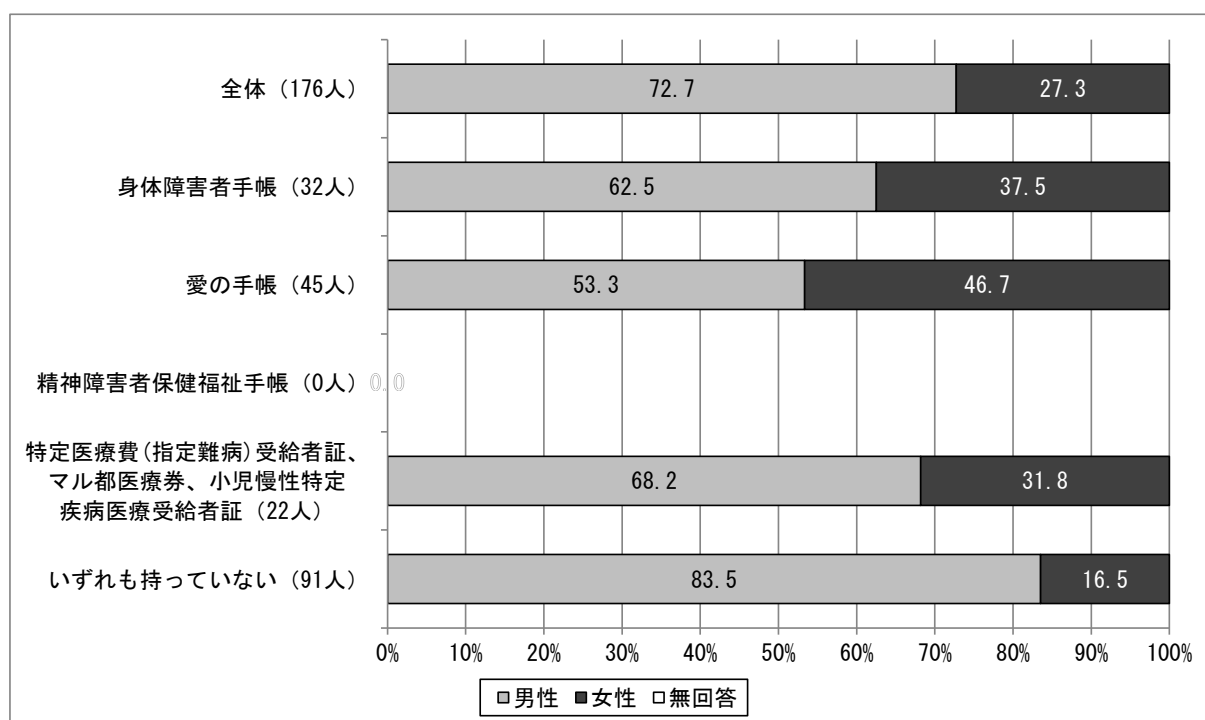
問1 お子さんの性別をお答えください。(1つに○)

##### <全体の傾向>

子どもの性別について、「男性」が72.7%、「女性」が27.3%となっています。

##### <手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。





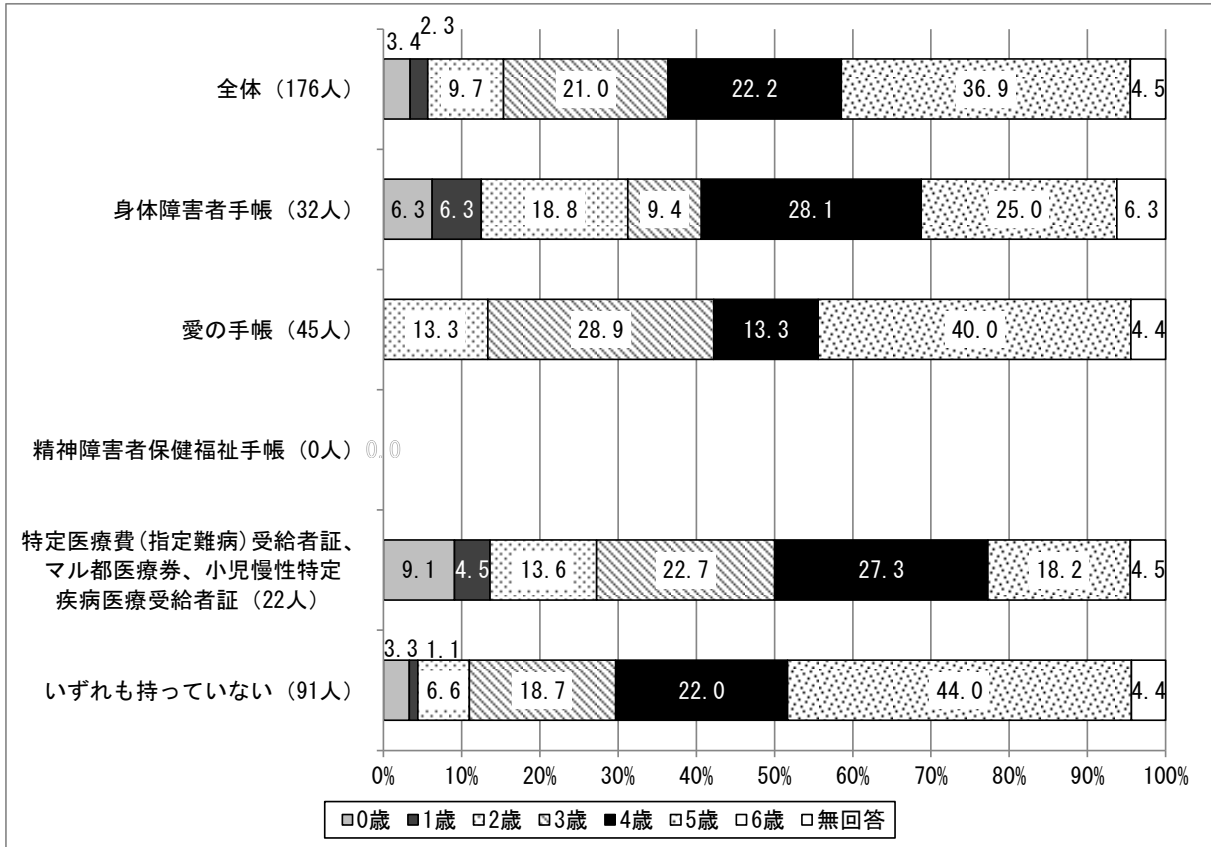
問2 平成29年4月2日現在のお子さんの年齢をお答えください。(数字を記入)

＜全体の傾向＞

子どもの年齢について、「5歳」が36.9%と最も割合が高く、次いで「4歳」が22.2%、「3歳」が21.0%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者」と「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「4歳」が最も高い割合になっています。



## Ⅱ－1 未就学児への調査

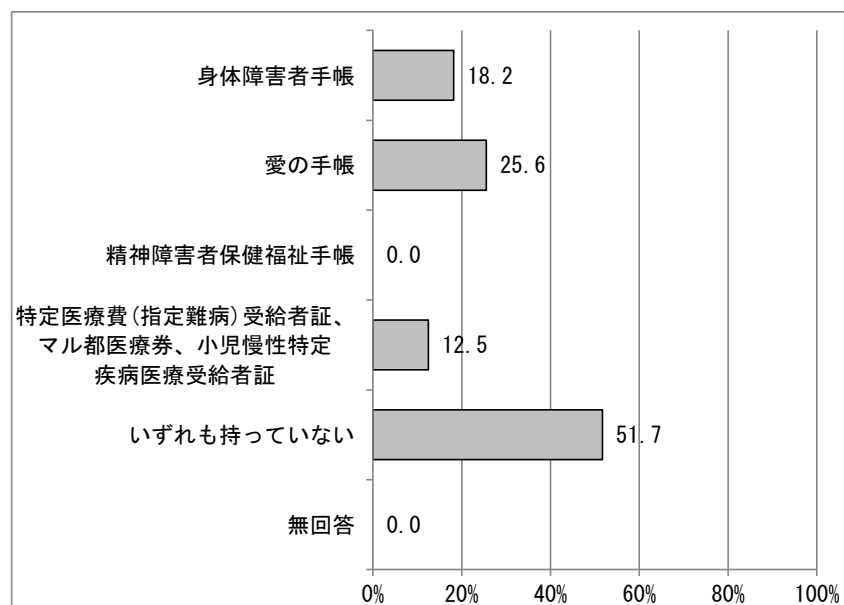
問3 お子さんがお持ちの障害者手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

### (1) 手帳の種類

障害者手帳の種類について、「いずれも持っていない」が51.7%と最も割合が高く、次いで「愛の手帳」が25.6%、「身体障害者手帳」が18.2%となっています。

<全体 (176人) >

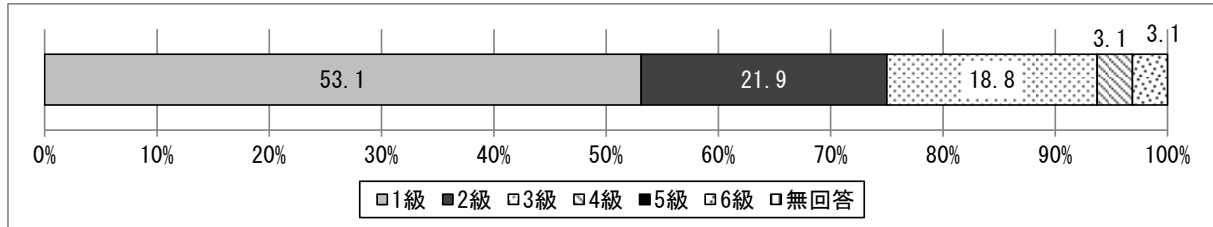


(2) 手帳の等級

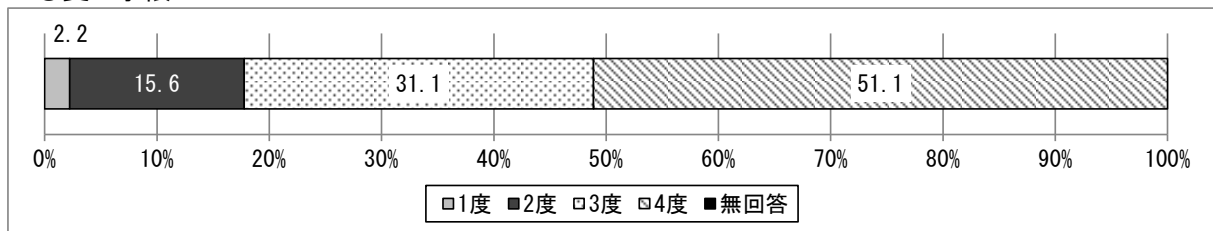
障害者手帳の等級について、「身体障害者手帳」は「1級」が53.1%と最も割合が高く、次いで「2級」が21.9%、「3級」が18.8%となっています。

また、「愛の手帳」は「4度」が51.1%と最も割合が高く、次いで「3度」が31.1%、「2度」が15.6%となっています。

○身体障害者手帳



○愛の手帳



○精神障害者保健福祉手帳

※ 回答者なし

Ⅱ－１ 未就学児への調査

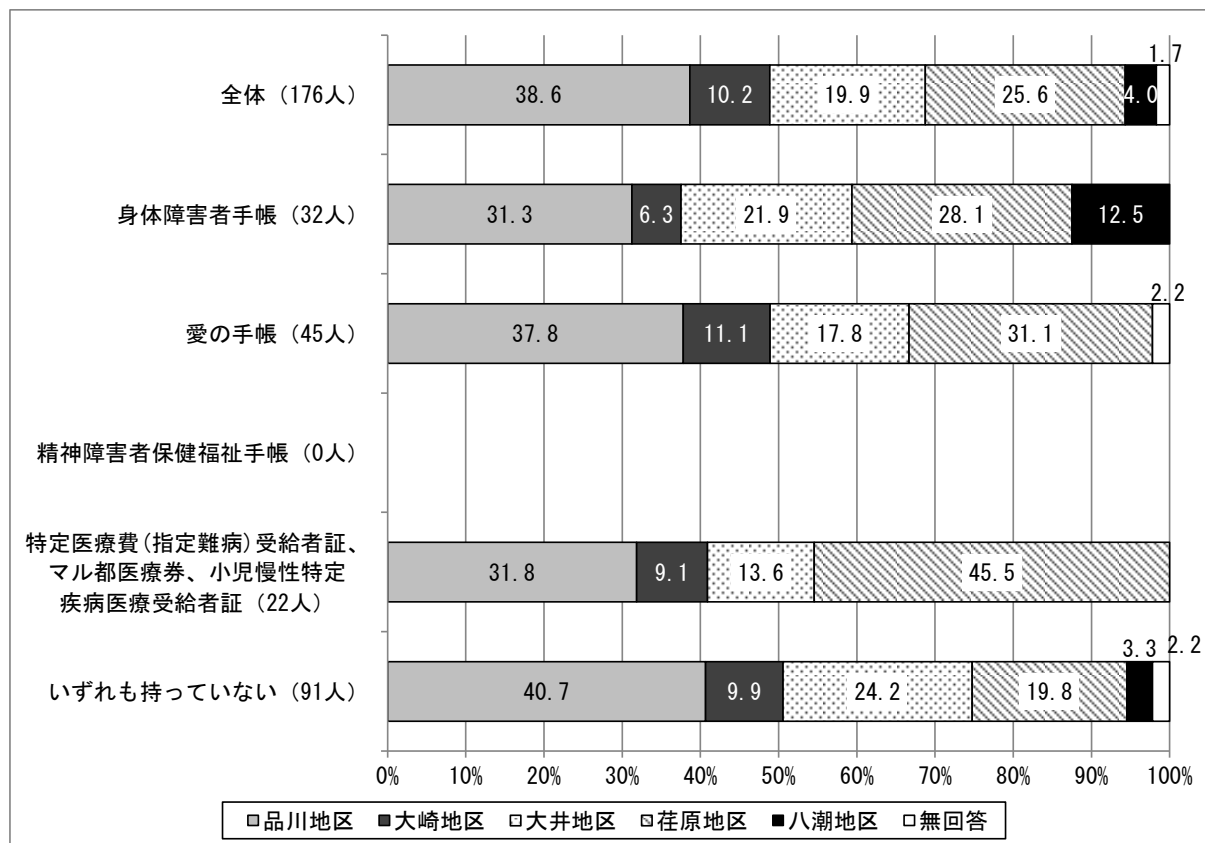
問４ 現在お住まいの地区をお答えください。（１つに○）

＜全体の傾向＞

現在の居住地区について、「品川地区」が38.6%と最も割合が高く、次いで「荏原地区」が25.6%、「大井地区」が19.9%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「荏原地区」が45.5%と最も割合が高く、「いずれも持っていない」では、「大井地区」が24.2%と比較的割合が高くなっています。



問5 現在同居している家族をすべてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

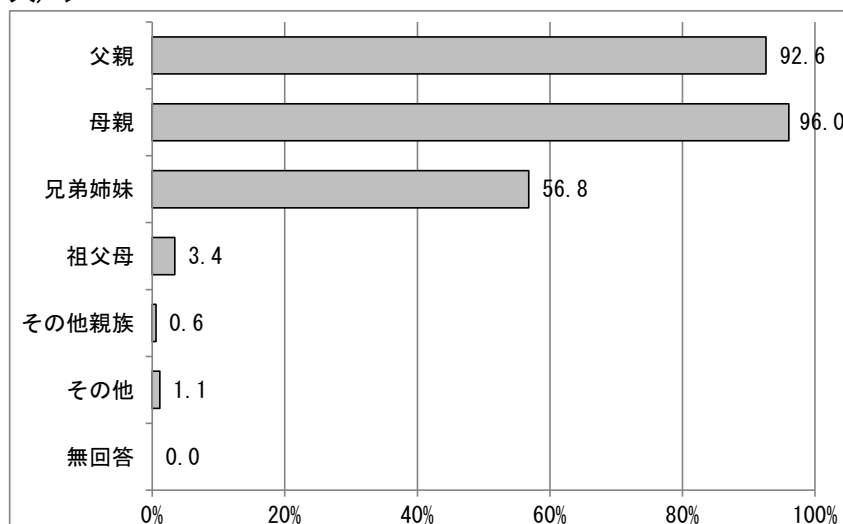
＜全体の傾向＞

同居している家族について、「母親」が96.0%と最も割合が高く、次いで「父親」が92.6%、「兄弟姉妹」が56.8%となっています。

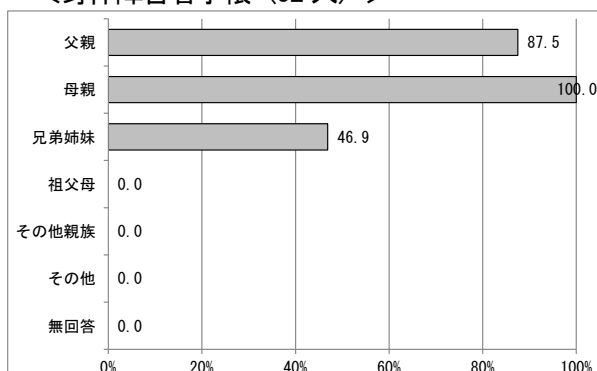
＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「父親」「母親」「兄弟姉妹」の3種類のみとなっています。

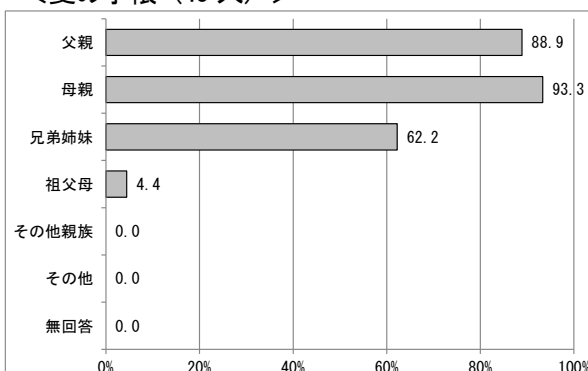
＜全体（176人）＞



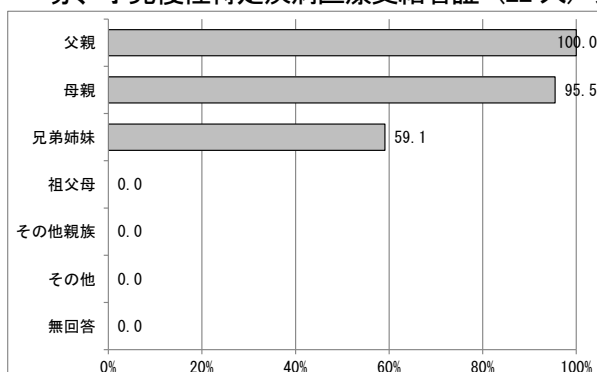
＜身体障害者手帳（32人）＞



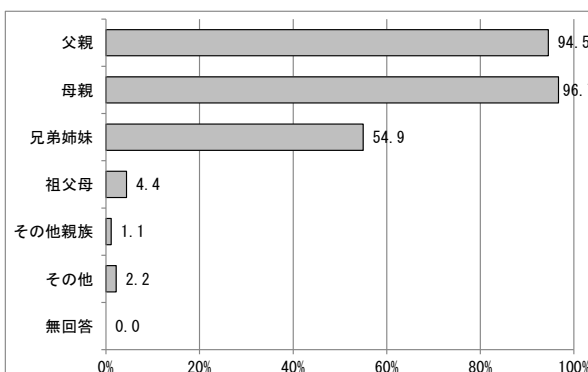
＜愛の手帳（45人）＞



＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（22人）＞



＜いずれも持っていない（91人）＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

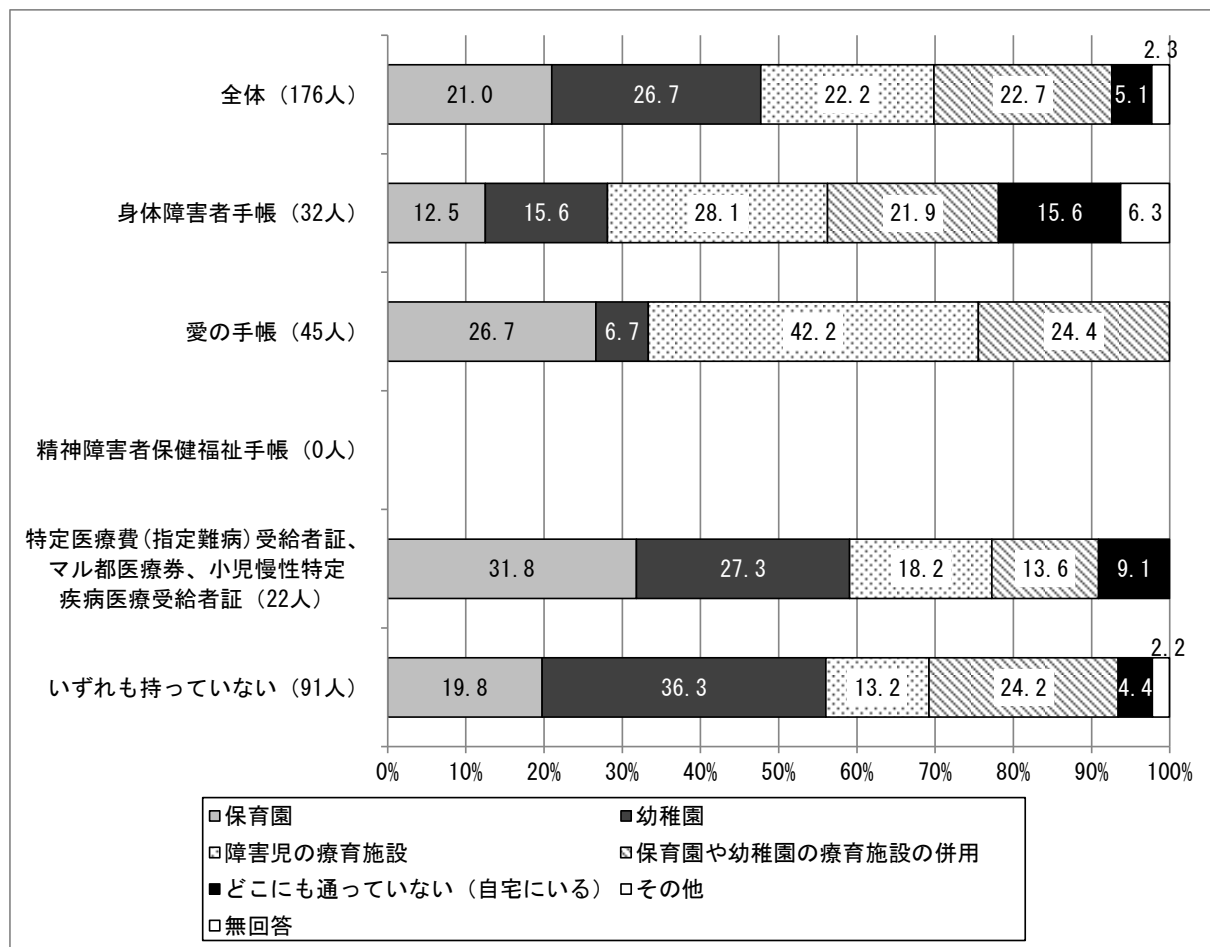
問6 お子さんは、日頃どこに通っていますか。(1つに〇)

＜全体の傾向＞

子どもが通っているところについて、「幼稚園」が26.7%と最も割合が高く、次いで「保育園や幼稚園と療育施設の併用」が22.7%、「障害児の療育施設」が22.2%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」と「愛の手帳」では、「障害児の療育施設」が最も割合が高く、「特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「保育園」が最も割合が高くなっています。



## お子さんの障害・疾病の状況について

問7 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）に最初に気付いたのはいつ頃ですか。

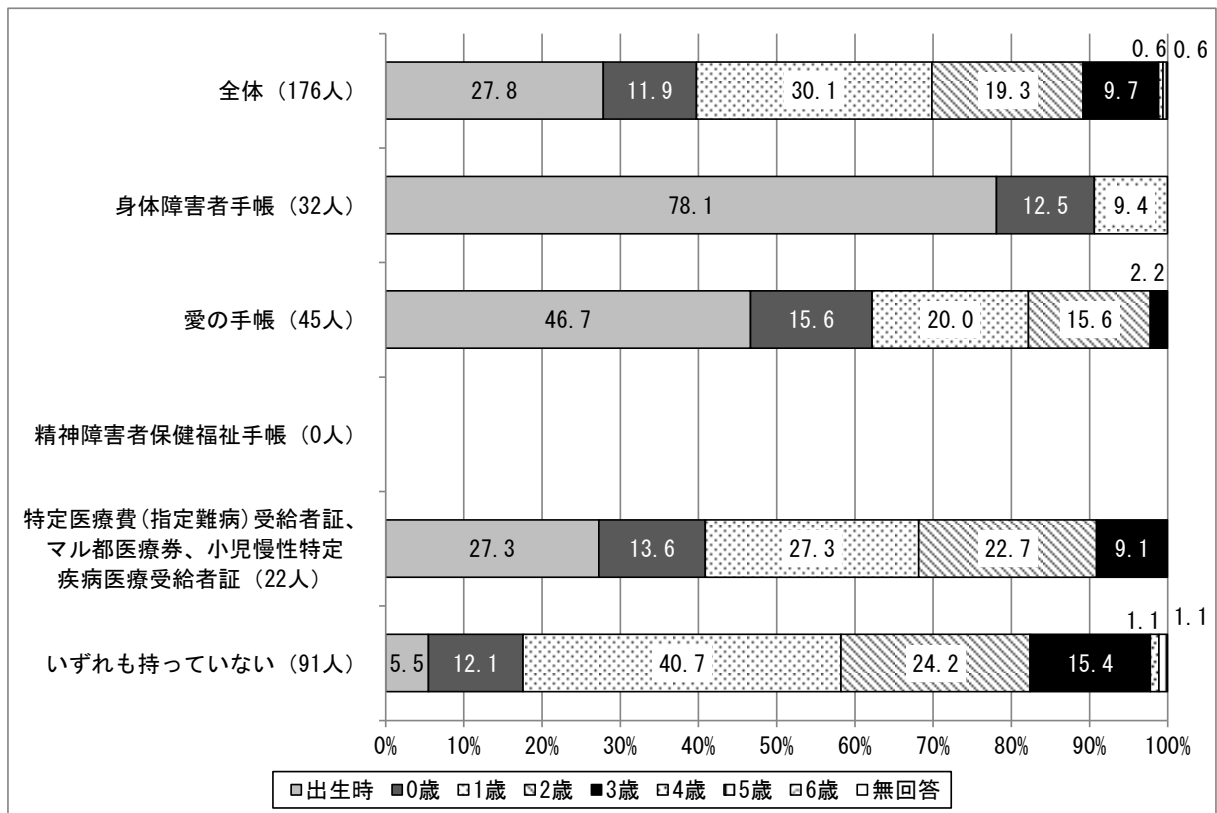
（1つに〇）

### <全体の傾向>

子どもの障害に最初に気が付いた時期について、「1歳」が30.1%と最も割合が高く、次いで「出生時」が27.8%、「2歳」が19.3%となっています。

### <手帳種別の傾向>

「出生時」が「身体障害者手帳」では78.1%、「愛の手帳」では46.7%と最も割合が高くなっています。



Ⅱ－1 未就学児への調査

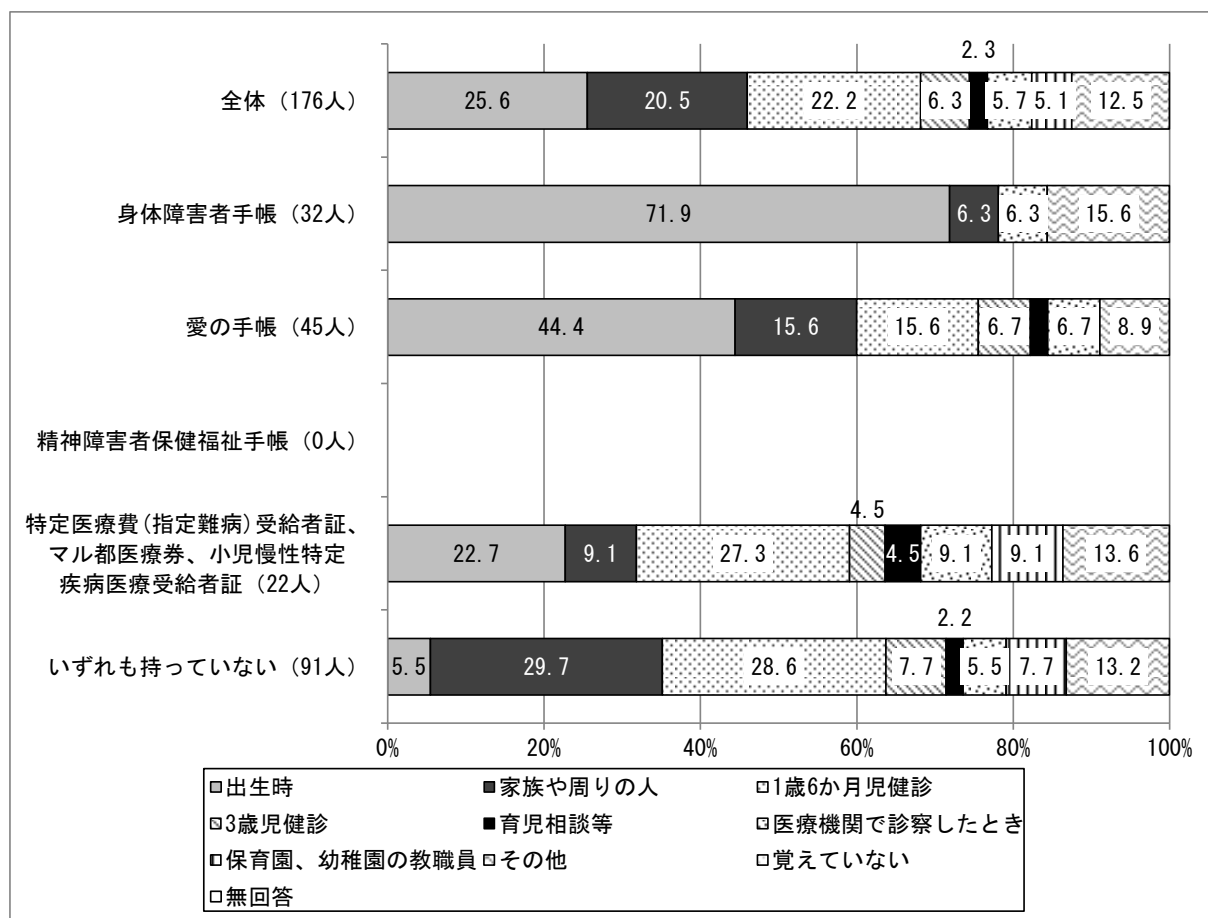
問8 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）について、最初に気付いたのはどのようなときでしたか。（1つに○）

＜全体の傾向＞

子どもの障害に最初に気付いたときについて、「出生時」が25.6%と最も割合が高く、次いで、「1歳6か月児健診」が22.2%、「家族や周りの人」が20.5%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「出生時」が「身体障害者手帳」では71.9%、「愛の手帳」では44.4%と最も割合が高くなっています。





問9 お子さんには、どのような障害がありますか。（あてはまるものすべてに○）

＜全体の傾向＞

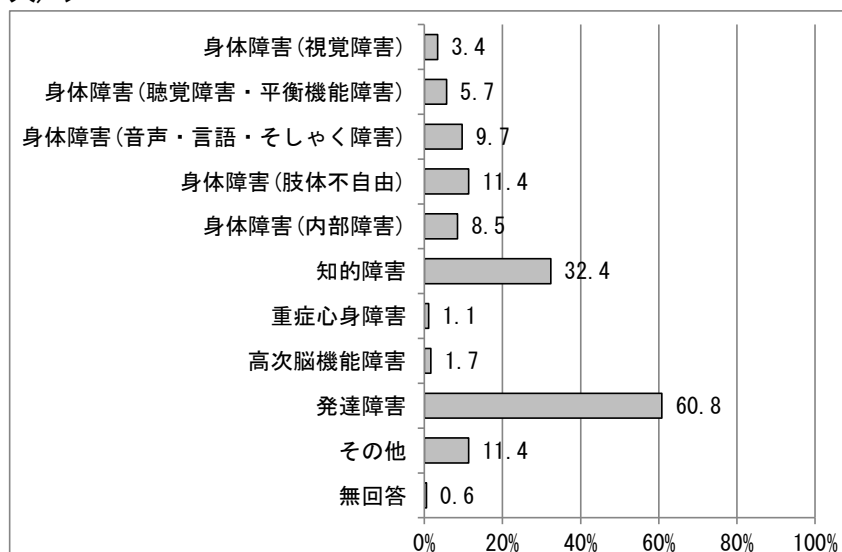
子どもの障害について、「発達障害」が60.8%と最も割合が高く、次いで「知的障害」が32.4%、「身体障害（肢体不自由）」が11.4%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

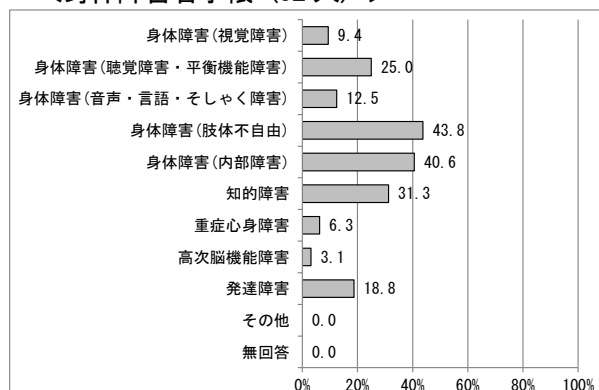
「身体障害者手帳」では「身体障害（肢体不自由）」が43.8%、「愛の手帳」では「知的障害」が88.9%と最も割合が高くなっています。

また「発達障害」が「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では54.5%、「いずれも持っていない」では79.1%と最も割合が高くなっています。

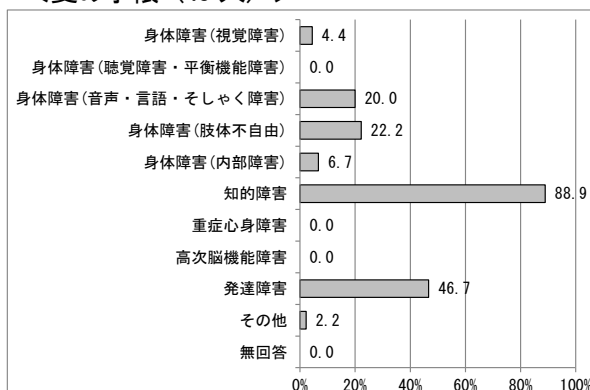
＜全体（176人）＞



＜身体障害者手帳（32人）＞

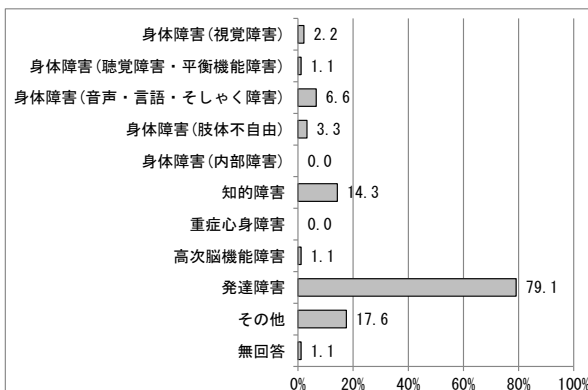
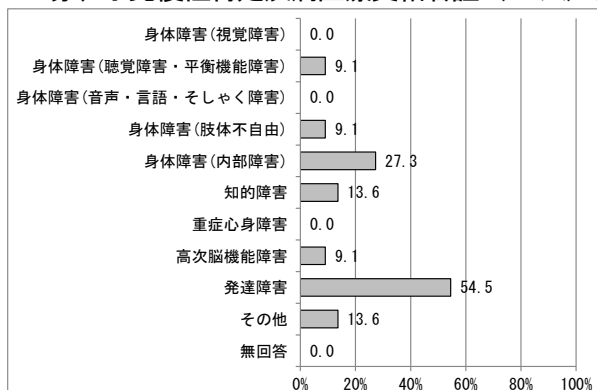


＜愛の手帳（45人）＞



Ⅱ－１ 未就学児への調査

＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (22人)＞



問10 問9で「9」と回答した方におたずねします。お子さんは次のような診断を受けていますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

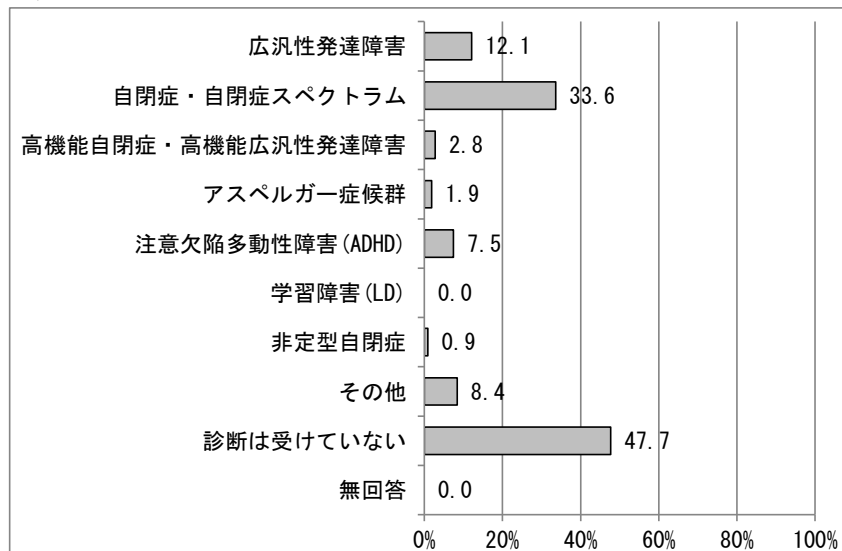
＜全体の傾向＞

発達障害の診断について、「診断は受けていない」が47.7%と最も割合が高く、次いで「自閉症・自閉症スペクトラム」が33.6%、「広汎性発達障害」が12.1%となっています。

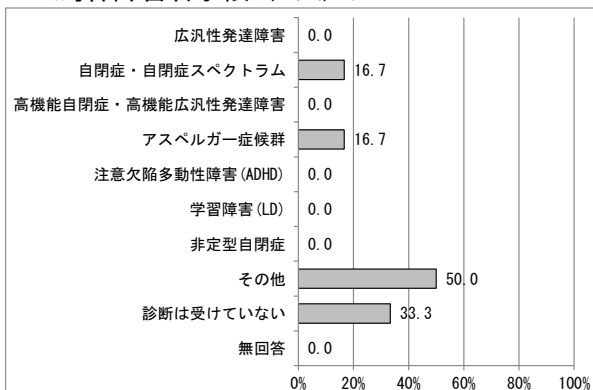
＜手帳種別の傾向＞

「愛の手帳」では「自閉症・自閉症スペクトラム」が42.9%と最も割合が高く、「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」と「いずれも持っていない」では「診断は受けていない」が最も割合が高くなっています。

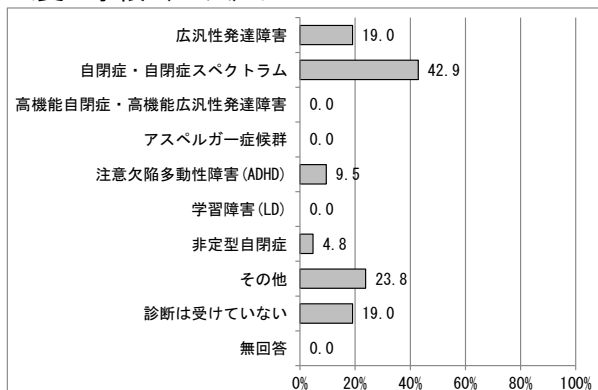
＜全体（107人）＞



＜身体障害者手帳（6人）＞

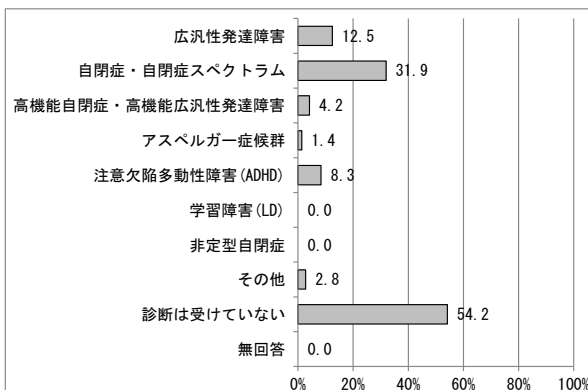
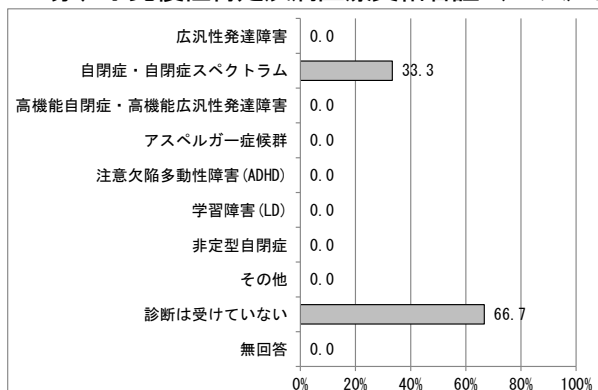


＜愛の手帳（21人）＞



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (12人)＞



困りごとの相談、介助者への支援について

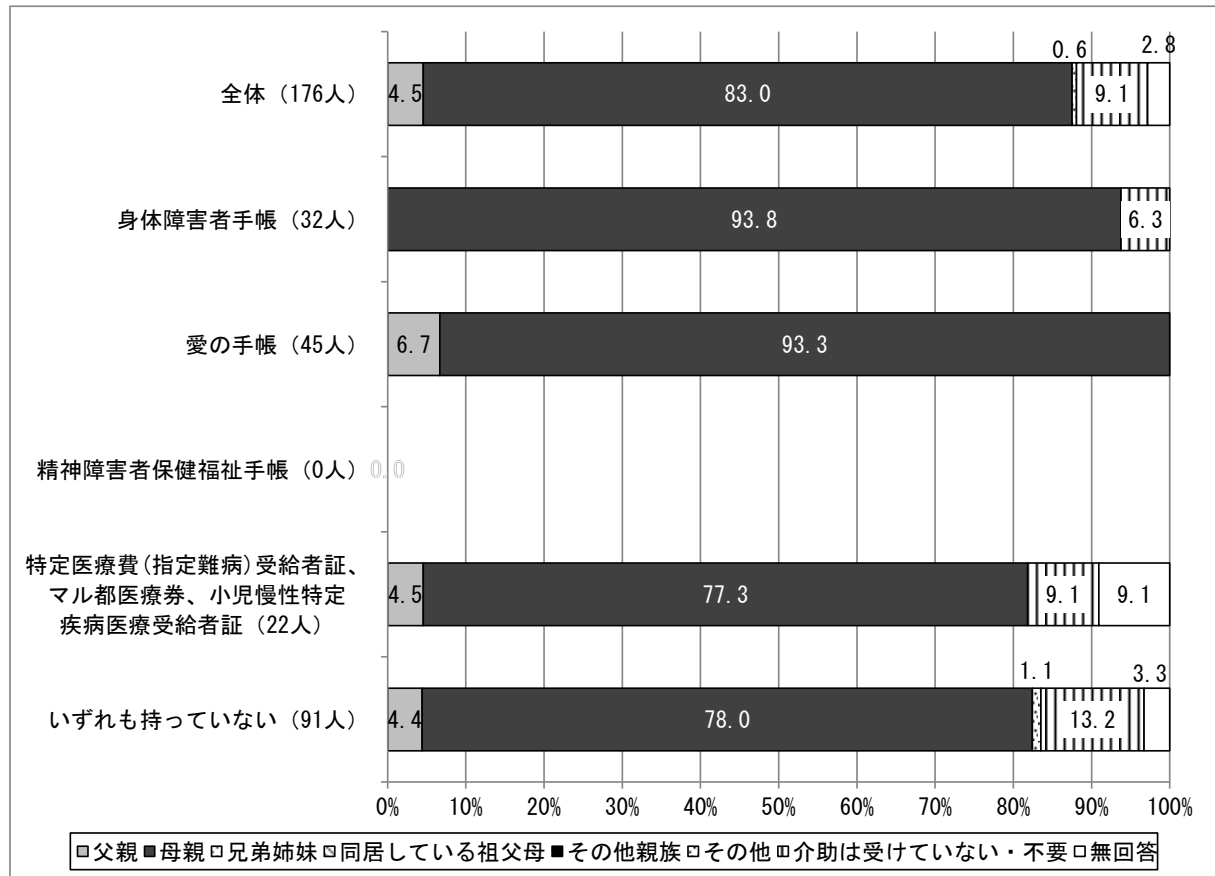
問11 お子さんを主に介助している方（主な介助者）はどなたですか。（1つに○）

＜全体の傾向＞

主な介助者について、「母親」が83.0%と最も割合が高く、次いで「介助は受けていない」が9.1%、「父親」が4.5%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



## Ⅱ－1 未就学児への調査

問12 問11で「1」から「5」のいずれかに回答した方におたずねします。主な介助者をサポートしてくれる親族・知人の方はいますか。（主なもの2つまでに○）

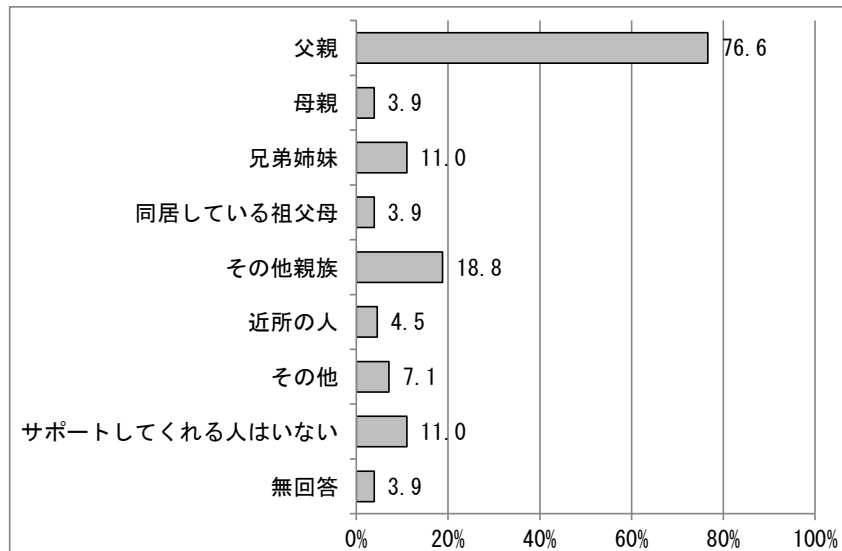
### <全体の傾向>

主な介助者をサポートしてくれる親族・知人について、「父親」が76.6%と最も割合が高く、次いで「その他親族」が18.8%、「兄弟姉妹」と「サポートしてくれる人はいない」が11.0%となっています。

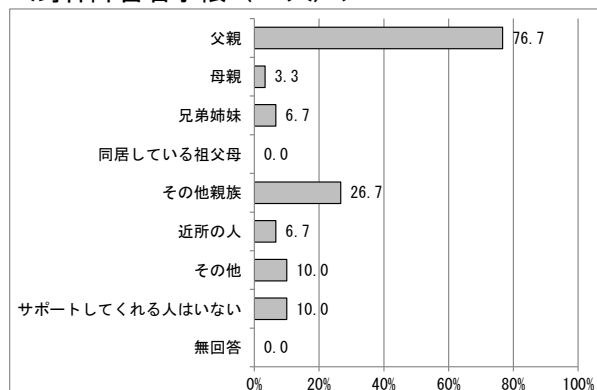
### <手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

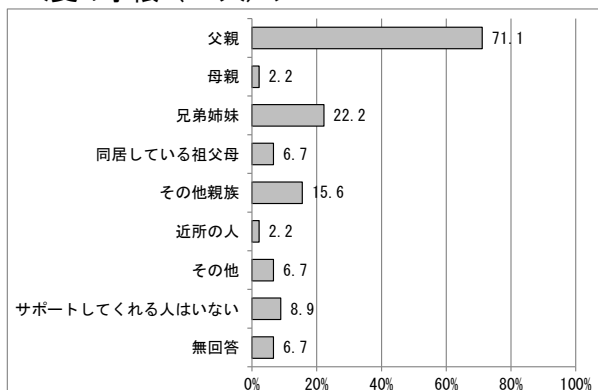
### <全体（154人）>



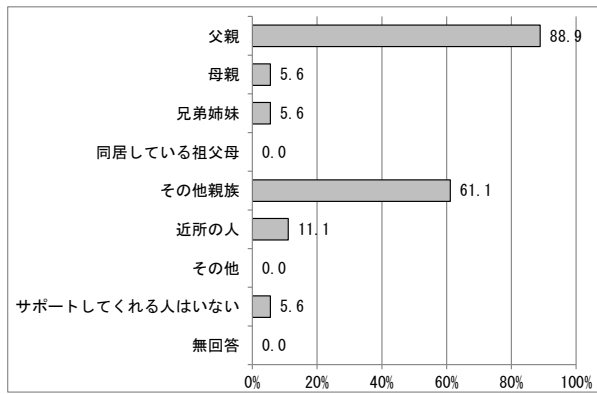
### <身体障害者手帳（30人）>



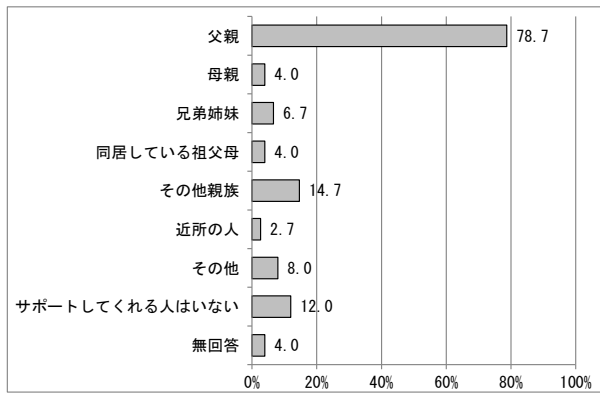
### <愛の手帳（45人）>



<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(18人)>



<いずれも持っていない(75人)>



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

### 問13 子育てについて、困っていることはありますか。（主なもの2つまでに○）

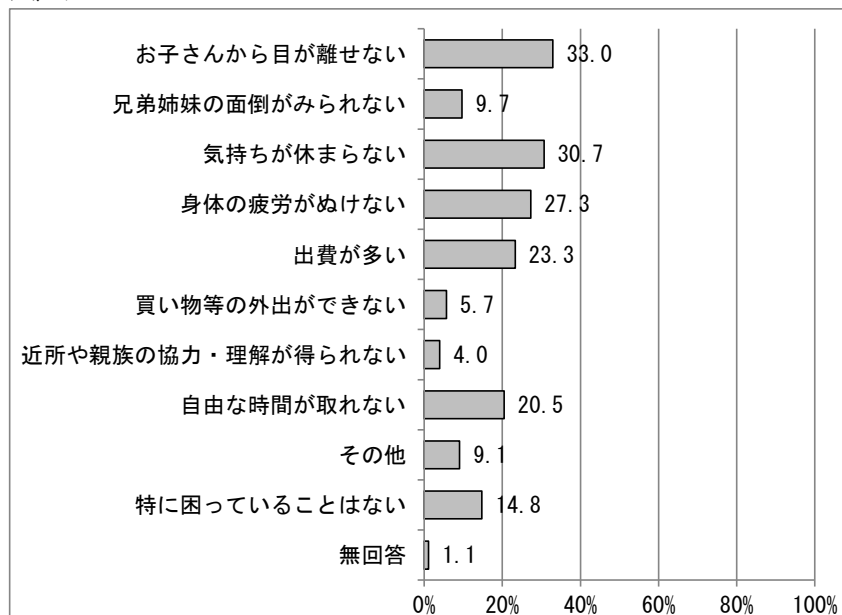
#### <全体の傾向>

子育てで困っていることについて、「お子さんから目が離せない」が33.0%と最も割合が高く、次いで「気持ちが休まらない」が30.7%、「身体の疲労がぬけない」が27.3%となっています。

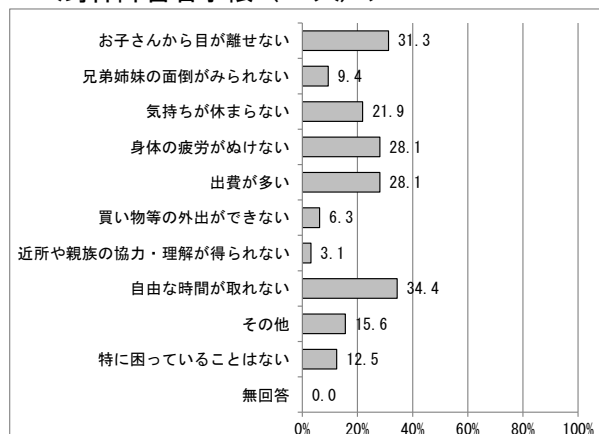
#### <手帳種別の傾向>

「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「身体の疲労がぬけない」が40.9%と最も割合が高くなっています。

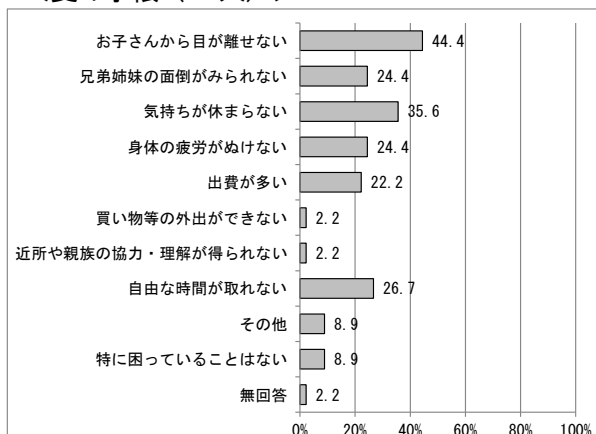
#### <全体（176人）>



#### <身体障害者手帳（32人）>

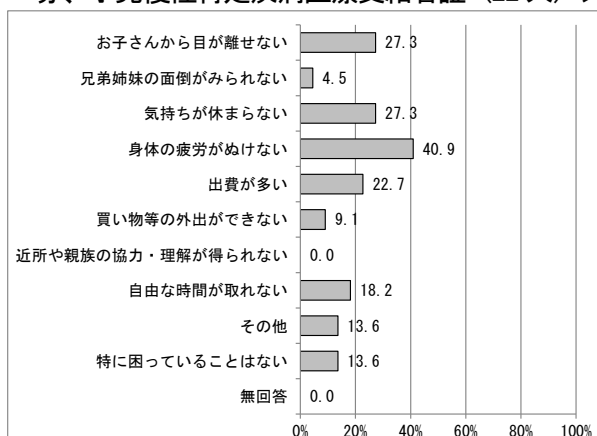


#### <愛の手帳（45人）>

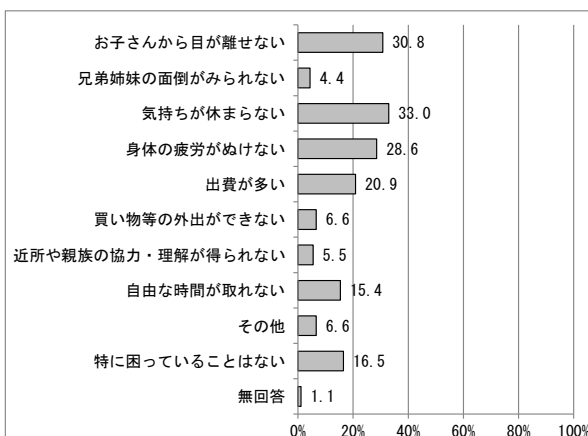




<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (22人) >



<いずれも持っていない (91人) >



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

問14 家族や知人以外で、日常生活の中で困ったときの相談先はどこですか。

(主なものを2つまでに○)

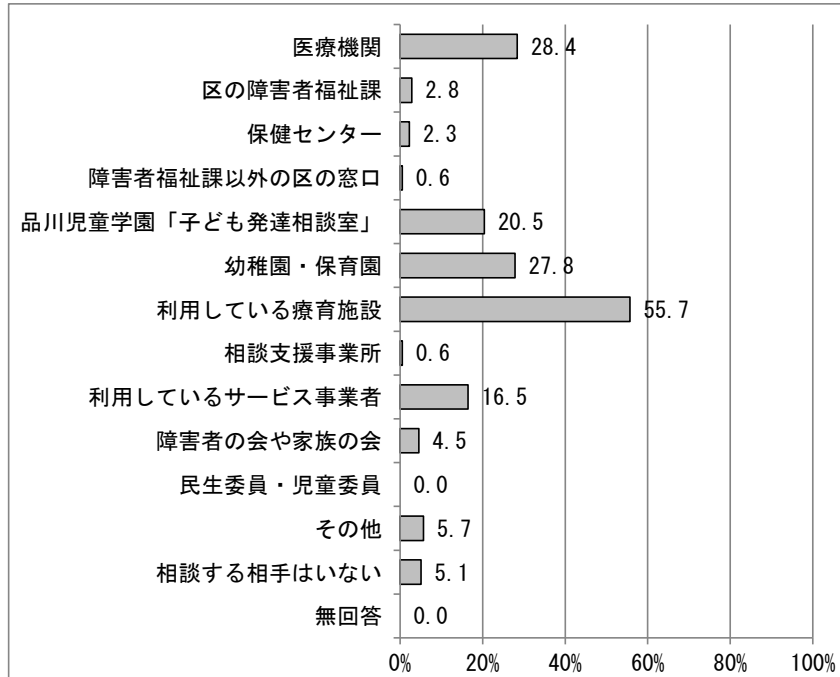
### <全体の傾向>

困ったときの相談先について、「利用している療育施設」が55.7%と最も割合が高く、次いで「医療機関」が28.4%、「幼稚園・保育園」が27.8%となっています。

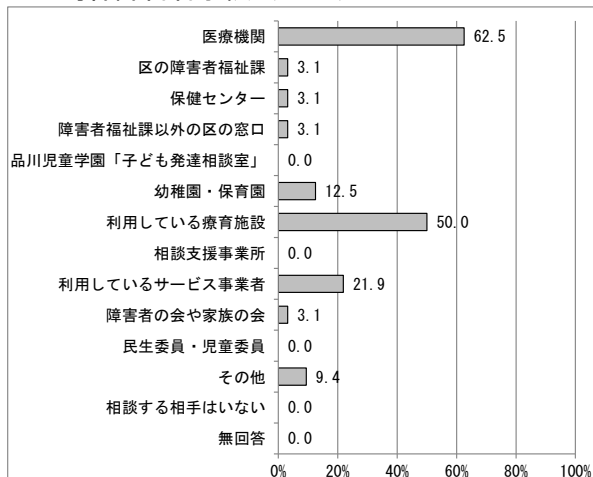
### <手帳種別の傾向>

「身体障害者手帳」では「医療機関」が62.5%と最も割合が高くなっています。

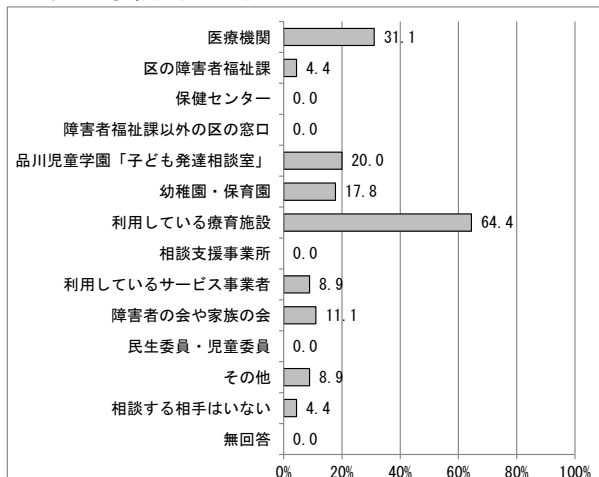
### <全体 (176人) >



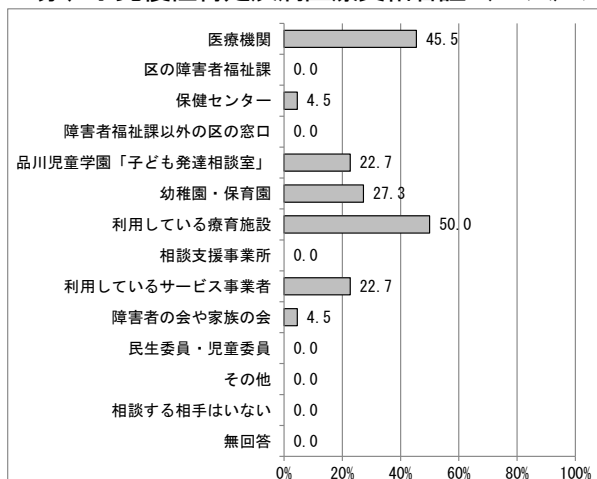
### <身体障害者手帳 (32人) >



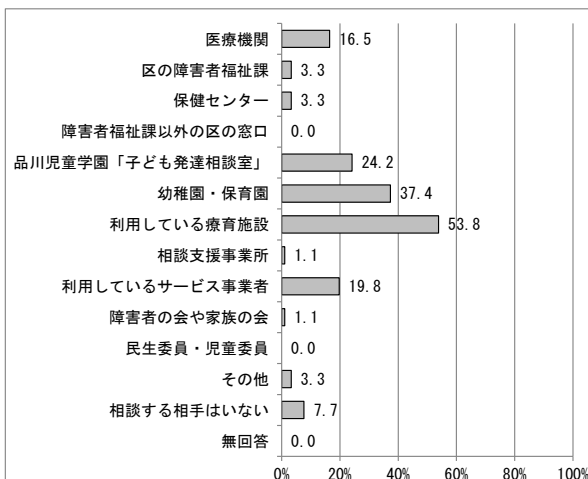
### <愛の手帳 (45人) >



<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (22人) >



<いずれも持っていない (91人) >



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

問15 問14で「1」から「12」と回答した方におたずねします。

① 主な相談内容は何ですか。具体的にお書きください。（自由記述）

主な相談内容について、「日常の子育てについて」、「発達や障害のことについて」の回答が多くみられます。

分 類	回答数
日常の子育てについて	78
発達や障害のことについて	68
他児とのコミュニケーションについて	26
行政支援・情報について	20
教育・療育について	15
病気時の対応について	3
保護者の支援について	2
兄弟姉妹の世話について	1
その他	9

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

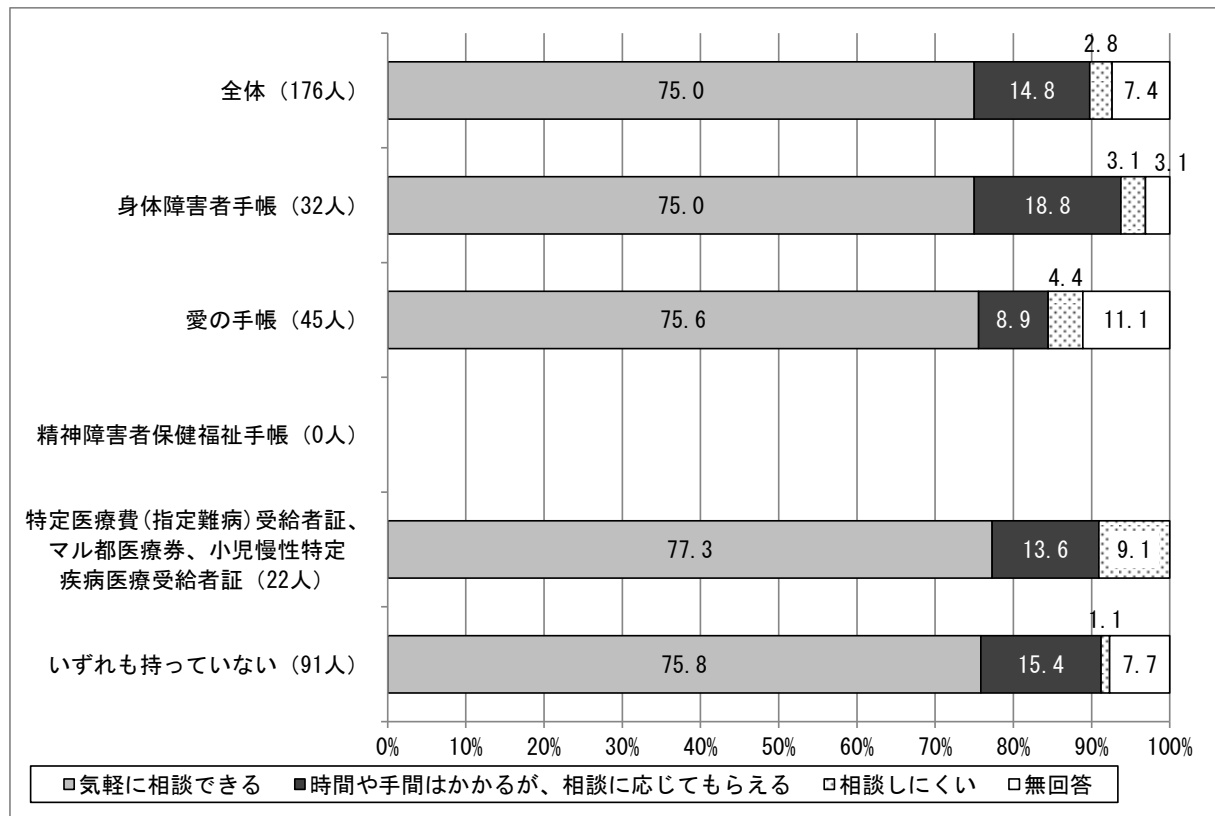
② その相談先は、相談しやすいですか。（1つに〇）

＜全体の傾向＞

相談先の相談しやすさについて、「気軽に相談できる」が75.0%と最も割合が高く、次いで「時間や手間はかかるが、相談に応じてもらえる」が14.8%、「相談しにくい」が2.8%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

- ③ ②で「3」と回答した方におたずねします。「相談しにくい」と感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

相談しにくい理由について、「具体案などが出てきにくい」が3件、「相談する時間がない」と「相談しても意味がない」が各1件みられます。

分 類	回答数
具体案などが出てきにくい	3
相談する時間がない	1
相談しても意味がない	1

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

問16 区や事業者などの相談窓口に期待することはありますか。(主なもの2つまでに○)

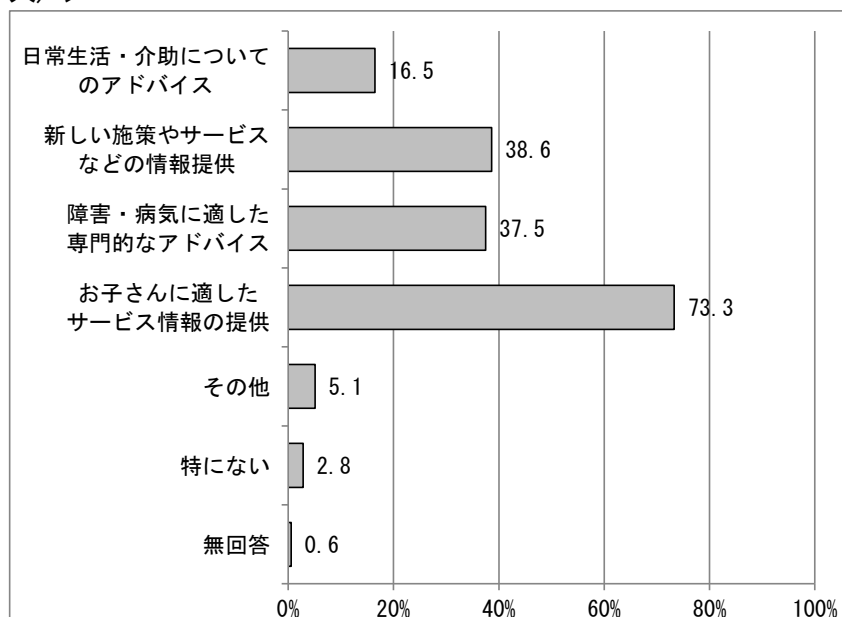
<全体の傾向>

区や事業所などの相談窓口に期待することについて、「お子さんに適したサービス情報の提供」が73.3%と最も割合が高く、次いで「新しい施策やサービスの情報提供」が38.6%、「障害・病気に適した専門的なアドバイス」が37.5%となっています。

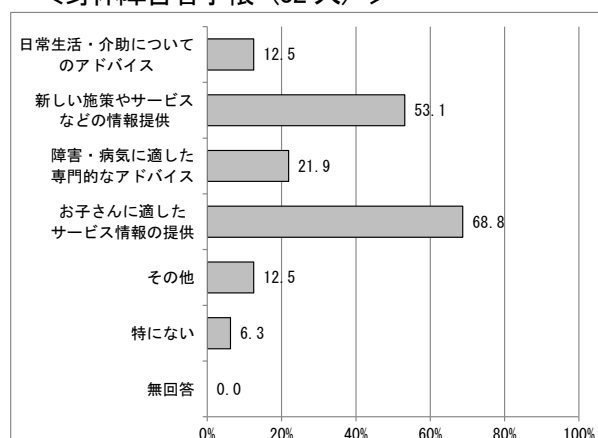
<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

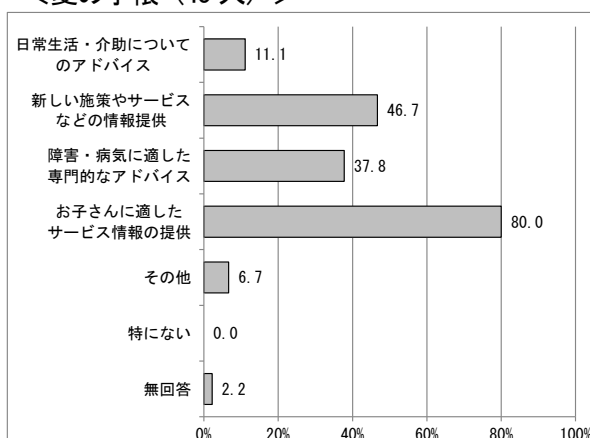
<全体 (176人) >



<身体障害者手帳 (32人) >

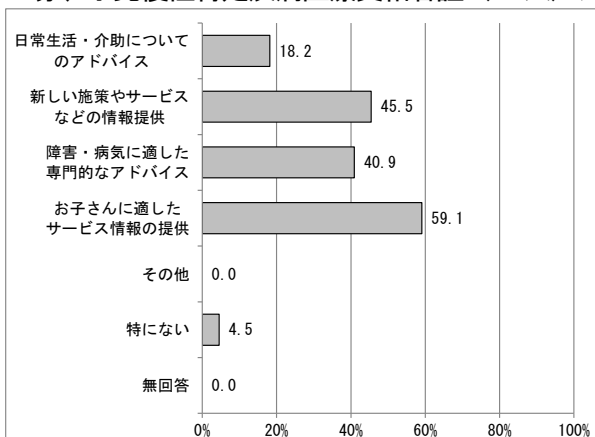


<愛の手帳 (45人) >

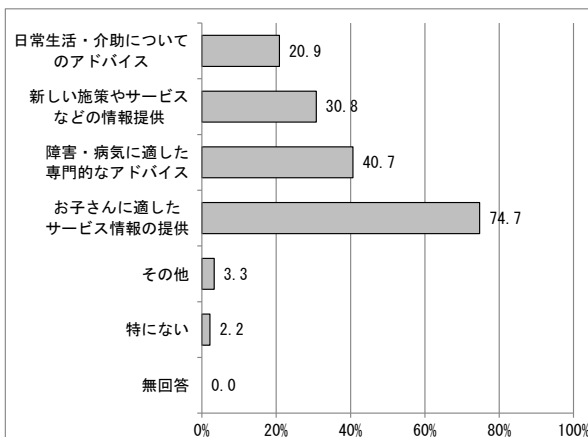


Ⅱ－１ 未就学児への調査

<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (22人) >



<いずれも持っていない (91人) >





問17 子育てのために、必要な支援は何ですか。（主なもの2つまでに○）

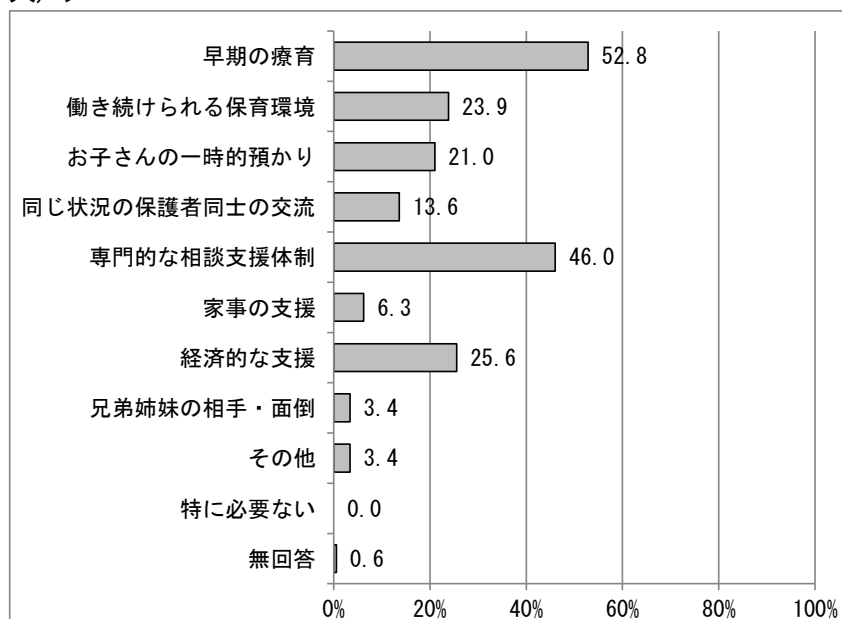
＜全体の傾向＞

子育てのために必要な支援について、「早期の療育」が52.8%と最も割合が高く、次いで「専門的な相談支援体制」が46.0%、「経済的な支援」が25.6%となっています。

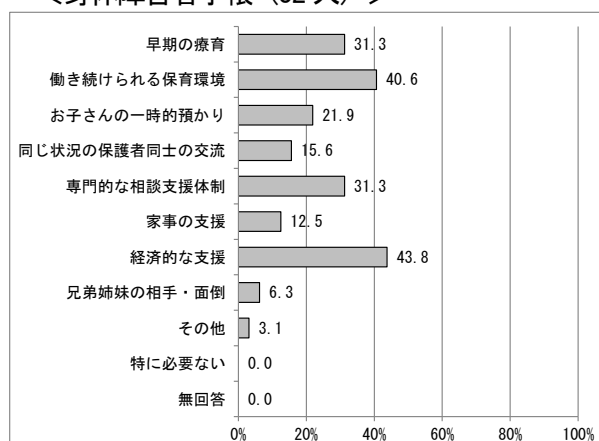
＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では「経済的な支援」が43.8%と最も割合が高く、次いで「働き続けられる保育環境」が40.6%となっています。

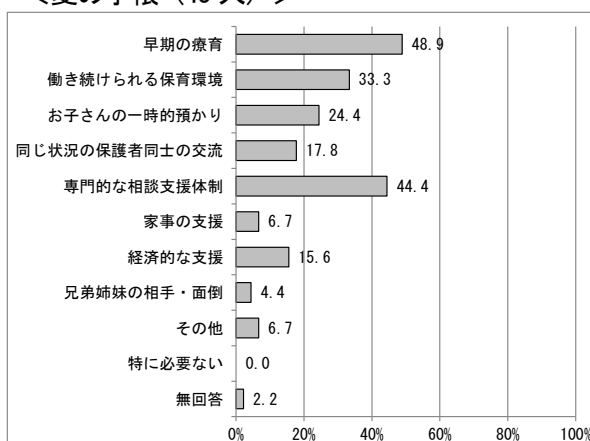
＜全体（176人）＞



＜身体障害者手帳（32人）＞

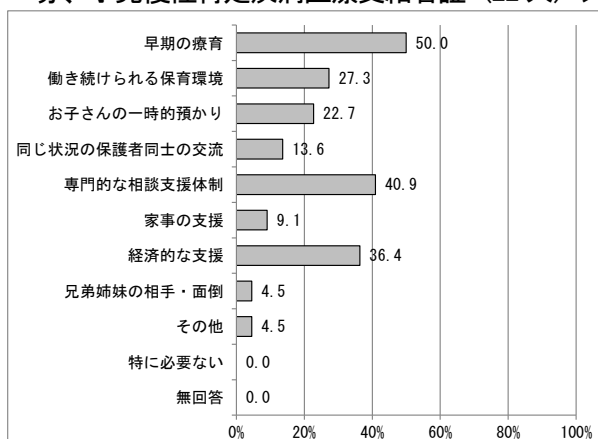


＜愛の手帳（45人）＞

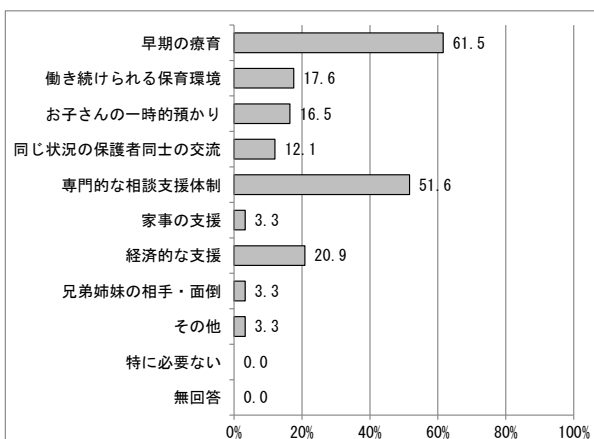


## Ⅱ－１ 未就学児への調査

<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (22人) >



<いずれも持っていない (91人) >



## 医療的ケアの必要なお子さんについて

問 18 お子さんは日常生活において、以下の医療的ケアを必要としていますか。

(あてはまるものすべてに○)

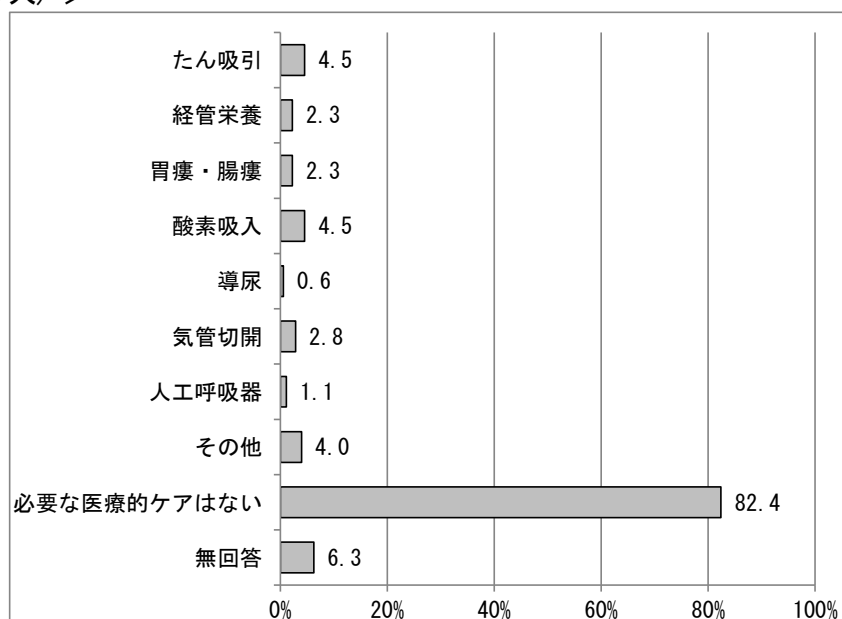
### <全体の傾向>

日常生活に必要な医療的ケアについて、「必要な医療的ケアはない」が 82.4%と最も割合が高く、次いで「たん吸引」と「酸素吸入」が 4.5%、「その他」が 4.0%となっています。

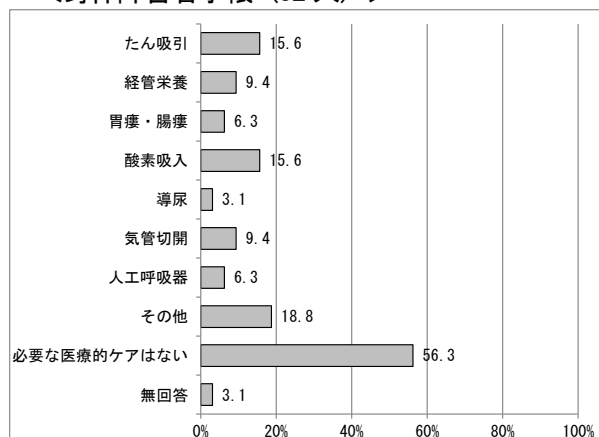
### <手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

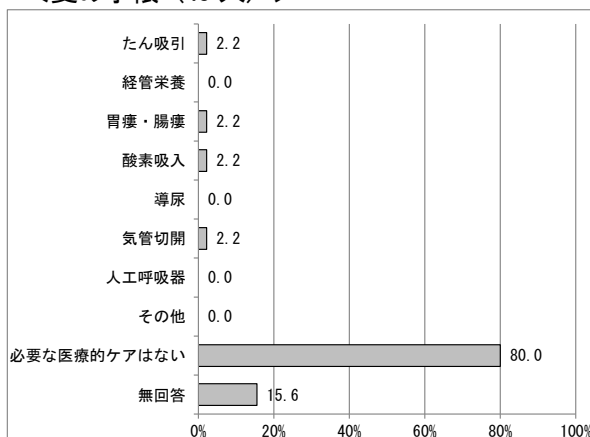
### <全体 (176 人) >



### <身体障害者手帳 (32 人) >

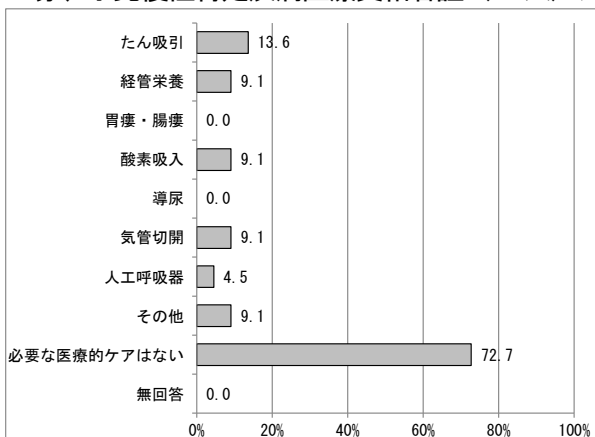


### <愛の手帳 (45 人) >

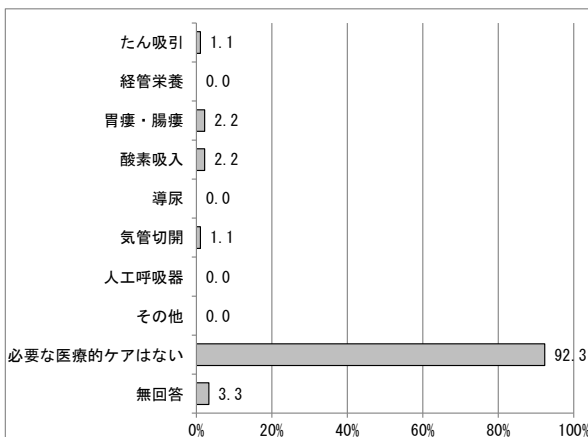


Ⅱ－１ 未就学児への調査

<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (22人)>



<いずれも持っていない (91人)>



問19 問18で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。

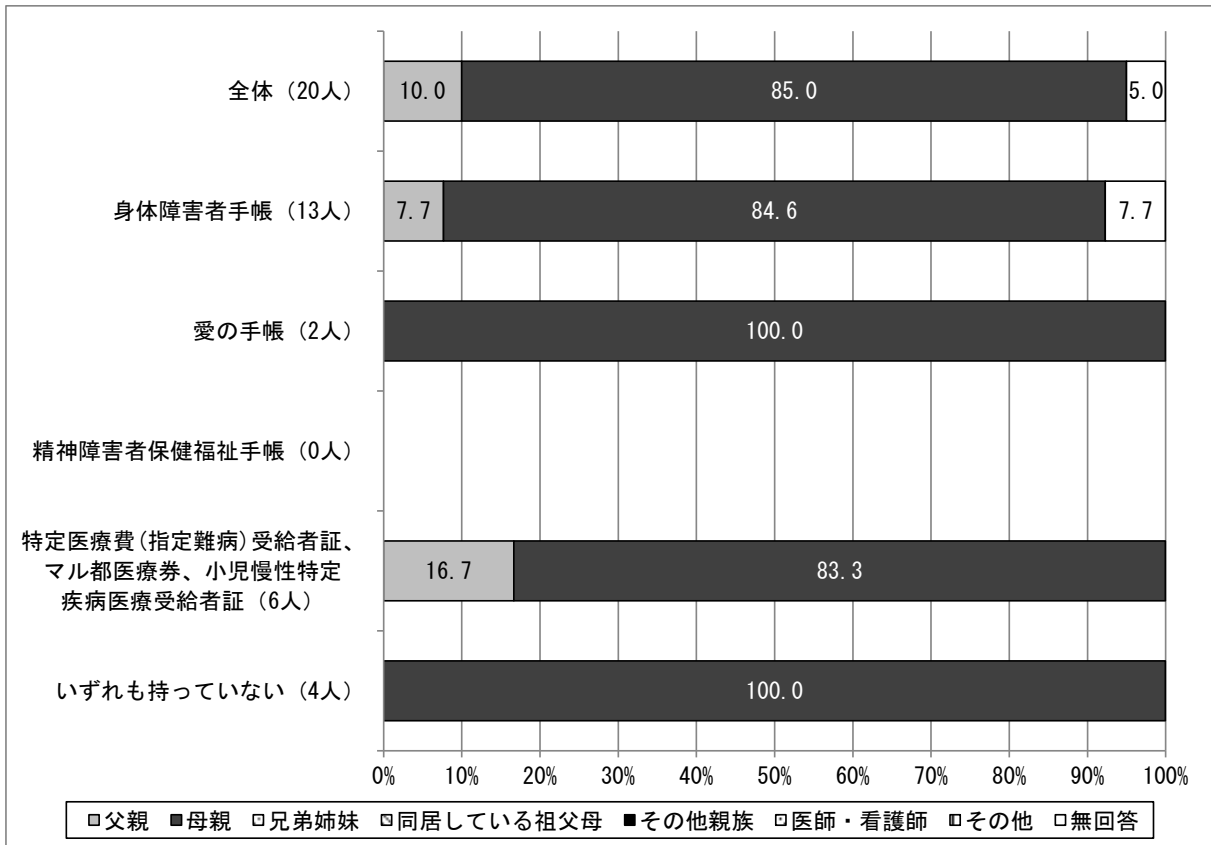
① 主に医療的ケアを行っているのはどなたですか。（1つに〇）

＜全体の傾向＞

主に医療的ケアを行っている人について、「母親」が85.0%と最も割合が高く、次いで「父親」が10.0%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



Ⅱ－１ 未就学児への調査

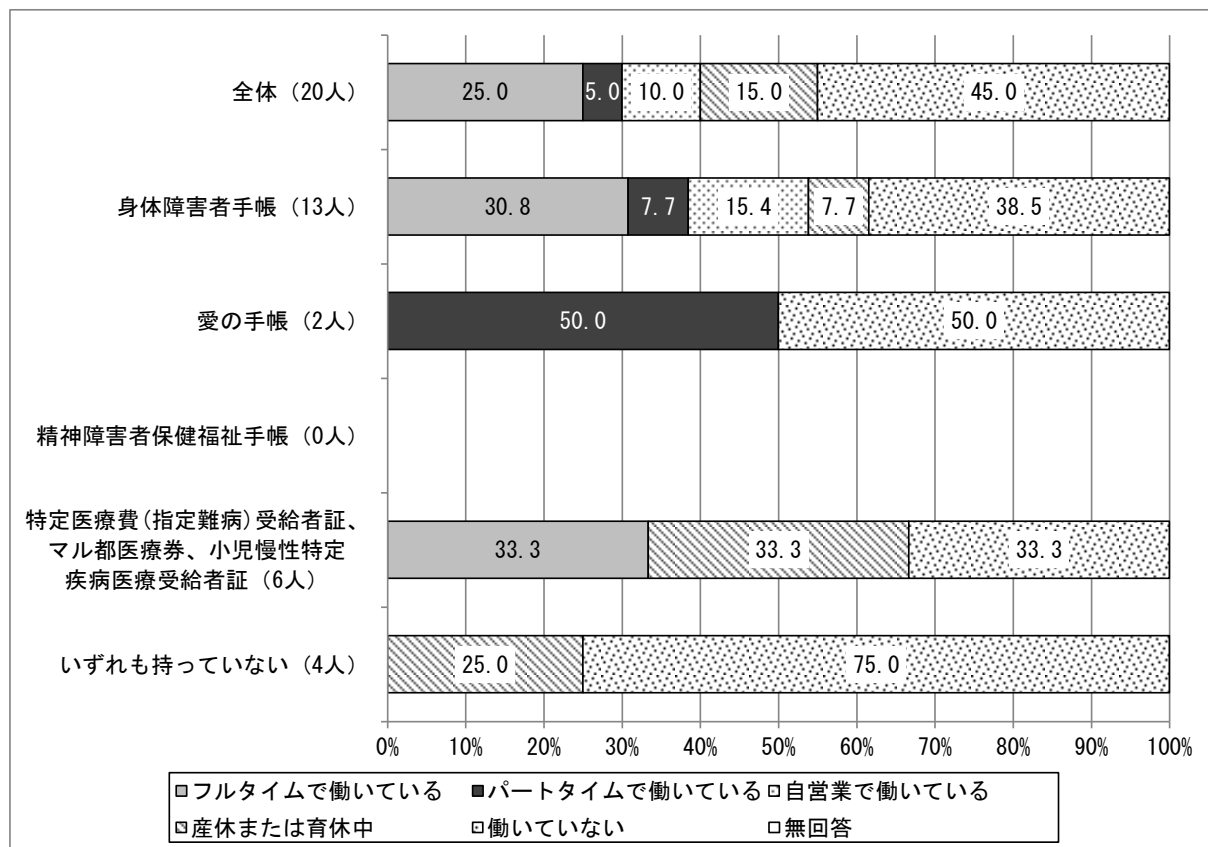
② 主な介助者の方は、現在働いていますか。（1つに〇）

＜全体の傾向＞

主な介助者の就労状況について、「働いていない」が45.0%、次いで「フルタイムで働いている」が25.0%、「産休または育休中」が15.0%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



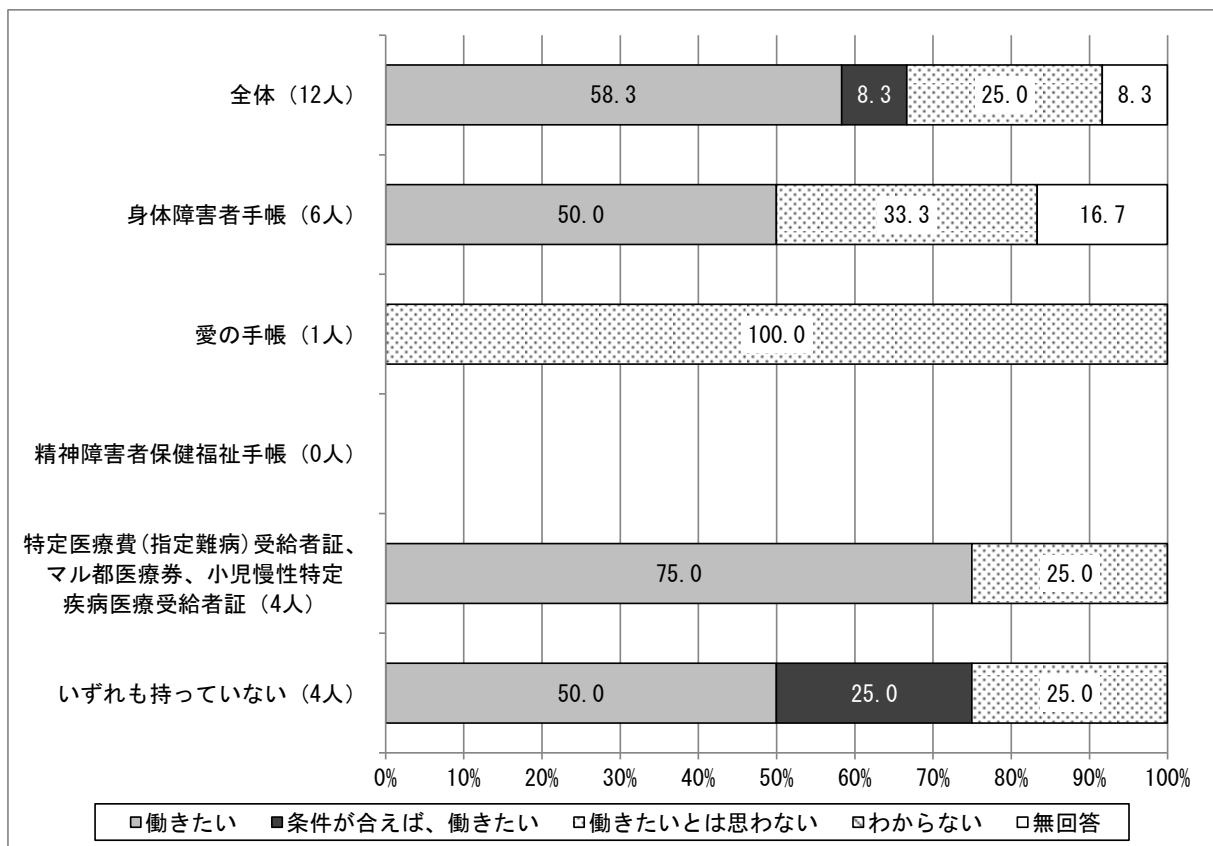
③ ②で「4」または「5」と回答した方におたずねします。主な介助者の方は、今後、働きたいと思えますか。（1つに〇）

＜全体の傾向＞

現在「産休または育休中」もしくは「働いていない」介助者の今後の就労希望について、「働きたい」が58.3%と最も割合が高く、次いで「働きたいとは思わない」が25.0%、「条件が合えば、働きたい」が8.3%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



Ⅱ－１ 未就学児への調査

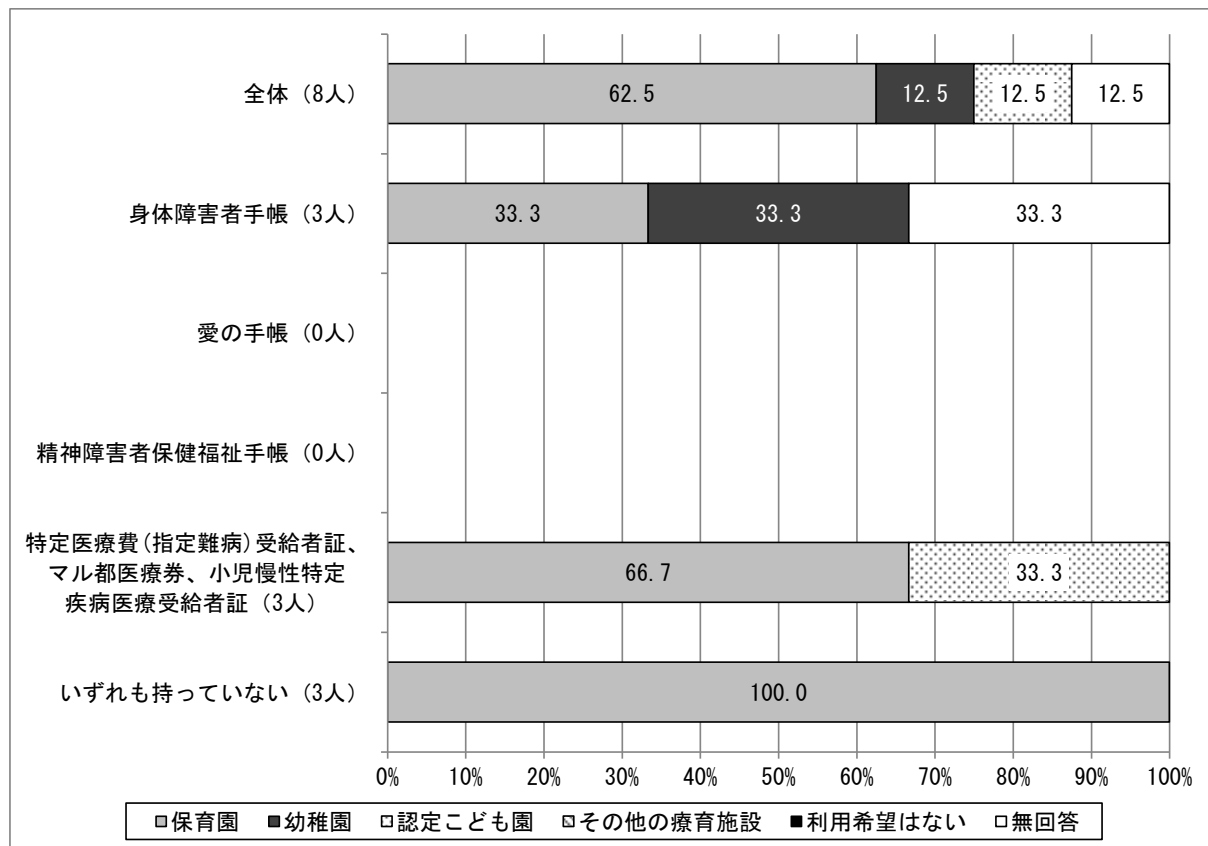
④ ③で「1」または「2」と回答した方におたずねします。働くにあたり、どのようなサービスを利用したいと思いますか。（1つに〇）

<全体の傾向>

就労時に利用したいサービスについて、「保育園」が62.5%（8人中5人）と最も割合が高く、次いで「幼稚園」「認定こども園」がともに12.5%（8人中1人）となっています。

<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。





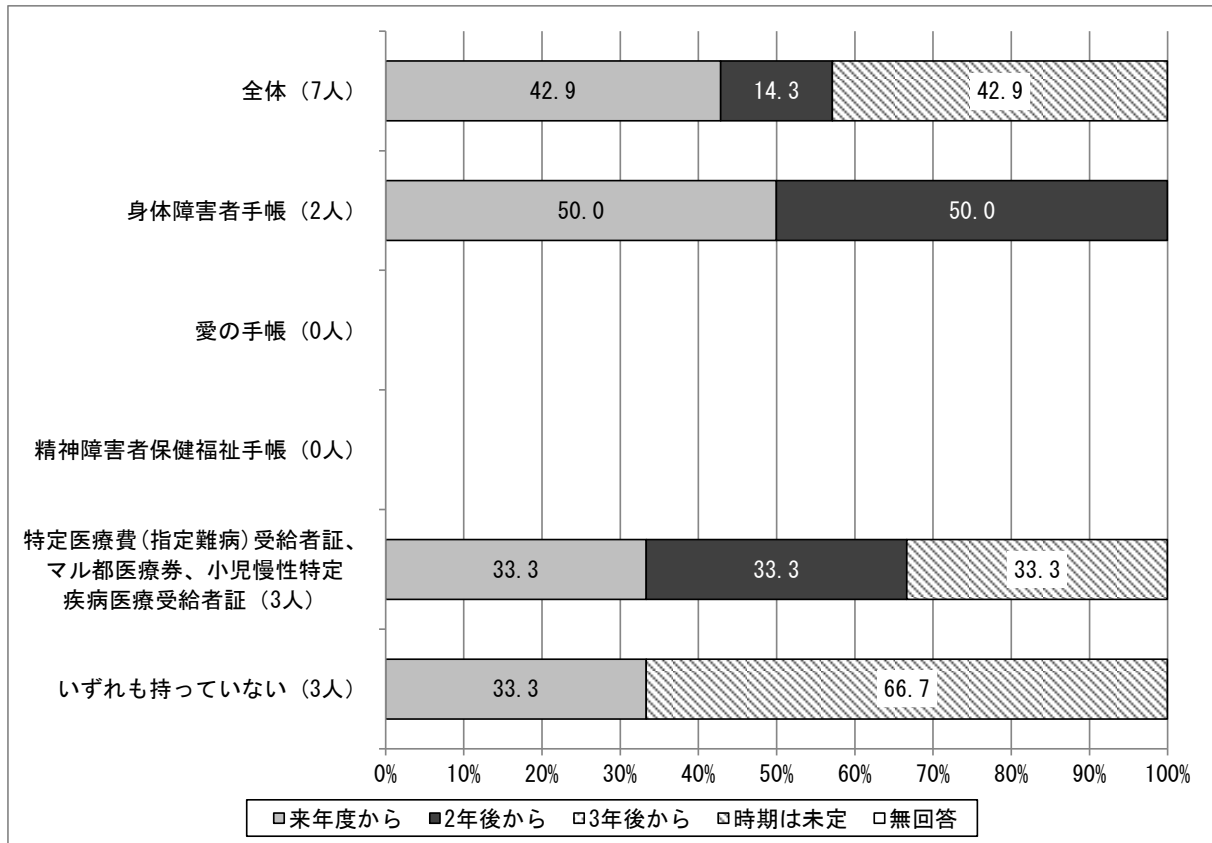
⑤ ④で「1」から「3」のいずれかに回答した方におたずねします。いつ頃からの利用を希望しますか。(1つに〇)

＜全体の傾向＞

サービスの利用時期について、「来年度から」と「時期は未定」がともに42.9%（7人中3人）、「2年後から」が14.3%（7人中1人）となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

- ⑥ 医療的ケアの必要なお子さんの日常生活について、困っていること、今後の希望等がありましたら、ご自由にお書きください。

医療的ケア児の困りごと、今後の希望等について「医療的ケア児を受け入れる保育園、学校の増加」が5件、「医療的ケア児専用の施設の設置」と「経済的支援の充実」が3件みられます。

分 類	回答数
医療的ケア児を受け入れる保育園、学校の増加	5
医療的ケア児専用の施設の設置	3
経済的支援の充実	3
相談、支援等の施設が少ない	2
週末に利用できるサービスの設置	2
保育園職員のスキルの向上	1
用具レンタルの充実	1
家族の支援（休息の確保）	1
専門の医療機関の増加	1
健康状態把握の事例、就学時の手引き情報	1

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

お子さんの生活について

問 20 幼稚園や保育園、療育施設等を利用している方におたずねします。

- ① 幼稚園や保育園、療育施設等の生活で、困っていることや心配していることはありますか。  
 (主なもの2つまでに○)

＜全体の傾向＞

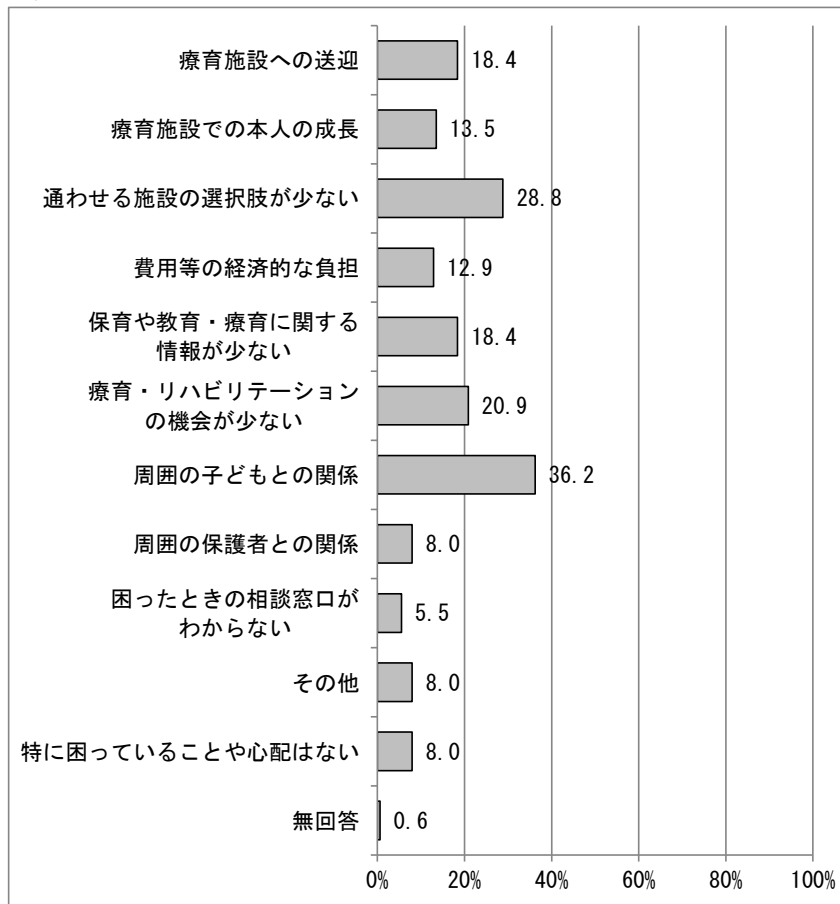
幼稚園や保育園、療育施設等の生活で困っていることや心配していることについて、「周囲の子どもとの関係」が36.2%と最も割合が高く、次いで「通わせる施設の選択肢が少ない」が28.8%、「療育・リハビリテーションの機会が少ない」が20.9%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「愛の手帳」では「療育・リハビリテーションの機会が少ない」が31.1%と比較的高い割合となっています。

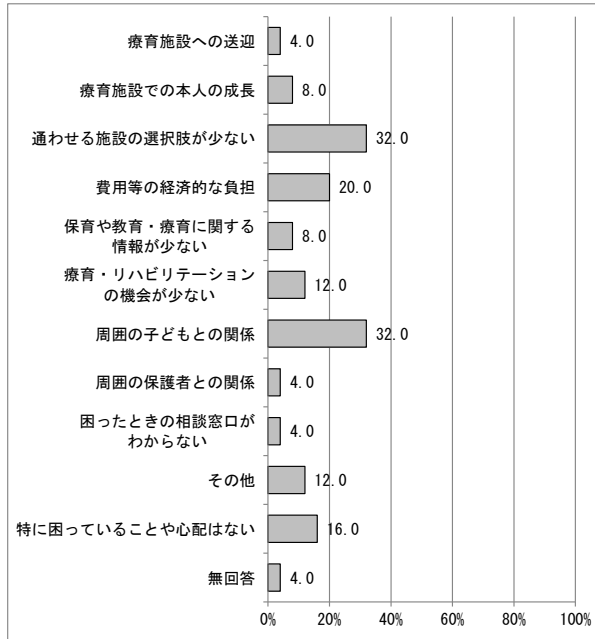
「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「療育施設への送迎」が40.0%と最も割合が高くなっています。

＜全体（163人）＞

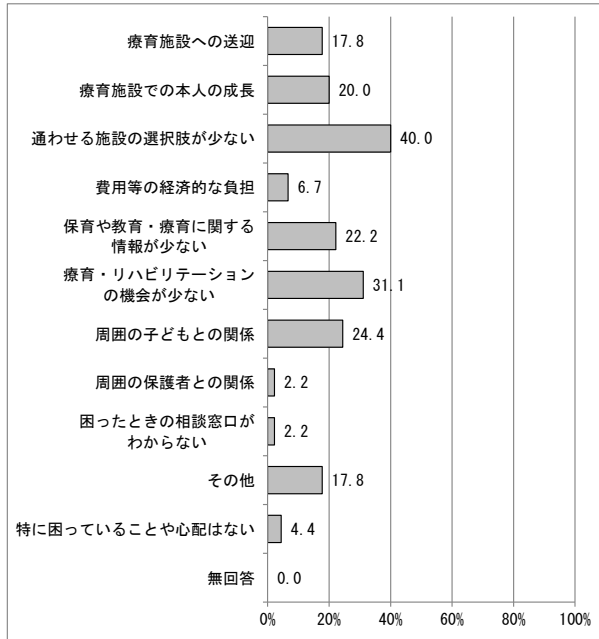


## Ⅱ－１ 未就学児への調査

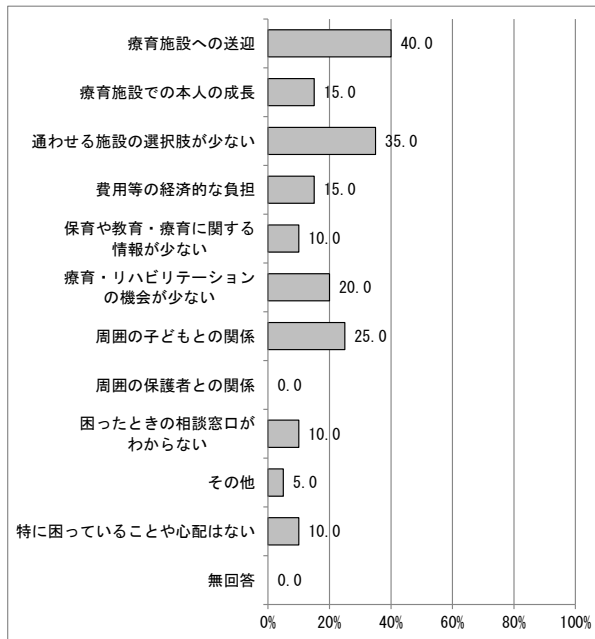
### <身体障害者手帳（25人）>



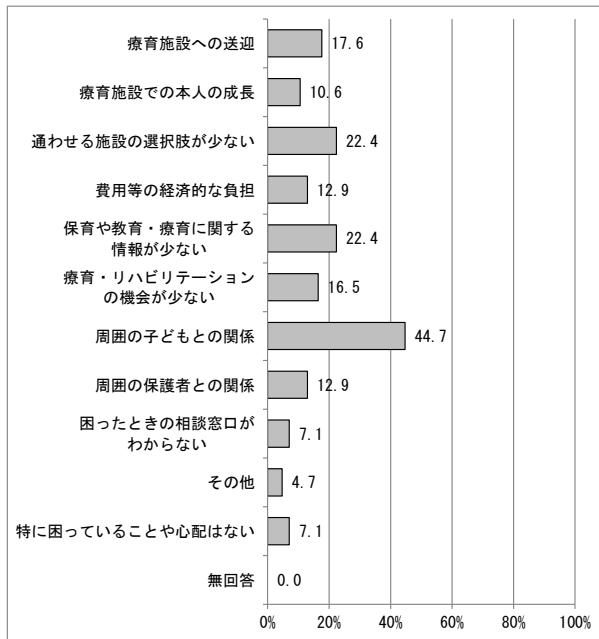
### <愛の手帳（45人）>



### <特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20人）>



### <いずれも持っていない（85人）>



② 幼稚園や保育園、療育施設等にいる以外の時間は、どのように過ごしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

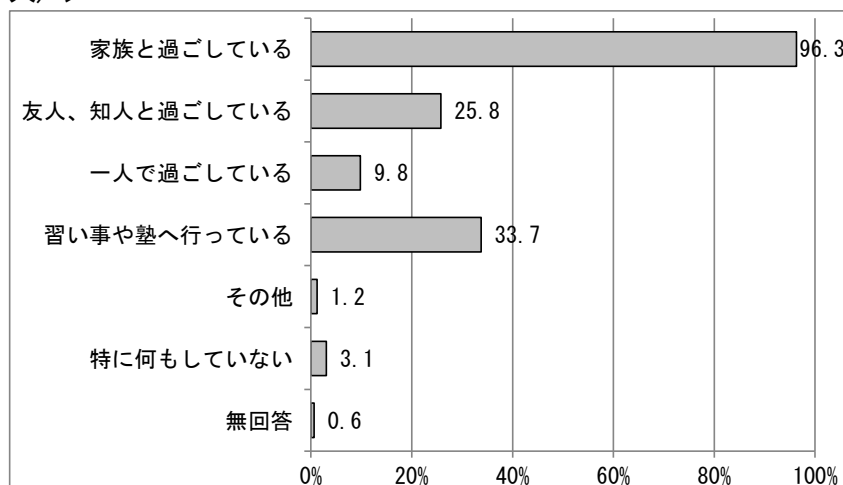
＜全体の傾向＞

幼稚園や保育園、療育施設等にいる以外の時間の過ごし方について、「家族と過ごしている」が96.3%と最も割合が高く、次いで「習い事や塾へ行っている」が33.7%、「友人、知人と過ごしている」が25.8%となっています。

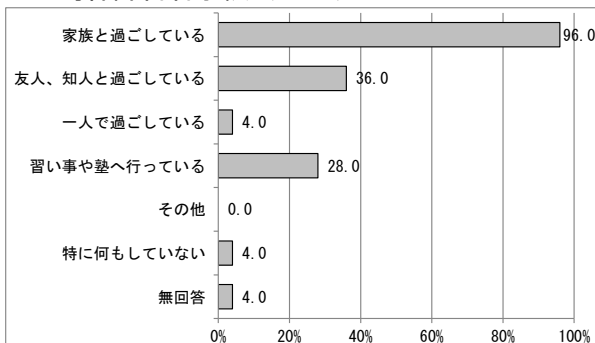
＜手帳種別の傾向＞

「愛の手帳」では、「友人、知人と過ごしている」が4.4%（45人中2人）と低い割合となっています。

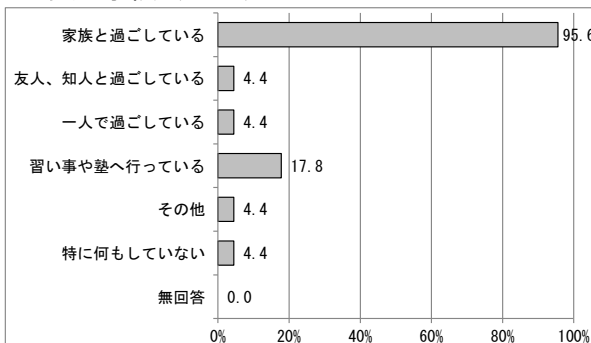
＜全体（163人）＞



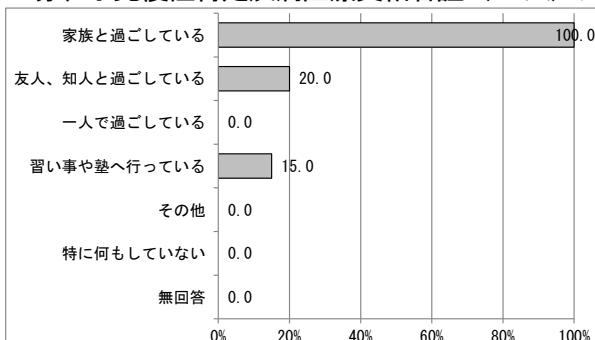
＜身体障害者手帳（25人）＞



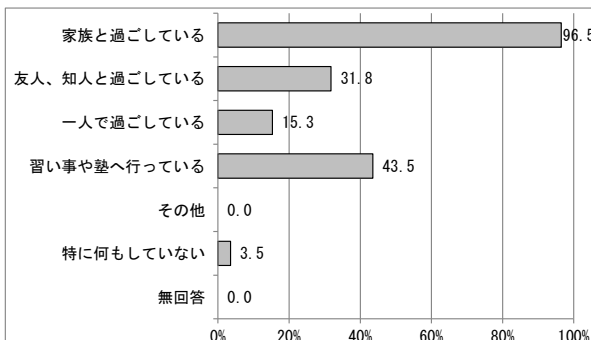
＜愛の手帳（45人）＞



＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20人）＞



＜いずれも持っていない（85人）＞



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

- ③ 幼稚園や保育園、療育施設等にいる以外の時間について、現在の過ごし方以外にどのような過ごし方を希望しますか。ご自由にお書きください。

現状以外の過ごし方について、「習い事・スポーツ」「同世代の子どもとの遊び」「療育・福祉サービス」の回答が多くみられます。

分 類	回答数
習い事・スポーツ	23
同世代の子どもとの遊び	21
療育・福祉サービス	18
家庭で過ごす	9
子ども向け施設	8
保育施設、一時預かり施設	6
外出・レジャー	5
その他	4

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

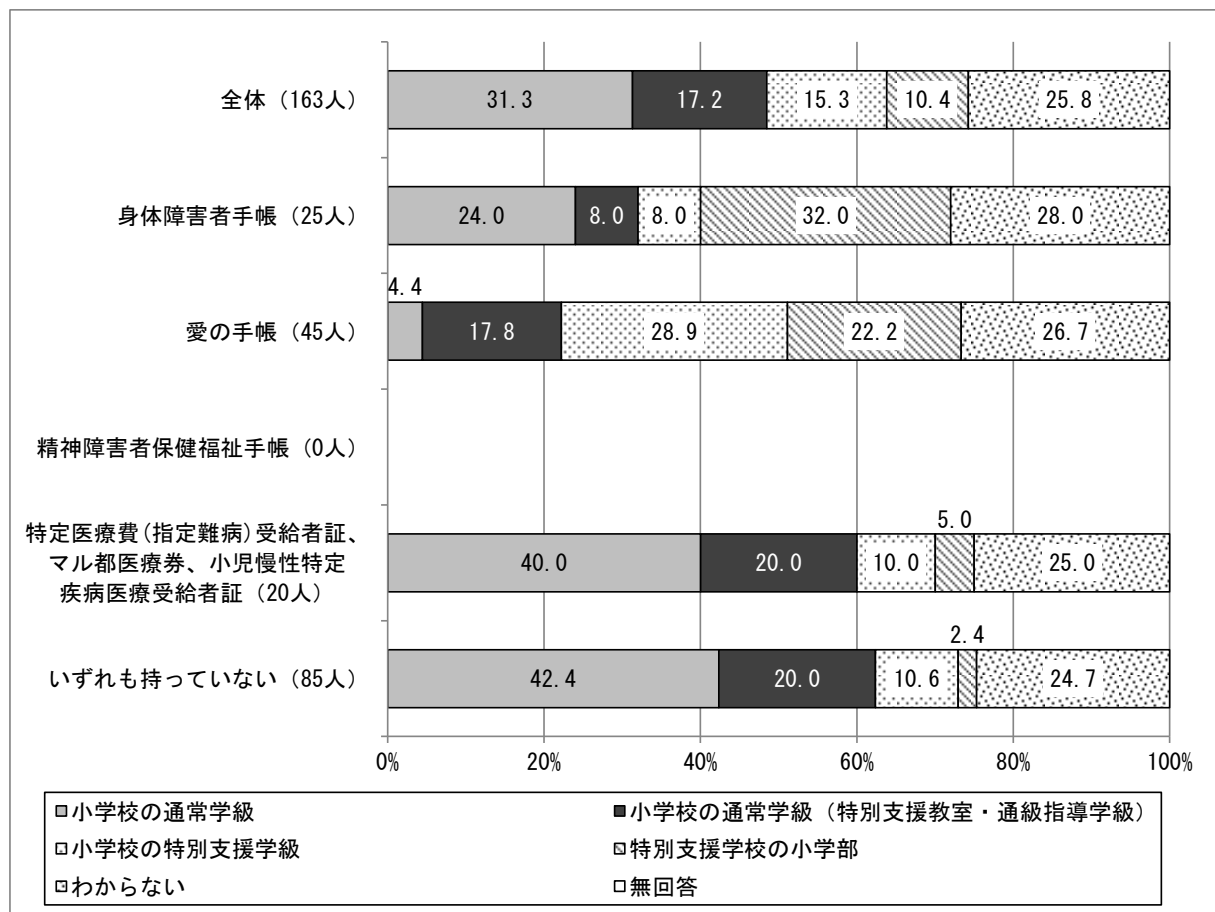
問21 小学校入学時は、どの教育機関を希望しますか。（1つに○）

＜全体の傾向＞

小学校入学時に希望する教育機関について、「小学校の通常学級」が31.3%と最も割合が高く、次いで「わからない」が25.8%、「小学校の通常学級（特別支援教室・通級指導学級）」が17.2%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では「特別支援学校の小学部」が32.0%、「愛の手帳」では「小学校の特別支援学級」が28.9%と最も割合が高くなっています。



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

問22 お子さんの今後の生活や進学等について、心配していることがありましたら、ご自由にお書きください。

今後の生活や進学先等の心配ごとについて、「進学先の選択について」「学業・学校生活について」「福祉サービスの利用について」「コミュニケーション、いじめについて」の回答が多くみられます。

分 類	回答数
進学先の選択について	31
学業・学校生活について	31
福祉サービスの利用について	26
コミュニケーション、いじめについて	21
進学・進路の情報について	18
子どもの将来について	17
保護者の仕事への影響について	10
通学、すまいるスクールへの送迎手段について	9
周りの理解について	8
支援学校、支援級等での教育内容について	8
どこに相談して良いかわからない	5
本人に適した受け皿（保育施設等）の確保について	4
長期休暇の過ごし方について	4
保育所、学校での介助員の配置について	3
障害児に対応できる施設・設備の整備について	3
近くの学校に特別支援学級がない	3
その他	37

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。



## 児童福祉法による障害児通所支援について

問23 ア～ウのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。

利用している方は、利用日数も記入してください。

(それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ〇)

### <全体の傾向>

児童発達支援の「現在の利用状況」について、「利用している」が80.1%、「利用していない」が17.6%となっています。「今後の利用希望」については、「(今後も)利用したい」が66.5%と最も割合が高く、次いで「わからない」が6.3%、「利用したいが、できない」と「利用希望はない」が5.7%となっています。

医療型児童発達支援の「現在の利用状況」について、「利用していない」が46.6%、「利用している」が11.9%となっています。「今後の利用希望」については、「(今後も)利用したい」が14.8%と最も割合が高く、次いで「利用希望はない」と「わからない」が14.2%、「利用したいが、できない」が8.0%となっています。

保育所等訪問支援の「現在の利用状況」について、「利用していない」が54.5%、「利用している」が3.4%となっています。「今後の利用希望」については、「わからない」が19.9%と最も割合が高く、次いで「利用希望はない」が12.5%、「(今後も)利用したい」が9.7%となっています。

### <手帳種別の傾向>

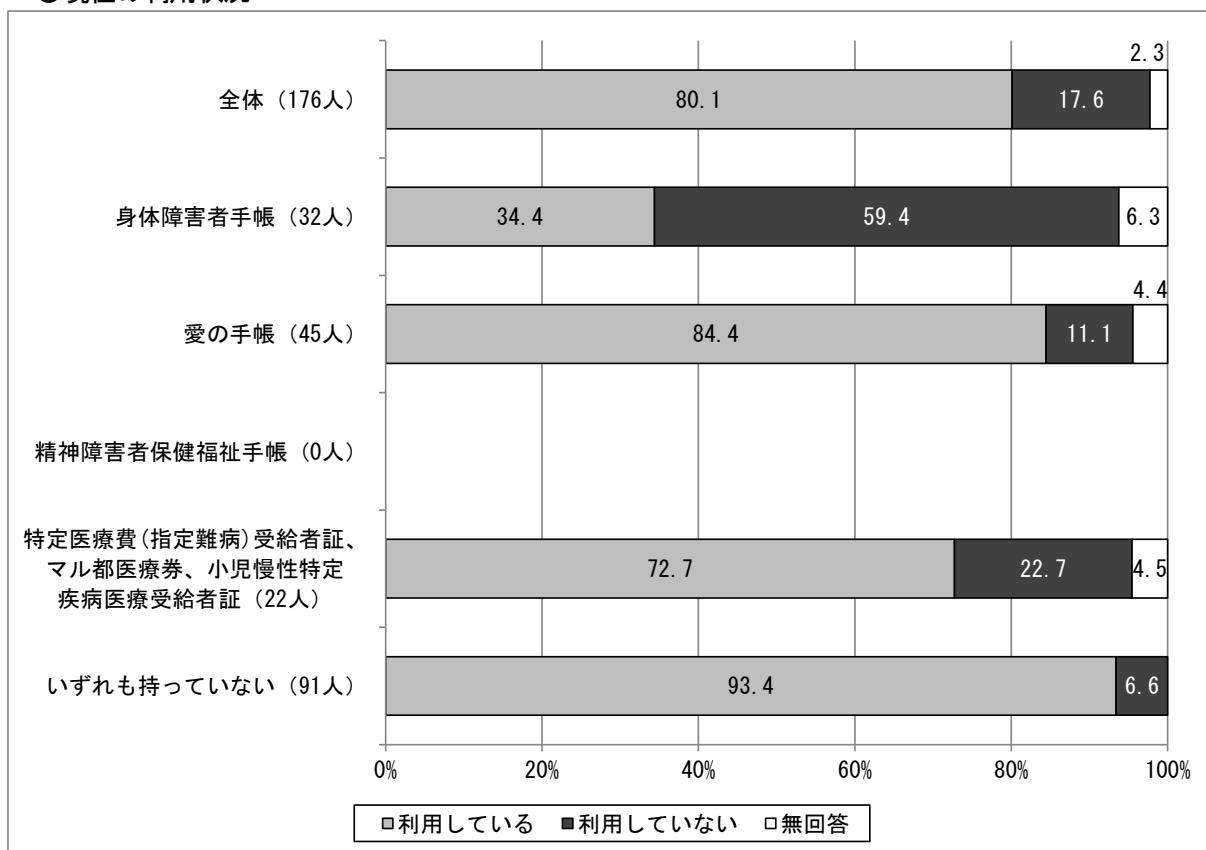
児童発達支援の「現在の利用状況」について、「身体障害者手帳」では「利用していない」が59.4%となっており、「今後の利用希望」において、「利用希望はない」が25.0%と比較的高い割合となっています。

医療型児童発達支援の「現在の利用状況」について、「特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「利用している」が27.3%、「利用していない」22.7%と「利用している」が「利用していない」をわずかに上回っています。

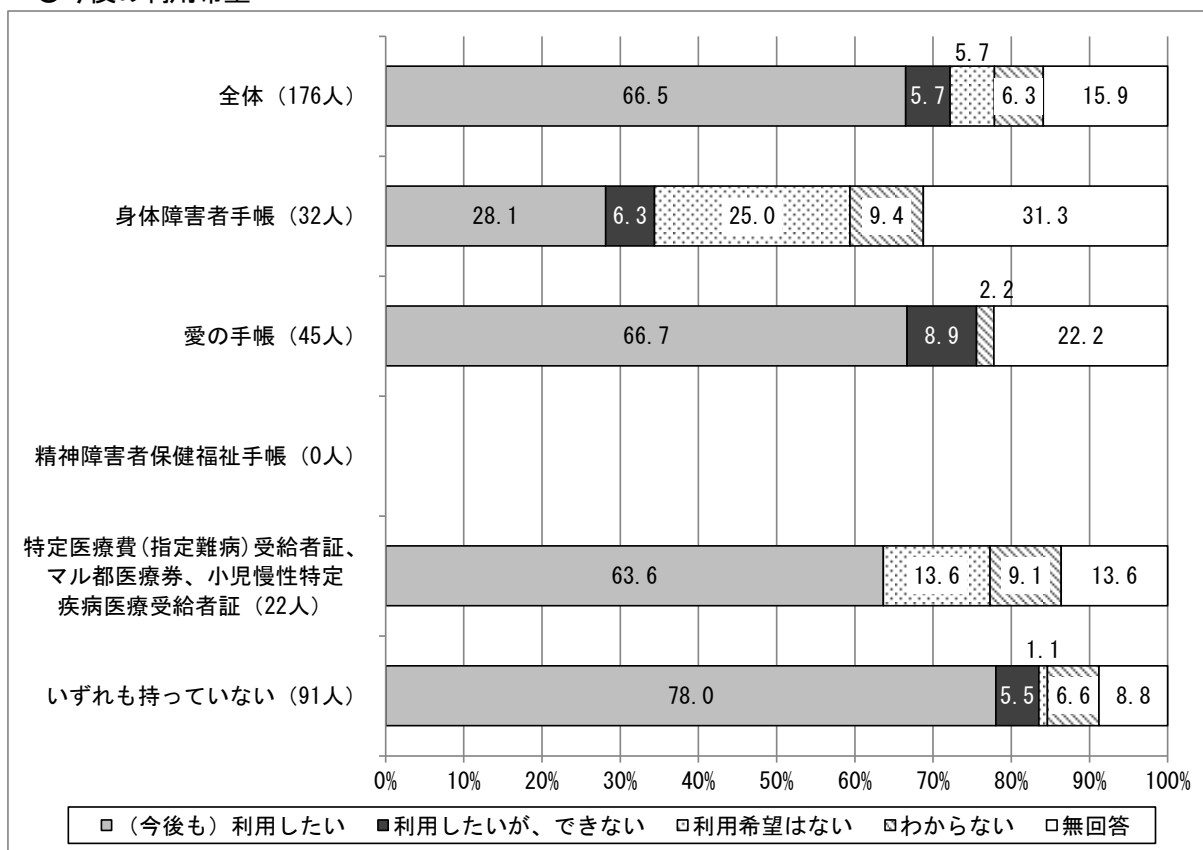
保育所等訪問支援の「現在の利用状況」について、「身体障害者手帳」では「利用していない」が81.3%と比較的高い割合となっています。

Ⅱ－１ 未就学児への調査

ア 児童発達支援  
○現在の利用状況



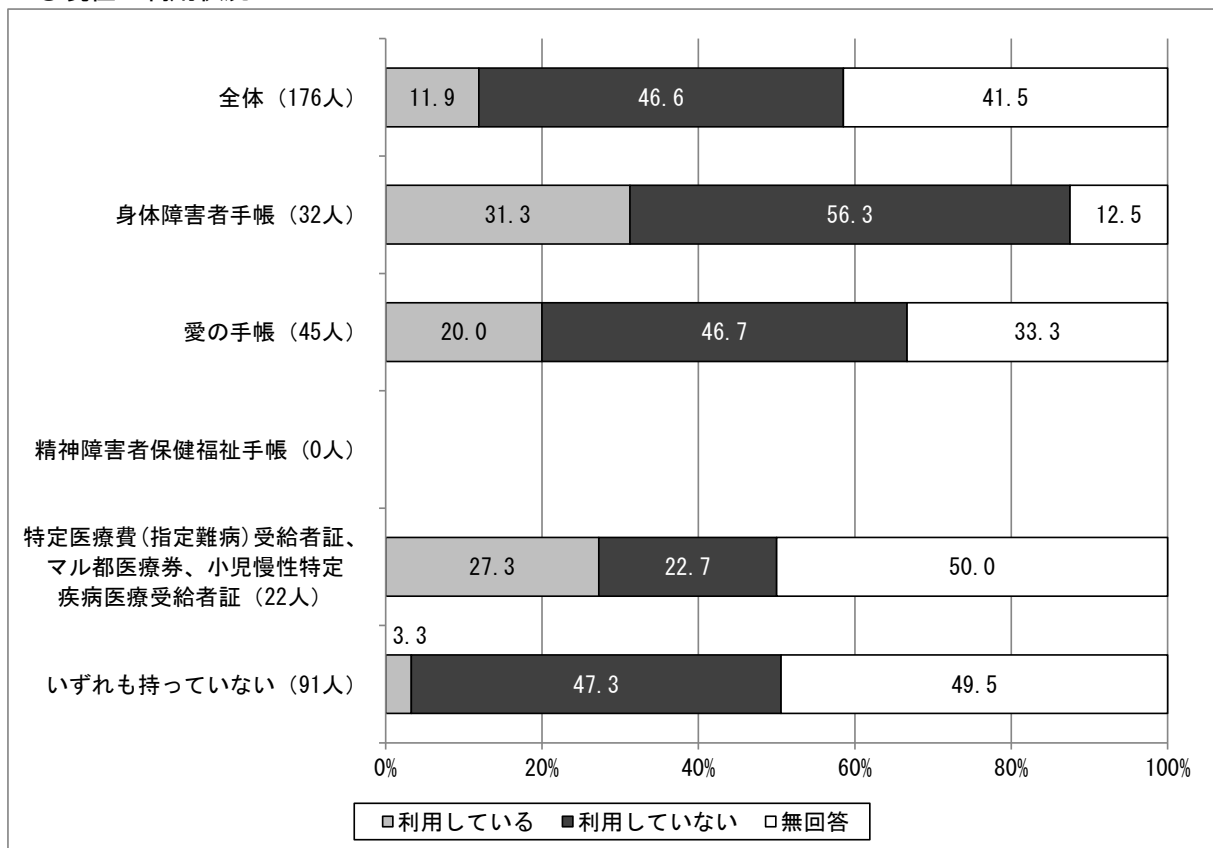
○今後の利用希望



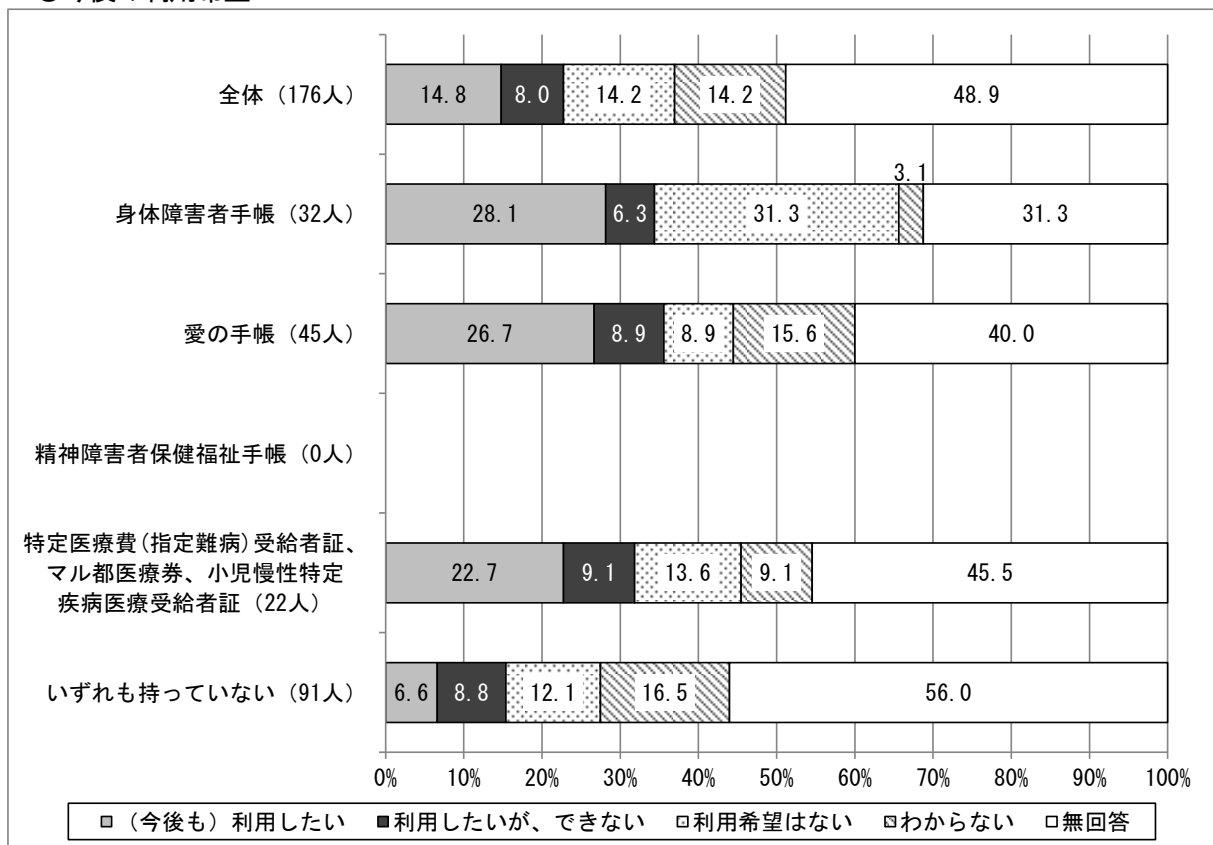
Ⅱ－１ 未就学児への調査

イ 医療型児童発達支援

○現在の利用状況

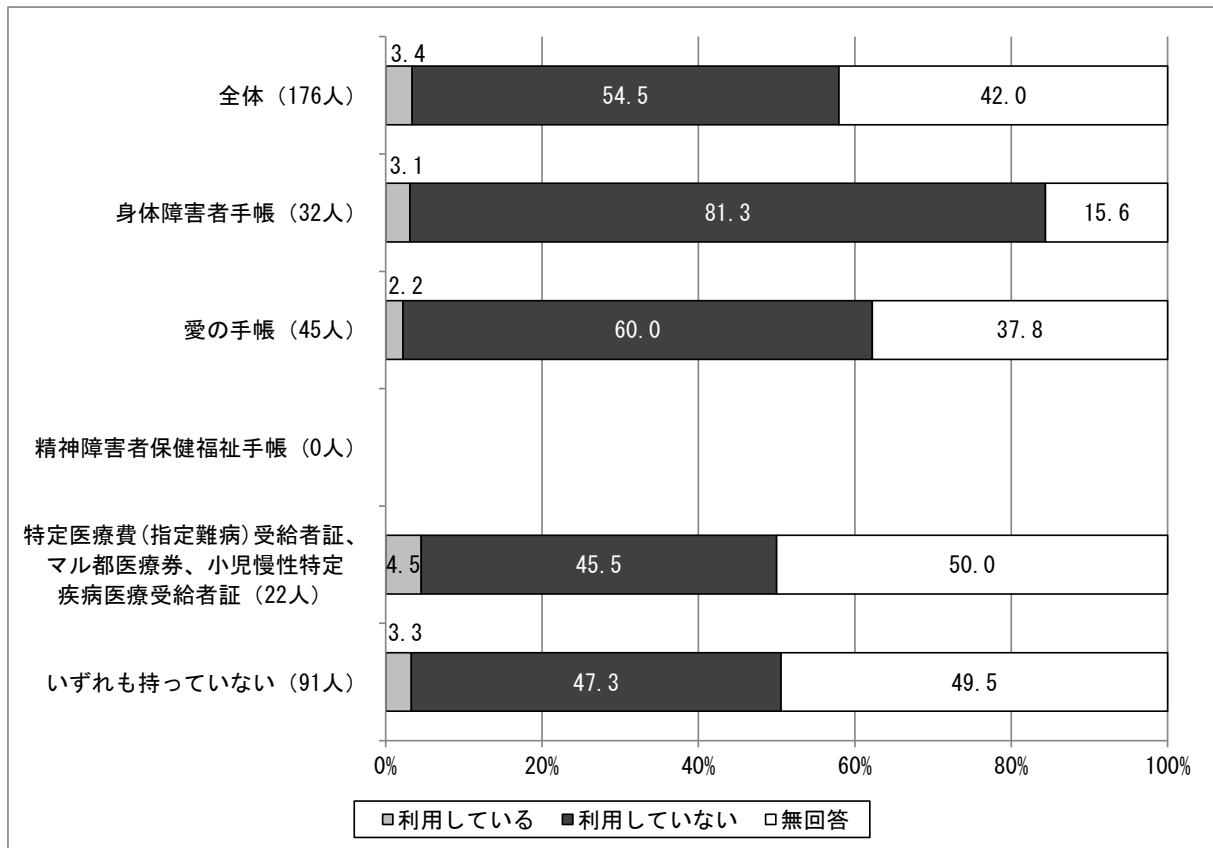


○今後の利用希望

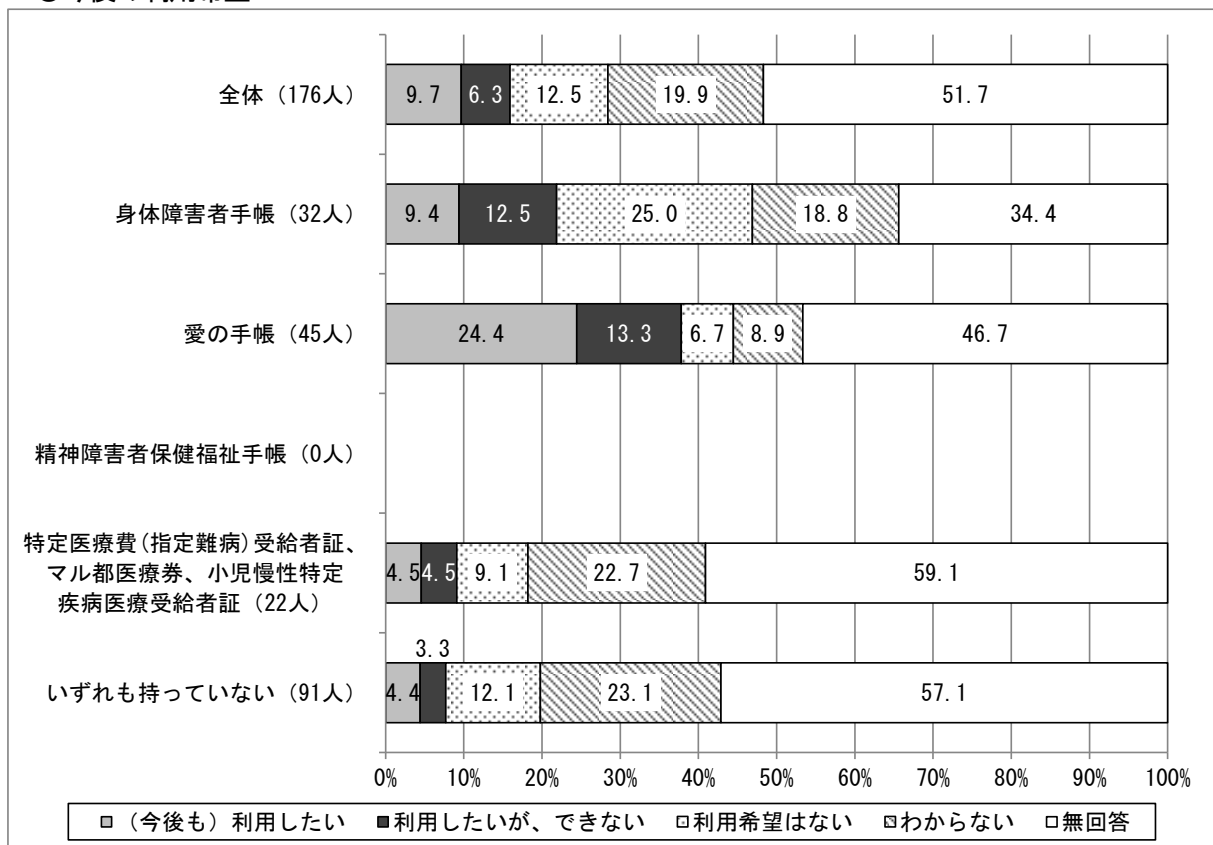


ウ 保育所等訪問支援

○現在の利用状況



○今後の利用希望



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

問24 問23でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします。

① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。

（現在利用しているサービスごとに、1つに○）

### <全体の傾向>

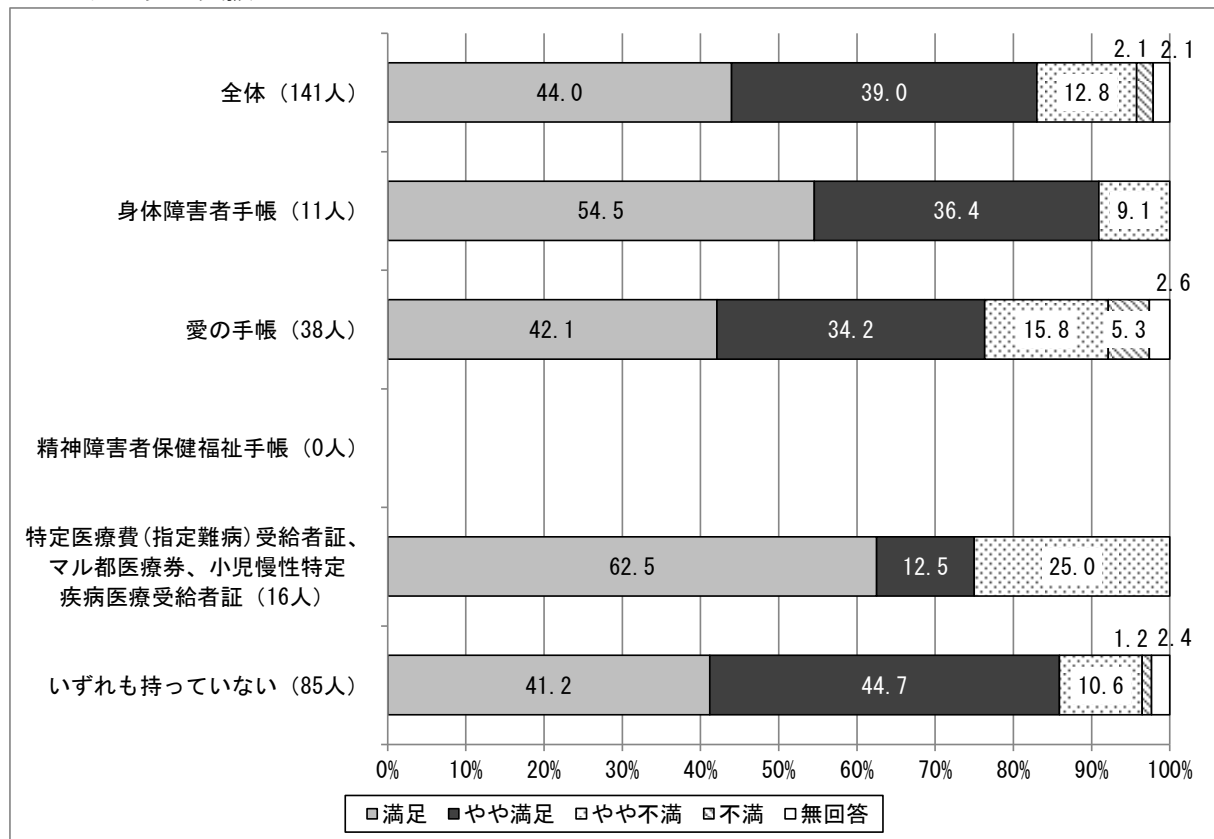
現在利用しているサービスの満足度は、児童発達支援について、「満足」が44.0%と最も割合が高く、次いで「やや満足」が39.0%、「やや不満」が12.8%となっています。

また、医療型児童発達支援について、「やや満足」が47.6%と最も割合が高く、「満足」と「やや不満」が23.8%となっています。

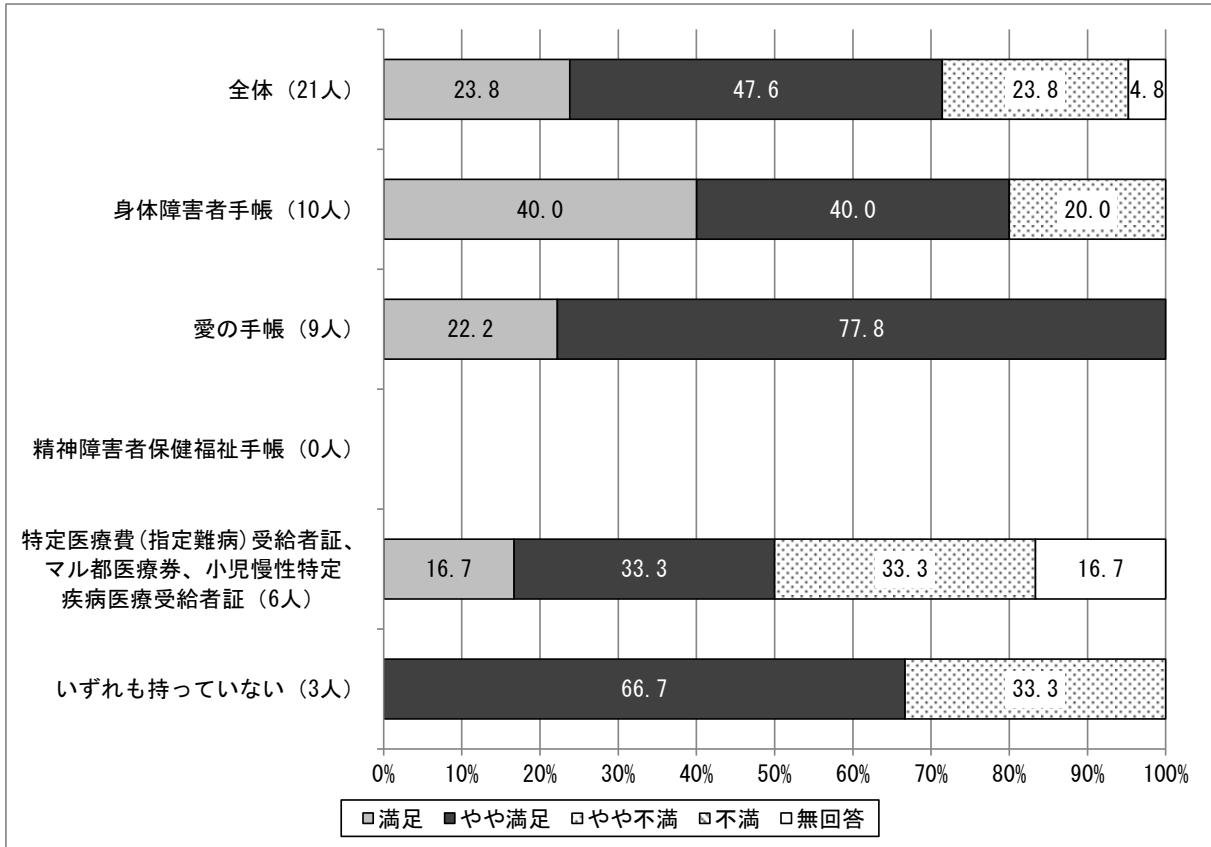
### <手帳種別の傾向>

児童発達支援について「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「やや不満」が25.0%と比較的高い割合となっています。

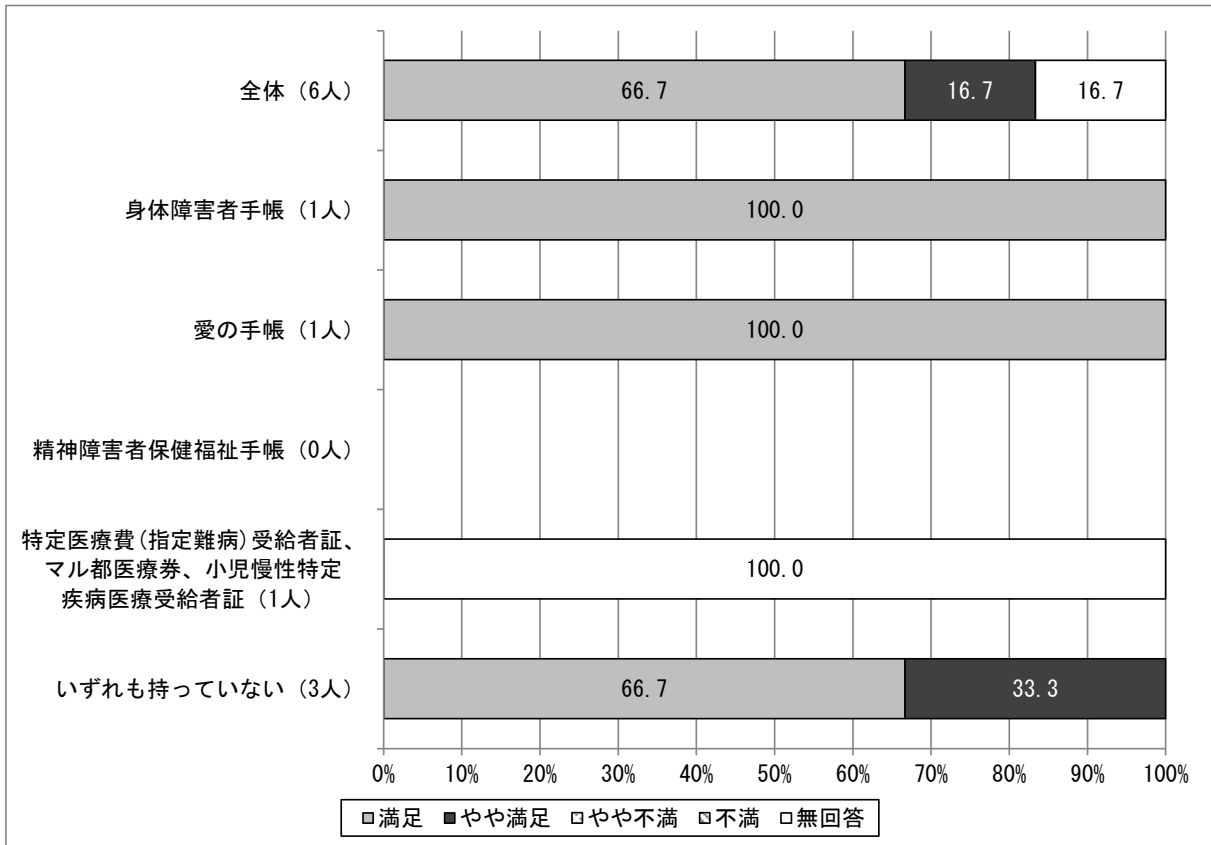
## ア 児童発達支援



イ 医療型児童発達支援



ウ 保育所等訪問支援



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

### ② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。

(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

#### <全体の傾向>

利用しているサービスで困っていることは、児童発達支援について、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が45.4%、次いで「特にない」が26.2%、「その他」が19.9%となっています。

また、医療型児童発達支援について、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が38.1%と最も割合が高く、次いで「その他」と「特にない」が23.8%、「区役所での手続きが大変」と「サービスに関する情報が少ない」、「事業者との利用日等の調整が大変」が9.5%となっています。

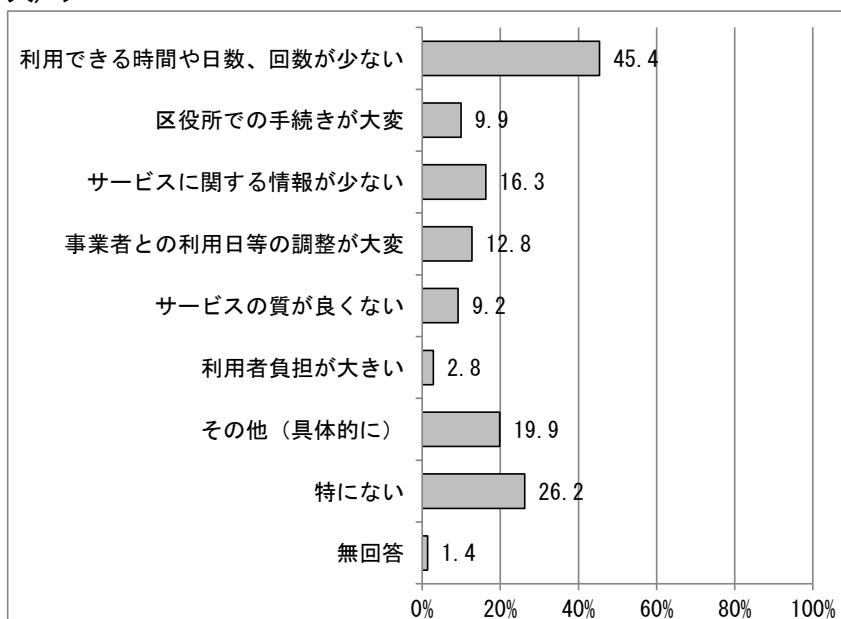
保育所等訪問支援では、「サービスに関する情報が少ない」が33.3%（6人中2人）、「特にない」が66.7%となっています。なお、「サービスに関する情報が少ない」の回答者は「特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」と「いずれも持っていない」の各1人となっています。

#### <手帳種別の傾向>

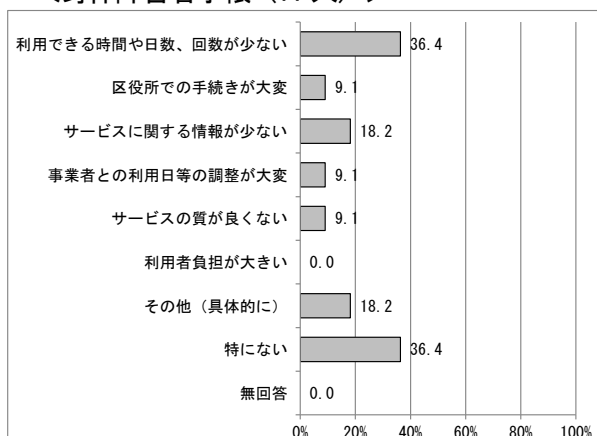
児童発達支援では、「愛の手帳」で「利用できる時間や日数、回数が少ない」が60.5%と比較的高い割合となっています。



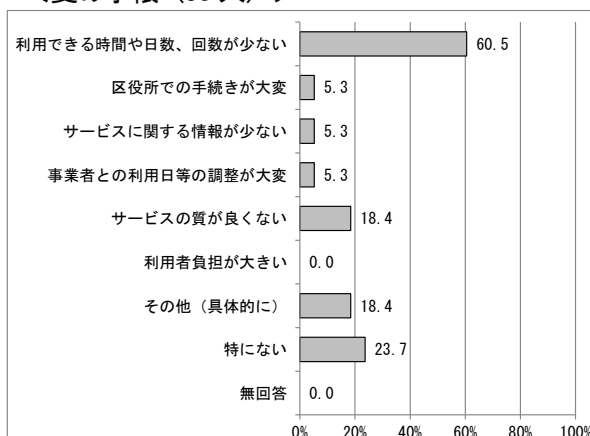
ア 児童発達支援  
 <全体 (141人)>



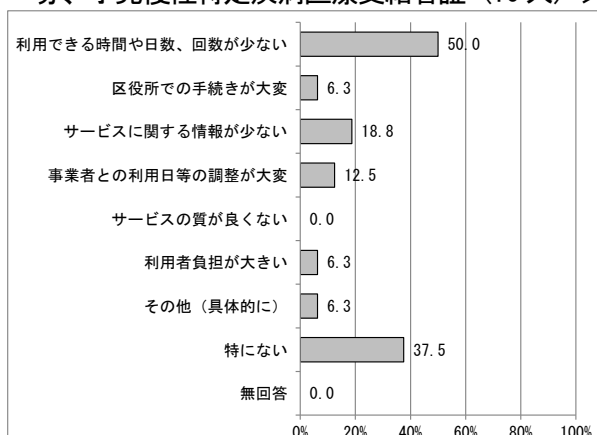
<身体障害者手帳 (11人)>



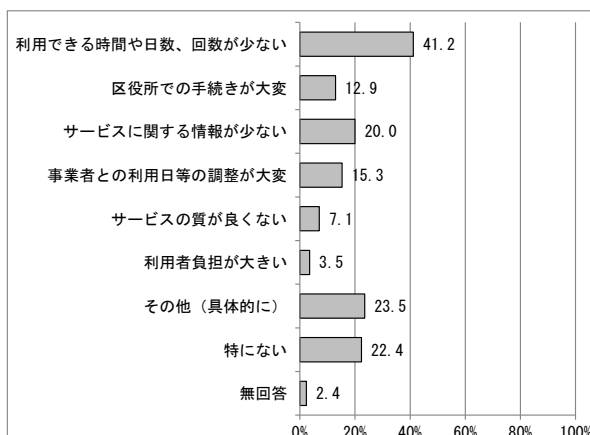
<愛の手帳 (38人)>



<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (16人)>

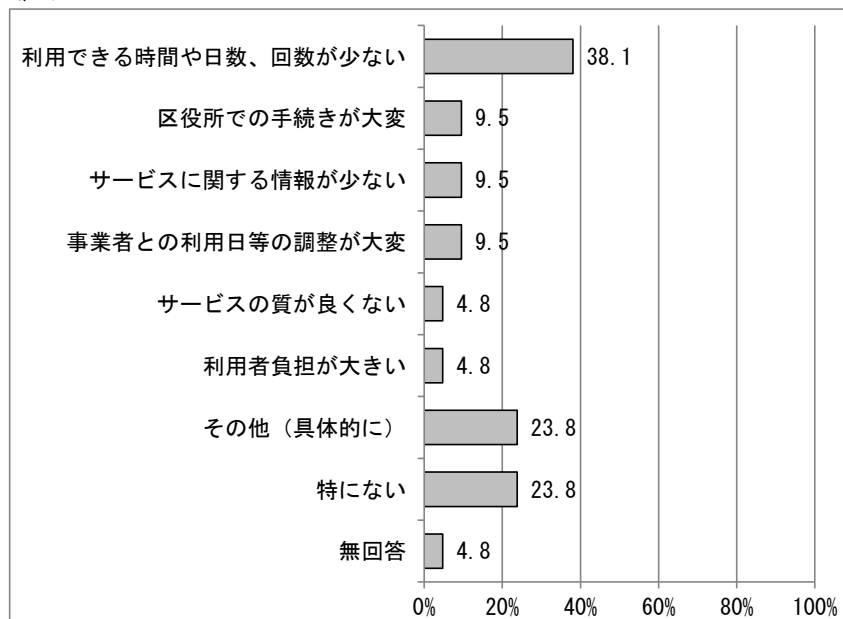


<いずれも持っていない (85人)>

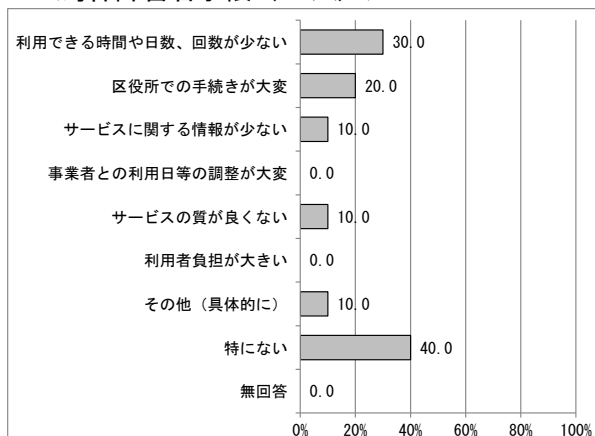


## Ⅱ－１ 未就学児への調査

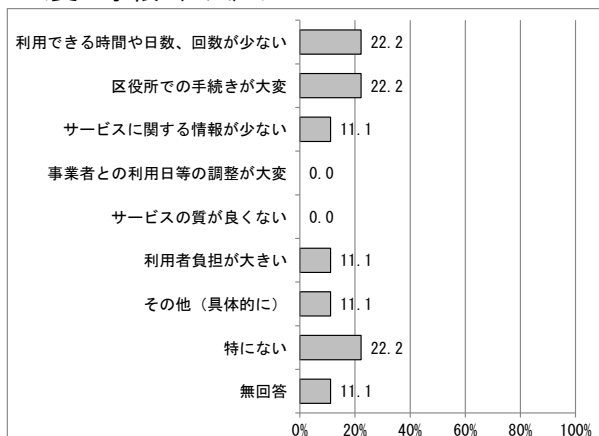
### イ 医療型児童発達支援 ＜全体（21人）＞



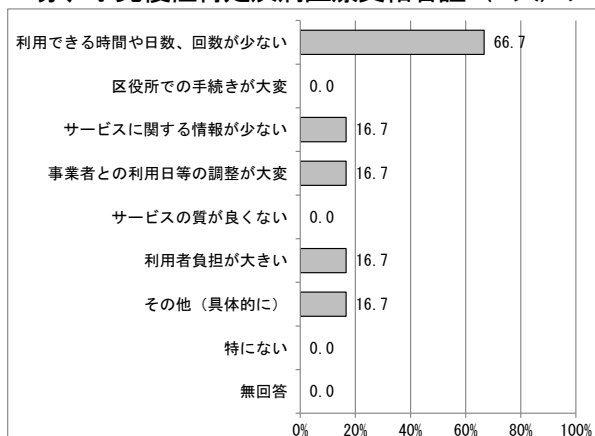
### ＜身体障害者手帳（10人）＞



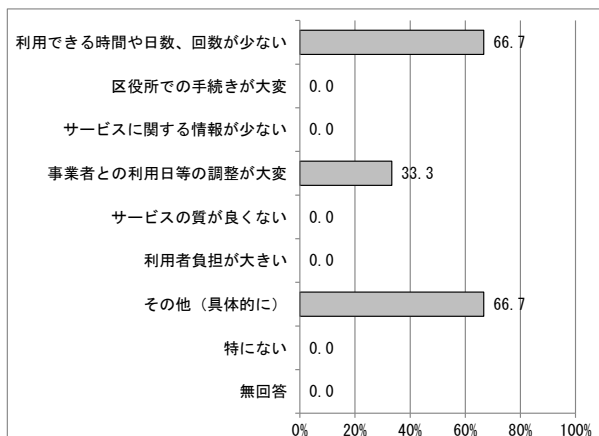
### ＜愛の手帳（9人）＞



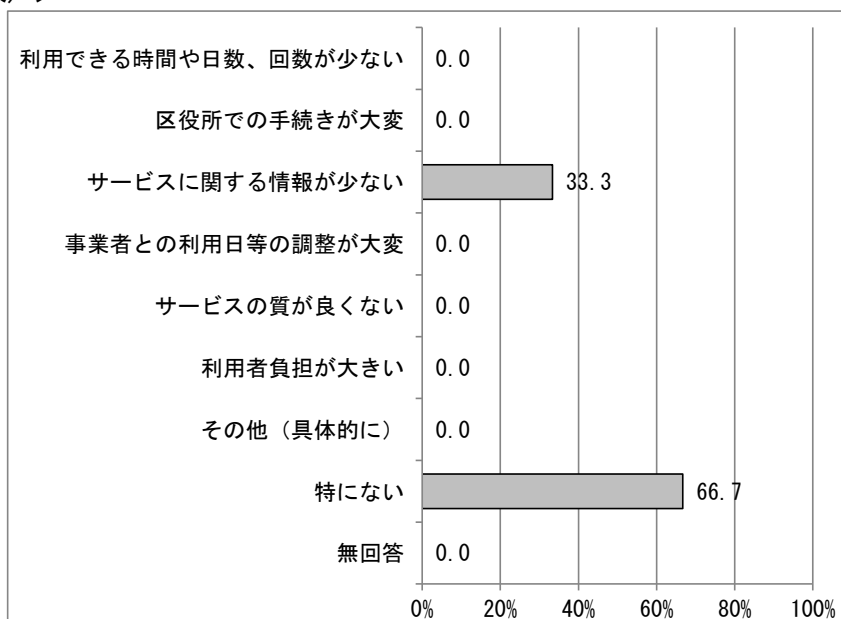
### ＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（6人）＞



### ＜いずれも持っていない（3人）＞



ウ 保育所等訪問支援  
 <全体 (6人)>



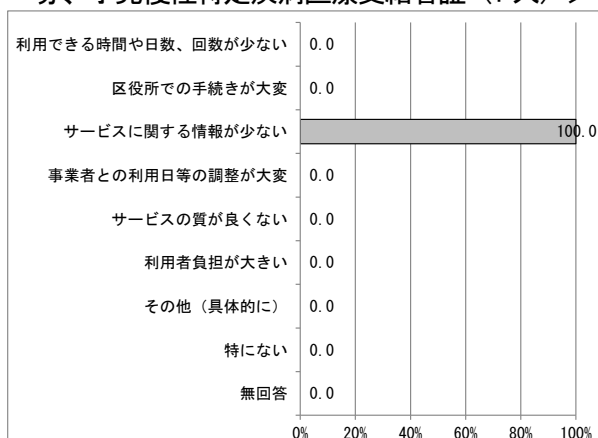
<身体障害者手帳 (1人)>



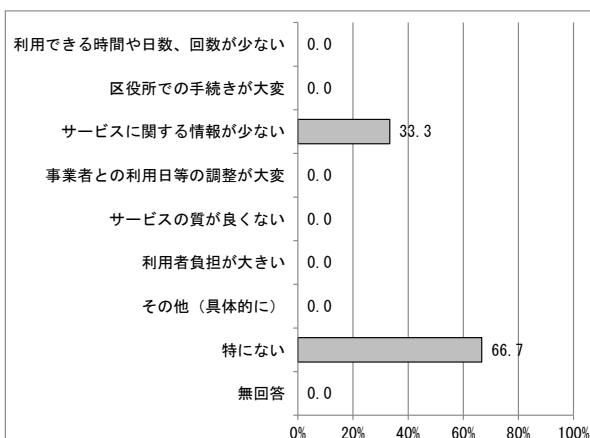
<愛の手帳 (1人)>



<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (1人)>



<いずれも持っていない (3人)>



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

- ③ ②でア～ウのいずれかで「1」（利用できる時間や日数、回数が少ない）と回答した方におたずねします。現在利用しているサービスについて、そう感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

サービス量が少ないと感じる理由について、児童発達支援では「利用できる日数が少ない」という回答が最も多く、次いで「利用できる時間が短い」という回答が多くみられます。

医療型児童発達支援では、「利用できる日数が少ない」が5件、「事業者が少ない」が3件となっています。

保育所等訪問支援（該当者1人）では、「他地域との比較」の回答が得られています。

### ア 児童発達支援

分 類	回答数
利用できる日数が少ない	27
利用できる時間が短い	10
事業者が少ない	9
他地域との比較	7
効果・成長がみえない	4
サービスの質に不満がある	3
長期休暇中に利用できる日数を増やしてほしい	3
週末に多く利用したい	2
施設が遠い	1
その他	8

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

### イ 医療型児童発達支援

分 類	回答数
利用できる日数が少ない	5
事業者が少ない	3
他地域との比較	2
効果・成長がみえない	2
長期休暇中に利用できる日数を増やしてほしい	1
サービスの質に不満がある	1
週末に多く利用したい	1
付き添いの負担が大きい	1

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

### ウ 保育所等訪問支援

分 類	回答数
他地域との比較	1

- ④ ①でア～ウのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

＜全体の傾向＞

児童発達支援で不満がある理由について、「職員の専門性が低い」が61.9%と最も割合が高く、次いで「その他」が42.9%、「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」が33.3%となっています。

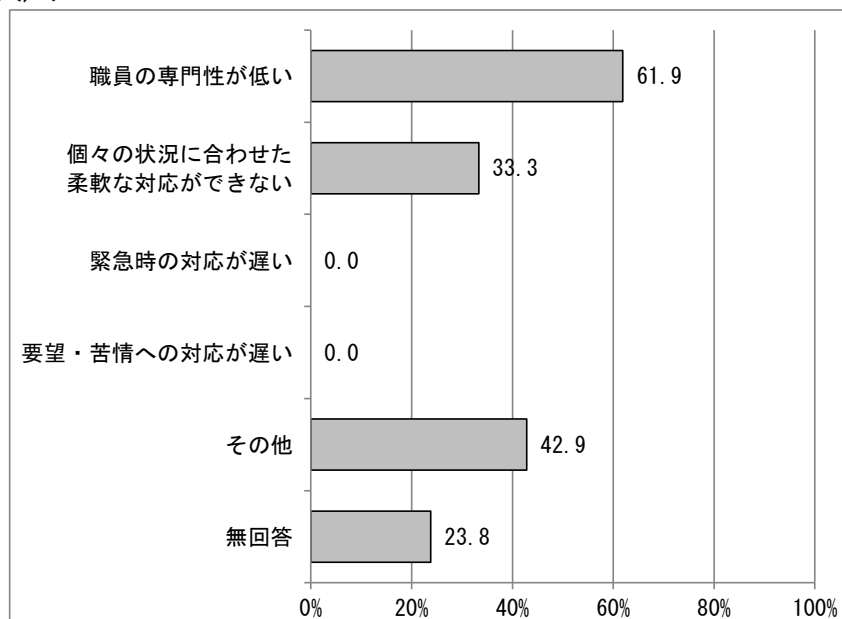
医療型児童発達支援で不満がある理由について、「要望・苦情への対応が遅い」と「その他」がともに40.0%（5人中2人）となっています。

＜手帳種別の傾向＞

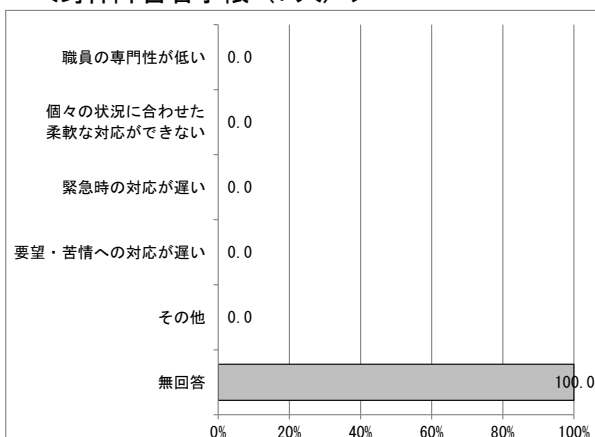
手帳種別の特徴はみられません。

ア 児童発達支援

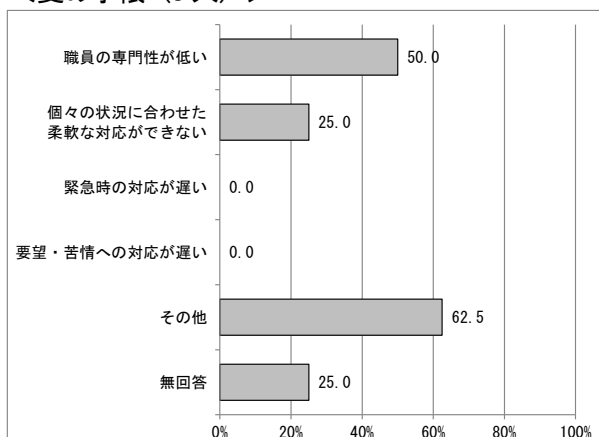
＜全体（21人）＞



＜身体障害者手帳（1人）＞

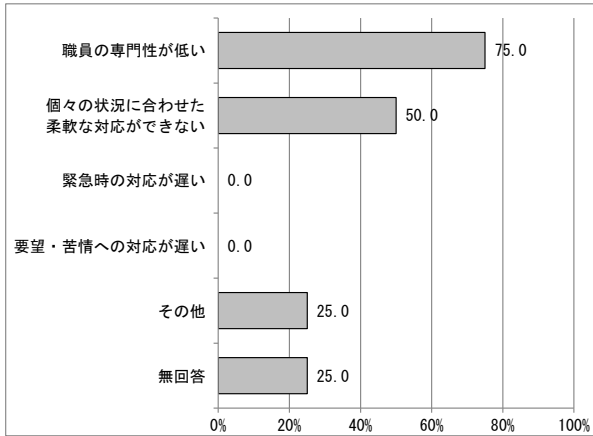


＜愛の手帳（8人）＞

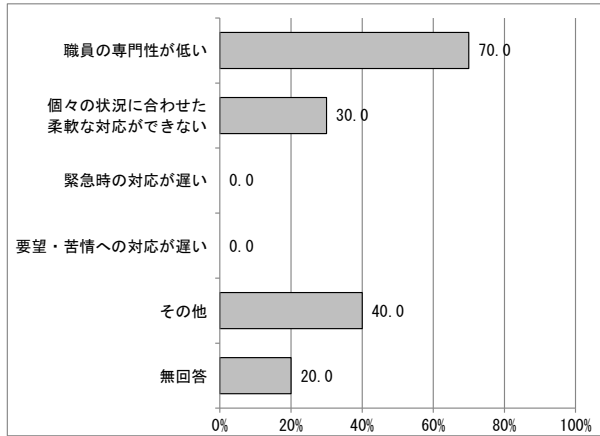


Ⅱ－１ 未就学児への調査

＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(4人)＞

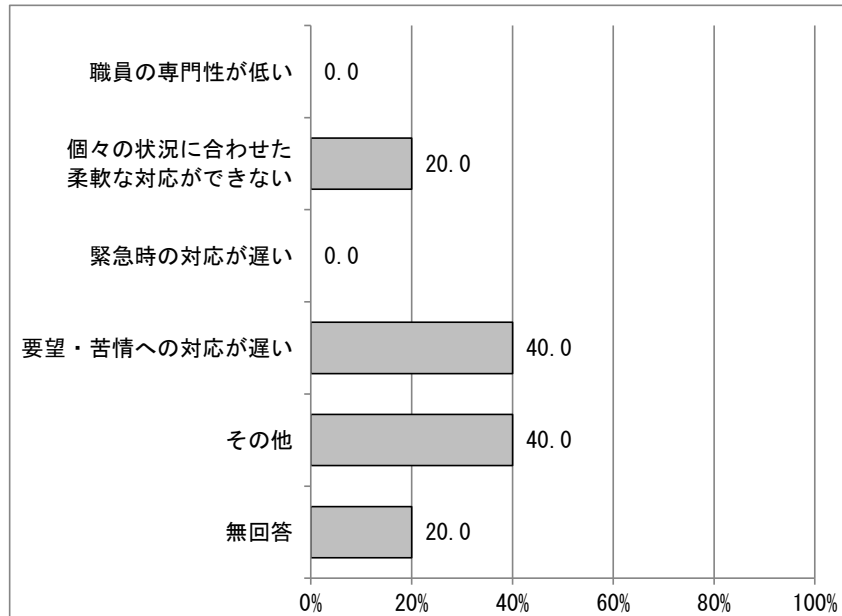


＜いずれも持っていない(10人)＞

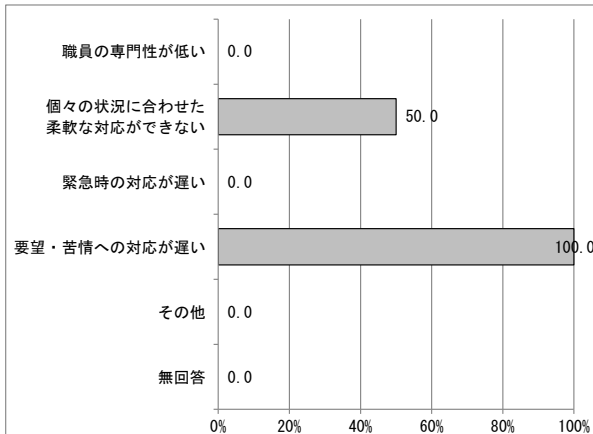


イ 医療型児童発達支援

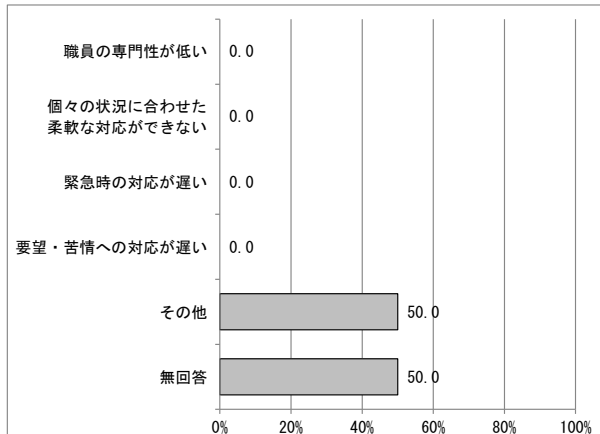
＜全体(5人)＞



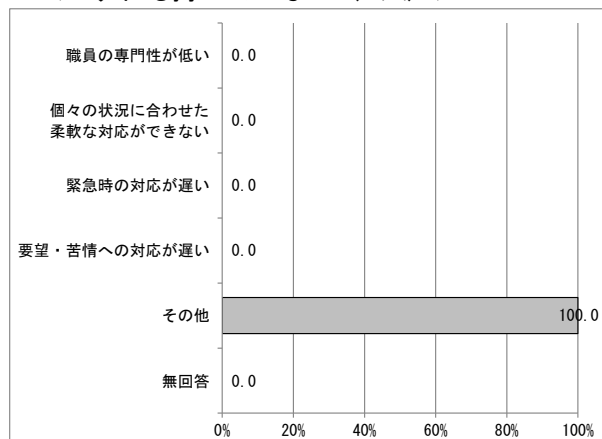
＜身体障害者手帳(2人)＞



＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(2人)＞



<いずれも持っていない(1人)>



※回答のあった分類のみ記載

ウ 保育所等訪問支援

※ 回答者なし

## Ⅱ－１ 未就学児への調査

問25 問23でア～ウの「今後の利用希望」のいずれかで「2」（利用したいが、利用できない）と回答した方におたずねします。その理由は何ですか。（主なものを2つまでに○）

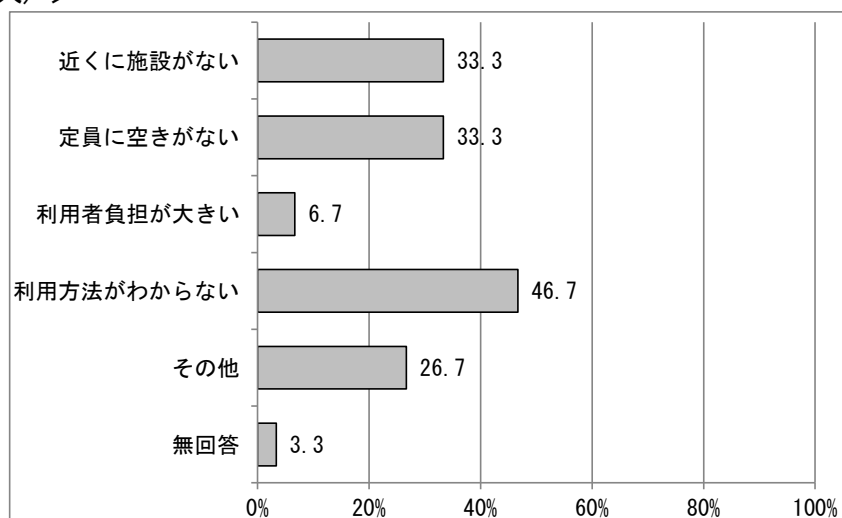
### <全体の傾向>

障害児通所支援を利用したいが、利用できない理由について、「利用方法がわからない」が46.7%と最も割合が高く、次いで「近くに施設がない」と「定員に空きがない」が33.3%、「その他」が26.7%となっています。

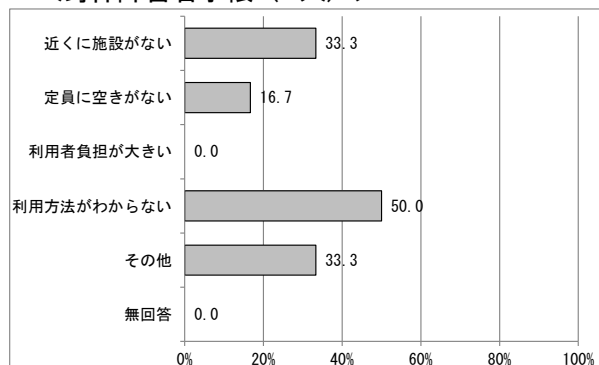
### <手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

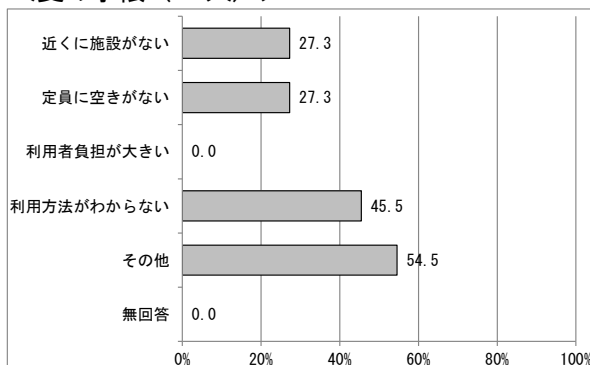
### <全体（30人）>



### <身体障害者手帳（6人）>



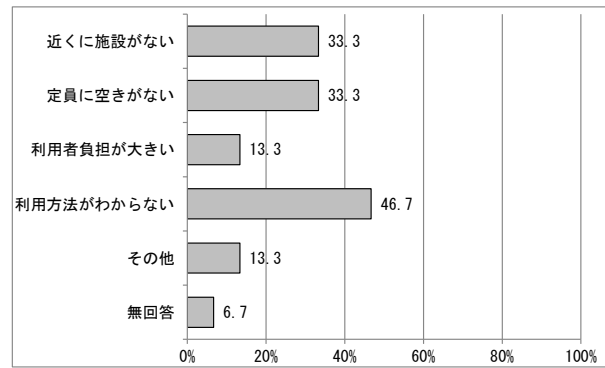
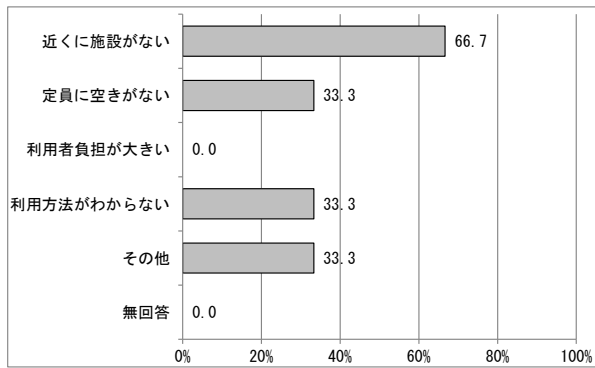
### <愛の手帳（11人）>





<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(3人)>

<いずれも持っていない(15人)>



## 障害福祉サービスの利用状況・利用希望について

問26 ア～ウのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。

(それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ〇)

### <全体の傾向>

居宅介護（ホームヘルプ）の「現在の利用状況」について、「利用していない」が69.9%、「利用している」が1.1%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が23.3%と最も割合が高く、次いで「わからない」が11.9%、「(今後も) 利用したい」が6.3%となっています。

行動援護の「現在の利用状況」について、「利用していない」が71.0%、「利用している」が0.6%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が22.2%と最も割合が高く、次いで「わからない」が14.2%、「(今後も) 利用したい」が5.1%となっています。

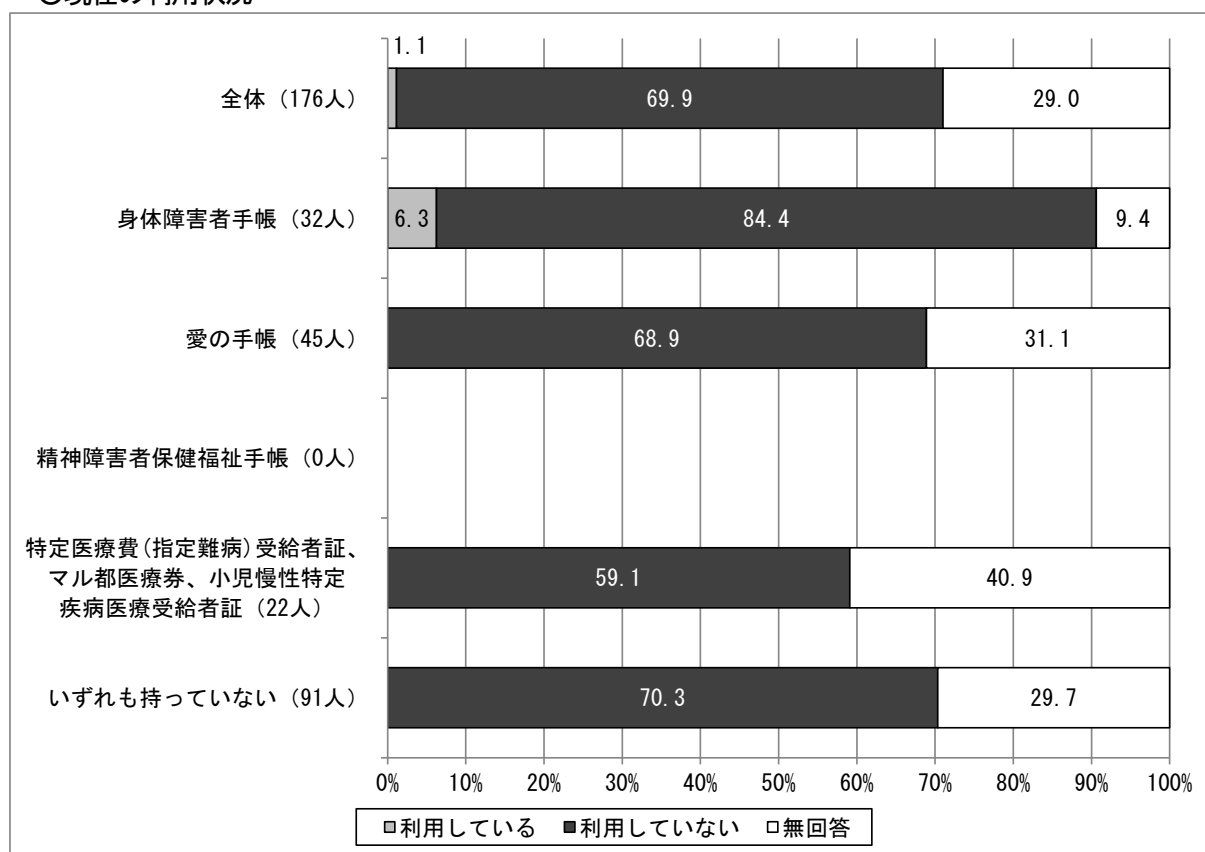
短期入所（ショートステイ）の「現在の利用状況」について、「利用していない」が70.5%、「利用している」が1.7%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が19.9%と最も割合が高く、次いで「わからない」が14.2%、「(今後も) 利用したい」が8.0%となっています。

### <手帳種別の傾向>

「行動援護」について、「現在の利用状況」の「利用している」が全体では0.6%となっていますが、「今後の利用希望」の「(今後も) 利用したい」が「身体障害者手帳」では15.6%、「愛の手帳」では13.3%となっています。

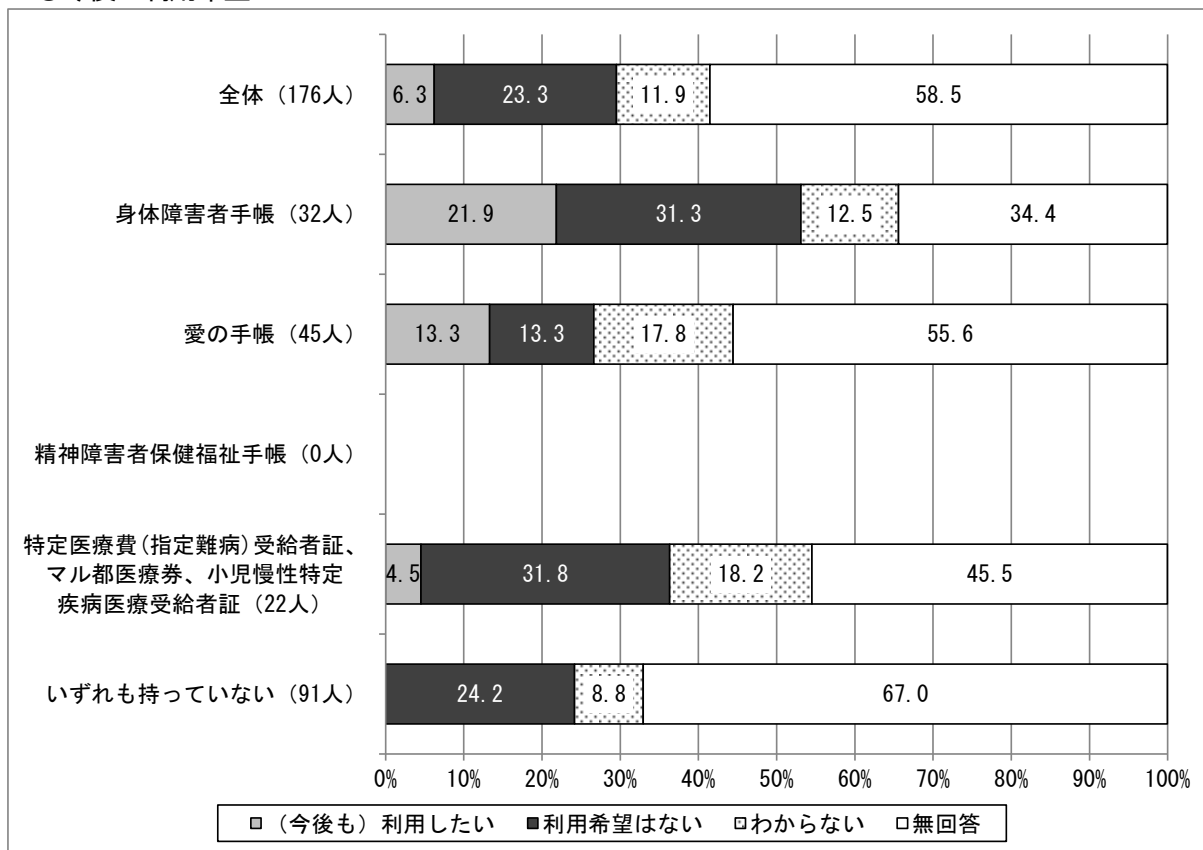
ア 居宅介護（ホームヘルプ）

○現在の利用状況

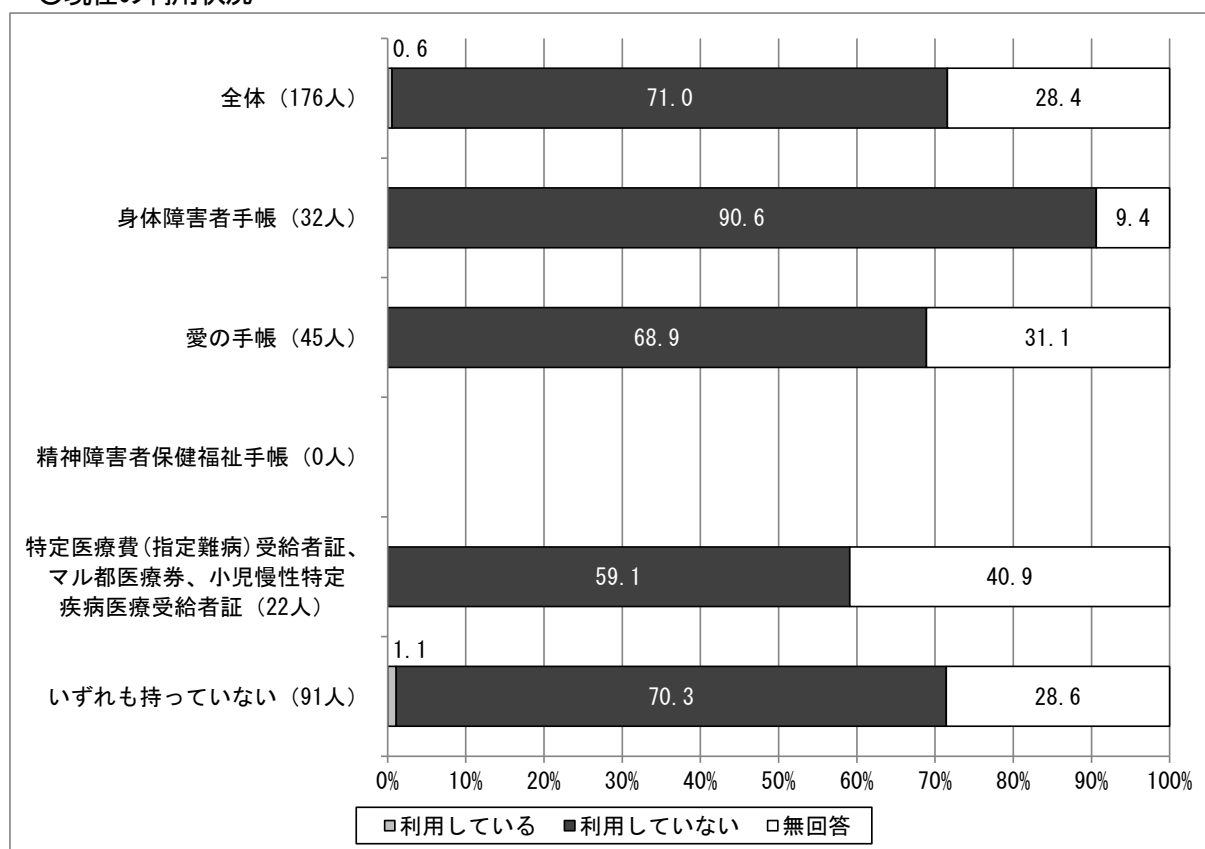


Ⅱ－１ 未就学児への調査

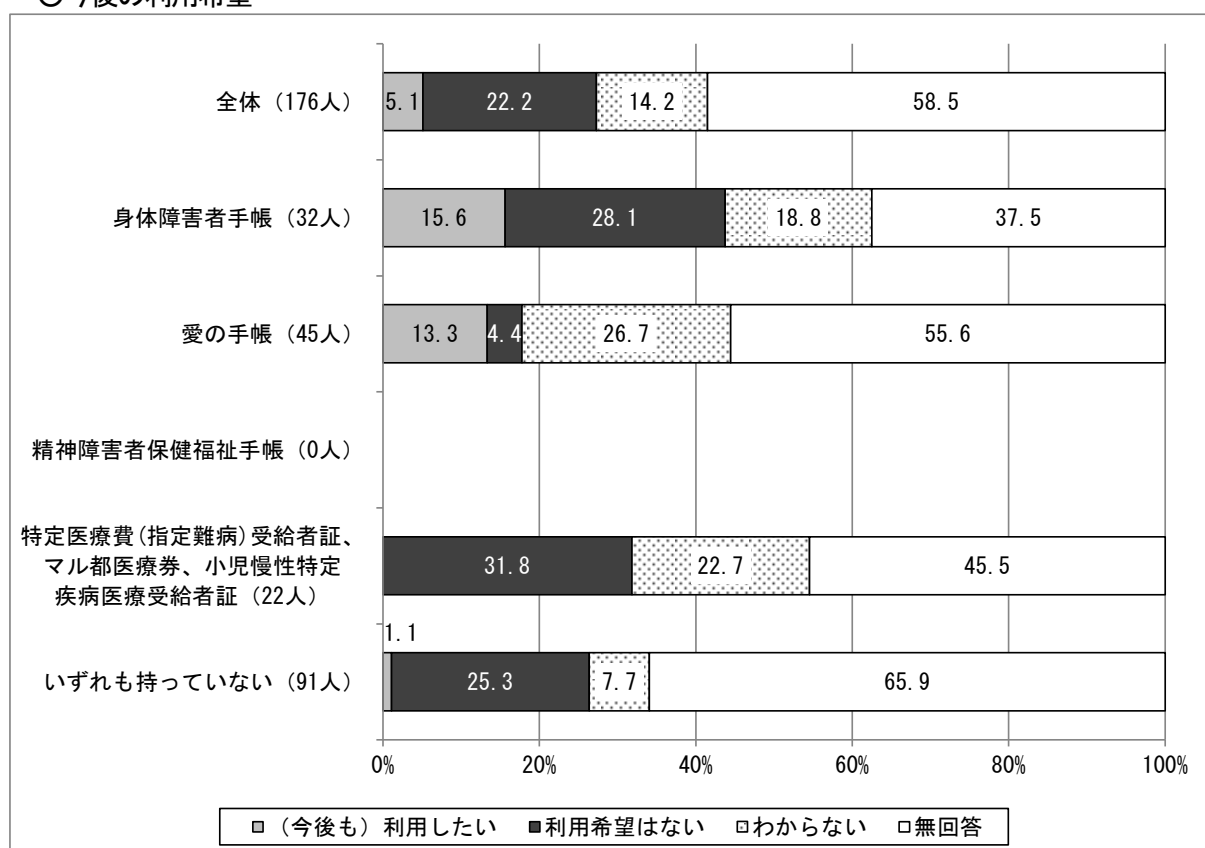
○今後の利用希望



イ 行動援護  
○現在の利用状況



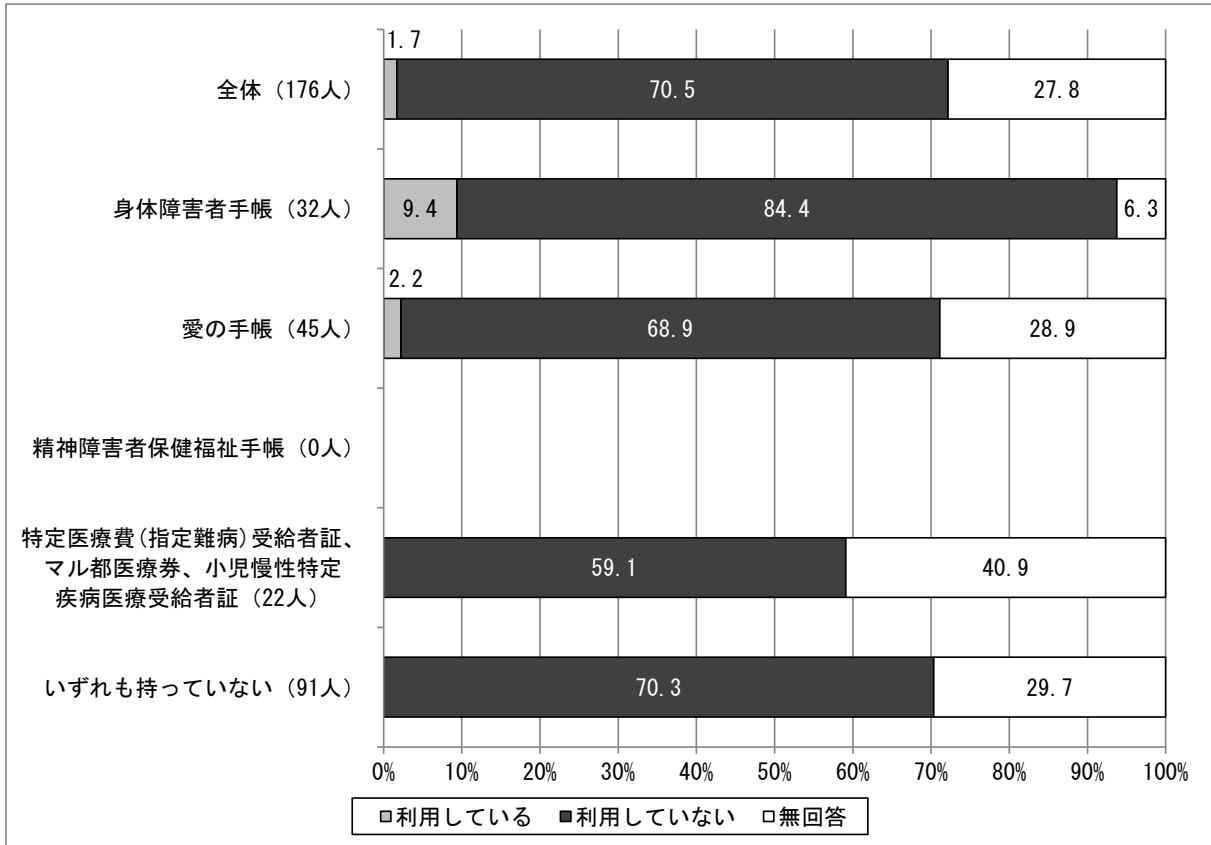
○今後の利用希望



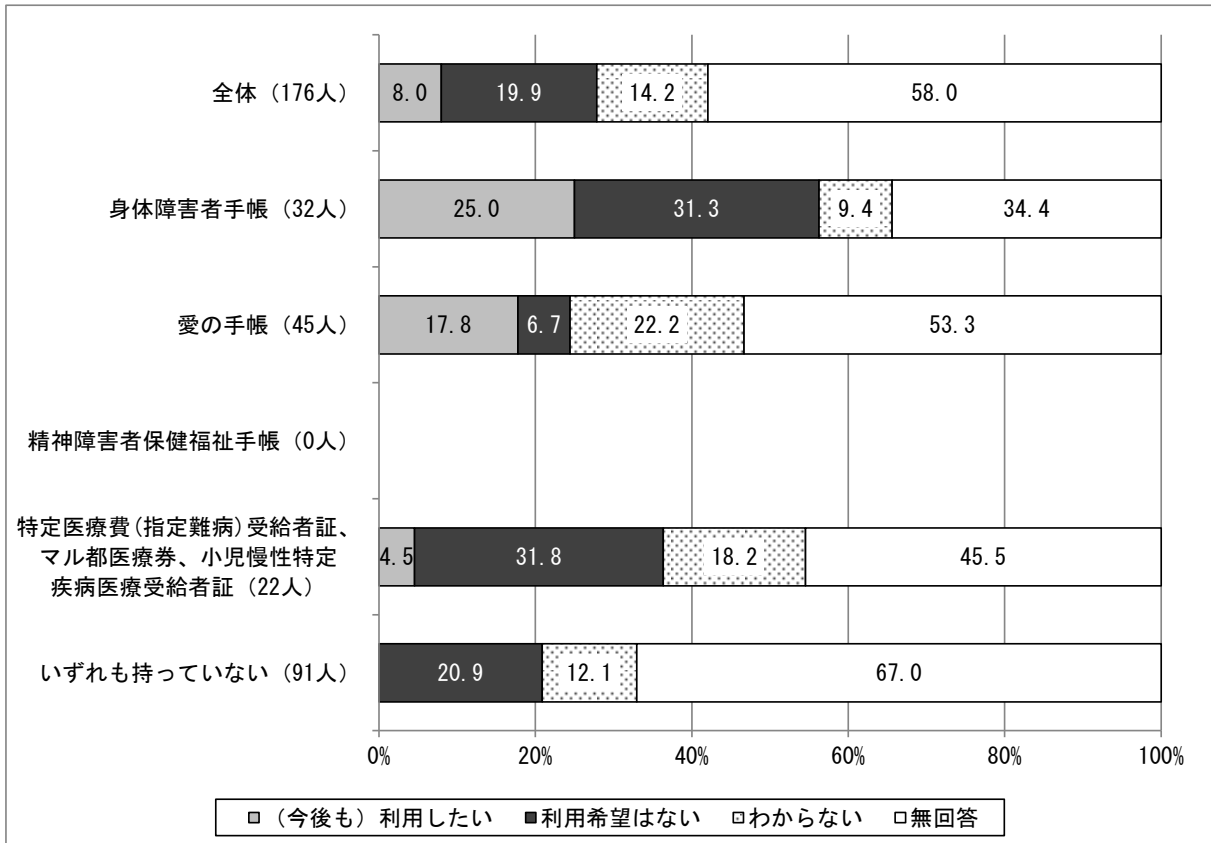
Ⅱ－１ 未就学児への調査

ウ 短期入所（ショートステイ）

○現在の利用状況



○今後の利用希望



問27 問26でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方にお  
たずねします

① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。

（現在利用しているサービスごとに、1つに○）

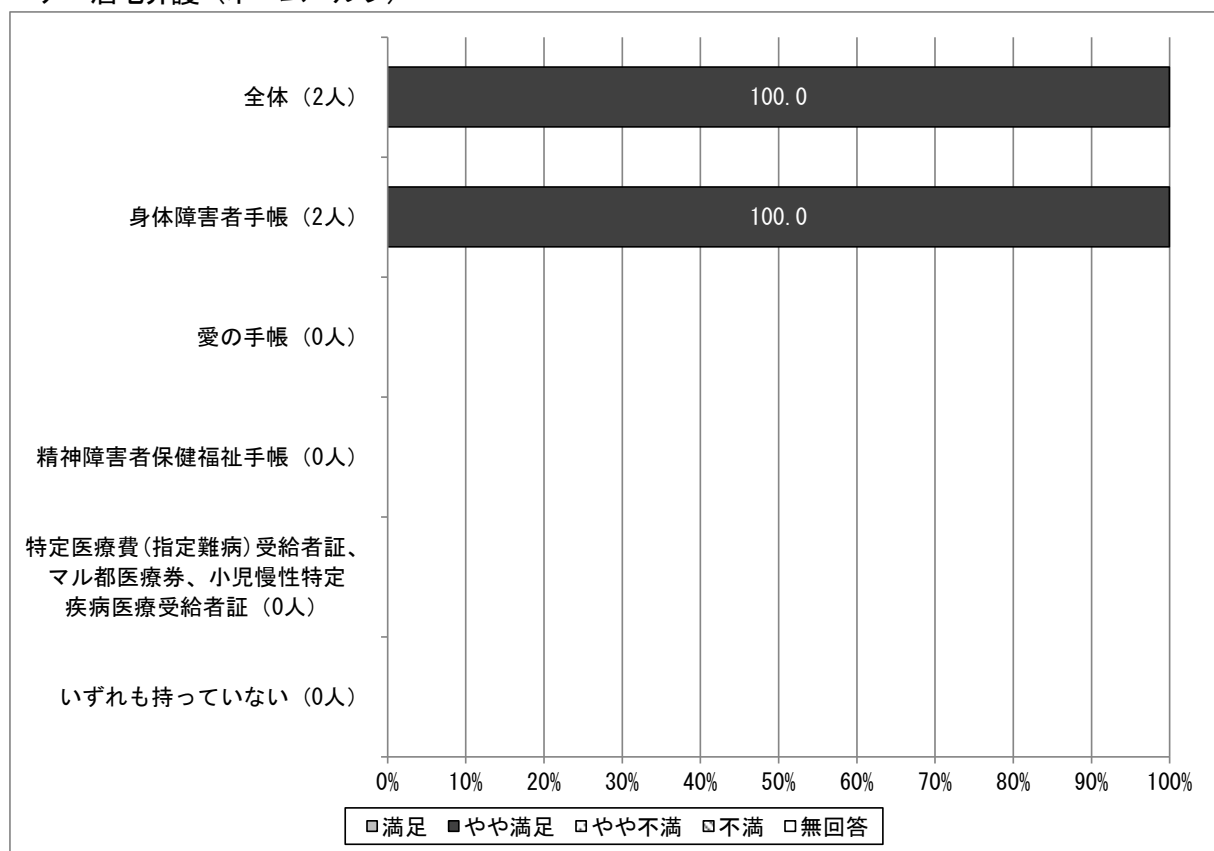
＜全体の傾向＞

居宅介護（ホームヘルプ）（該当者2人）の満足度について、2人とも「やや満足」と回答して  
います。

行動援護（該当者1人）の満足度について、「満足」と回答が得られています。

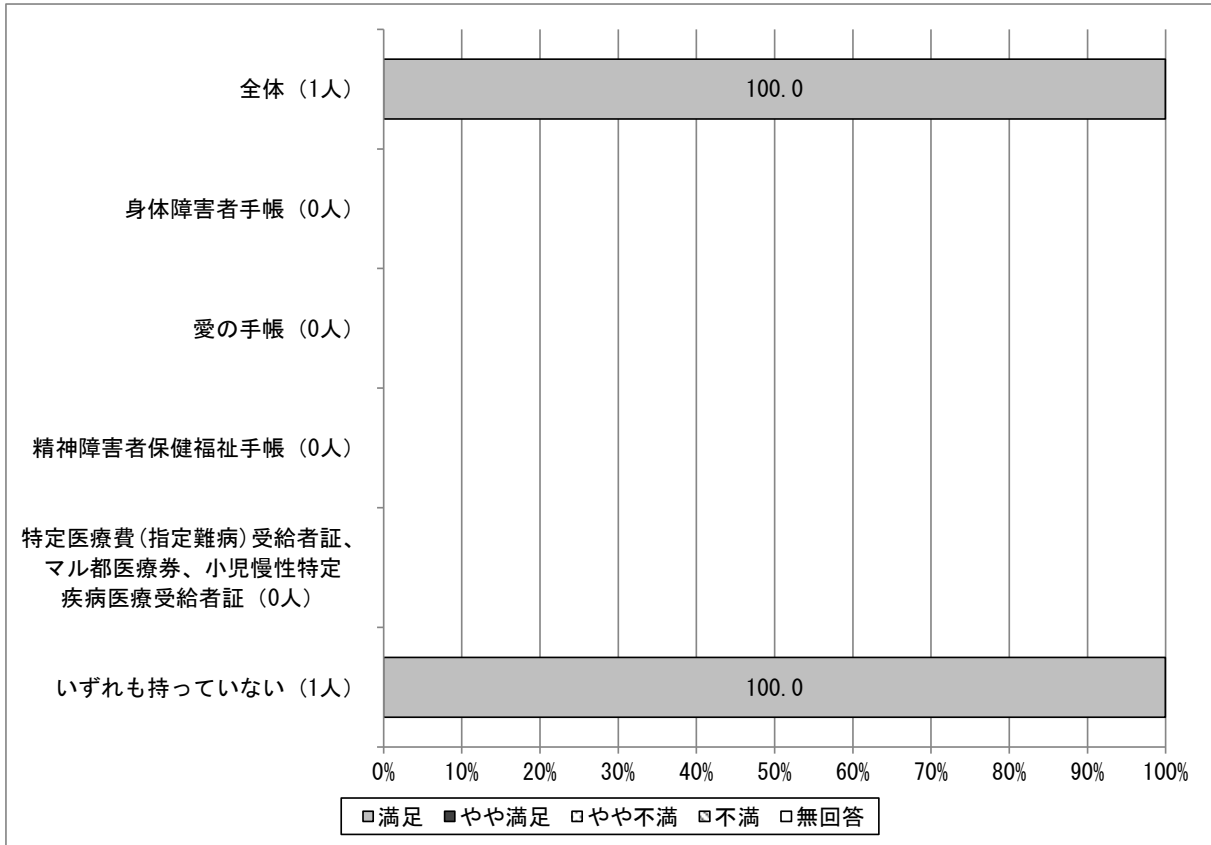
短期入所（ショートステイ）（該当者3人）の満足度について、2人が「やや満足」、1人が「やや  
不満」と回答しています。

ア 居宅介護（ホームヘルプ）

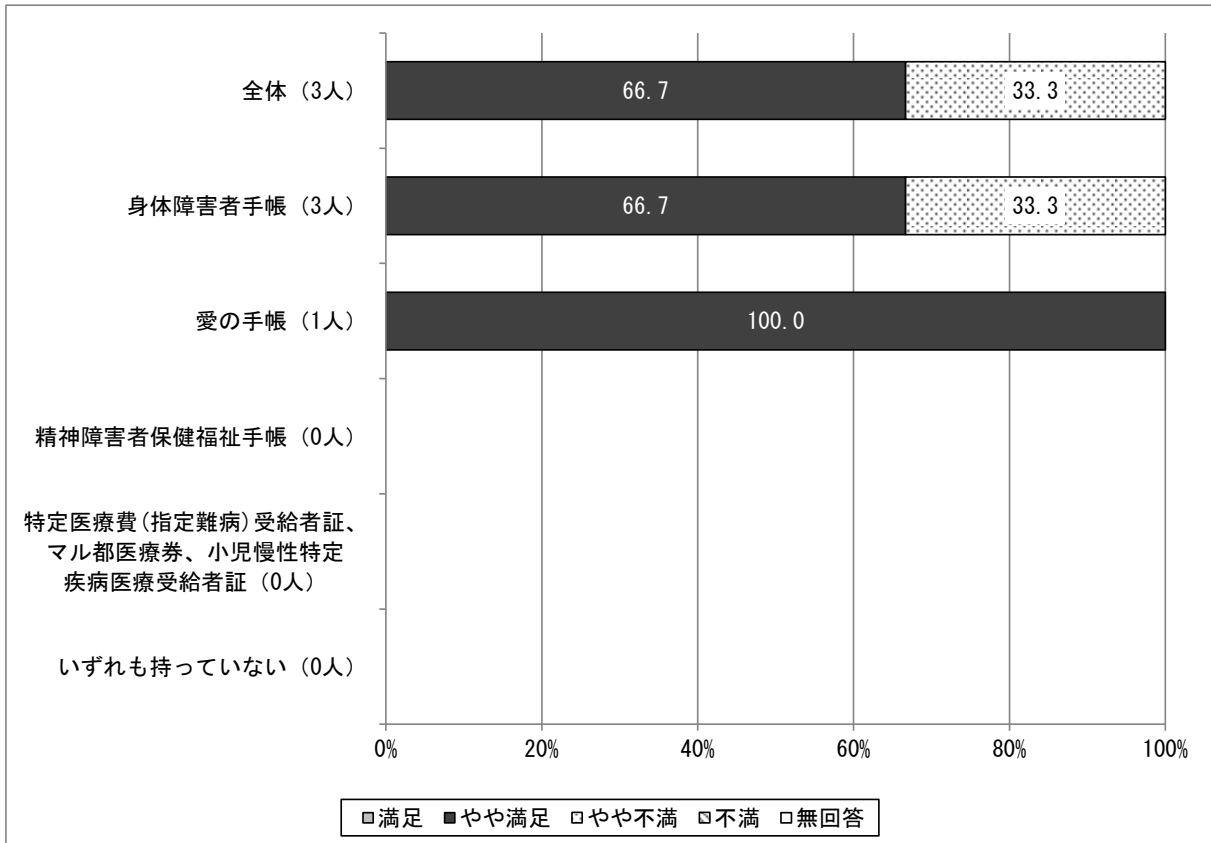


Ⅱ－１ 未就学児への調査

イ 行動援護



ウ 短期入所 (ショートステイ)





② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。

(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

＜全体の傾向＞

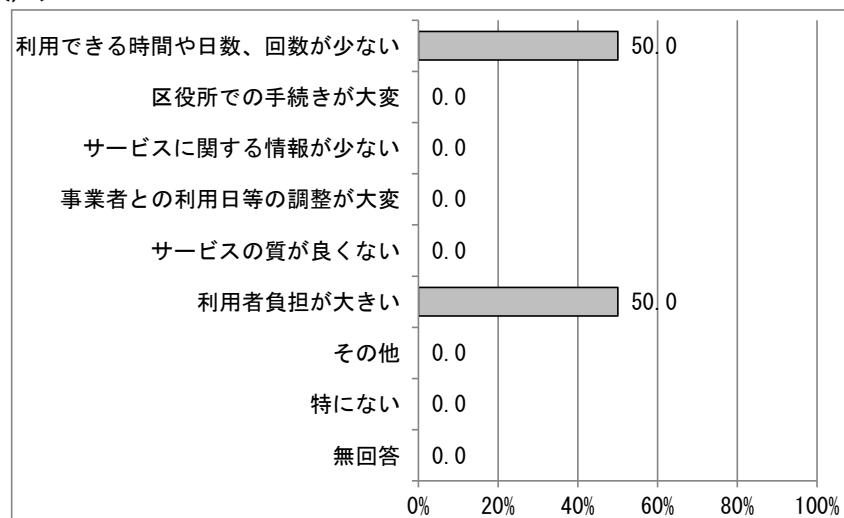
居宅介護（ホームヘルプ）（該当者2人）の困りごとについて、「利用できる時間や日数、回数が少ない」と「利用者負担が大きい」が各1人となっています。

行動援護（該当者1人）の困りごとについて、「特にない」と回答が得られています。

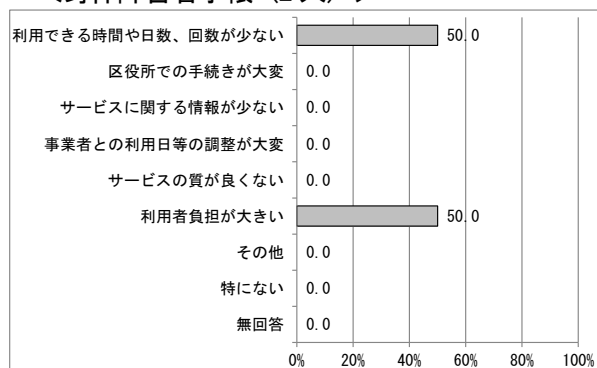
短期入所（ショートステイ）（該当者3人）の困りごとについて、「利用できる時間や日数、回数が少ない」「サービスに関する情報が少ない」「事業者との利用日等の調整が大変」「サービスの質が良くない」が各1人となっています。

ア 居宅介護（ホームヘルプ）

＜全体（2人）＞



＜身体障害者手帳（2人）＞

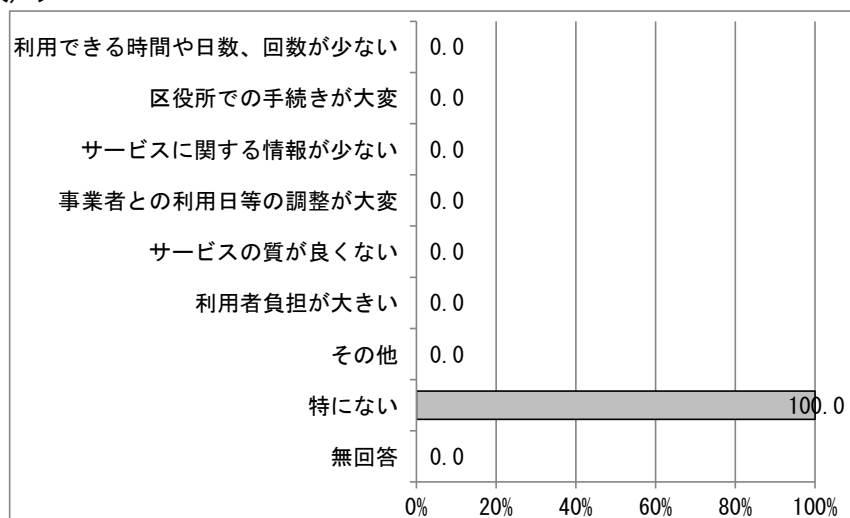


※回答のあった分類のみ記載

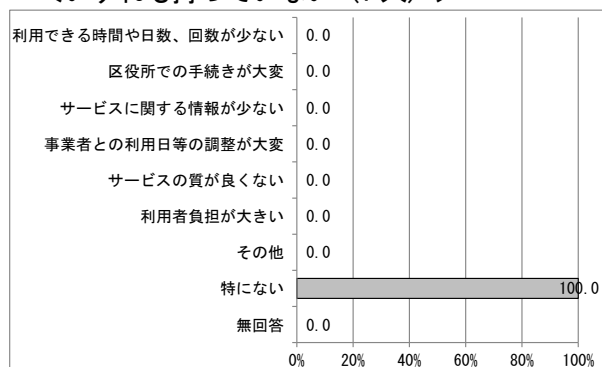
Ⅱ－１ 未就学児への調査

イ 行動援護

<全体 (1人)>



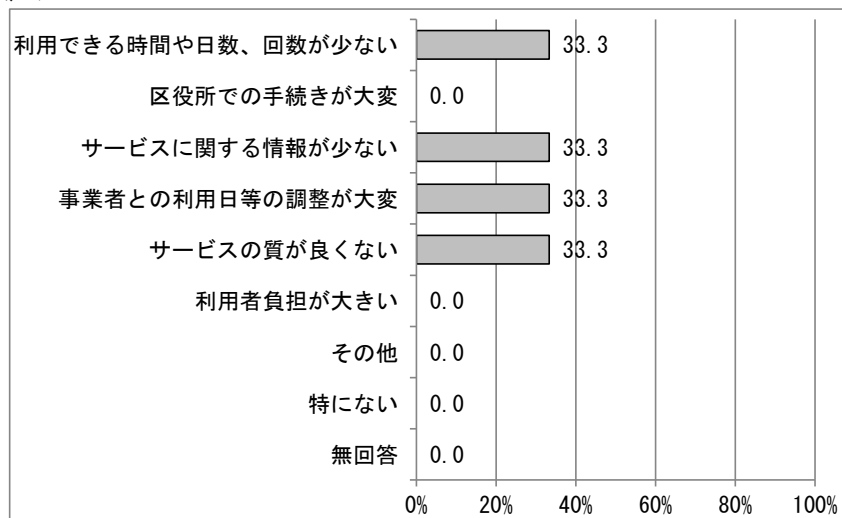
<いずれも持っていない (1人)>



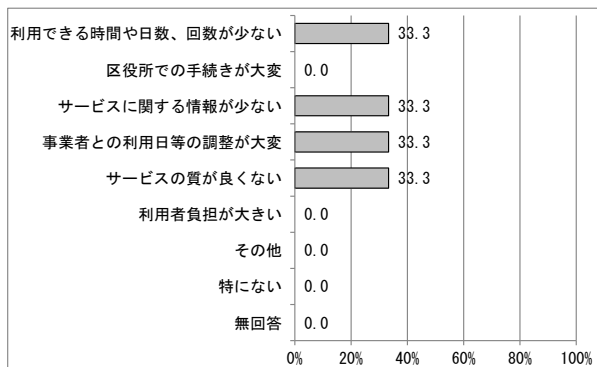
※回答のあった分類のみ記載

ウ 短期入所（ショートステイ）

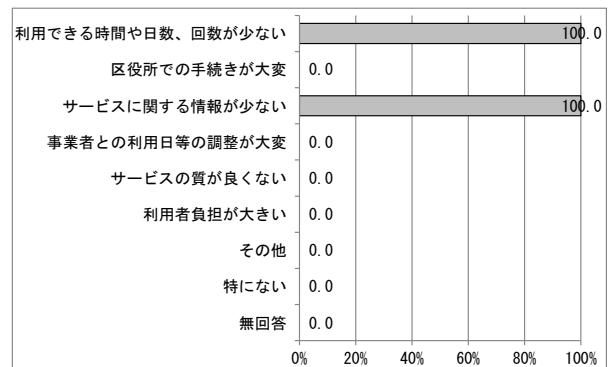
<全体（3人）>



<身体障害者手帳（3人）>



<愛の手帳（1人）>



※回答のあった分類のみ記載

## Ⅱ-1 未就学児への調査

- ③ ①でア～ウのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

### <全体の傾向>

短期入所（ショートステイ）では該当者が1人いますが、無回答となっています。

#### ア 居宅介護（ホームヘルプ）

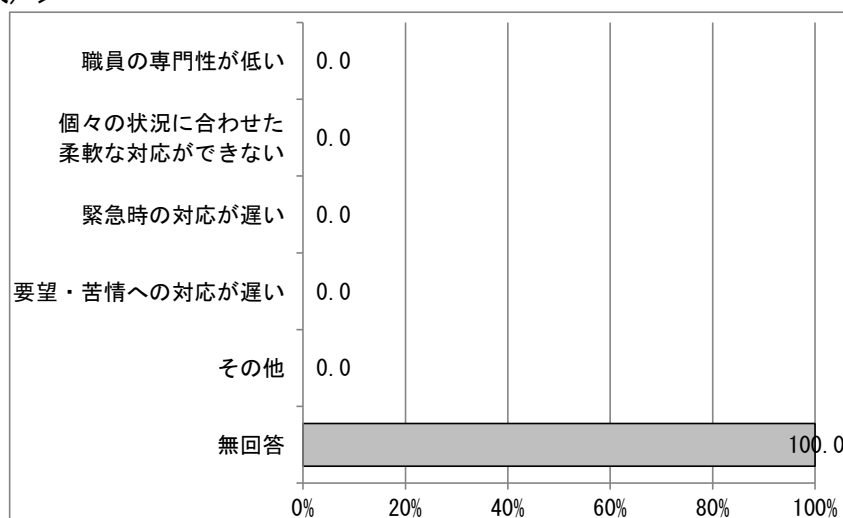
※ 該当者なし

#### イ 行動援護

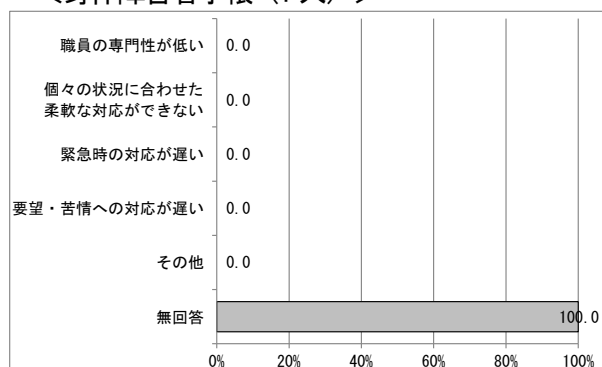
※ 該当者なし

#### ウ 短期入所（ショートステイ）

##### <全体（1人）>



##### <身体障害者手帳（1人）>



※回答のあった分類のみ記載

問28 問26でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「2」（利用していない）と回答した方に  
おたずねします。現在利用していないサービスについて、その理由は何ですか。

（現在利用していないサービスごとに、主なもの2つまでに○）

＜全体の傾向＞

障害福祉サービスを利用していない理由について、居宅介護（ホームヘルプ）では、「必要がない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が17.9%、「利用方法がわからない」が17.1%となっています。

行動援護では、「必要がない」が62.4%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が20.0%、「利用方法がわからない」が18.4%となっています。

短期入所（ショートステイ）では、「必要がない」が60.5%と最も割合が高く、次いで「利用方法がわからない」が21.0%、「サービスを知らなかった」が16.1%となっています。

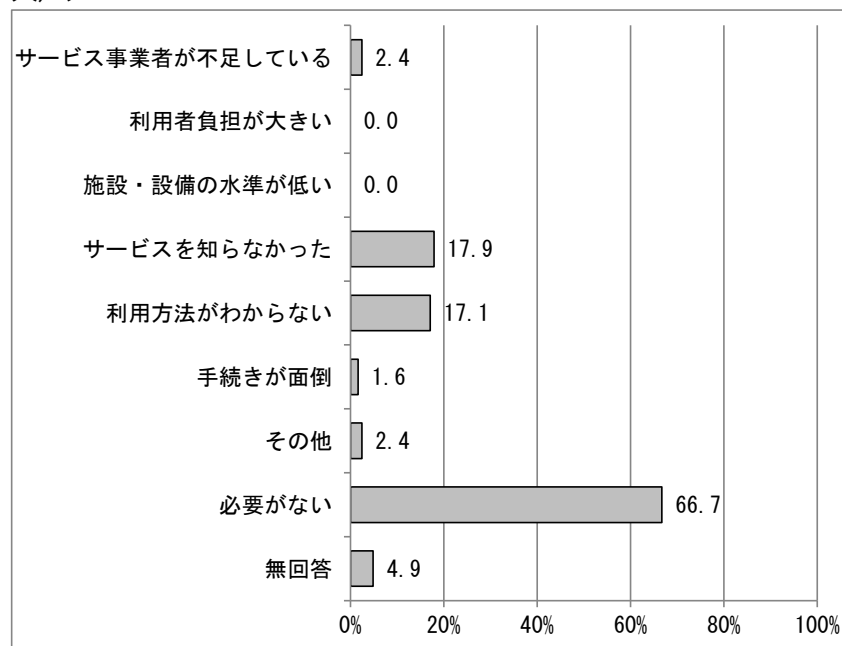
＜手帳種別の傾向＞

「サービス事業者が不足している」は「身体障害者手帳」「愛の手帳」でのみ回答がみられます。

「いずれも持っていない」では「必要がない」が73.7%と比較的高い割合となっています。

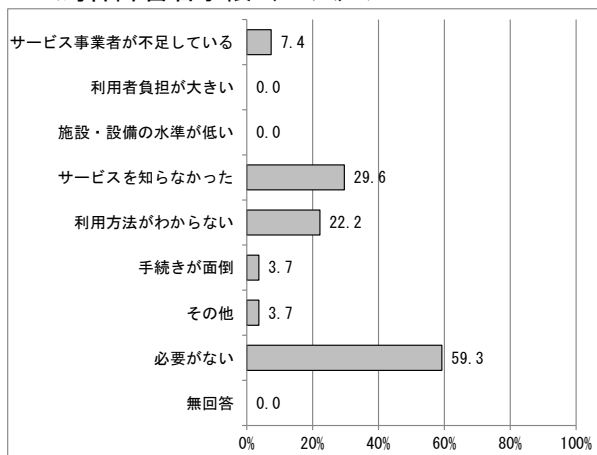
ア 居宅介護（ホームヘルプ）

＜全体（123人）＞

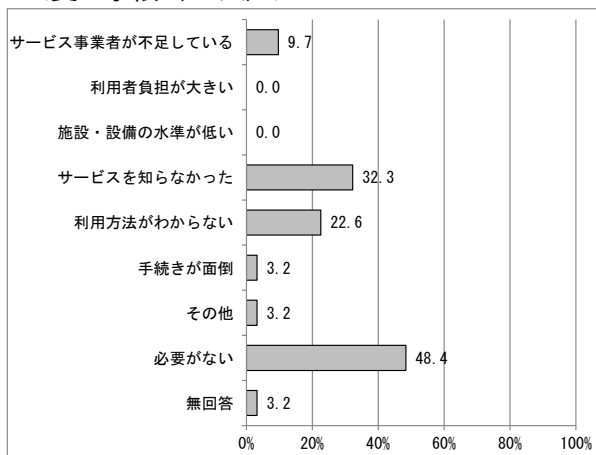


## Ⅱ－１ 未就学児への調査

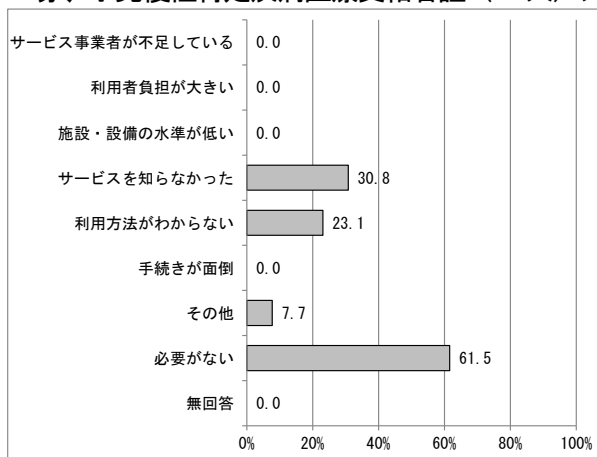
### <身体障害者手帳 (27人) >



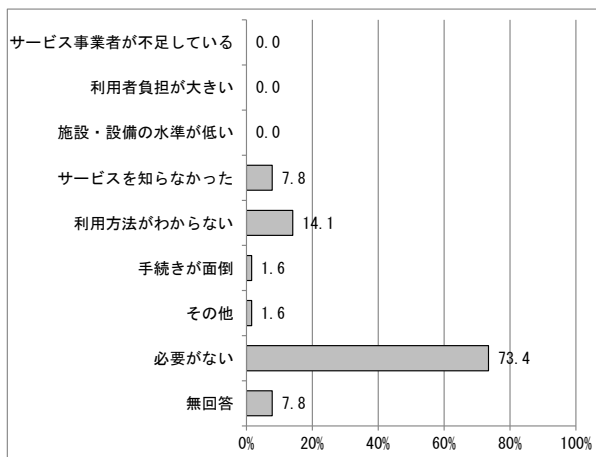
### <愛の手帳 (31人) >



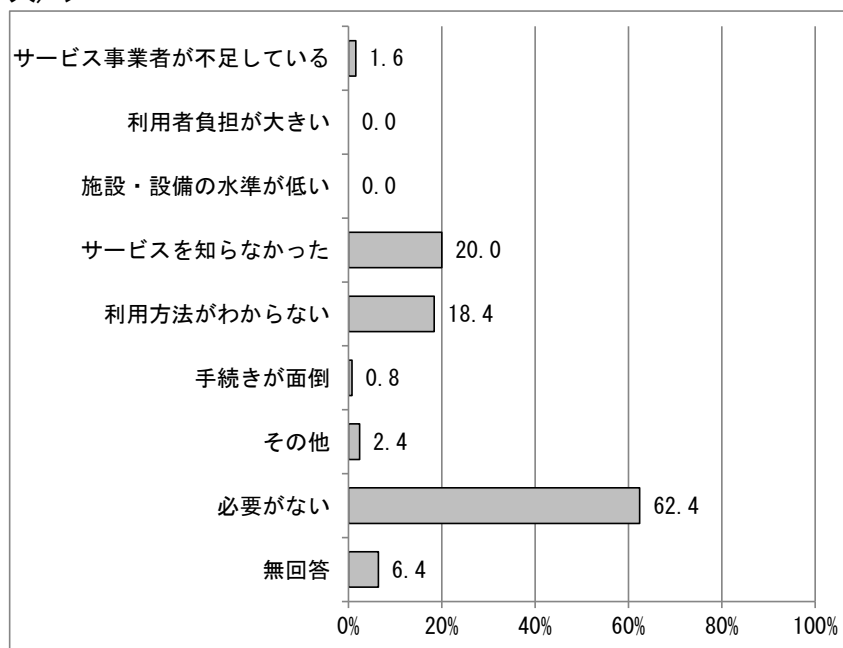
### <特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (13人) >



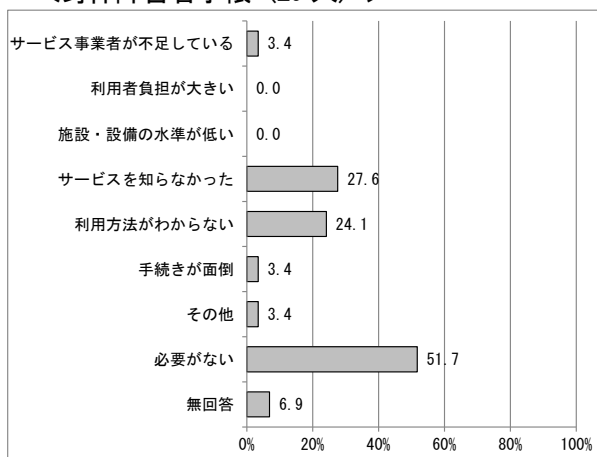
### <いずれも持っていない (64人) >



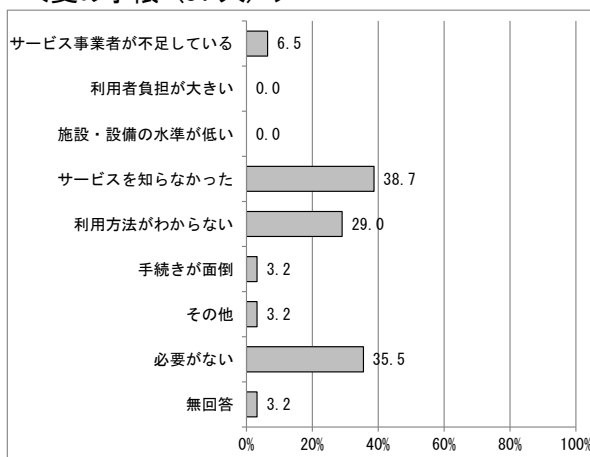
イ 行動援護  
 <全体 (125人)>



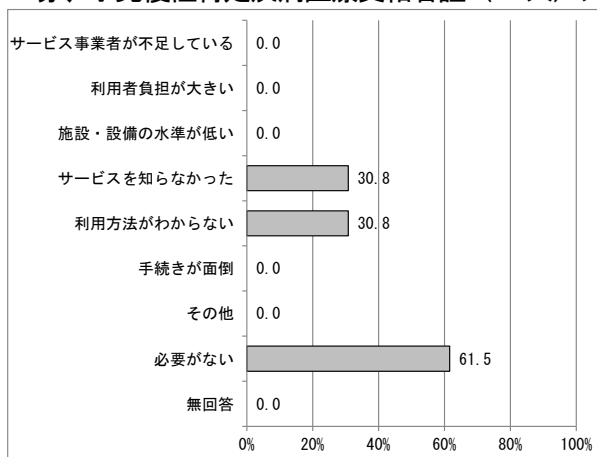
<身体障害者手帳 (29人)>



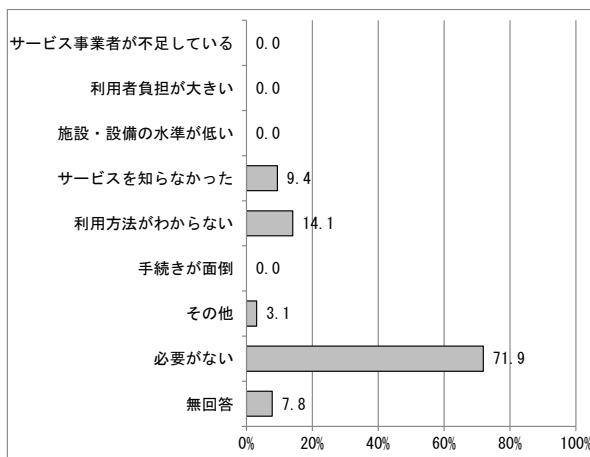
<愛の手帳 (31人)>



<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (13人)>



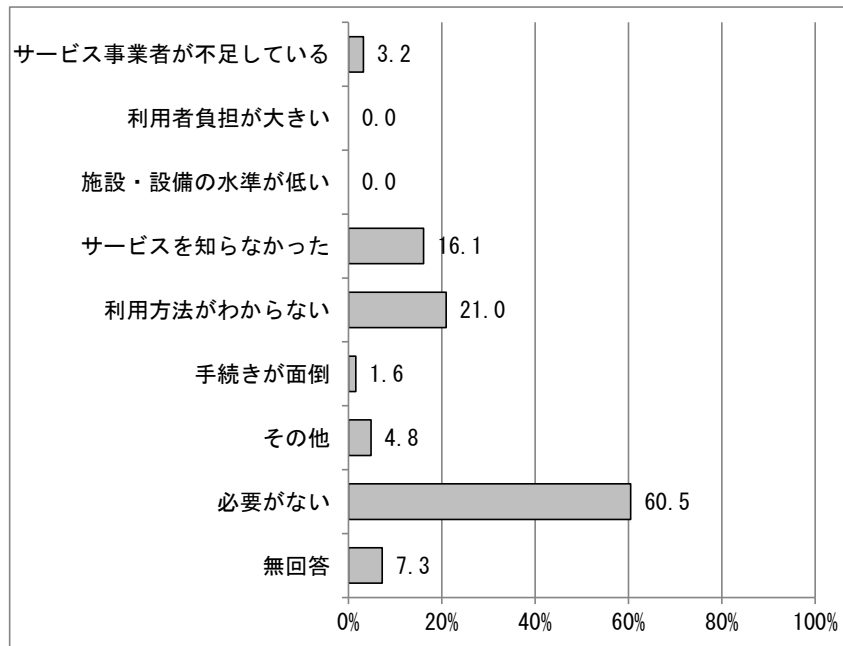
<いずれも持っていない (64人)>



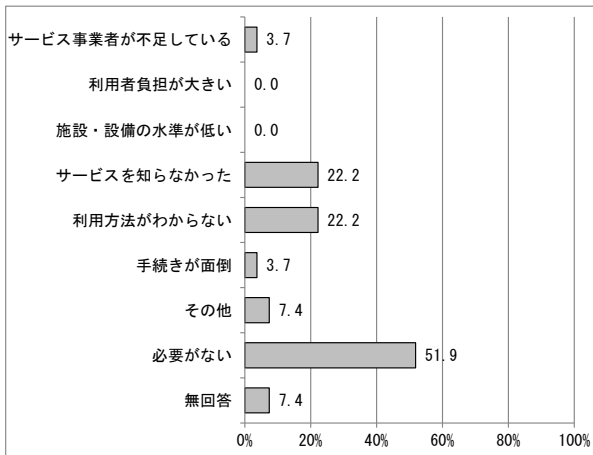
Ⅱ－１ 未就学児への調査

ウ 短期入所（ショートステイ）

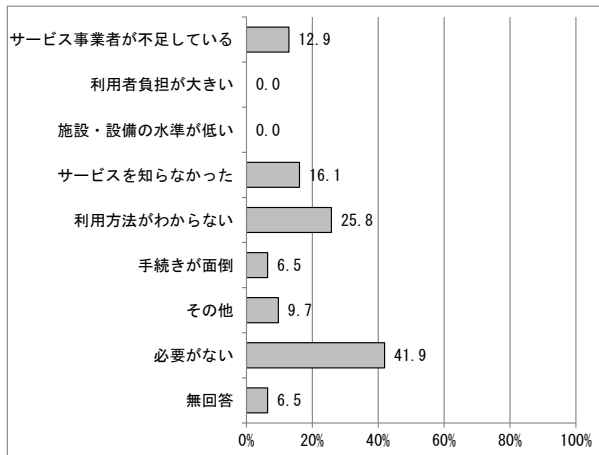
<全体（124人）>



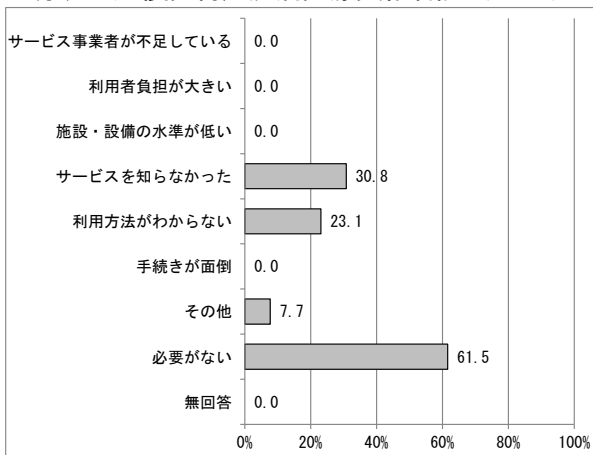
<身体障害者手帳（27人）>



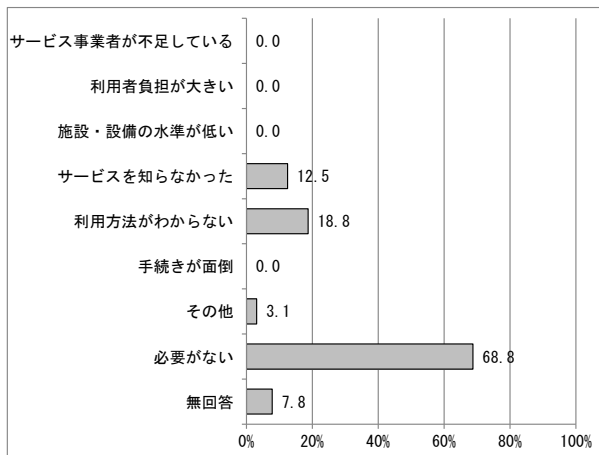
<愛の手帳（31人）>



<特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（13人）>



<いずれも持っていない（64人）>





障害に対する理解について

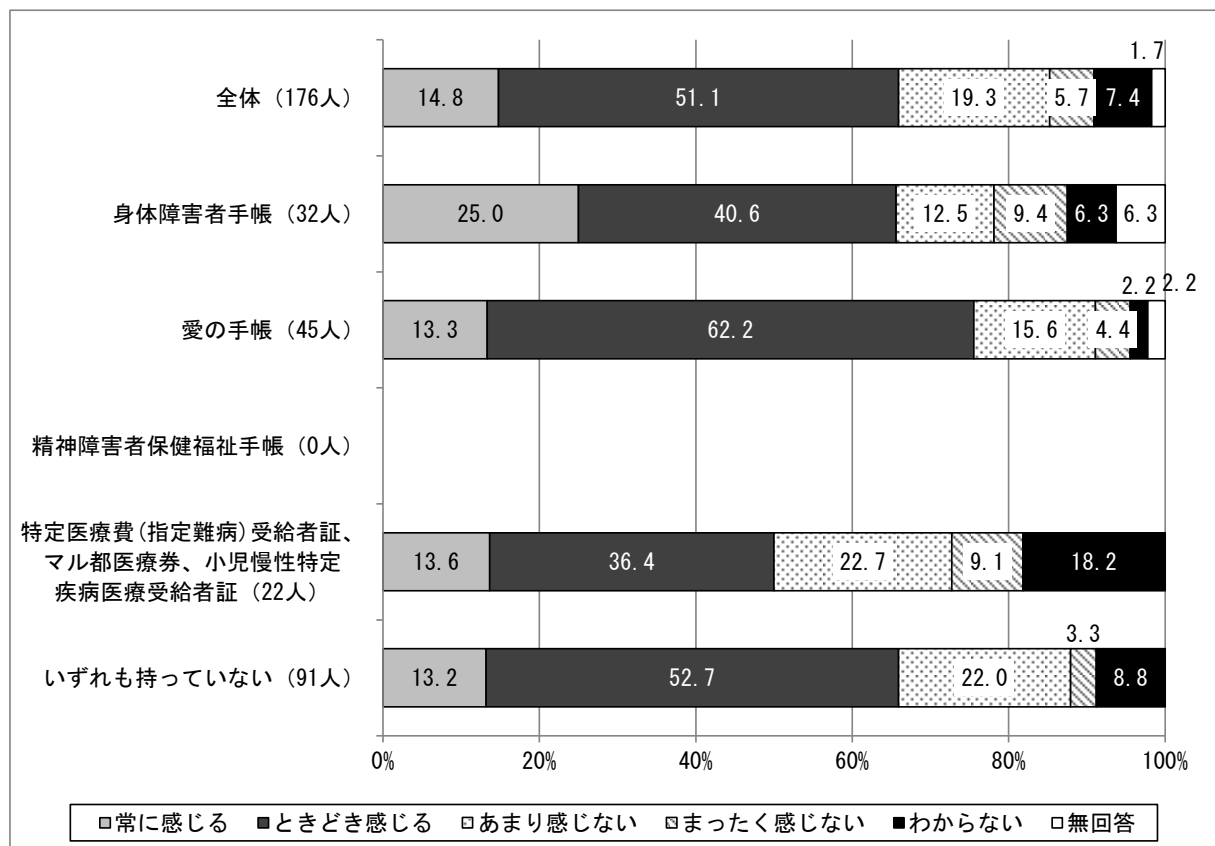
問29 普段の暮らしの中で、障害や病気への差別・偏見を感じるときがありますか。（1つに○）

＜全体の傾向＞

障害や病気への差別・偏見について、「ときどき感じる」が51.1%と最も割合が高く、次いで「あまり感じない」が19.3%、「常に感じる」が14.8%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「愛の手帳」では、「常に感じる」が13.3%、「ときどき感じる」が62.2%と合わせると70%以上で比較的高い割合となっています。



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

問30 周囲の人たちに対して、障害への理解を進めていくためにどのようなことを重視すべきだと思いますか。（主なもの2つまでに○）

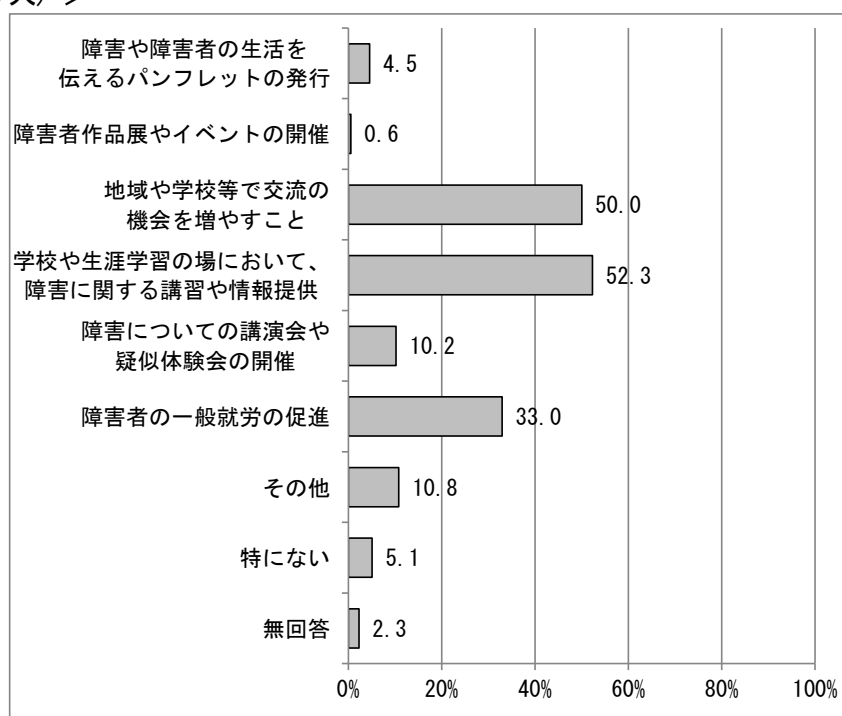
### <全体の傾向>

障害への理解を進めていくために重視すべきことについて、「学校や生涯学習の場において、障害に関する講習や情報提供」が52.3%と最も割合が高く、次いで「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が50.0%、「障害者の一般就労の促進」が33.0%となっています。

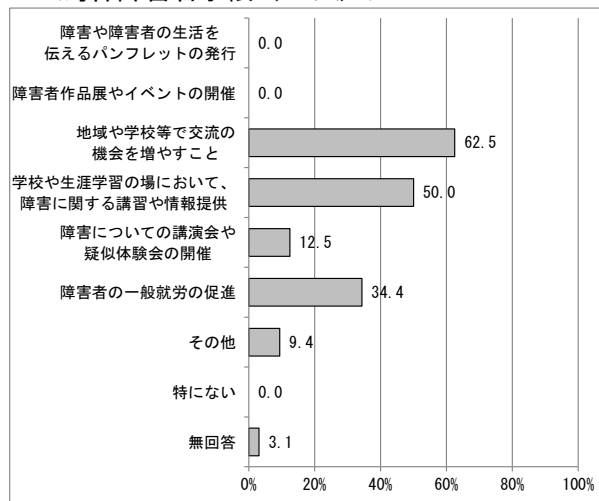
### <手帳種別の傾向>

「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が60%以上で最も割合が高くなっています。

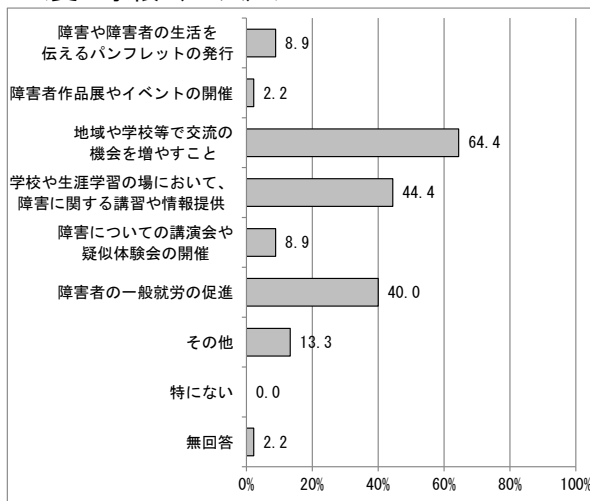
### <全体（176人）>



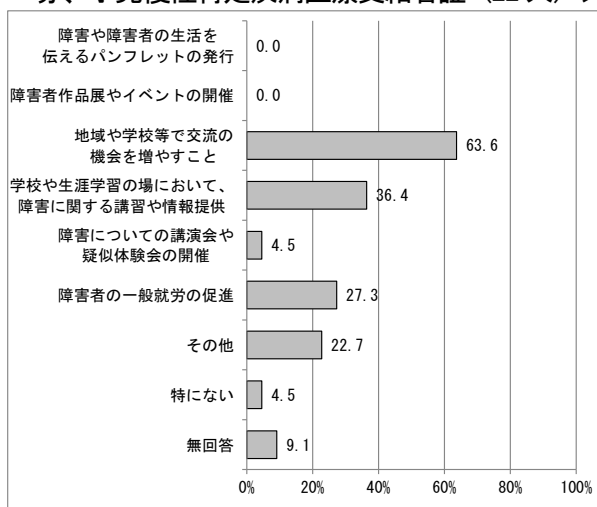
### <身体障害者手帳（32人）>



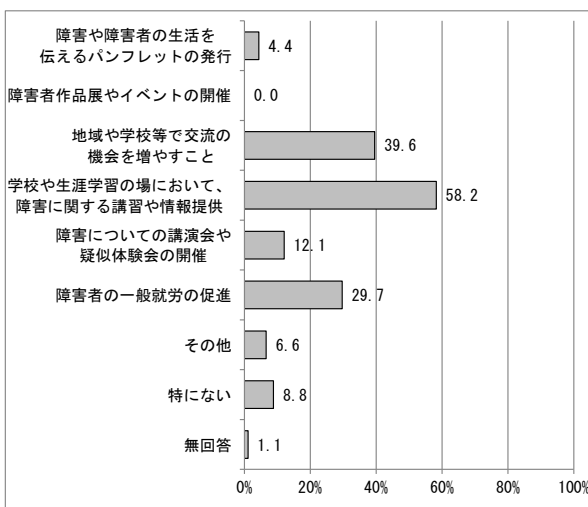
### <愛の手帳（45人）>



<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (22人) >



<いずれも持っていない (91人) >



Ⅱ－１ 未就学児への調査

問31 品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちですか。（1つに○）

＜全体の傾向＞

品川区の暮らしやすさについて「どちらかという暮らしやすい」が50.6%と最も割合が高く、次いで「どちらかという暮らしにくい」が15.9%、「わからない」が14.2%となっています。

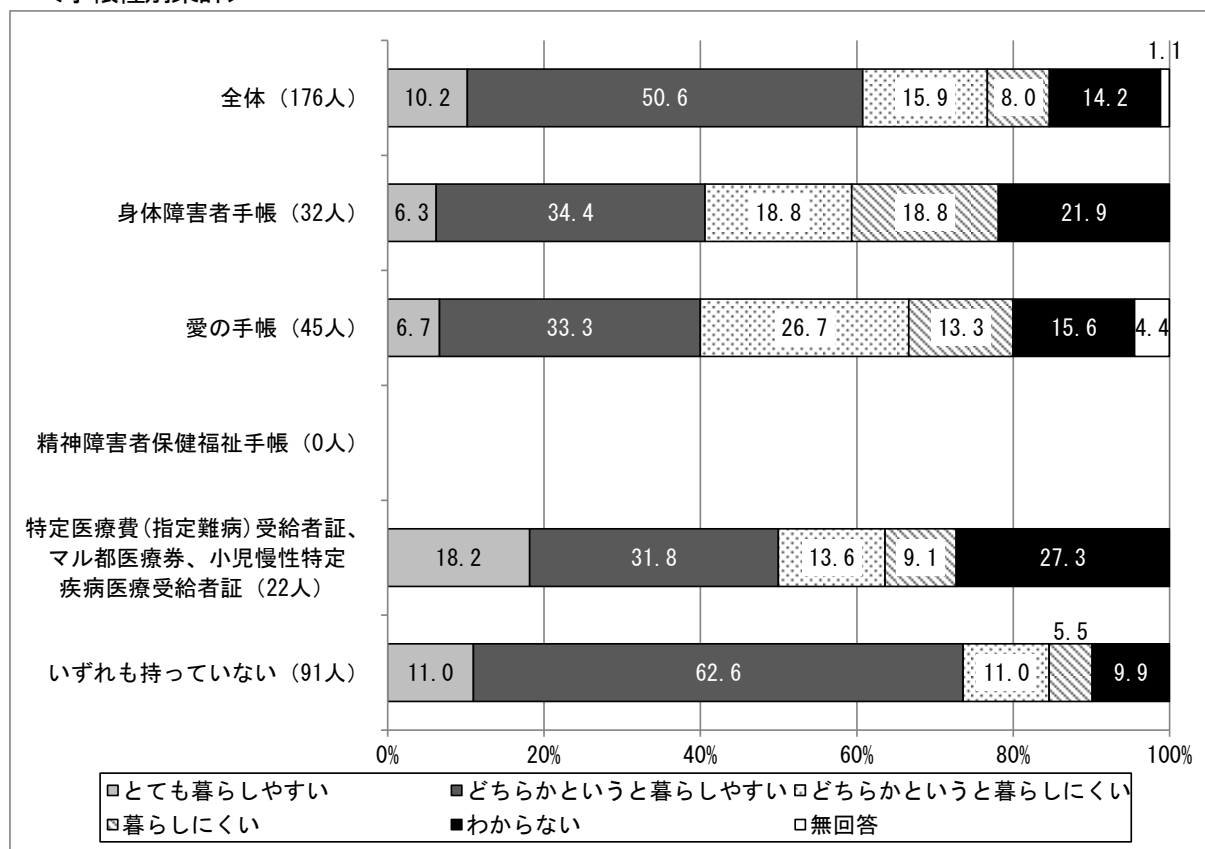
＜手帳種別の傾向＞

「いずれも持っていない」では、「どちらかという暮らしやすい」が62.6%、「とても暮らしやすい」が11.0%と、合わせると暮らしやすいとの回答が70%以上となっています。

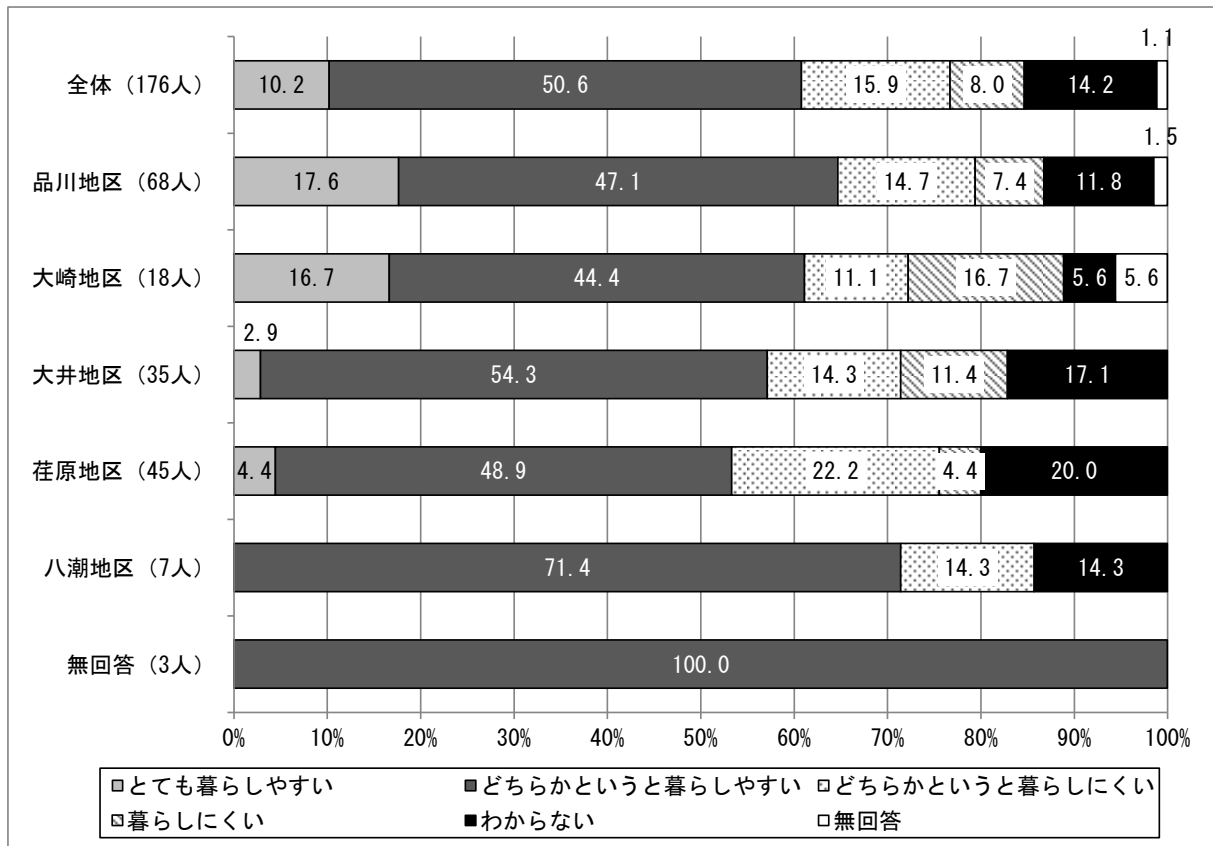
＜地区別の傾向＞

地区別の特徴はみられません。

＜手帳種別集計＞



<地区別集計>



生活の状況・区の施策について

問32 障害のある方が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。  
 (主なものを2つまでに○)

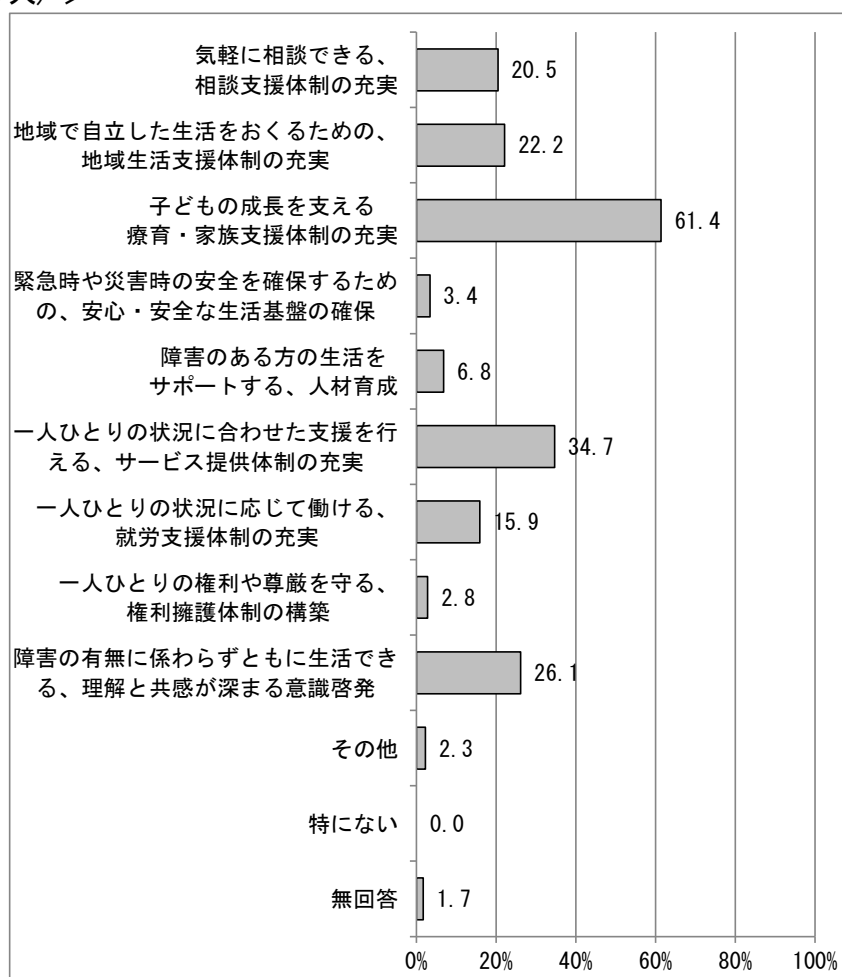
<全体の傾向>

安心して暮らしていくために重要な施策について、「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」が61.4%と最も割合が高く、次いで「一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実」が34.7%、「障害の有無に係わらずともに生活できる、理解と共感が深まる意識啓発」が26.1%となっています。

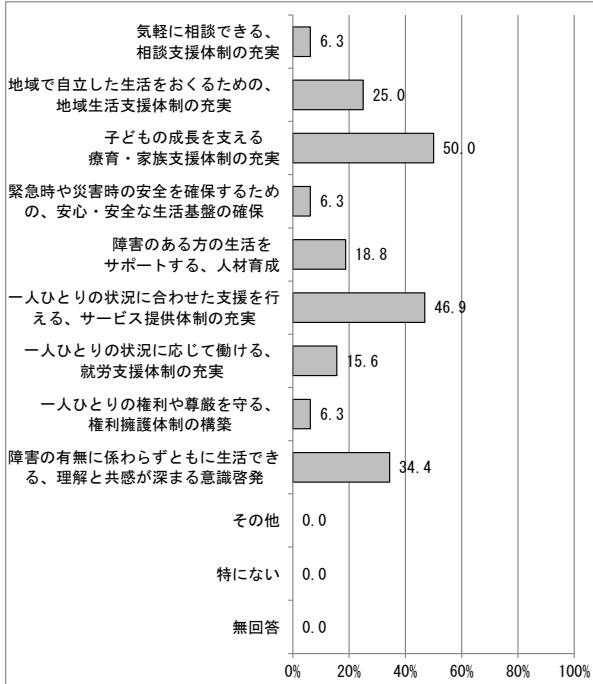
<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

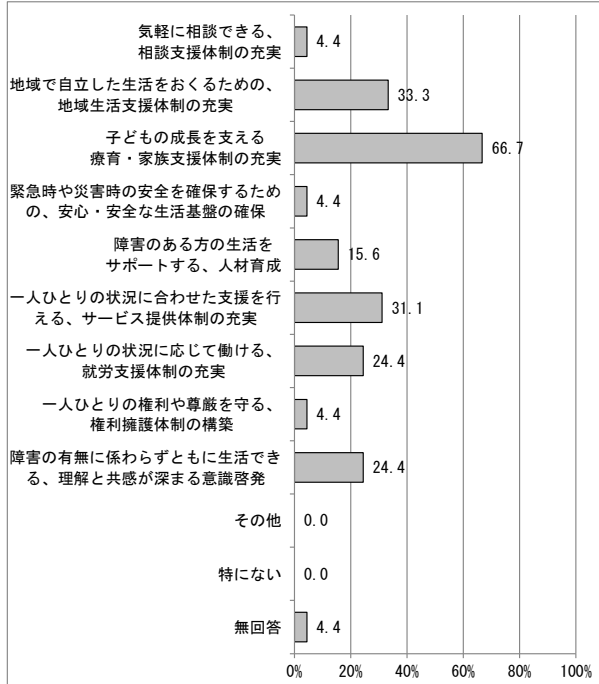
<全体 (176人) >



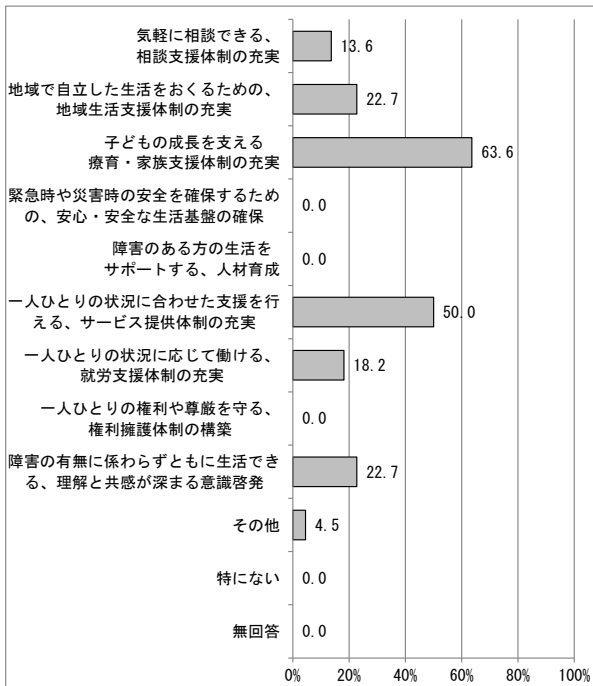
<身体障害者手帳（32人）>



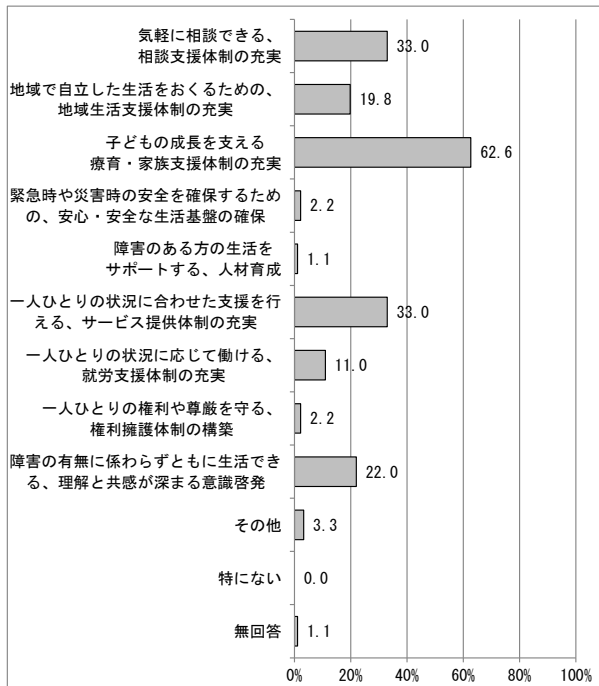
<愛の手帳（45人）>



<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（22人）>



<いずれも持っていない（91人）>



## Ⅱ－１ 未就学児への調査

問33 障害のある方への支援施策について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

障害のある方への支援施策について、「行政施策について」「サービス・質の向上について」の回答が多くみられます。

分類	回答数
行政施策・体制について	86
サービス・質の向上について	77
施設の整備・充実について	33
生活環境の改善について	27
施設利用しやすさについて	25
他地域との比較で感じることにについて	25
子どもの学習・将来について	24
経済的支援について	13
情報収集、情報発信について	13
その他	19

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

### <自由意見（抜粋）>

障害があってもなくても、当たり前、普通に学校へ行き、働くことのできる環境を作ってほしい。親にとっての不安の一番は、将来、自分の子の未来が、まったくもって見えないことです。

0～3、4歳の未就学児の病児を気軽に安く預けられる託児所を、区で持ってほしいです。

子どものストーマ用具にかなりの費用がかかっています。もっと実態に合った補助額を希望します。

施策などについて、知る情報が少ない。（どこで知ることができるのかわからない。）  
就学までの必要な手順がよくわからない。

障害者とは言っても様々な方がいる中、障害者対障害者の差別をととも感じる。  
できれば所得制限をなくしていただき、児童育成手当や特別児童扶養手当はすべての家庭に適応してほしい。健常者と違って時間もお金もかかる中（自己負担も多い）、助成金、給付金、手当が世帯年収によって金額が分かれているのはおかしいと思います。

将来自立して生きてゆけるよう、入居施設（グループホーム etc.）をもっと増やしていただきたいです。

品川区は療育園が少ないと思います。発達相談も八潮でしたし、通所受給者証と愛の手帳の窓口が大井町と新馬場、これまた全然場所も違って・・・。いろんな窓口を1つにしてもらいたい。

海外では、障害＝個性という意識が高いので、障害を持っている子が自分に誇りを持って生きている感がありますが、日本はまだまだ偏見を感じます。



<p>早期療育が成長にとっても良いことはご存知と思いますが、実際に早期に通えるところが少なく、既に定員が決まっていて入れないことがある。より多くの障害のある子どもたちが、より専門的な機関に通ったり指導を受けられたりするとありがたいです。</p> <p>また、支援を必要とする障害のある子どもがいても両親が仕事を継続できる様々なサービスや機関を増やしていただきたいです。</p>
<p>障害のある人は、決してそういうように生まれてきたくてそうなったわけではなく、そうなってしまったのだと思います。かわいそう、と思ってほしいわけではありませんが、そういう人もいる、と気軽な気持ちで社会の中の人間の一人として認めてほしいと感じます。</p>
<p>障害がある人をもっと前面に出すべき。知らない人が多い。</p> <p>インクルーシブの在り方を考えてほしい。今の時代、これからの時代を考えると、健常児との係わりの機会をもう少し増やすべきでは？健常児の親にも小さい頃から障害児の存在を知ってもらい、いることが当たり前の世の中にしていった方が良くと思います。</p>
<p>障害のある子どもの療育をもっと充実させてほしい。放課後デイや一時預かりなどの質を上げてほしい。安心して預けられるようにしていただきたい。</p>
<p>障害者の兄弟姉妹への支援も考えてもらいたい。日常生活においても、どうしても兄弟姉妹への手のかけ方は減りやすく、保育を欠くことがあっても保育所等の入所要件に該当しなかったり、支援がなかったりする。障害者の家庭支援の中に、親と本人に、兄弟姉妹の存在を明確に含んでもらいたい。将来的には障害者を支える立場の1人になるので、家庭内や本人との関係を良好にしておくことが重要だと思う。</p>
<p>いろいろ手続きを行うところがどこも駅から遠く、行くのに一苦労します。</p>
<p>発達に遅れがあり、集団生活で指摘をされたので、親である私自身も何をして良いのか、焦り、不安がありましたが、スムーズに療育が受けられたり、話をしっかり傾聴していただいたことで、気持ちが落ち着いたりし、子どもにも余裕をもって係わっていくことができました。</p>
<p>障害者手帳を持っていない医療的ケア児の支援にも目を向けてほしい。</p>
<p>一人ひとり性格が違うように、障害も一人ひとり違います。障害があっても皆と一緒に過ごせる機会が周りの理解のもと、増えていくと良いです。また障害を皆が受け入れてくれ、差別や偏見がなくなると良いです。</p>
<p>障害者は1人でできないことも多く、支援なしでは生きてはいけないのですが、そういうマイナス面のサポートを強調するより、プラス面に目を向けて伸ばせるようなサポートに力を入れてほしいです。</p>
<p>療育機関をもっと増やし、身近に相談できる支援を受けられる町づくりを目指していただきたい。 (他、同様意見複数)</p>
<p>自分のところは発達障害のため、それに限っていえば最近急速に発達障害への理解は進んでいるものの、体制が追い付いていない部分が大きいと感じる。</p>
<p>ワンストップで相談できるコーディネーターのような方がいてくださると助かると思います。</p>
<p>学校などでの「障害者への接し方」など講演・学習をもっと増やせば良いと思う。</p>
<p>とにかく費用が高い。また、療育施設の情報も極端に少ない。</p>
<p>相談窓口の拡大充実を希望します。</p>

Ⅱ－１ 未就学児への調査

<p>医療機関（医師）と療育（民間）をつなげてほしい。</p>
<p>障害者についての施策メニューにはどのようなものがあるのか。一般の人にはわかりにくい。このため行政の側に障害児（者）の状況を把握し、どのようなサービスが利用可能かアドバイスをしてくれる窓口があると大変ありがたい。</p>
<p>障害の有無に係わらず、様々な発達段階にいる子どもたちとその親が安心して過ごせる、また進路に希望を持てる区であってほしいと切に願います。</p>
<p>児童発達支援、放課後デイサービスの日数を増やしてほしい。（他、同様意見複数）</p>
<p>様々な障害に対して相談窓口を一本化し、そこに連絡すればそこから養育や学習などあらゆる課題解決に向けて動いてくれるようにしてほしいです。</p>
<p>品川児童学園の受け入れ枠を拡大してほしい。 成人後の自立支援対策（グループホーム等） 成人後の就労支援（就労機会の拡大）</p>
<p>肢体不自由施設に母子通所しているが、品川区はヘルパー登園ができない。個々に応じた支援にもっと柔軟になるべき。 肢体不自由児の身体介助は必要不可欠であり、義務教育期間の小中学校では、親の介助を必要としない体制づくりを当たり前と考えてほしい。</p>
<p>障害者福祉課のみならず、関係する課すべて連携いただきたい。それらすべて足並みそろって支援体制がしっかりしたものとなると考えます。この件は××課、あの件は〇〇課とたらい回しにされるのはうんざりです。なんのための区行政なのかと憤りを感じることしばしばです。 また、基本的に相談窓口は平日日中であり、働いている立場だと相談したくても相談できない。メールでの相談窓口や、土日夜間の相談窓口を充実させてほしい。</p>
<p>区の窓口にも何度か聞いたのですが、受けられる支援やサービスの一部をこちらが指定した情報について教えてもらえるだけで、「他にもこういうのがある」といった情報が得られない気がします。今回のアンケートで知ったサービスもあり、もう少し全体的な相談をする部署があると助かります。私自身ネットなどで調べてはいますが、そもそも存在を知らないサービスや支援にはなかなかたどり着けないものです。 各制度は担当部署に聞くとしても、どんな制度があるか、今後どうしていったら良いかなど、相談する窓口がほしいです。 また、子どもが小学生に上がっても仕事が続けられるよう整えていただきたいです。</p>
<p>療育や進学などについての情報の入手先が親の会しかないの、行政にも頼れるようにしてほしい。 今回のように、当事者の声を届ける機会を継続して作ってほしい。 療育に要する費用に補助を出してほしい。受給者証を使える範囲を拡大してほしい。</p>
<p>品川区は施設が少なすぎると思います。区のものもそうだし、民間のものも。早急に対応が必要と感じます。今支援がほしいのに、入所の待ちが半年～1年など、むだな時間で過ごすのは悲しいです。</p>
<p>是非、地域、学校、会社などへのアンケートを行って、障害のない人たちがどう思い、どうしてほしいと思っているのかも把握してほしいです。</p>

自分自身がそうであったように、当事者にならないと、どうしても他人事になりがち。最近ではTVや新聞で発達障害を取り上げる番組や記事をよく目にするようになり、とても良いことだと思う。障害に対する理解や知識を深めるための活動及び情報発信を、区や行政に積極的に推進してほしいです。障害のある人や家族が誰一人悲しい思いをせず、優しく住みやすい地域にするためにも、是非品川区には今まで以上に障害と支援について、学校や各種イベントの場で情報提供や勉強する機会を設けてほしいです。

品川区は近隣の区と比較すると、区の障害者福祉課の方の専門性は非常に高く、高いレベルで質の良いサービスを提供していただいている様子だと感じています。

ただ、療育については、現在建物の建て替え中ということもあり、充実しているとはいええないと思います。

民間の療育事業者にはがっかりすることも多く、区で専門性の高い支援が受けられることを期待しています。その方が税収の効率的な活用が実現できると考えます。

障害があると、小さいうちは療育施設への通園などできる場所も多いのですが、小学校以降大きくなるにつれ、どんどんそういった施設、機関がなくなっていくのが実情です。

行政が支柱となって、児一人ひとりの通園・通所・通学先、医療機関との連携がスムーズにいくようにしてほしいです。障害を持つ子の日々の育児だけでも大変なのに、療育先、医療機関を自ら探し回ったり、園や学校に障害を持つ子の特性を説明し、理解を求める訴えを個々にしに行ったり、本当に骨が折れます。行政がその役目を担っていただけたらと思います。

なにか問題が起こったときに、どこへ相談すれば良いか、そこでどのようなサービスが受けられるのか、すぐにわかるように、区のホームページなどの充実をお願いします。

ヘルパーさんの制度があると、子育てに少し余裕ができると思う。障害児を持つ親は心の余裕がない。働いている場合はなおさら。

就学について。情緒クラスは増えていて、一校に1クラスとなっていますが、知的障害クラスは全校にあるわけではないのが通いにくいです。うちには就学した姉がおりますが、知的障害クラスのあるクラスはないので、違う学校に通わねばなりません。徒歩圏内で近いとはいえ、運動会は同じ日ですし、PTAも二重になります。親の負担が多いように思えて今から不安です。避けるためには支援学校しかないのでしょうか。

まだ子どもが小さいため、小学校、中学校、その先のことまでは想像が付きません。早期療育を望み、1歳半から施設を利用させていただいています。成長は、今後どうなるのかわかりませんが、そのときそのときで悩みも変わってくるだろうと思います。そんなときに気軽に相談にのっていただける障害者福祉課であってほしいと思います。

預け先がなく、ベビーシッターをお願いすると高額になります。出費が多く困っています。

今、保育園に預けていますが、預ける際に子どもの現状を説明したにもかかわらず、理解がないことが多い。意識改革が必要と考えます。未発達の症状や対応方法を理解してもらいたい。

1歳半健診以降、医師の診断や療育施設選択の相談など、一連の流れをシステム化していただけると、親としてとても安心感があります。定期的に訪問アドバイスをしていただいたり、就学に向けた小学校などの見学会などもまとめて開催してもらえるとありがたいです。

## Ⅱ－１ 未就学児への調査

我が家には発達障害者と発達障害児3人います。生活していて生きづらいことも多く、これから成長する子3人が少しでも生きやすいようになることを願っています。

早い段階（1歳半、3歳健診）での品川区、民間の療育の紹介が必要だと思う。年々障害の子が増えてきているため、他の区外から品川区の民間の療育施設を利用する方も多い。

障害の種類や程度も様々であるし、住んでいる地域によって周囲の協力を得やすいところ、そうでないところとあると思います。区役所の方や関係施設の方々に尽くしていただけるのは大切ですしありがたいことですが、区民一人ひとりが障害というものをもっと身近に感じ（そのためにはこういう障害があるということを知ってもらう）、お手伝いできそうなことがあれば手伝う……。それが身構えずにできる人が増えると良いなと思います。ハード面もソフト面もバリアフリーな品川区になると良いですね。

これまでも何回か相談に応じていただき、大変感謝しております。

都内に児童・幼児が利用できる短期入所施設を増やしていただければと助かります。品川区、もしくは隣接の区に設置されたらありがたいです。

節電義手の使用を目指してリハビリを始めました。日本では使用している人の割合が極めて低く、経済的な支援体制も整備されておらず、サポートを受けるにはハードルが高いと聞きます。自費で、かつ子どもの成長に合わせて何度も作り変える必要があるとなると、かなりの費用がかかります。欧米のように、もっと義手がメジャーになり、医療費等と同様の感覚で公的支援を受けられるようになることを切に願います。

## 2 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### お子さん・世帯の状況について

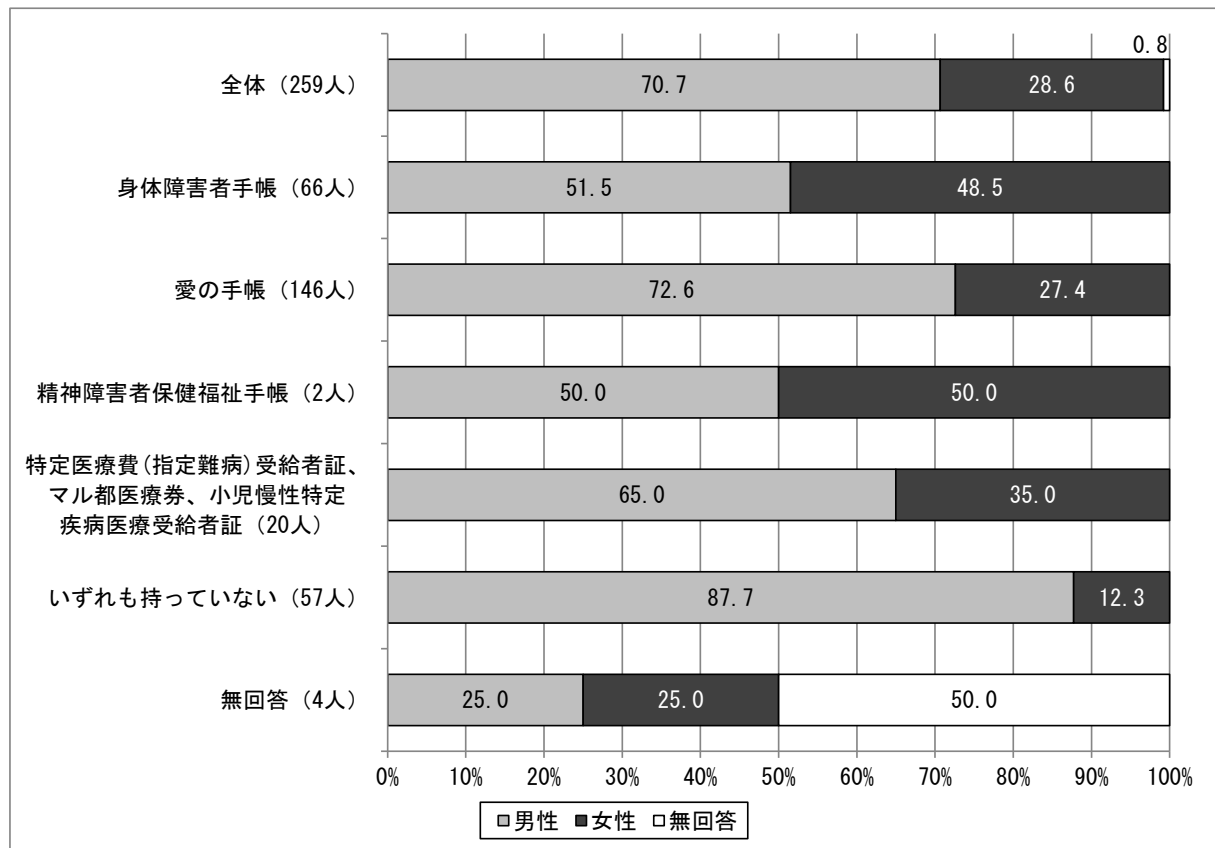
問1 お子さんの性別をお答えください。(1つに○)

#### <全体の傾向>

子どもの性別について、「男性」が70.7%、「女性」が28.6%となっています。

#### <手帳種別の傾向>

「いずれも持っていない」では、「男性」が87.7%、「愛の手帳」では、「男性」が72.6%と比較的高い割合となっています。



## Ⅱ-2 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問2 平成 29 年 4 月 2 日現在のお子さんの年齢をお答えください。(数字を記入)

### <全体の傾向>

子どもの年齢について、「6歳」が 12.7%と最も割合が高く、次いで「7歳」が 11.2%、「8歳」が 10.4%となっています。

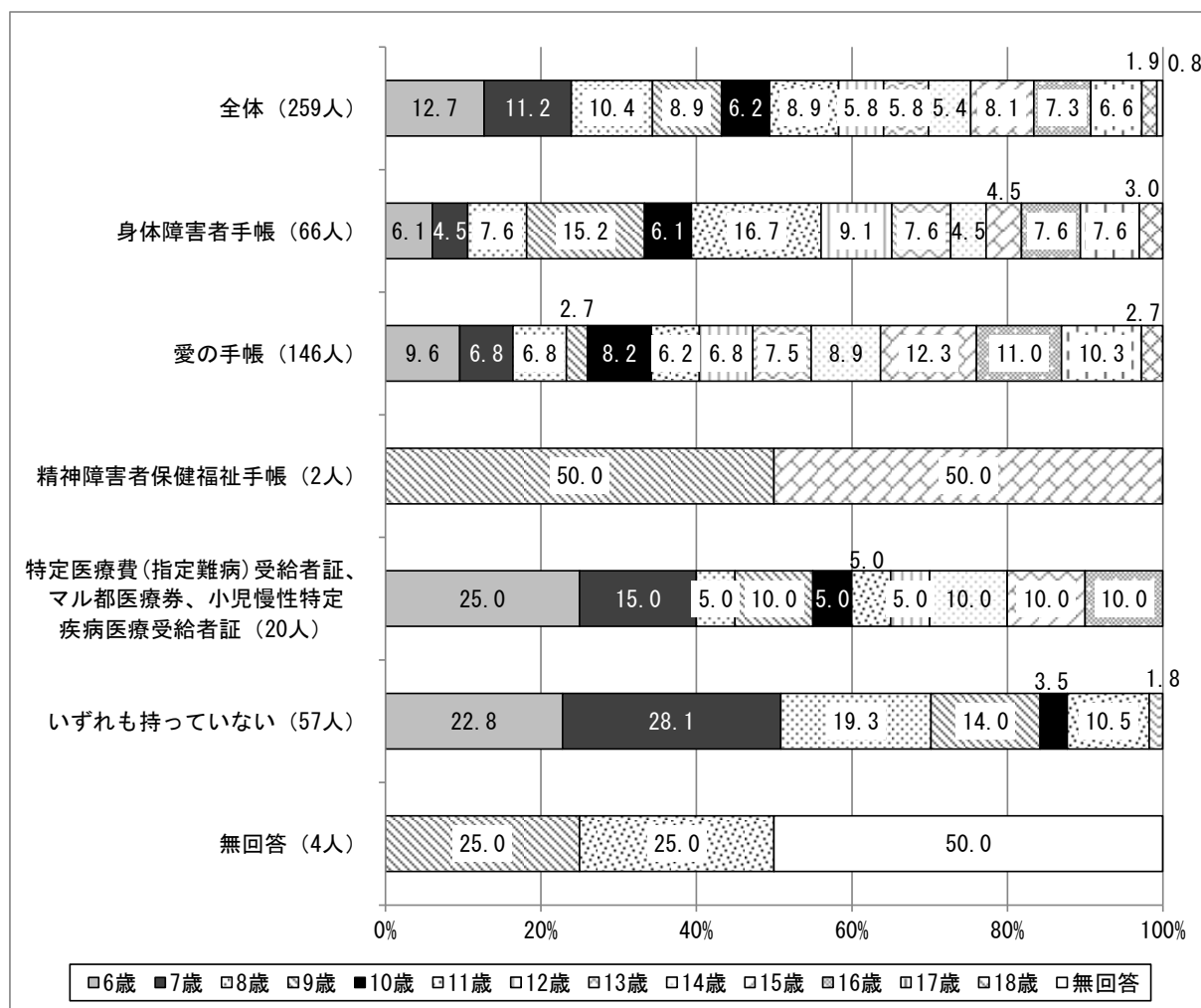
### <手帳種別の傾向>

「身体障害者手帳」では、「11歳」が 16.7%と最も割合が高く、次いで「9歳」が 15.2%、「12歳」が 9.1%となっています。

「愛の手帳」では、「15歳」が 12.3%と最も割合が高く、次いで「16歳」が 11.1%、「17歳」が 10.3%となっています。

「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「6歳」が 25.0%と最も割合が高く、次いで「7歳」が 15.0%、「9歳」と「14歳」、「15歳」、「16歳」が 10.0%となっています。

「いずれも持っていない」では、「7歳」が 28.1%で最も割合が高く、次いで「6歳」が 22.8%で、合わせると過半数を占めています。

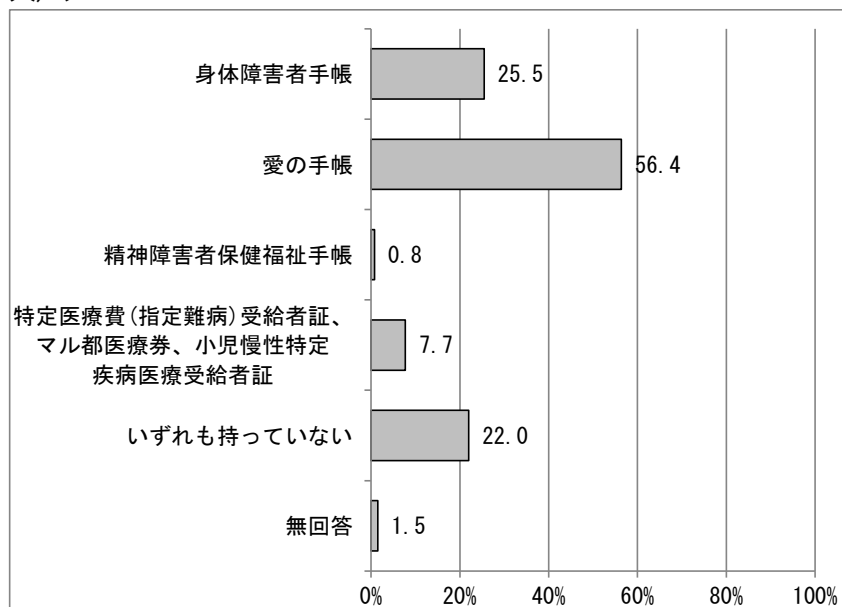


問3 お子さんがお持ちの障害者手帳の種類と等級をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

(1) 手帳の種類

障害者手帳の種類について、「愛の手帳」が 56.4%と最も割合が高く、「身体障害者手帳」が 25.5%、「いずれも持っていない」が 22.0%となっています。

<全体 (259 人) >



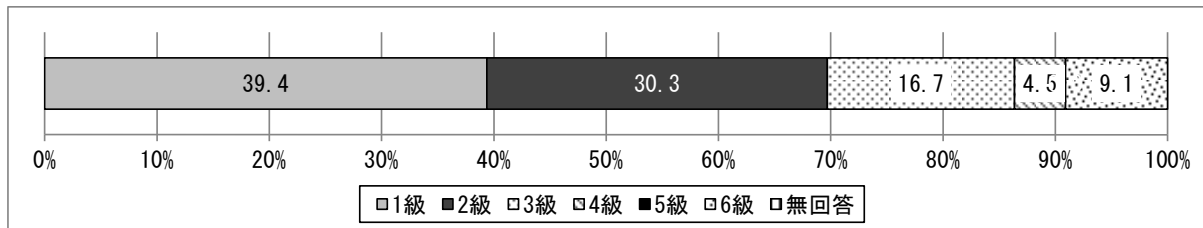
## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### (2) 手帳の等級

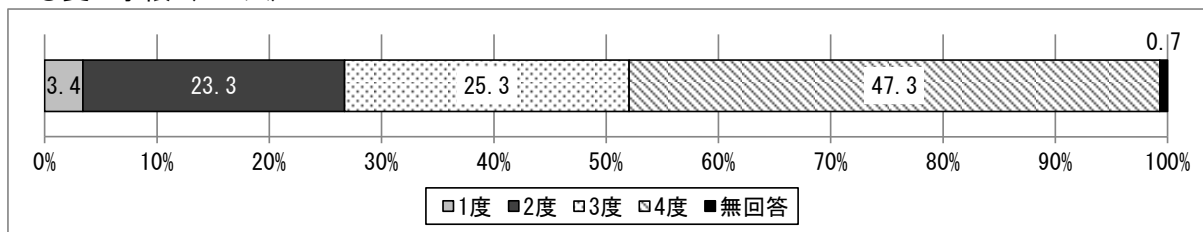
障害者手帳の等級について、「身体障害者手帳」では「1級」が 39.4%と最も割合が高く、次いで「2級」が 30.3%、「3級」が 16.7%となっています。

また、「愛の手帳」では「4度」が 47.3%と最も割合が高く、次いで「3度」が 25.3%、「2度」が 23.3%となっています。

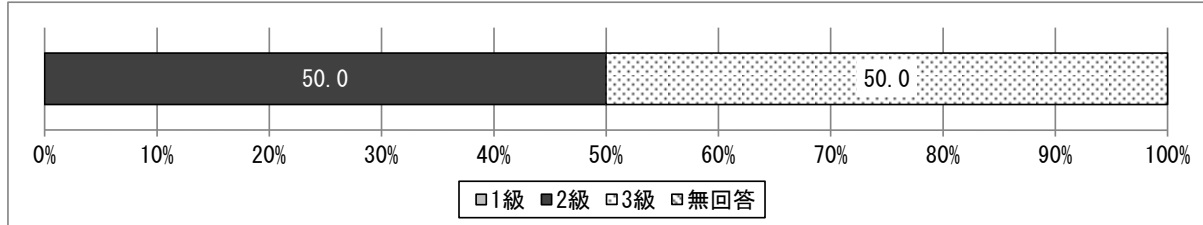
#### ○身体障害者手帳（66 人）



#### ○愛の手帳（146 人）



#### ○精神障害者保健福祉手帳（2 人）





問4 現在お住まいの地区をお答えください。（1つに〇）

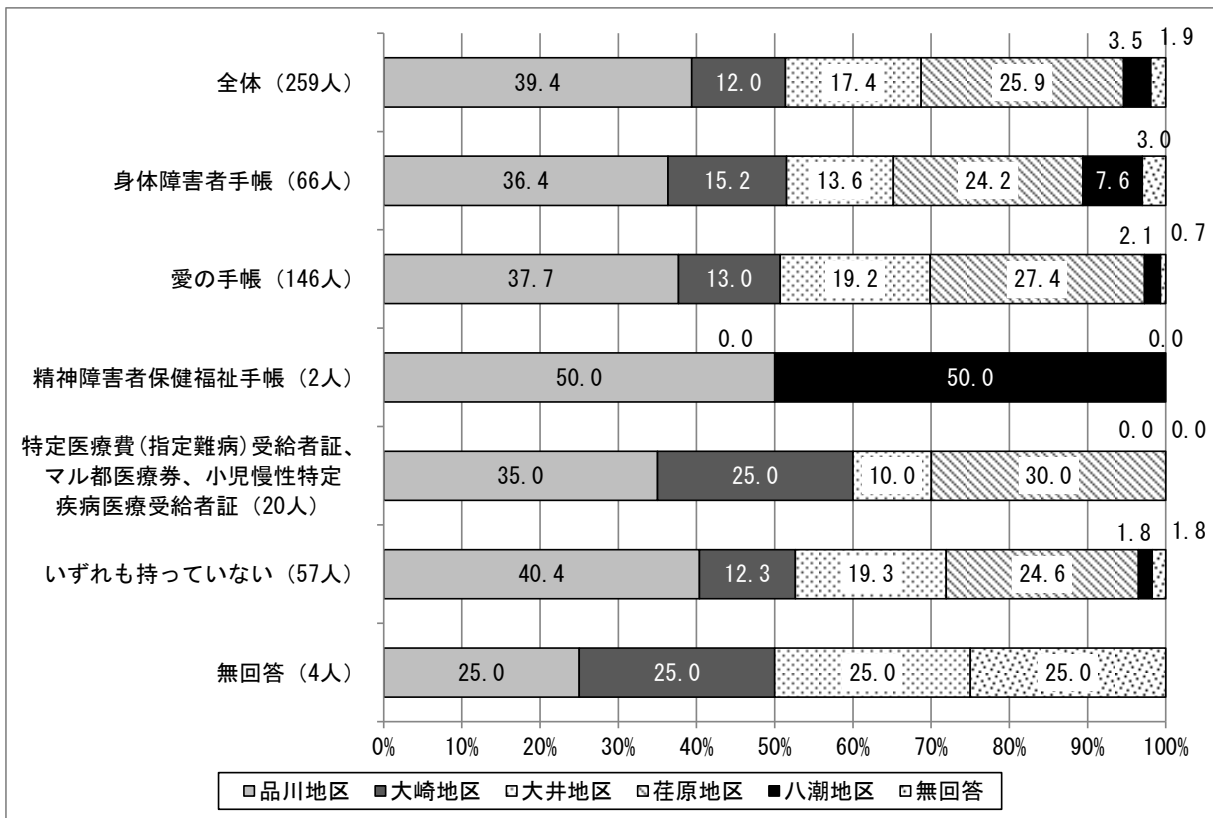
<全体の傾向>

現在の居住地区について、「品川地区」が39.4%と最も割合が高く、次いで「荏原地区」が25.9%、「大井地区」が17.4%となっています。

<手帳種別の傾向>

「身体障害者手帳」と「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「品川地区」が最も割合が高く、次いで「荏原地区」、「大崎地区」となっています。

また、「愛の手帳」と「いずれも持っていない」では、「品川地区」が最も割合が高く、次いで「荏原地区」、「大井地区」となっています。



## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問5 現在同居している家族をすべてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

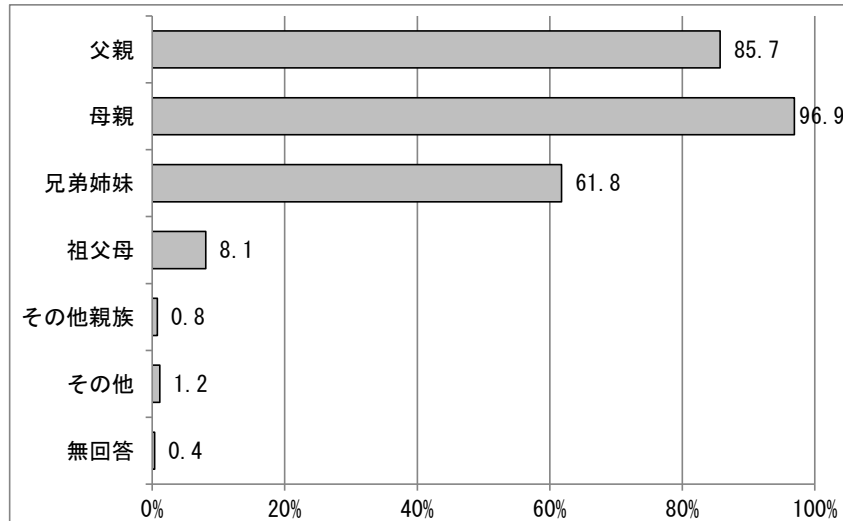
### ＜全体の傾向＞

同居している家族について、「母親」が 96.9%と最も割合が高く、次いで「父親」が 85.7%、「兄弟姉妹」が 61.8%となっています。

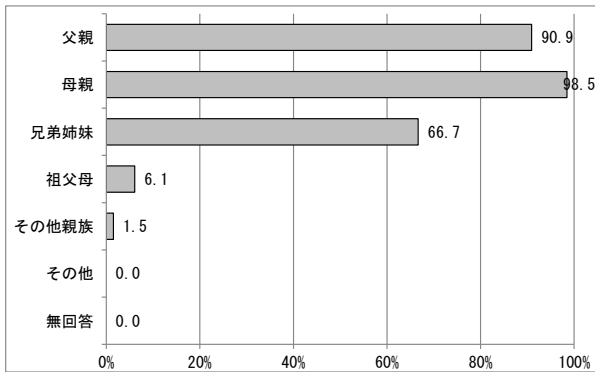
### ＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

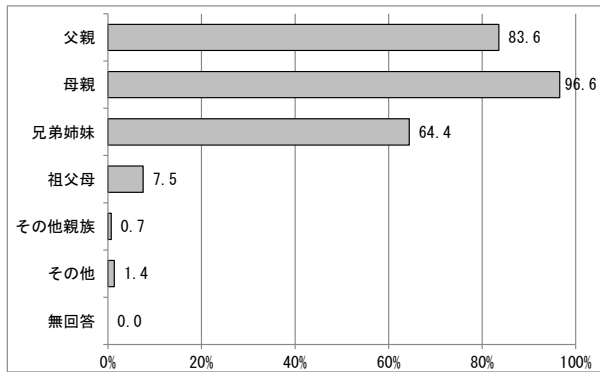
### ＜全体（259人）＞



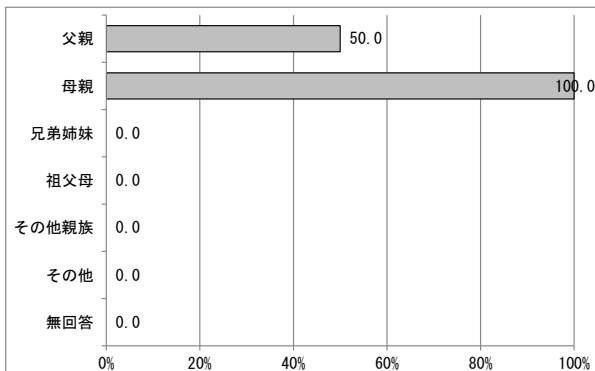
### ＜身体障害者手帳（66人）＞



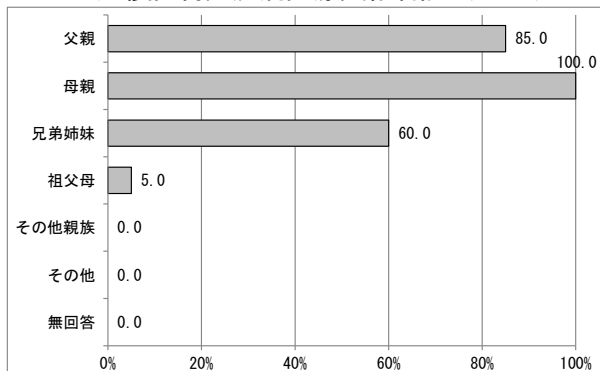
### ＜愛の手帳（146人）＞



### ＜精神障害者保健福祉手帳（2人）＞

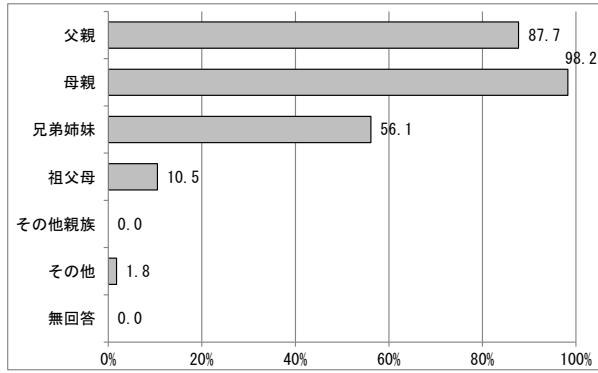


### ＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20人）＞

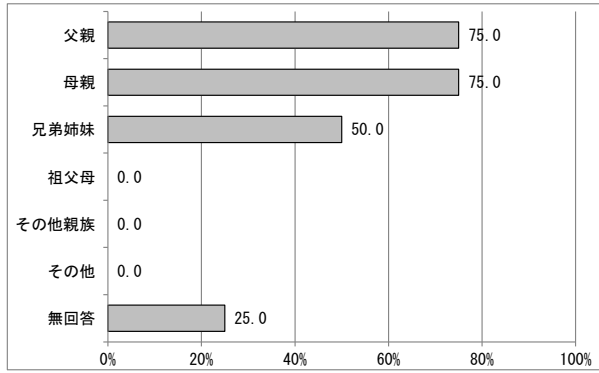


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

<いずれも持っていない (57 人) >



<無回答 (4 人) >



## お子さんの障害・疾病の状況について

問6 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）に最初に気付いたのはいつ頃ですか。

（1つに○）

### <全体の傾向>

障害の発見時期について、「出生時」が 22.8%と最も割合が高く、次いで「2歳」が 18.1%、「1歳」と「3歳」が 16.2%となっています。

### <手帳種別の傾向>

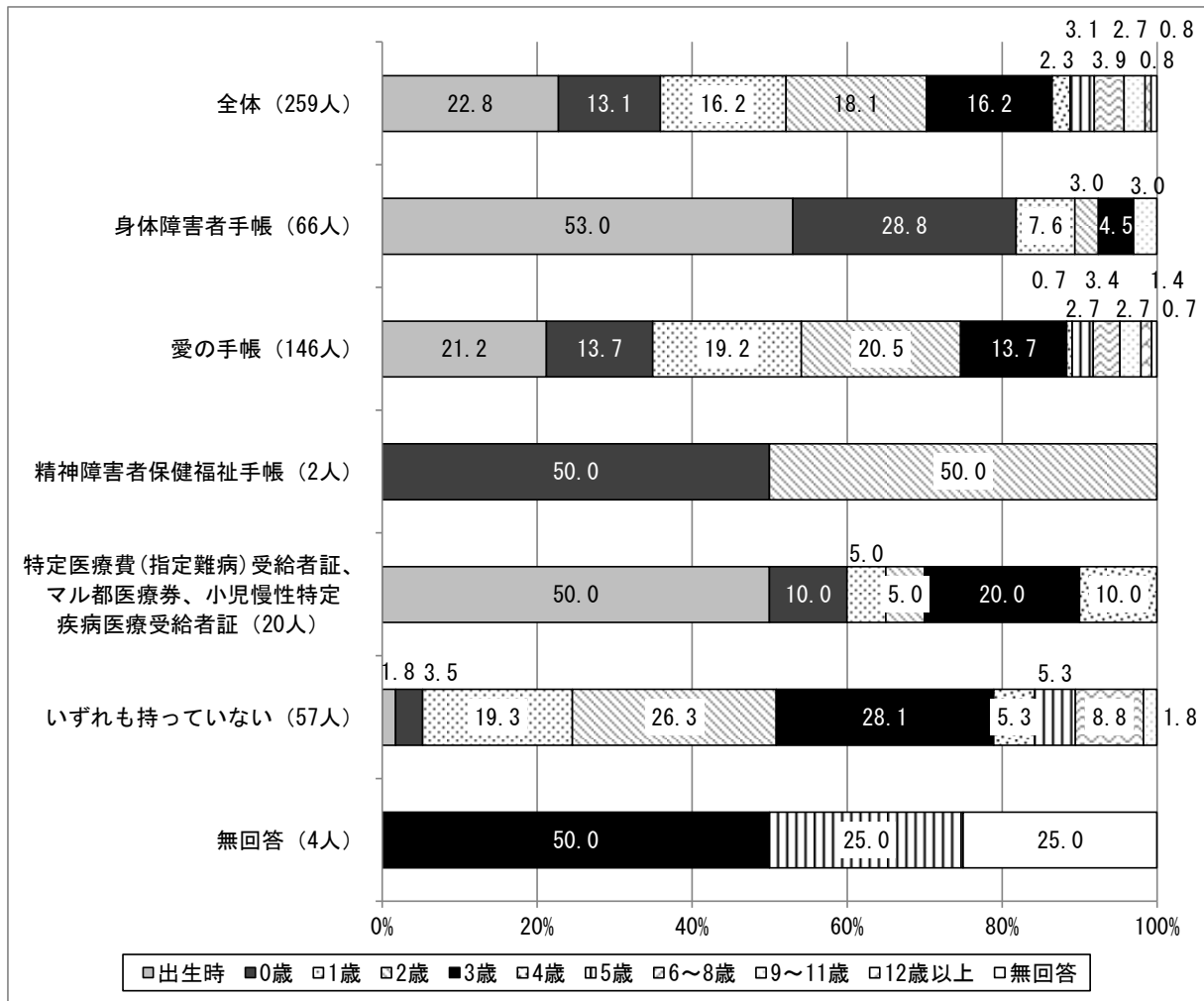
「身体障害者手帳」では、「出生時」が 53.0%と最も割合が高く、次いで「0歳」が 28.8%、「1歳」が 7.6%となっています。

「愛の手帳」では、「出生時」が 21.2%と最も割合が高く、次いで「2歳」が 20.5%、「1歳」が 19.2%となっています。

「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「出生時」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「3歳」が 20.0%、「0歳」と「4歳」が 10.0%となっています。

「いずれも持っていない」では、「3歳」が 28.1%と最も割合が高く、次いで「2歳」が 26.3%、「1歳」が 19.3%となっており、「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」で最も割合の高い「出生時」は 1.8%と低い特徴がみられます。

Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査



## Ⅱ-2 就学児以上18歳以下の方への調査

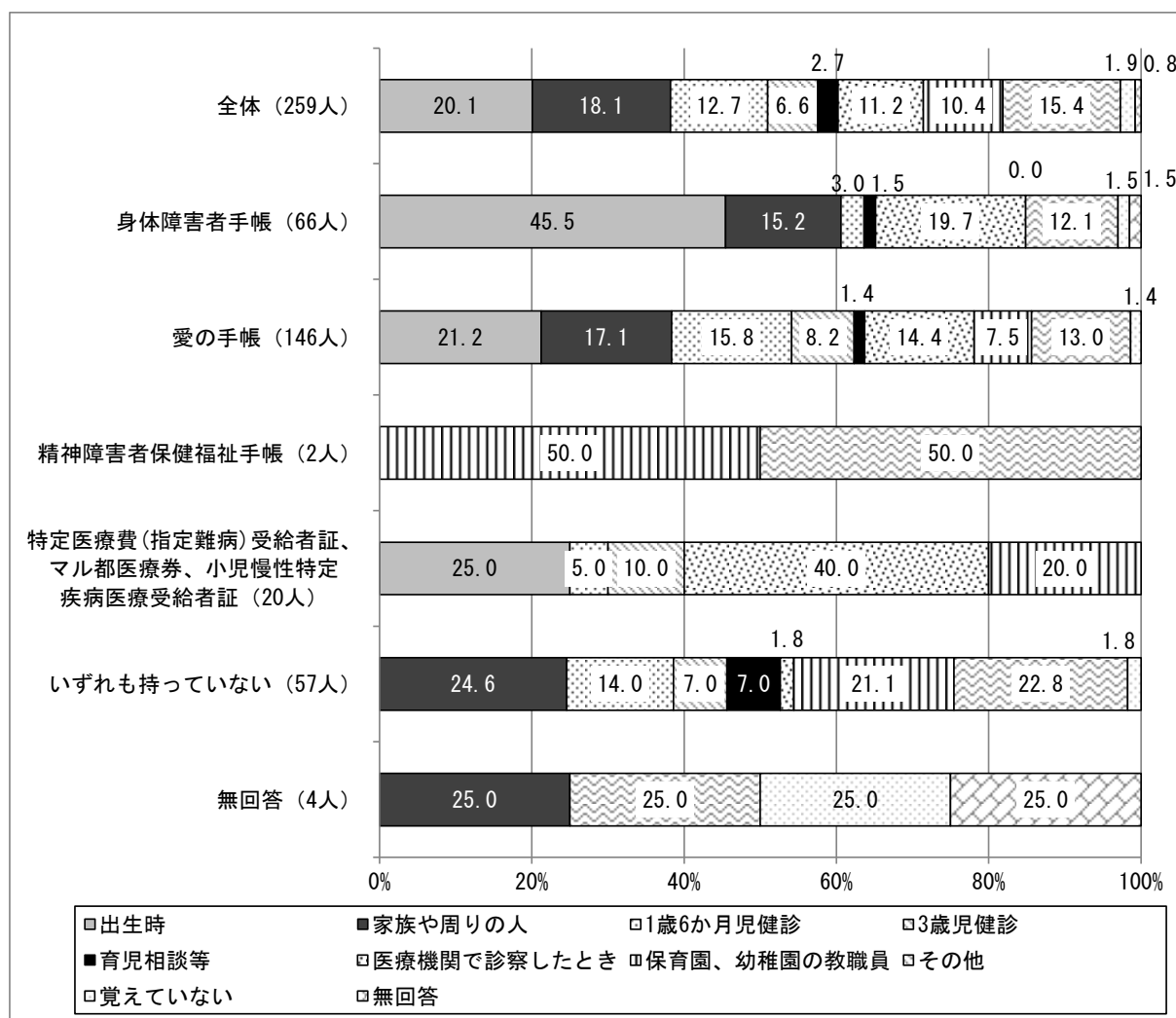
問7 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）について、最初に気付いたのはどのようなときでしたか。（1つに〇）

### <全体の傾向>

障害の発見について、「出生時」が20.1%と最も割合が高く、次いで「家族や周りの人」が18.1%、「その他」が15.4%となっています。

### <手帳種別の傾向>

「身体障害者手帳」、「愛の手帳」では「出生時」、「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「医療機関で診察したとき」、「いずれも持っていない」では「家族や周りの人」が最も高い割合となっています。



問8 お子さんには、どのような障害がありますか。（あてはまるものすべてに○）

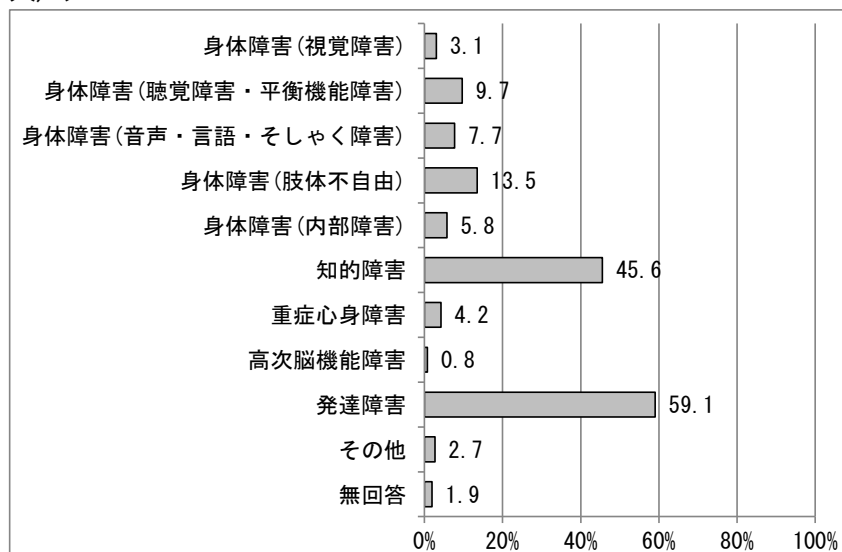
＜全体の傾向＞

子どもの障害について、「発達障害」が 59.1%と最も割合が高く、次いで「知的障害」が 45.6%、「身体障害（肢体不自由）」が 13.5%となっています。

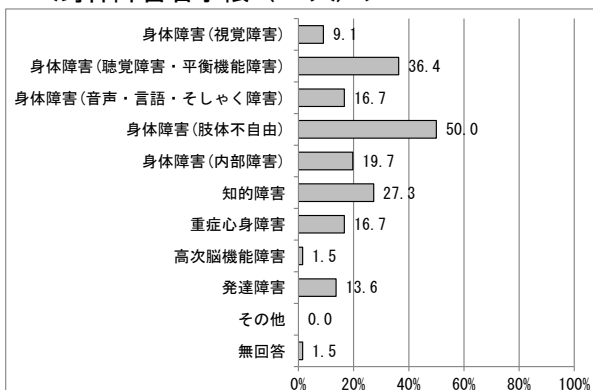
＜手帳種別の傾向＞

「愛の手帳」と「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「知的障害」と「発達障害」、「身体障害者手帳」では「身体障害（肢体不自由）」、「いずれも持っていない」では「発達障害」が比較的高い割合となっています。

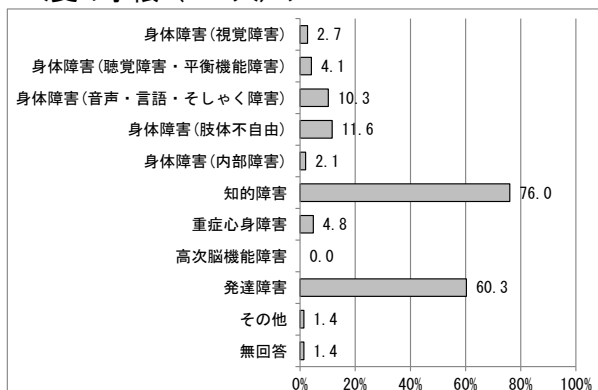
＜全体（259人）＞



＜身体障害者手帳（66人）＞

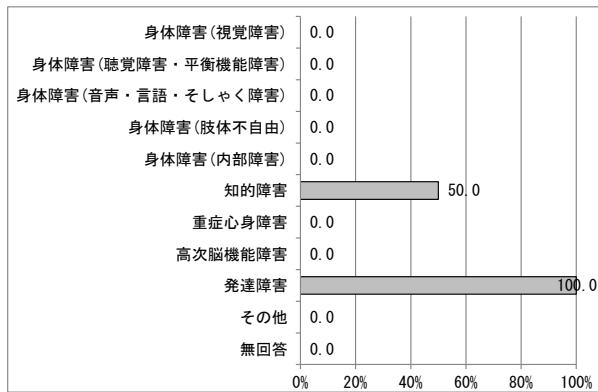


＜愛の手帳（146人）＞

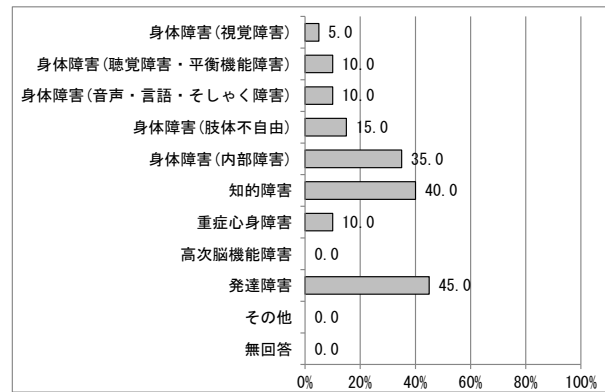


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

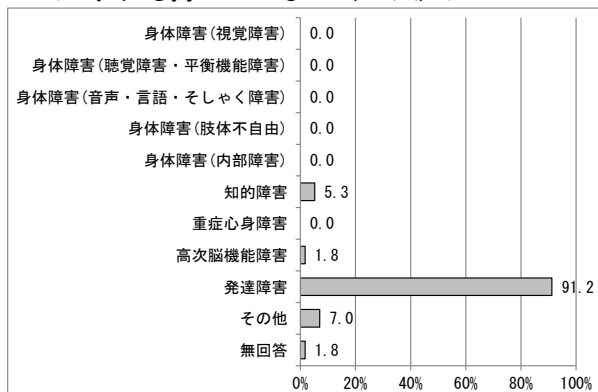
### <精神障害者保健福祉手帳 (2 人)>



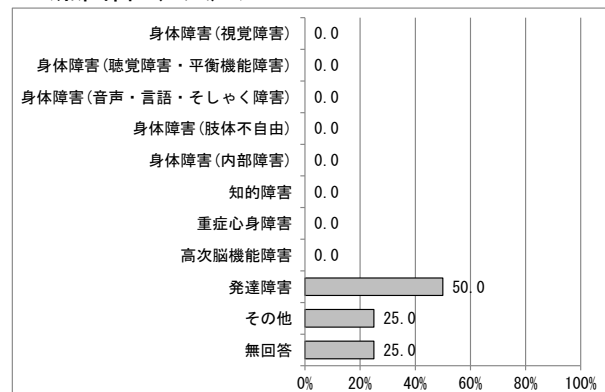
### <特定医療費 (指定難病) 受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (20 人)>



### <いずれも持っていない (57 人)>



### <無回答 (4 人)>





問9 問8で「9」と回答した方におたずねします。お子さんは次のような診断を受けていますか。

(あてはまるものすべてに○)

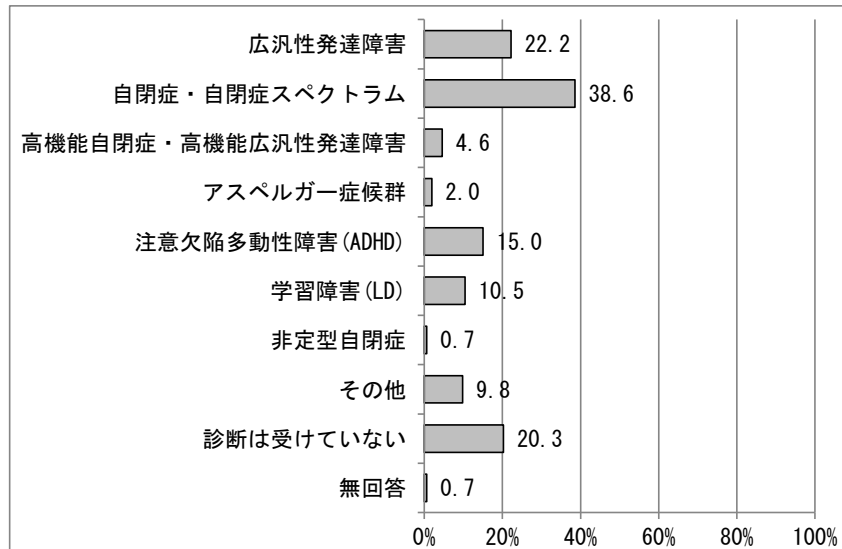
＜全体の傾向＞

発達障害の診断について、「自閉症・自閉症スペクトラム」が 38.6%と最も割合が高く、次いで「広汎性発達障害」が 22.2%、「診断は受けていない」が 20.3%となっています。

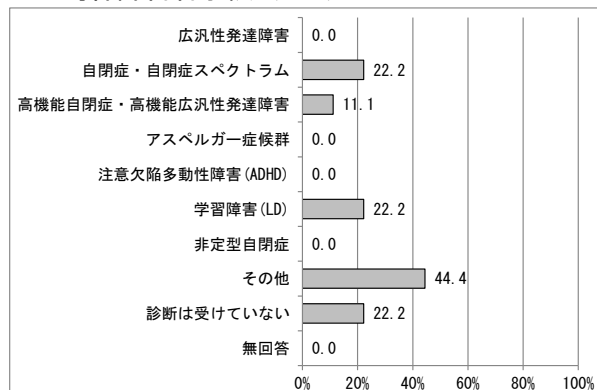
＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

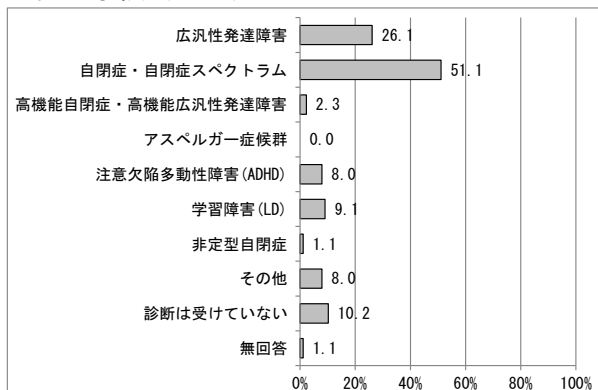
＜全体 (153 人) ＞



＜身体障害者手帳 (9 人) ＞

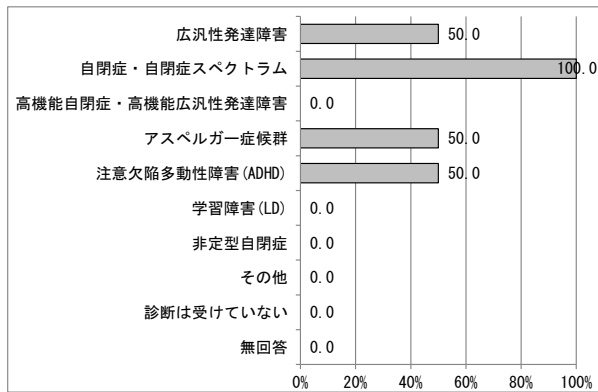


＜愛の手帳 (88 人) ＞

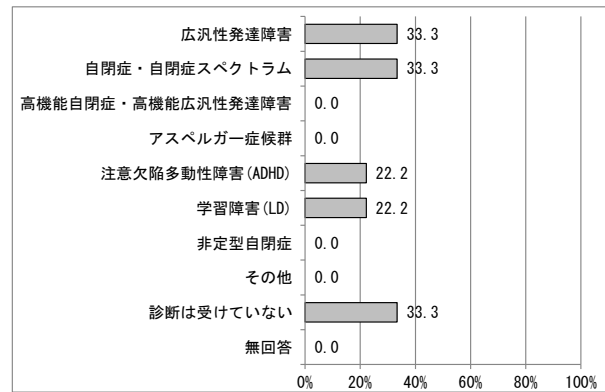


## Ⅱ-2 就学児以上 18 歳以下の方への調査

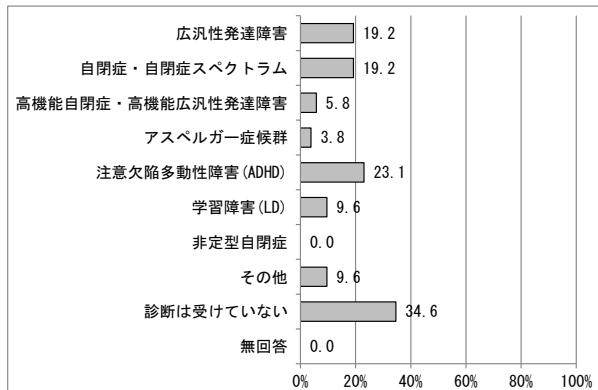
### <精神障害者保健福祉手帳 (2 人)>



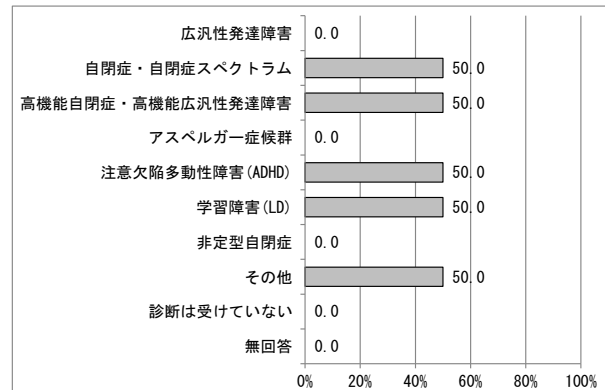
### <特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (9 人)>



### <いずれも持っていない (52 人)>



### <無回答 (2 人)>



困りごとの相談、介助者への支援について

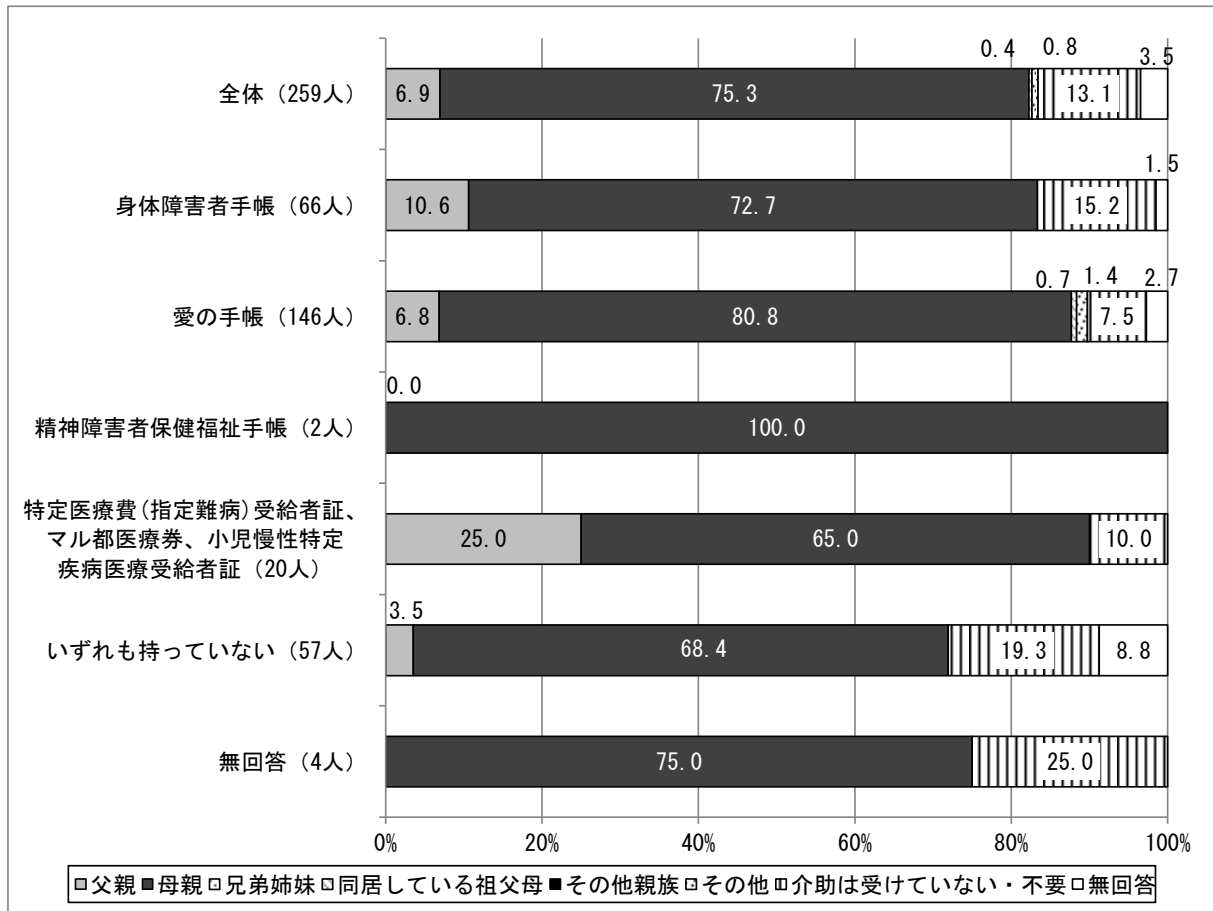
問 10 お子さんを主に介助している方（主な介助者）はどなたですか。（1つに○）

＜全体の傾向＞

主な介助者について、「母親」が 75.3%と最も割合が高く、次いで「介助は受けていない」が 13.1%、「父親」が 6.9%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳の種別でも「母親」の割合が最も高くなっていますが、「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「父親」が 25.0%となっており、「父親」の割合が比較的多い特徴がみられます。



## Ⅱ-2 就学児以上18歳以下の方への調査

問11 問10で「1」から「5」のいずれかに回答した方におたずねします。主な介助者をサポートしてくれる親族・知人の方はいますか。（主なもの2つまでに○）

### <全体の傾向>

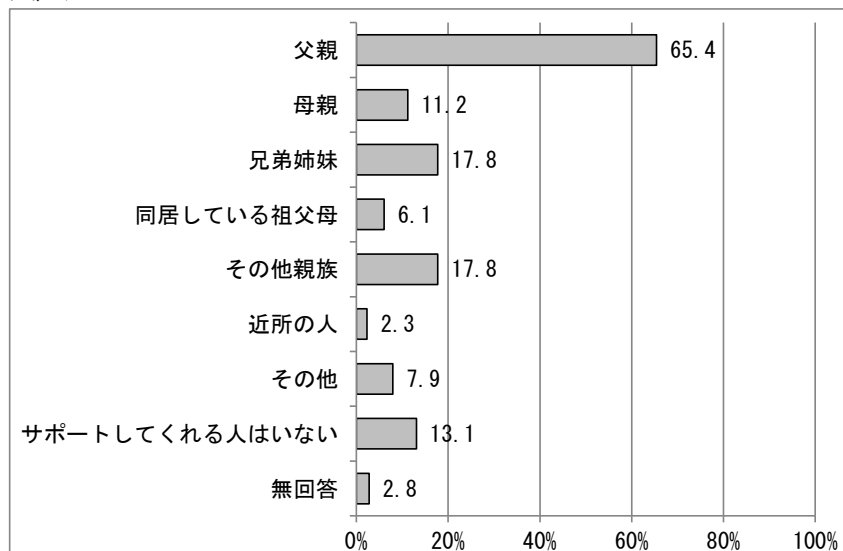
主な介助者のサポートについて、「父親」が65.4%と最も割合が高く、次いで「兄弟姉妹」と「その他親族」が17.8%、「サポートしてくれる人はいない」が13.1%となっています。

### <手帳種別の傾向>

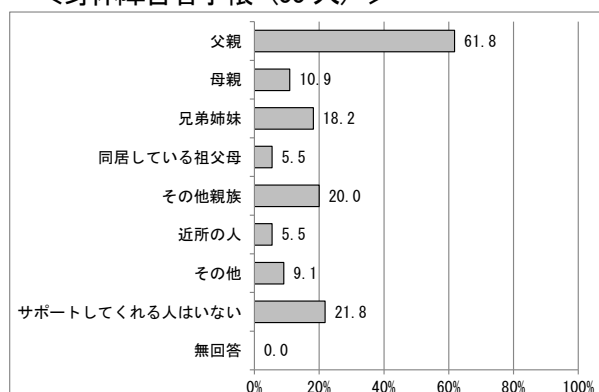
「父親」が「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「いずれも持っていない」で60%以上となっています。

また、「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「父親」が44.4%と最も割合が高く、次いで「サポートしてくれる人はいない」が27.8%、「母親」と「その他親族」が16.7%となっています。

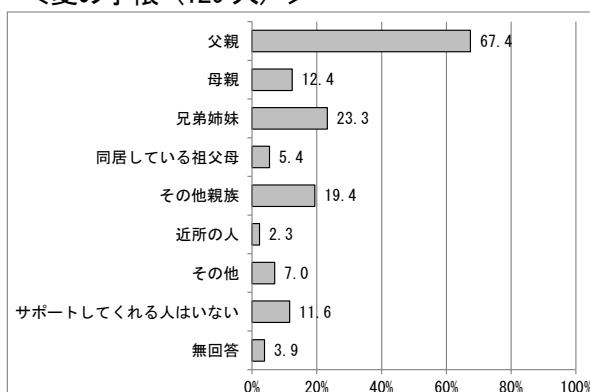
### <全体（214人）>



### <身体障害者手帳（55人）>

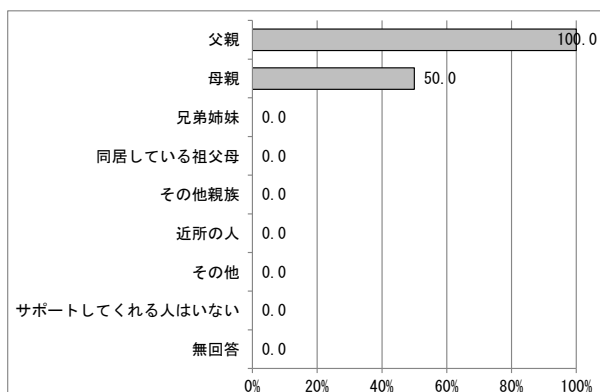


### <愛の手帳（129人）>

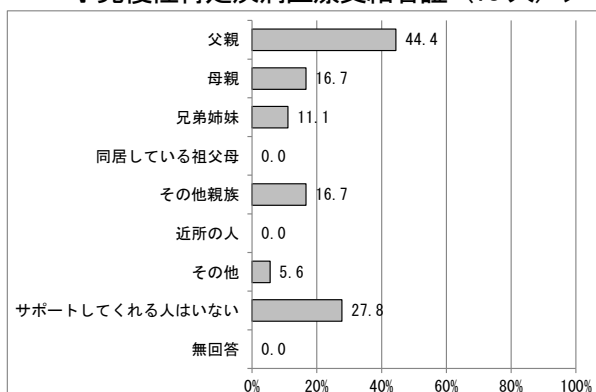


Ⅱ-2 就学児以上18歳以下の方への調査

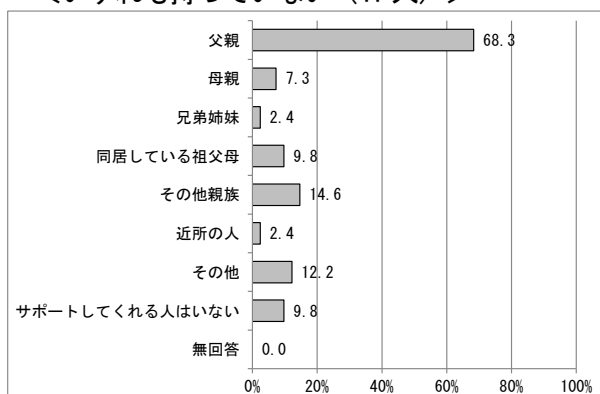
<精神障害者保健福祉手帳(2人)>



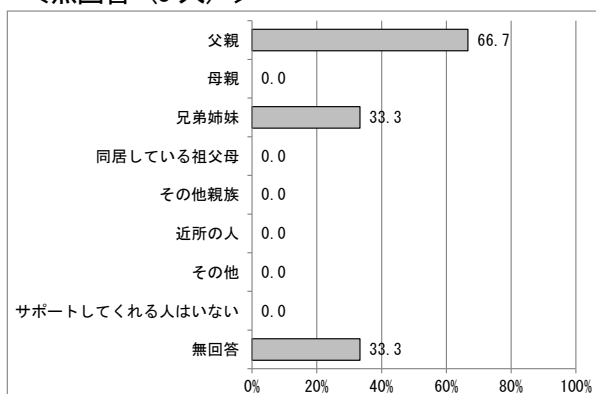
<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(18人)>



<いずれも持っていない(41人)>



<無回答(3人)>



## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### 問 12 子育てについて、困っていることはありますか。（主なもの2つまでに○）

#### <全体の傾向>

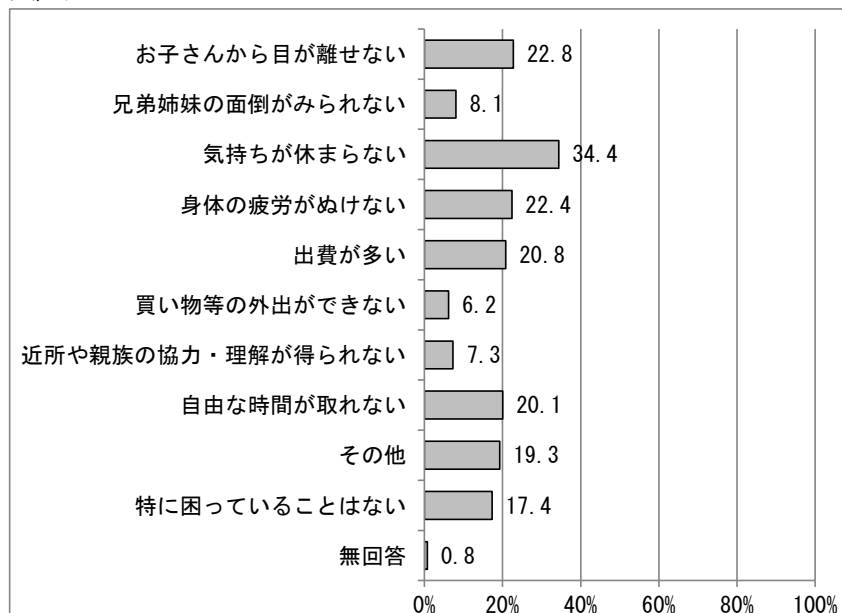
子育てで困っていることについて、「気持ちが休まらない」が 34.4%と最も割合が高く、次いで「お子さんから目が離せない」が 22.8%、「身体の疲労がぬけない」が 22.4%となっています。

#### <手帳種別の傾向>

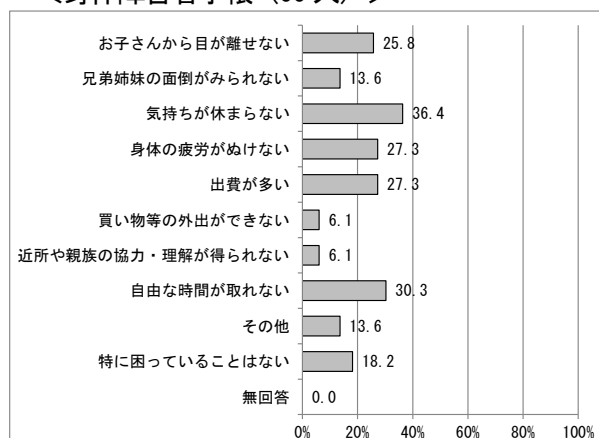
「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「いずれも持っていない」では、「気持ちが休まらない」が最も割合が高く、「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「お子さんから目が離せない」が 35.0%と最も高くなっています。

また、「身体障害者手帳」では「出費が多い」が 27.3%、「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「近所や親族の協力・理解が得られない」が 25.0%と比較的高い割合となっています。

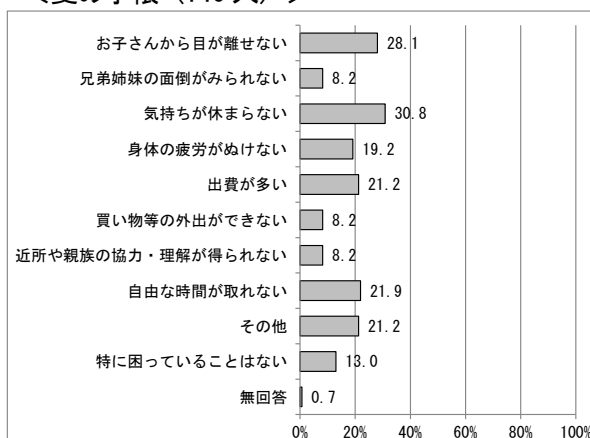
#### <全体 (259 人) >



#### <身体障害者手帳 (66 人) >

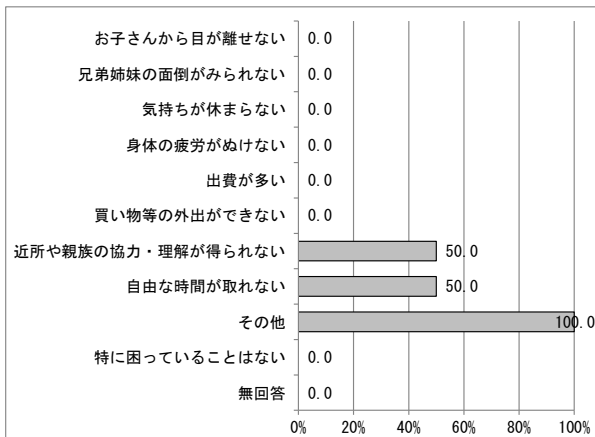


#### <愛の手帳 (146 人) >

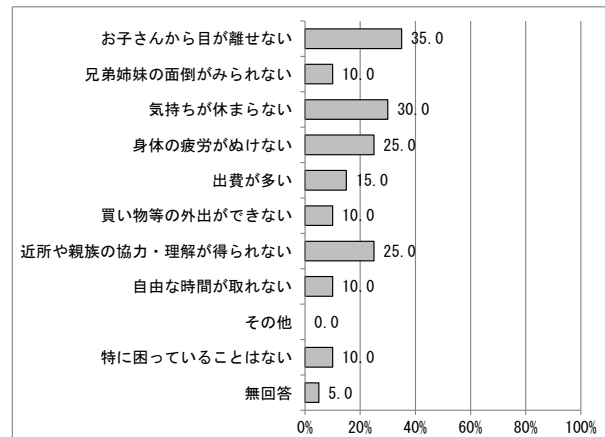


Ⅱ-2 就学児以上18歳以下の方への調査

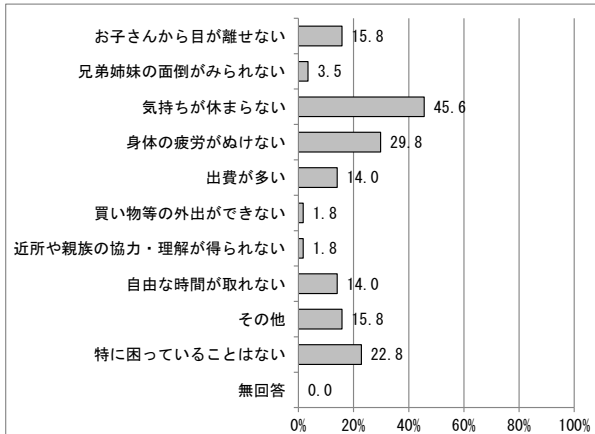
<精神障害者保健福祉手帳(2人)>



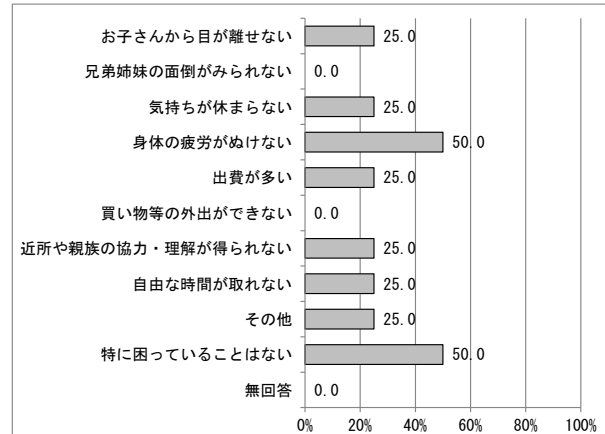
<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(20人)>



<いずれも持っていない(57人)>



<無回答(4人)>



## Ⅱ-2 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 13 家族や知人以外で、日常生活の中で困ったときの相談先はどこですか。

(主なものを2つまでに○)

### <全体の傾向>

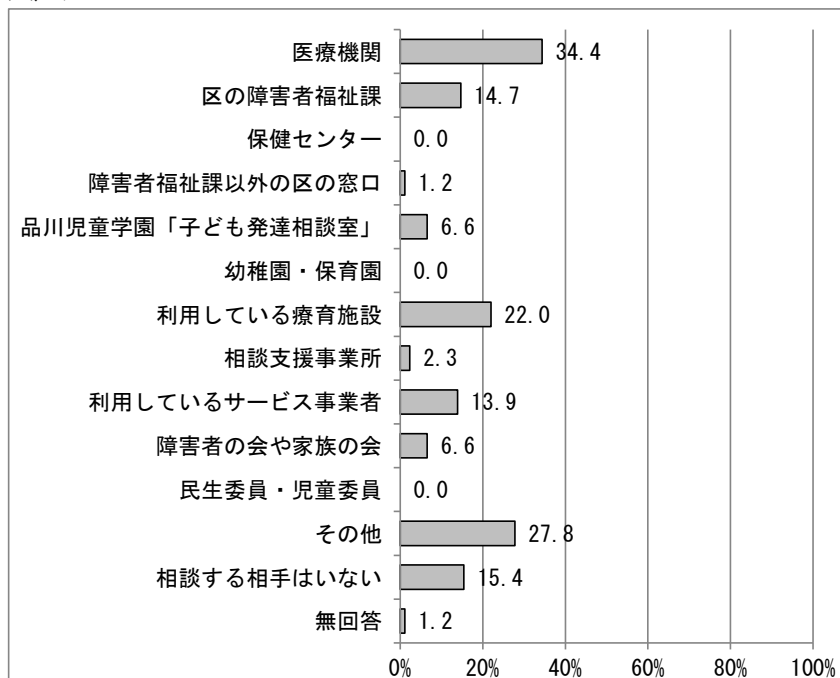
家族や知人以外の相談先について、「医療機関」が 34.4%と最も割合が高く、次いで「その他」が 27.8%、「利用している療育施設」が 22.0%、「区の障害者福祉課」が 14.7%となっています。また、「相談する相手はいない」が 15.4%となっています。

### <手帳種別の傾向>

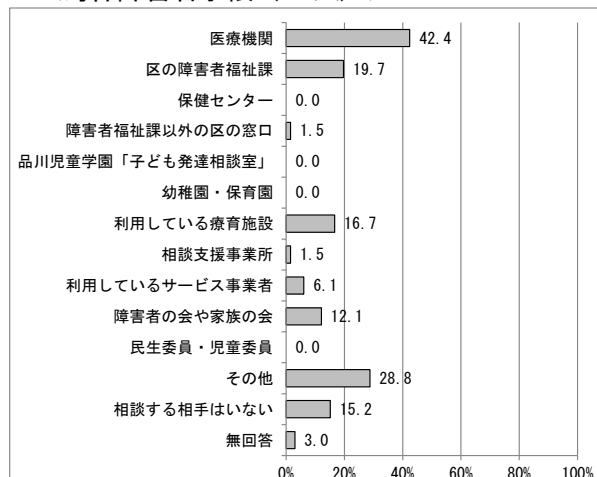
「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「医療機関」が最も割合が高く、「いずれも持っていない」では「利用している療育施設」が 35.1%と最も割合が高くなっています。

また、「愛の手帳」では「相談する相手はいない」が 19.9%と比較的高い割合となっています。

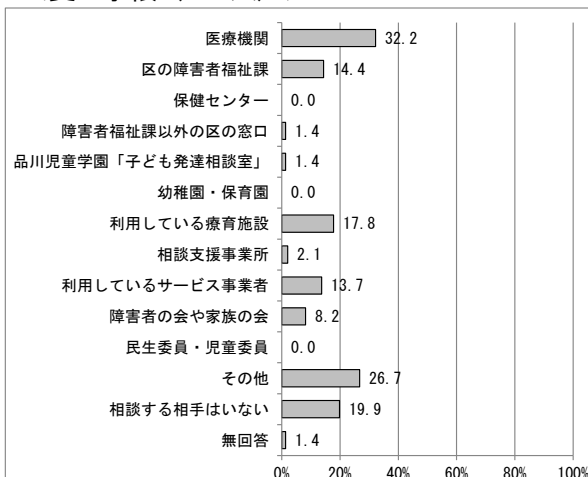
### <全体 (259 人) >



### <身体障害者手帳 (66 人) >

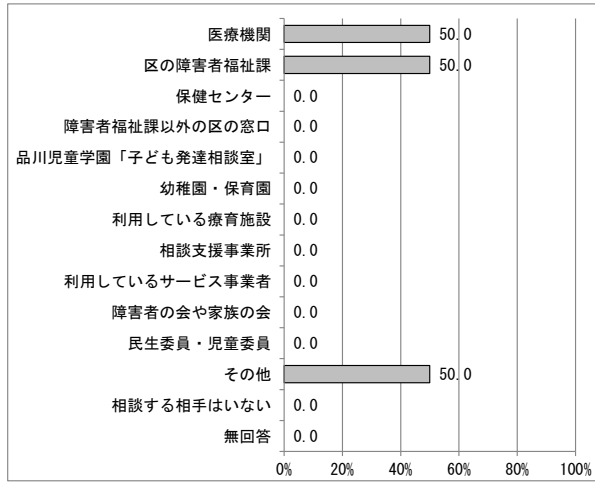


### <愛の手帳 (146 人) >

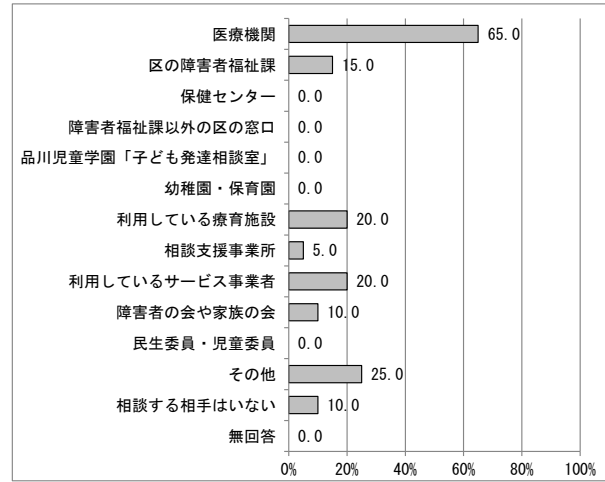




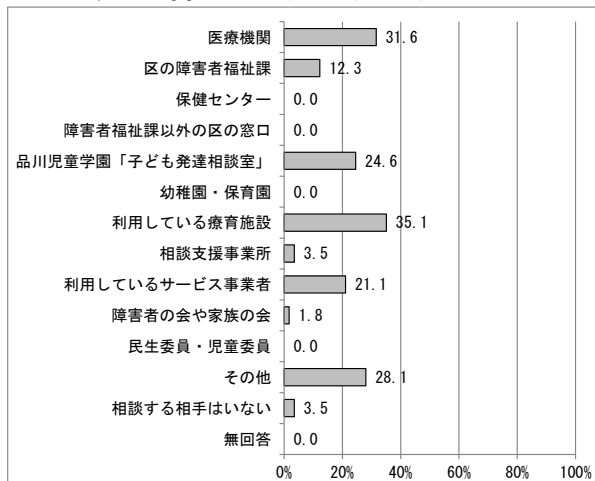
<精神障害者保健福祉手帳(2人)>



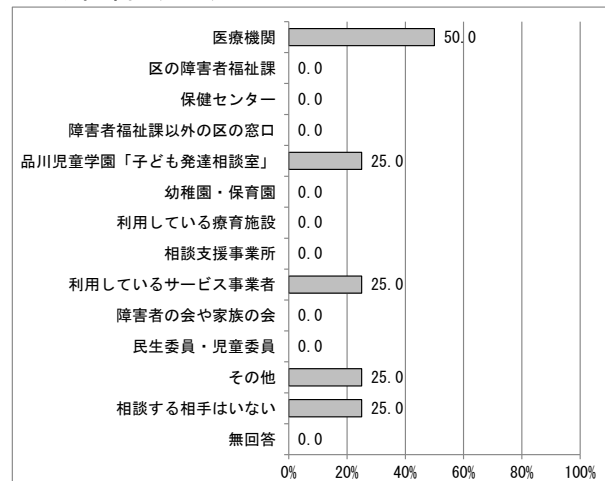
<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(20人)>



<いずれも持っていない(57人)>



<無回答(4人)>



## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 14 問 13 で「1」から「12」と回答した方におたずねします。

① 主な相談内容は何ですか。具体的にお書きください。

主な相談内容について、「発達や障害、問題行動のことについて」「教育・療育、学校生活について」の回答が多くみられます。

分 類	回答数
発達や障害、問題行動のことについて	67
教育・療育、学校生活について	56
日常の子育てについて	42
行政支援・情報について	31
他者とのコミュニケーションについて	29
日常生活について	24
進路・将来のことについて	15
保護者の支援について	5
病気時の対応について	4
福祉サービスについて	4
兄弟姉妹の世話について	2
その他	20

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

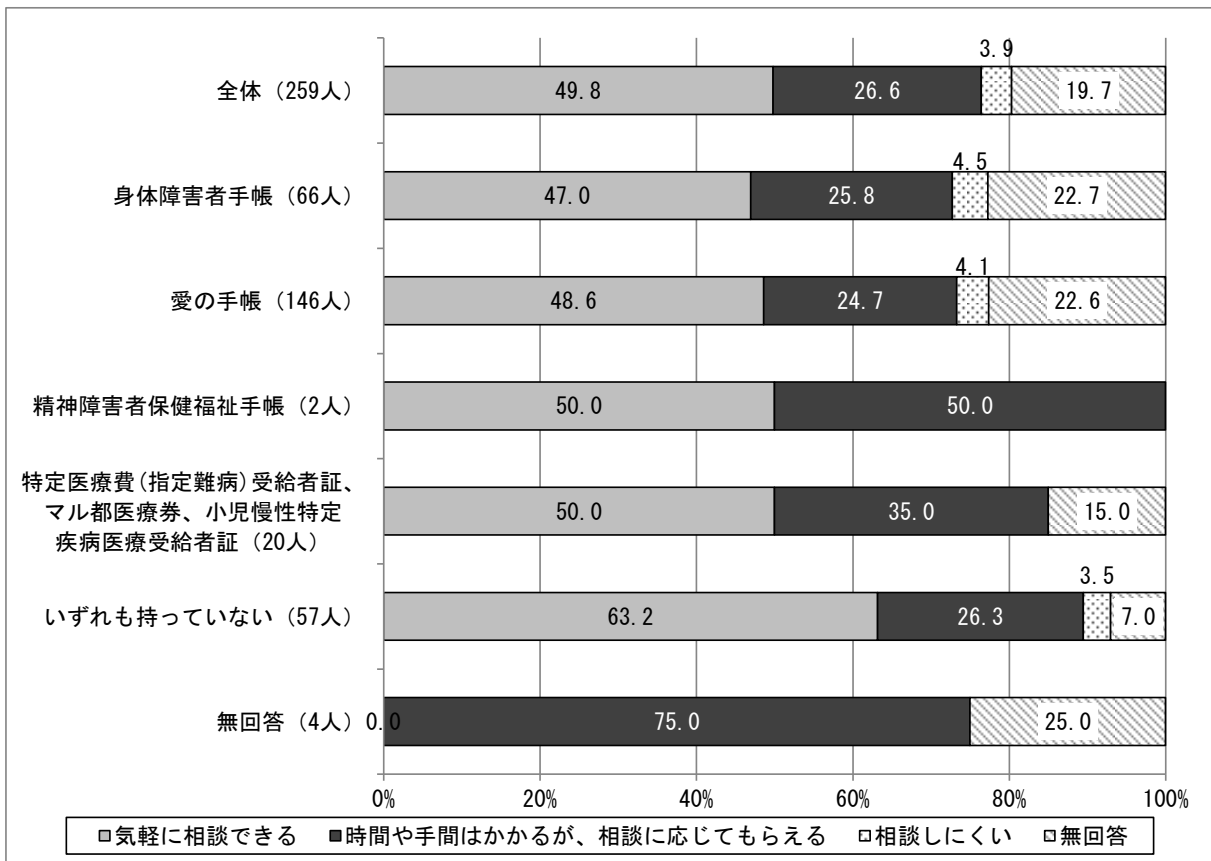
② その相談先は、相談しやすいですか。（1つに〇）

＜全体の傾向＞

相談のしやすさについて、「気軽に相談できる」が 49.8%と最も割合が高く、次いで「時間や手間はかかるが、相談に応じてもらえる」が 26.6%、「相談しにくい」が 3.9%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

- ③ ②で「3」と回答した方におたずねします。「相談しにくい」と感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

相談しにくい理由について「担当者が多忙」が4件、「きちんと理解されない」と「相談する時間がない」が3件みられます。

分 類	回答数
担当者が多忙	4
きちんと理解されない	3
相談する時間がない	3
その他	9

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

問 15 区や事業者などの相談窓口に期待することはありますか。（主なもの2つまでに○）

＜全体の傾向＞

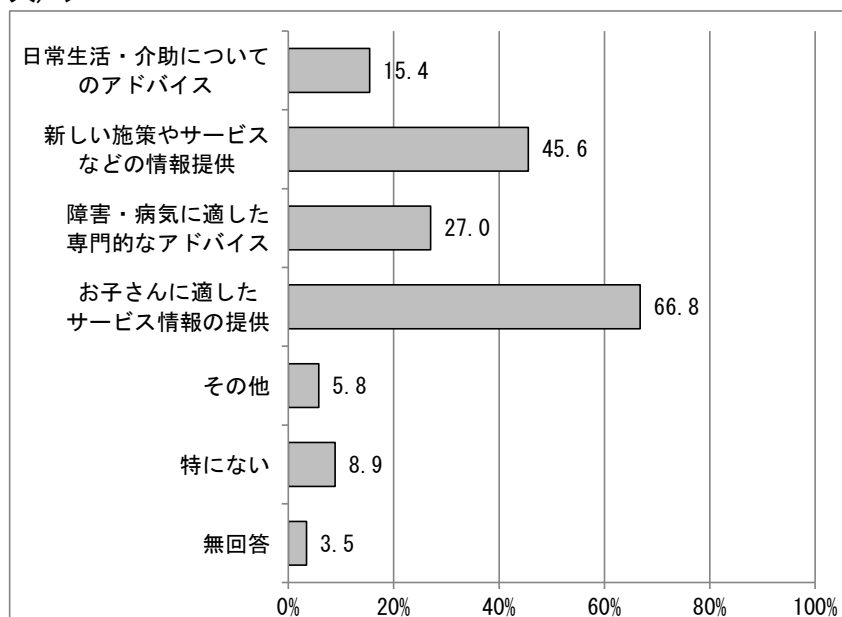
区や事業者などの相談窓口に期待することについて、「お子さんに適したサービス情報の提供」が 66.8%と最も割合が高く、次いで「新しい施策やサービスなどの情報提供」が 45.6%、「障害・病気に適した専門的なアドバイス」が 27.0%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

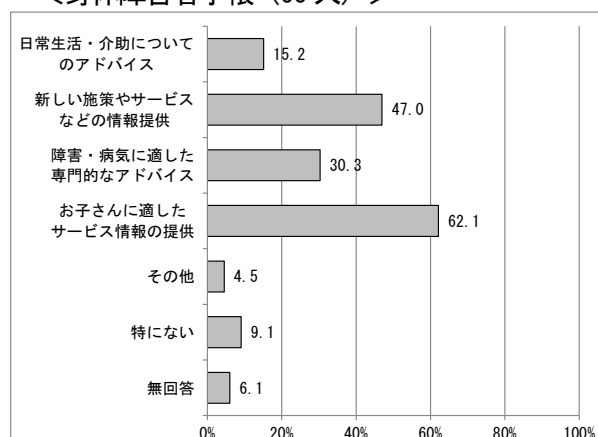
「身体障害者手帳」と「愛の手帳」、「いずれも持っていない」では、「お子さんに適したサービス情報の提供」が最も割合が高く、次いで「新しい施策やサービスなどの情報提供」、「障害・病気に適した専門的なアドバイス」となっています。

「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「新しい施策やサービスなどの情報提供」が 60.0%と最も割合が高く、次いで「お子さんに適したサービス情報の提供」が 55.0%、「日常生活・介助についてのアドバイス」と「障害・病気に適した専門的なアドバイス」が 10.0%となっています。

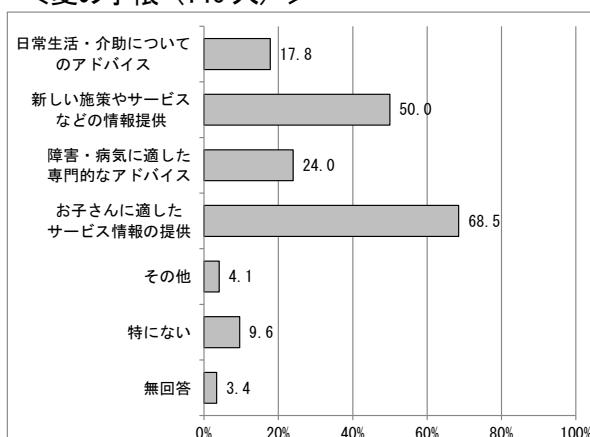
＜全体（259人）＞



＜身体障害者手帳（66人）＞

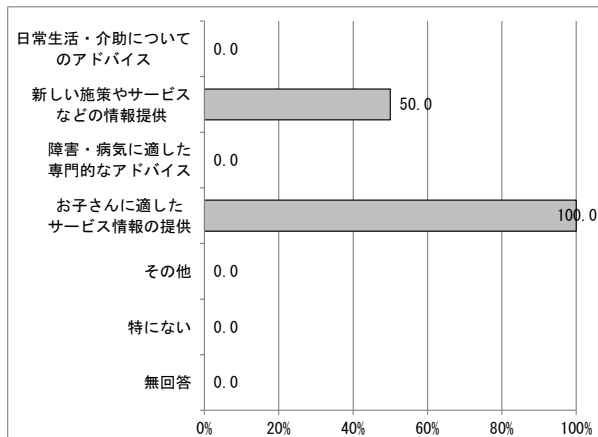


＜愛の手帳（146人）＞

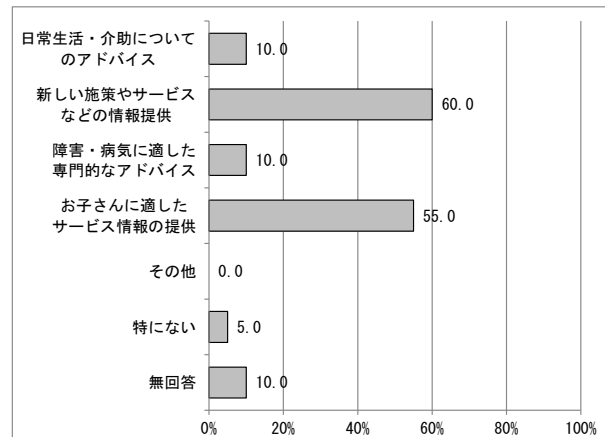


## Ⅱ-2 就学児以上 18歳以下の方への調査

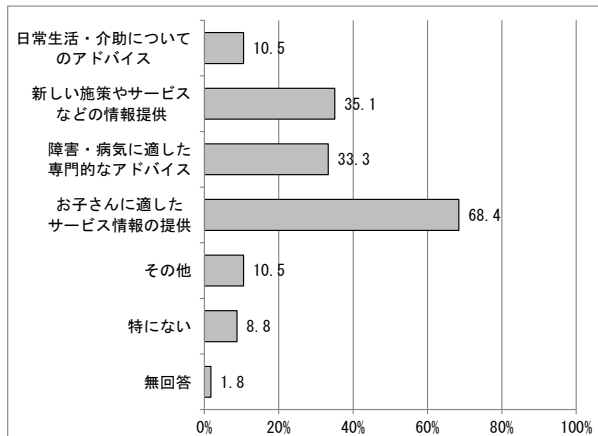
### <精神障害者保健福祉手帳(2人)>



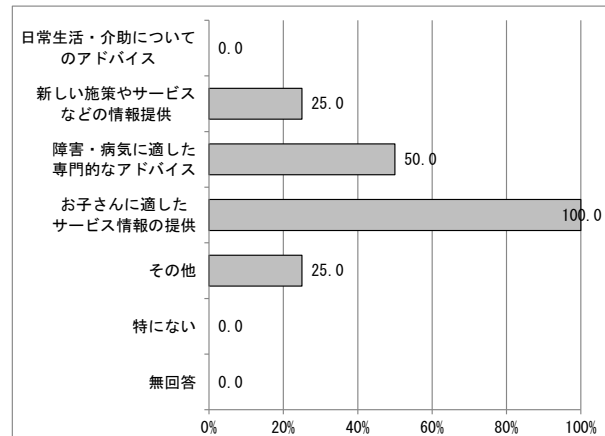
### <特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(20人)>



### <いずれも持っていない(57人)>



### <無回答(4人)>



問16 主な介助者のために、必要な支援は何ですか。（主なもの2つまでに○）

＜全体の傾向＞

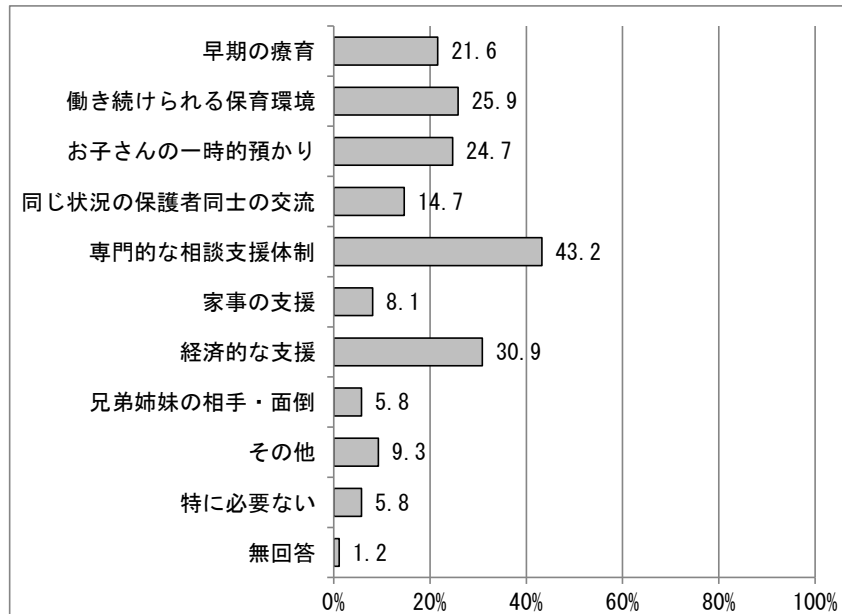
主な介助者への必要な支援について、「専門的な相談支援体制」が43.2%と最も割合が高く、次いで「経済的な支援」が30.9%、「働き続けられる保育環境」が25.9%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

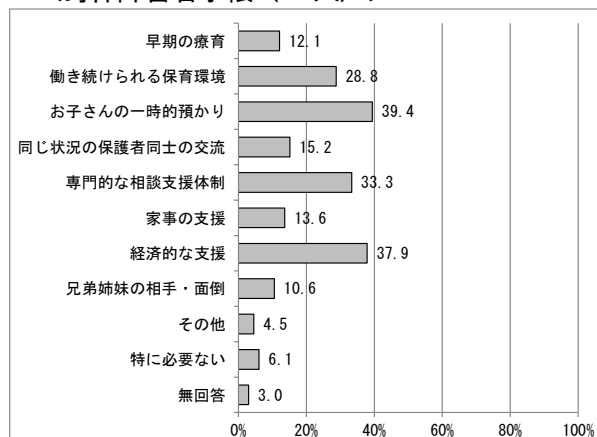
「身体障害者手帳」と「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「お子さんの一時的預かり」と「経済的な支援」が比較的高い割合となっています。

「愛の手帳」と「いずれも持っていない」では「専門的な相談支援体制」が最も割合が高くなっています。

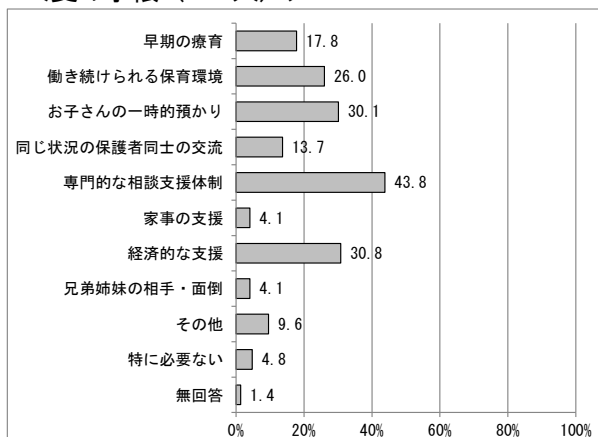
＜全体（259人）＞



＜身体障害者手帳（66人）＞

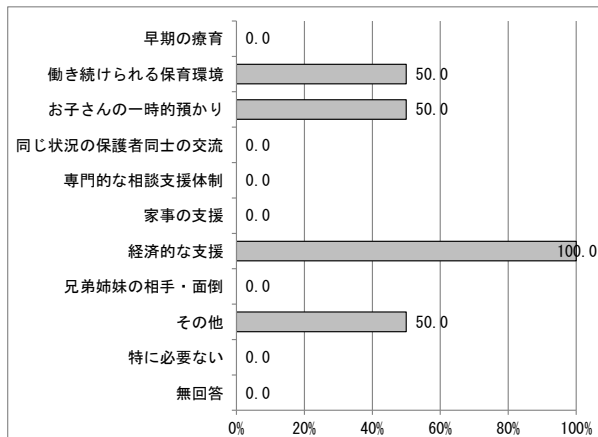


＜愛の手帳（146人）＞

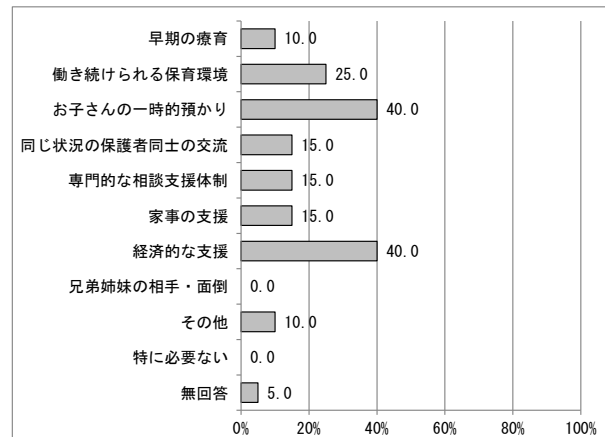


## Ⅱ-2 就学児以上 18歳以下の方への調査

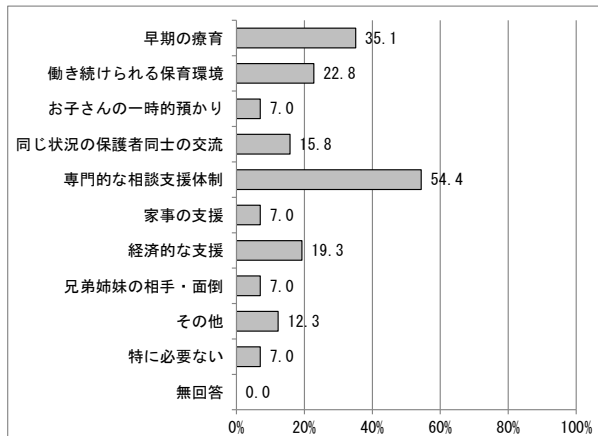
### <精神障害者保健福祉手帳(2人)>



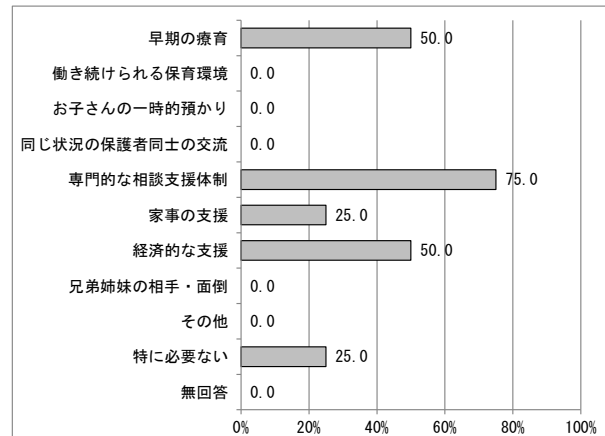
### <特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証(20人)>



### <いずれも持っていない(57人)>



### <無回答(4人)>





医療的ケアの必要なお子さんについて

問 17 お子さんは日常生活において、以下の医療的ケアを必要としていますか。

(あてはまるものすべてに○)

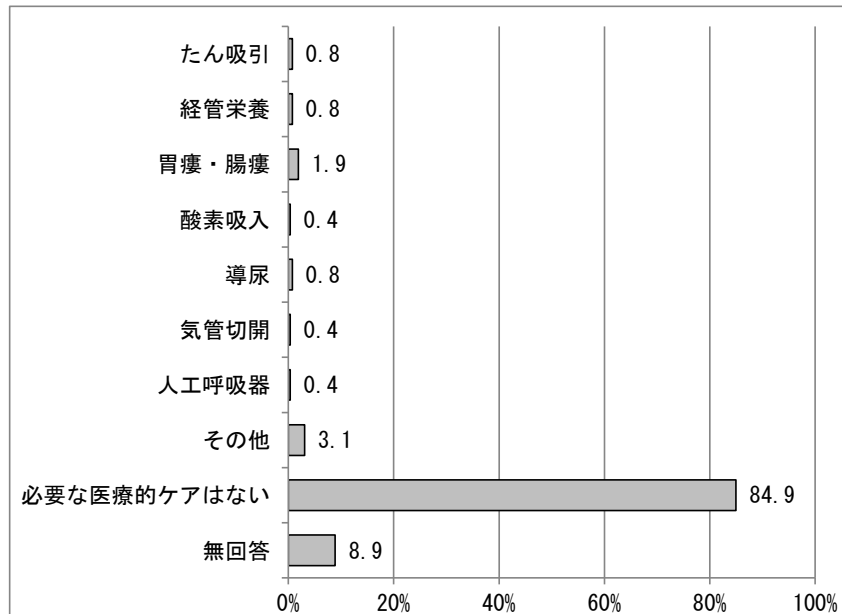
＜全体の傾向＞

必要な医療的ケアについて、「必要な医療的ケアはない」が 84.9%と最も割合が高く、次いで「その他」が 3.1%、「胃瘻・腸瘻」が 1.9%、「たん吸引」と「経管栄養」、「導尿」が 0.8%となっています。

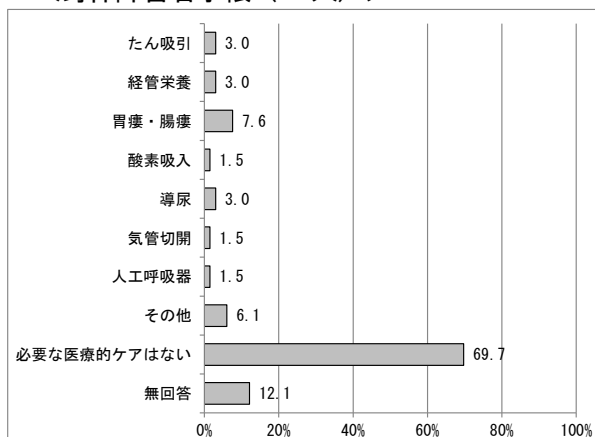
＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。

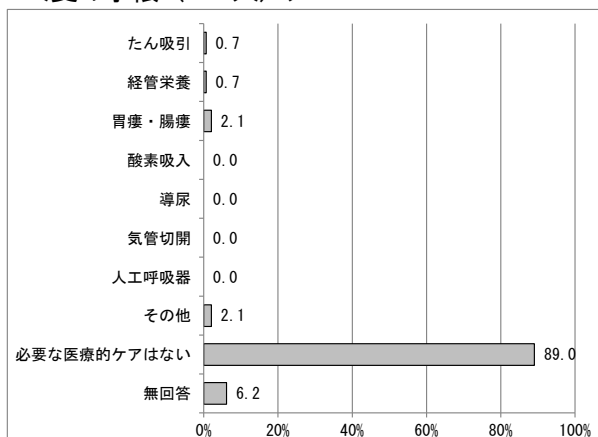
＜全体 (259 人) ＞



＜身体障害者手帳 (66 人) ＞

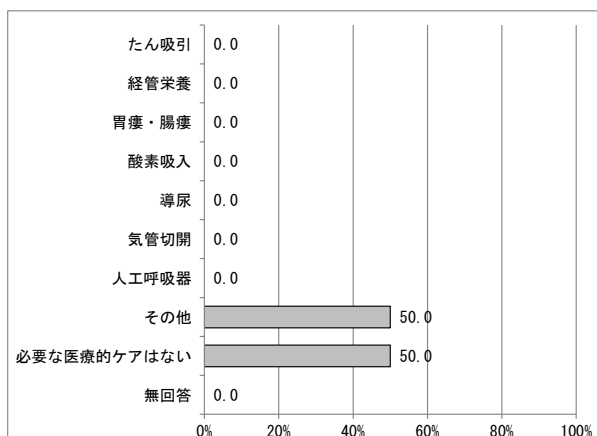


＜愛の手帳 (146 人) ＞

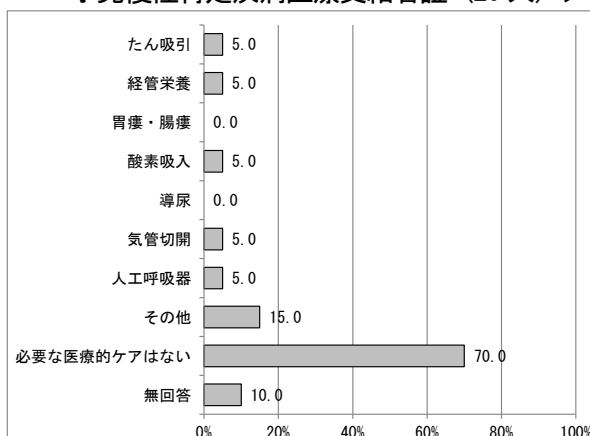


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

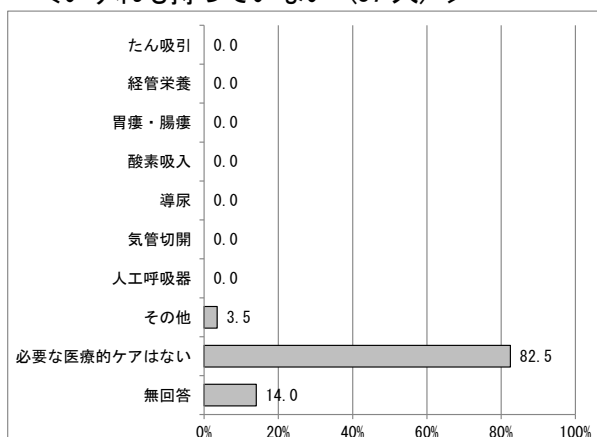
### <精神障害者保健福祉手帳 (2 人)>



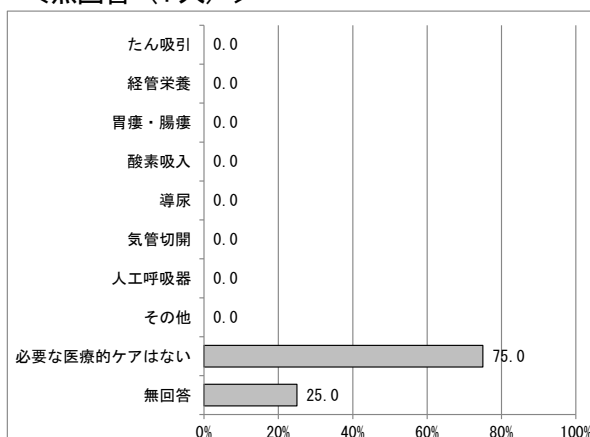
### <特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (20 人)>



### <いずれも持っていない (57 人)>



### <無回答 (4 人)>



問 18 問 17 で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。

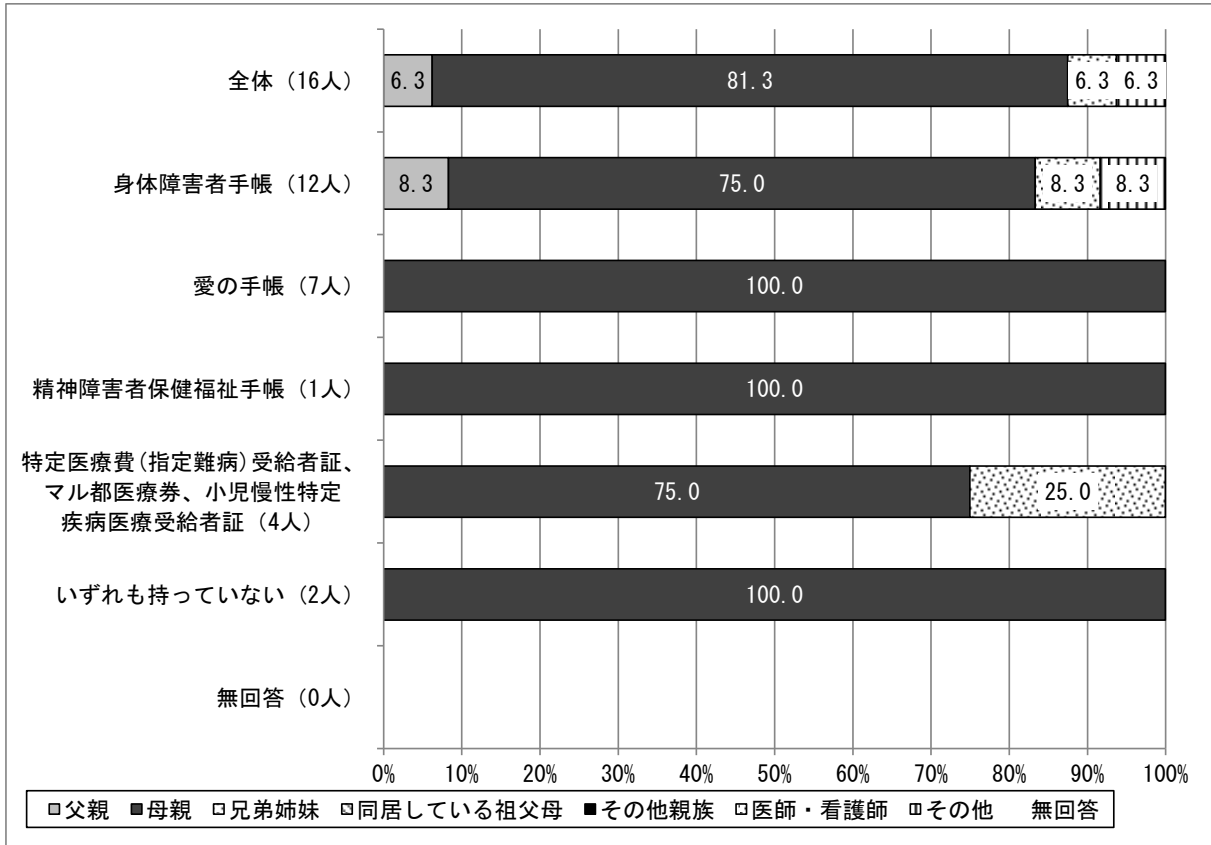
① 主に医療的ケアを行っているのはどなたですか。（1つに○）

＜全体の傾向＞

行っている医療的ケアについて「母親」が 81.3%と最も割合が高く、次いで「父親」「医師・看護師」と「その他」が 6.3%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

手帳種別の特徴はみられません。



## Ⅱ－2 就学児以上 18 歳以下の方への調査

- ② 医療的ケアの必要なお子さんの日常生活について、困っていること、今後の希望等がありましたら、ご自由にお書きください。

医療的ケア児の困りごと、今後の希望等について「一時預かり等の支援施設の不足について」と「医療的ケアの負担について」が3件、「リハビリ先の不足について」が2件みられます。

分 類	回答数
一時預かり等の支援施設の不足について	3
医療的ケアの負担について	3
リハビリ先の不足について	2
支援の内容、選択肢を説明してほしい	1
将来のことについて	1
経済的支援について	1
宿泊行事での見守り等の配慮	1
医療的ケアの有無に係わらず、必要な支援の実施	1

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

お子さんの進路・将来について

問19 お子さんの通学状況をお答えください。(1つに○)

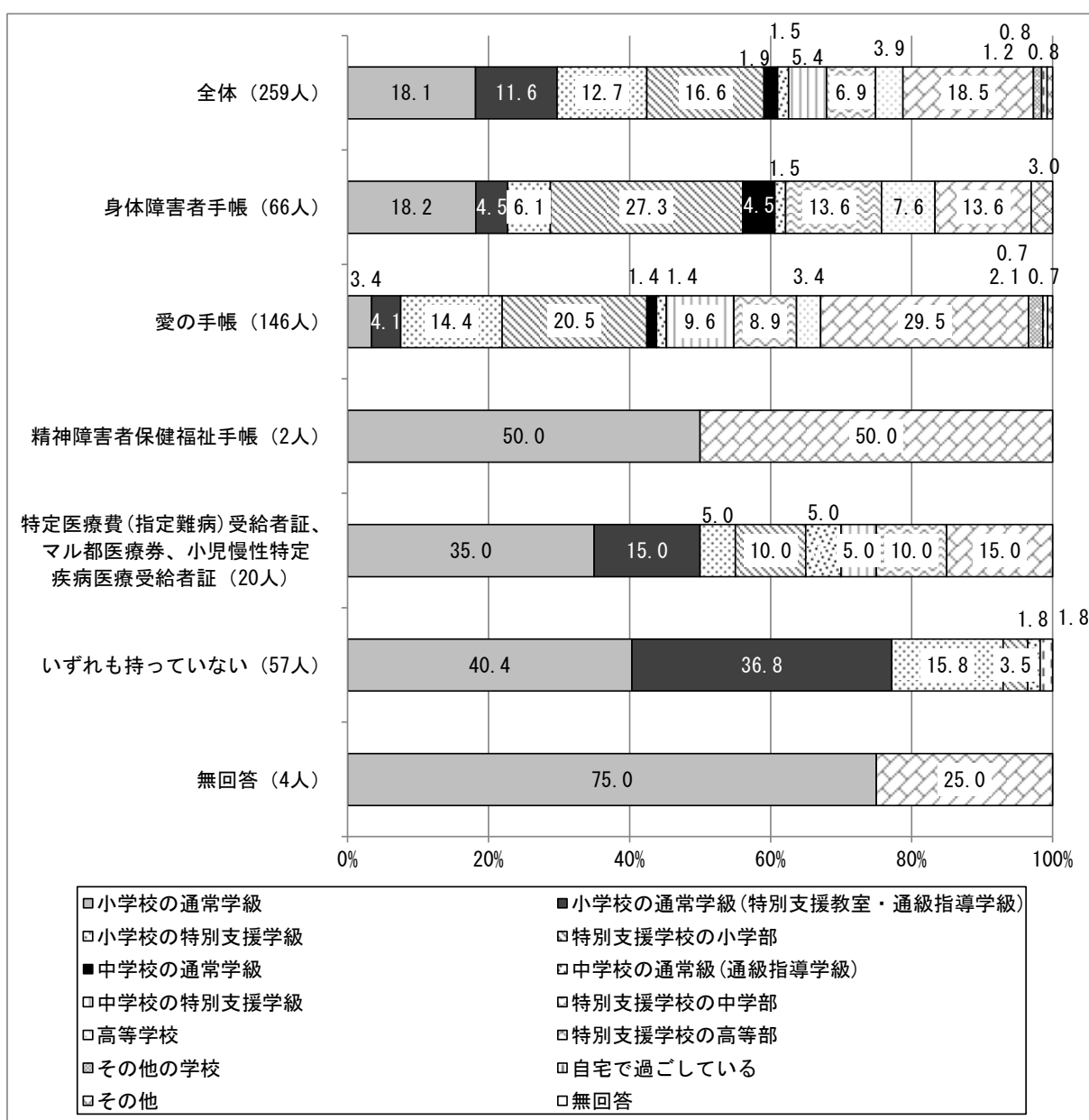
＜全体の傾向＞

通学状況について、「特別支援学校の高等部」が18.5%と最も割合が高く、次いで「小学校の通常学級」が18.1%、「特別支援学校の小学部」が16.6%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では「特別支援学校の小学部」が27.3%、「愛の手帳」では「特別支援学校の高等部」が29.5%と最も割合が高くなっています。

また、「特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」と「いずれも持っていない」では「小学校の通常学級」が最も割合が高く、次いで「小学校の通常学級(特別支援教室・通級指導学級)」となっています。



## Ⅱ-2 就学児以上18歳以下の方への調査

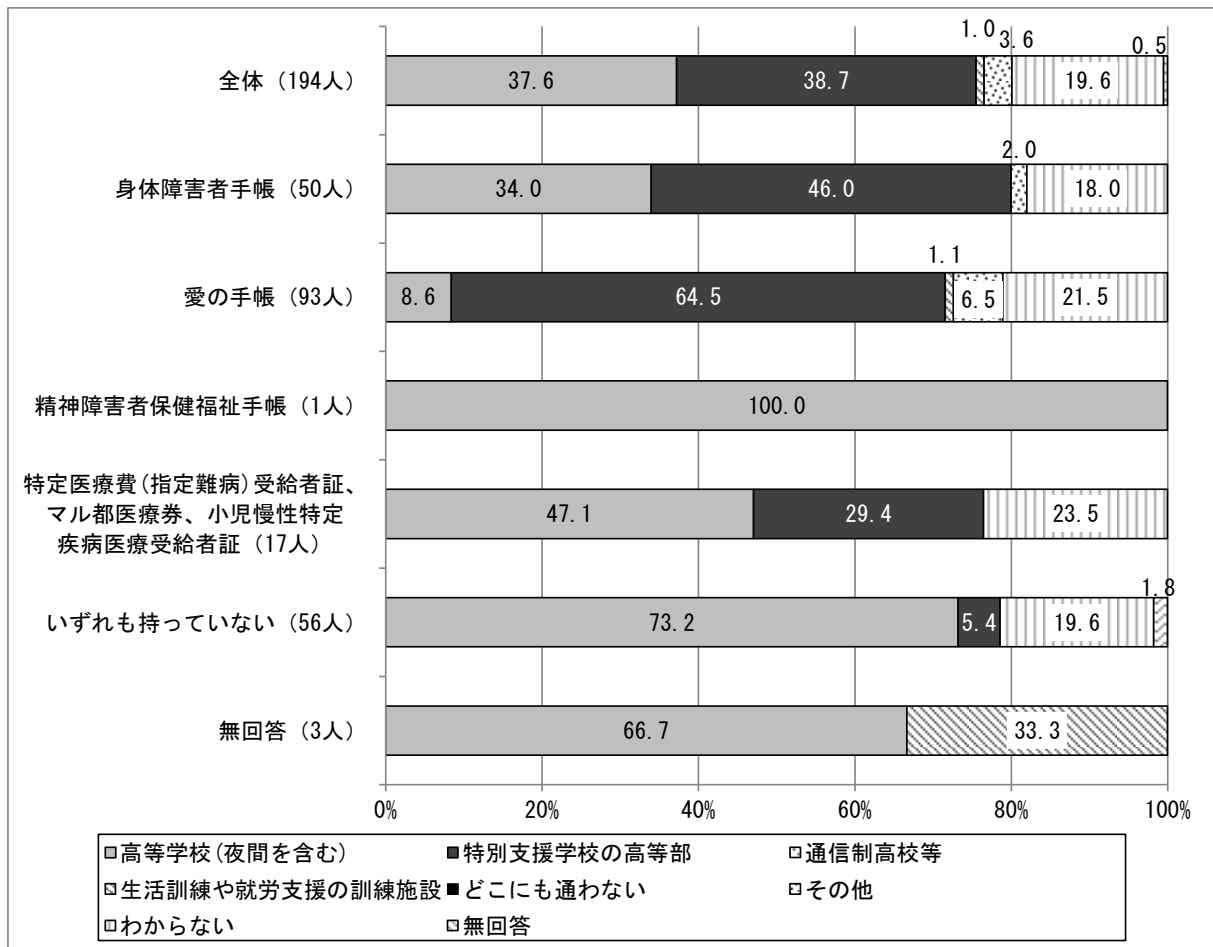
問20 問19で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。中学校（中学部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（1つに○）

### <全体の傾向>

中学校（中学部）卒業後に希望する進路について、「特別支援学校の高等部」が38.7%と最も割合が高く、次いで「高等学校（夜間を含む）」が37.6%、「わからない」が19.6%となっています。

### <手帳種別の傾向>

「身体障害者手帳」と「愛の手帳」では「特別支援学校の高等部」が最も割合が高く、「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」と「いずれも持っていない」では「高等学校（夜間を含む）」が最も割合が高くなっています。



問21 問19で「9」または「10」と回答した方におたずねします。高等学校（高等部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（1つに○）

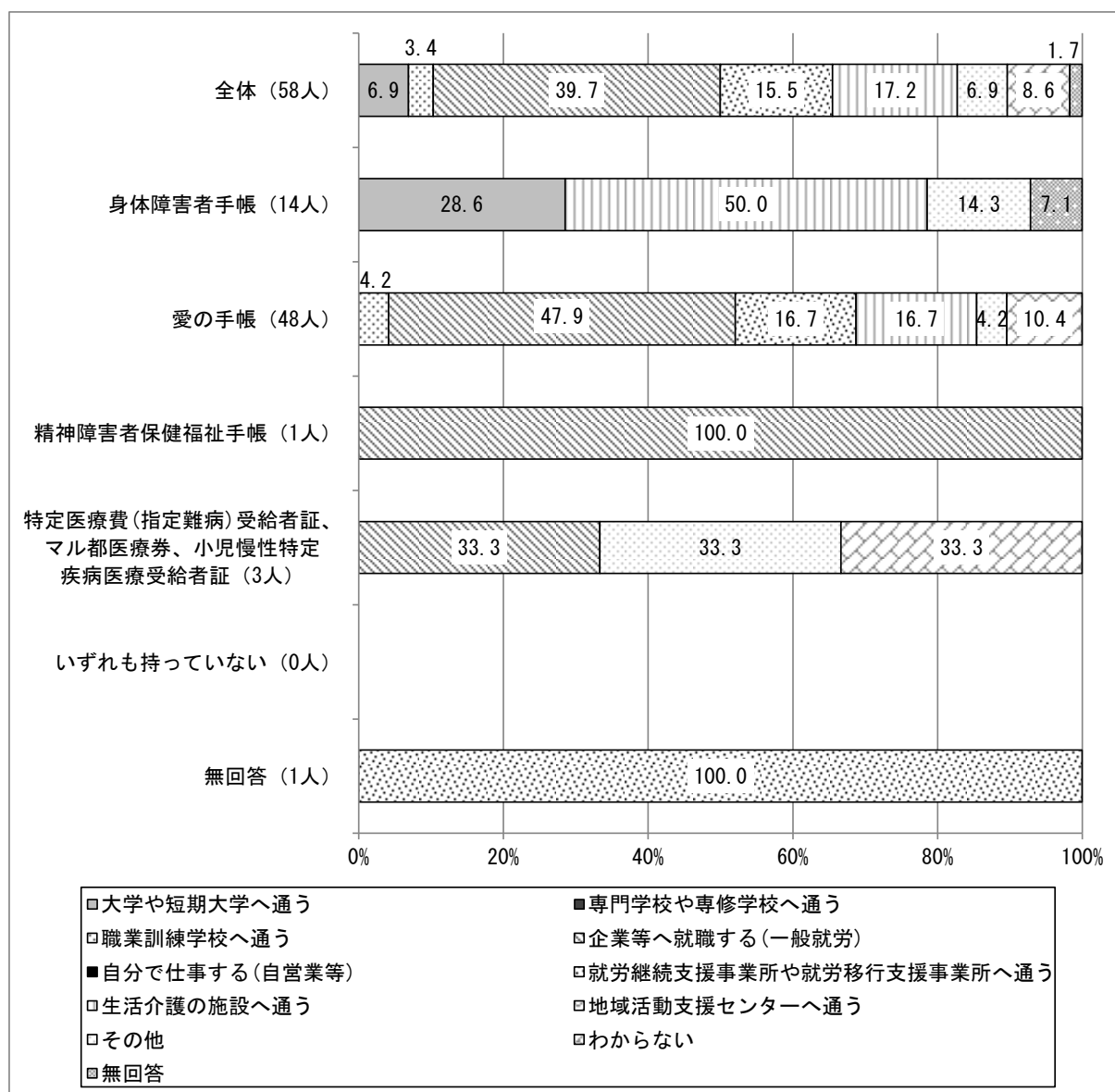
＜全体の傾向＞

高等学校（高等部）卒業後に希望する進路について、「企業等へ就職する（一般就労）」が39.7%と最も割合が高く、次いで「生活介護の施設へ通う」が17.2%、「就労継続支援事業所や就労移行支援事業所へ通う」が15.5%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では、「生活介護の施設へ通う」が50.0%と最も割合が高く、次いで「大学や短期大学へ通う」が28.6%、「その他」が14.3%となっています。

また、「愛の手帳」では、「企業等へ就職する（一般就労）」が47.9%と最も割合が高く、次いで「就労継続支援事業所や就労移行支援事業所へ通う」と「生活介護の施設へ通う」が16.7%、「わからない」が10.4%となっています。



## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問22 問19で「1」から「11」のいずれかに回答した方におたずねします。

① お子さんの現在の生活で、困っていることや心配していることはありますか。

(主なものを2つまでに○)

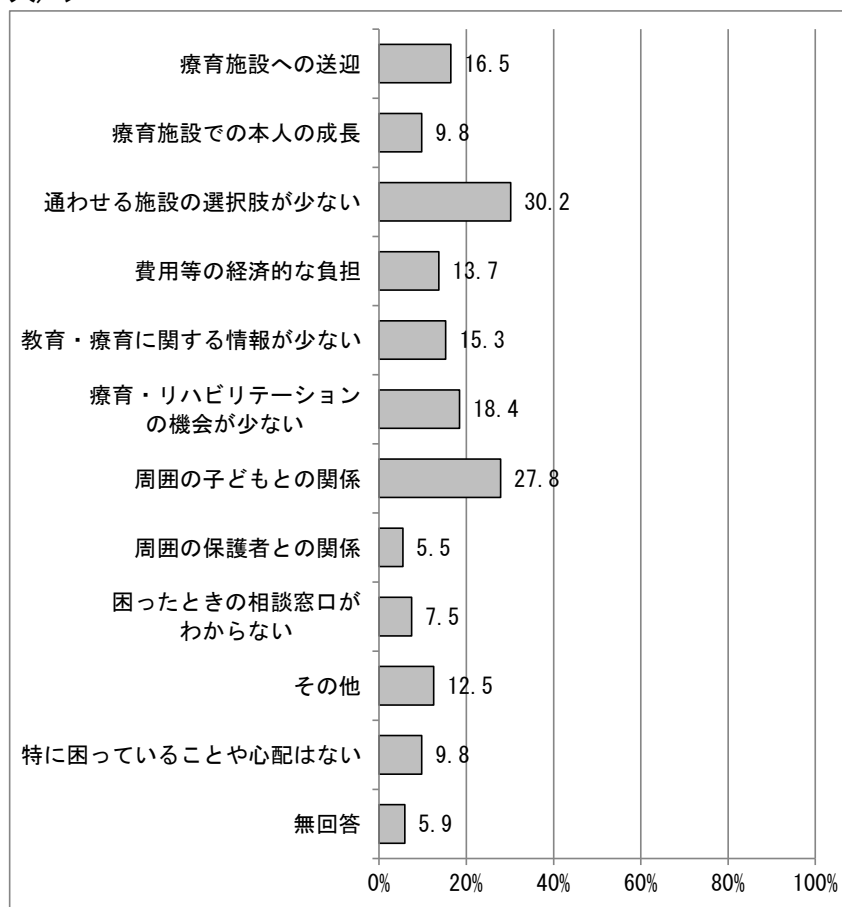
### <全体の傾向>

現在の生活で困っていることや心配なことについて、「通わせる施設の選択肢が少ない」が30.2%と最も割合が高く、次いで「周囲の子どもとの関係」が27.8%、「療育・リハビリテーションの機会が少ない」が18.4%となっています。

### <手帳種別の傾向>

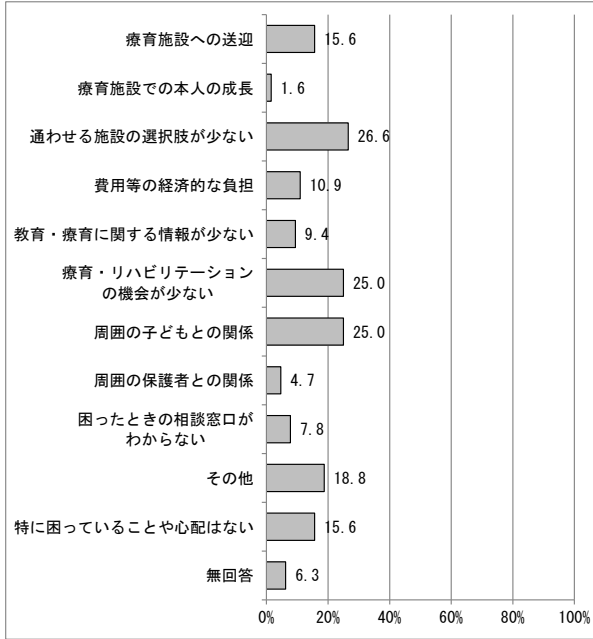
手帳種別の特徴はみられません。

### <全体 (259人) >

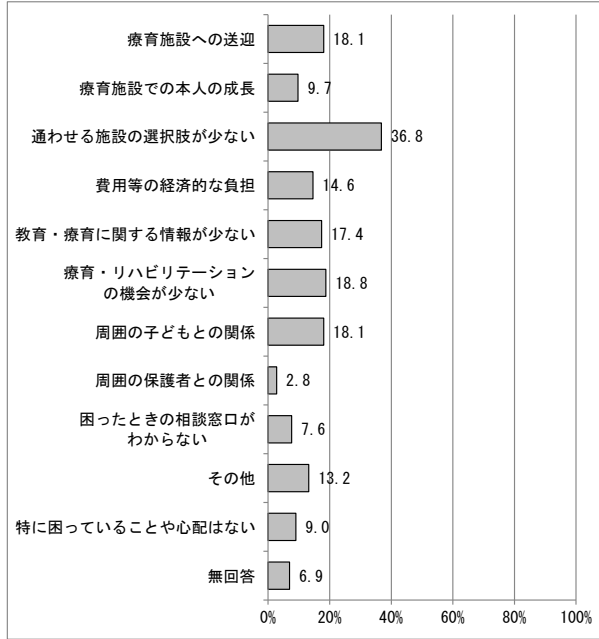




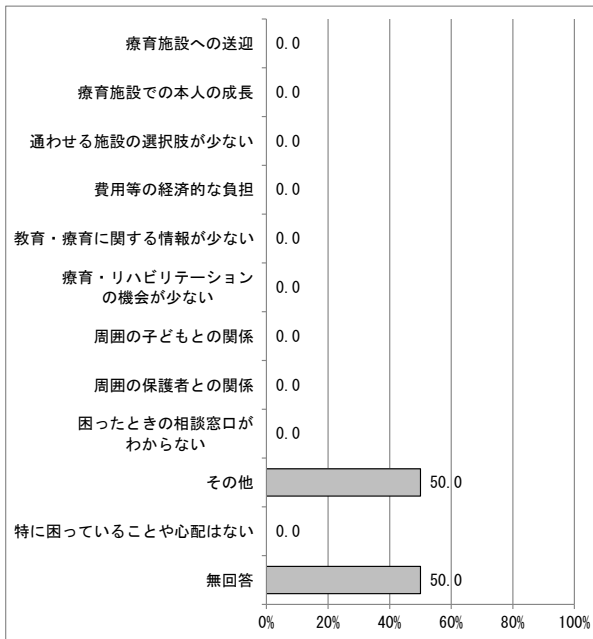
<身体障害者手帳 (66人)>



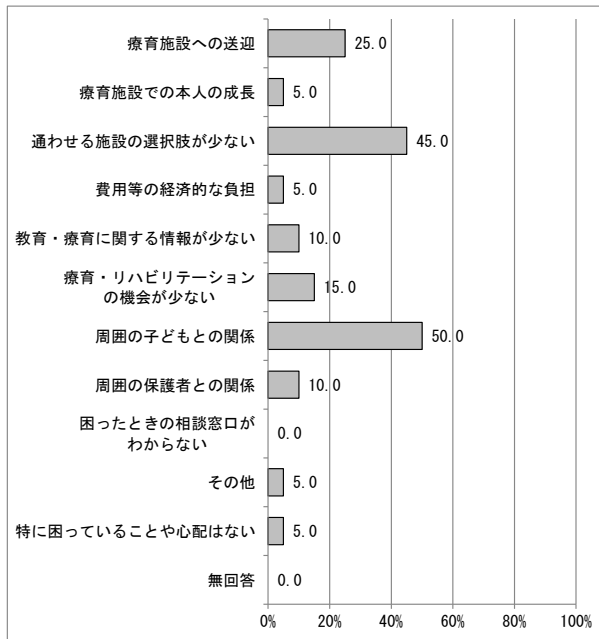
<愛の手帳 (146人)>



<精神障害者保健福祉手帳 (2人)>

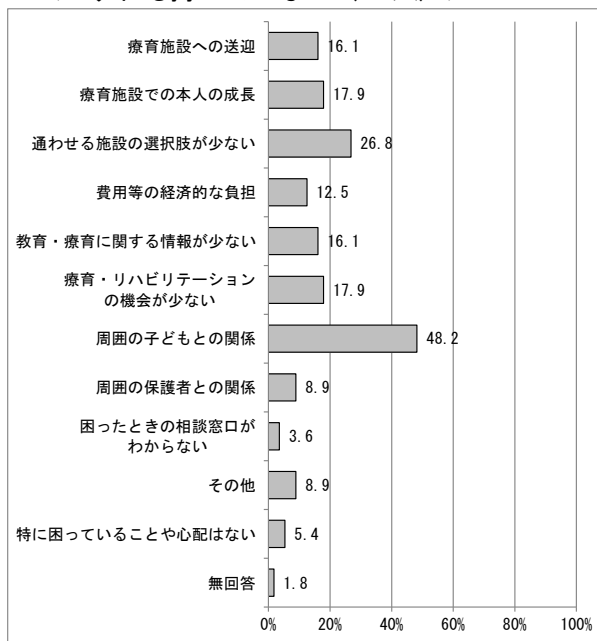


<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (20人)>

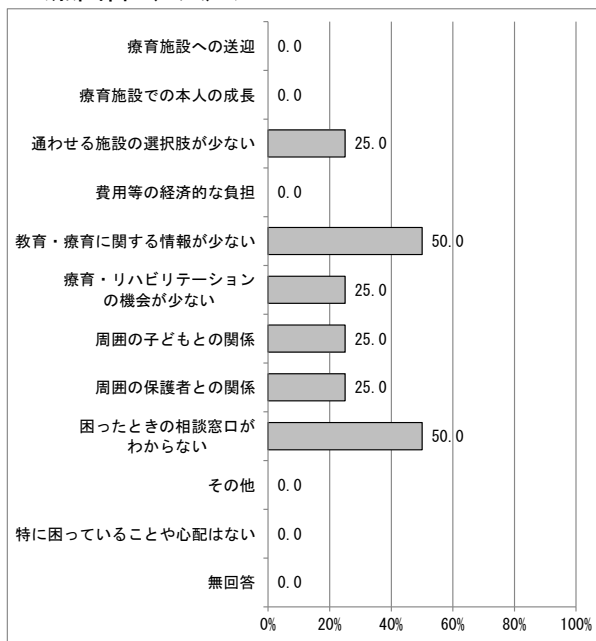


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### <いずれも持っていない (57 人) >



### <無回答 (4 人) >



② 学校等にいる以外の時間（放課後や長期休業中など）は、どのように過ごしていますか。

（あてはまるものすべてに○）

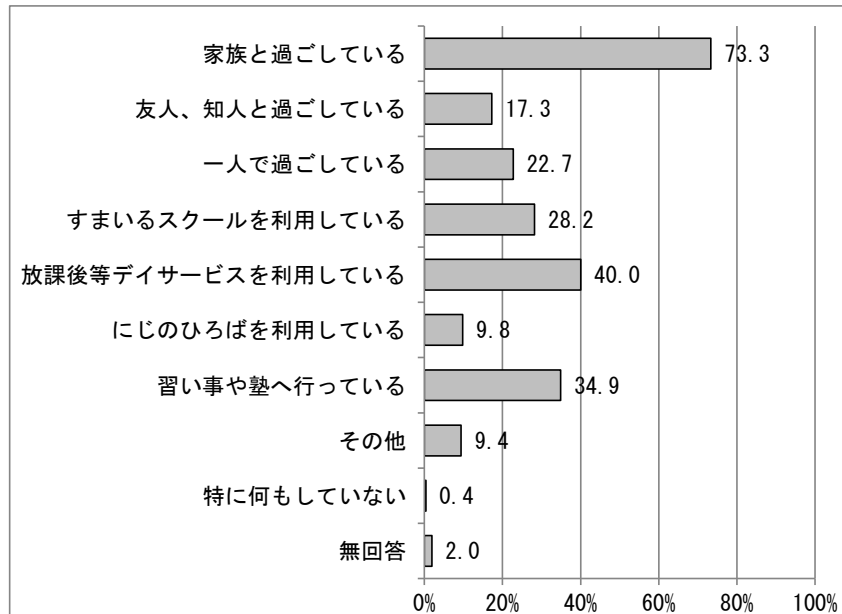
＜全体の傾向＞

学校にいない時間の過ごし方について、「家族と過ごしている」が 73.3%と最も割合が高く、次いで「放課後等デイサービスを利用している」が 40.0%、「習い事や塾へ行っている」が 34.9%となっています。

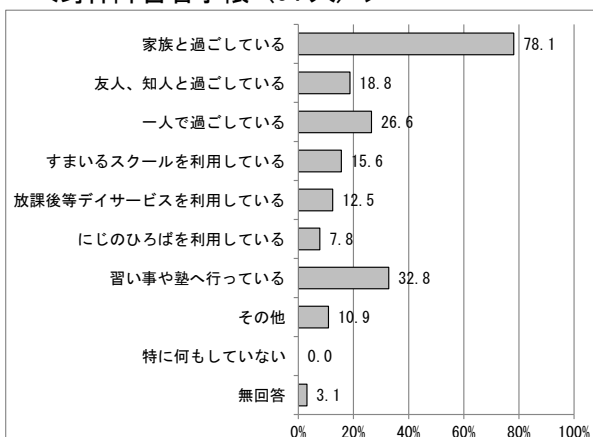
＜手帳種別の傾向＞

「身体障害者手帳」では「放課後等デイサービスを利用している」が 12.5%となっており、他の手帳と比べて割合が低くなっています。

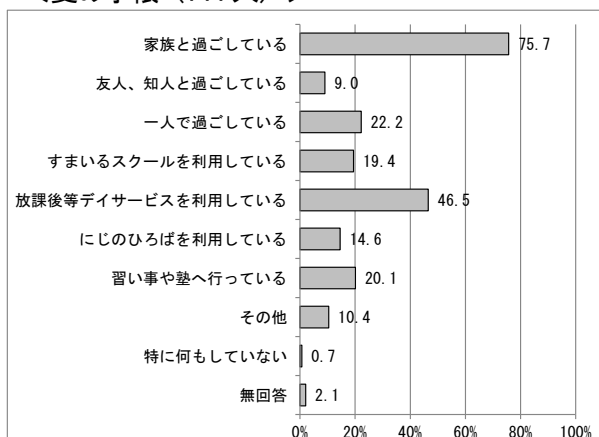
＜全体（255 人）＞



＜身体障害者手帳（64 人）＞

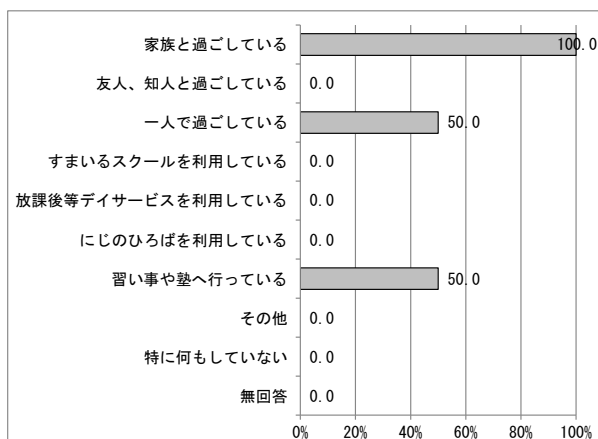


＜愛の手帳（144 人）＞

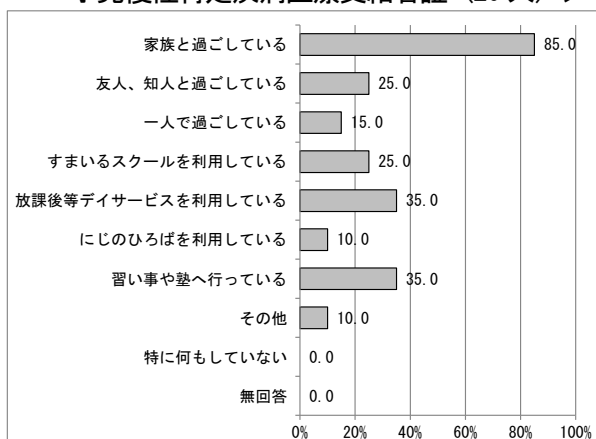


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

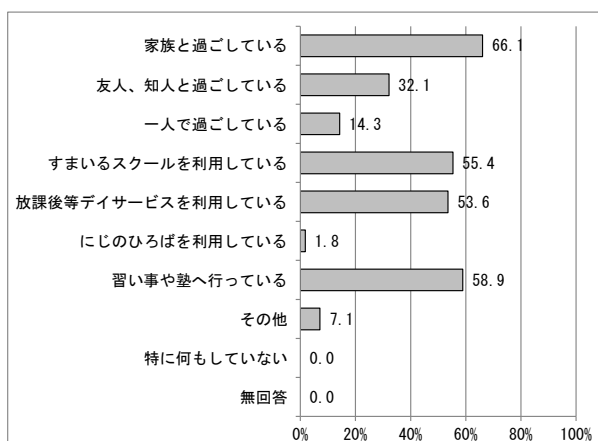
### <精神障害者保健福祉手帳 (2 人)>



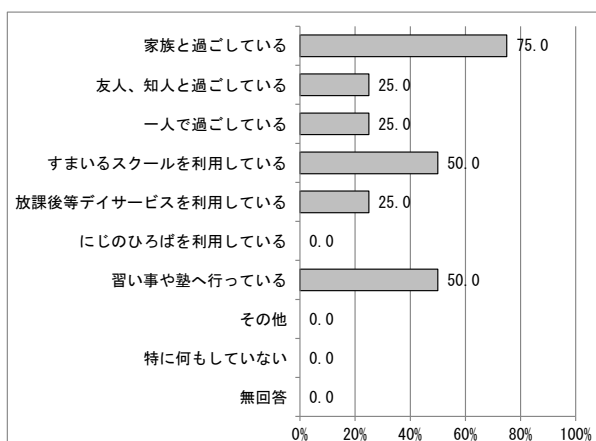
### <特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (20 人)>



### <いずれも持っていない (56 人)>



### <無回答 (4 人)>



- ③ 学校等にいる以外の時間（放課後や長期休業中など）について、現在の過ごし方以外にどのような過ごし方を希望しますか。ご自由にお書きください。

現状以外の過ごし方について、「療育・福祉サービス」「塾・習い事」「同世代の子どもとの遊び」の回答が多くみられます。

分 類	回答数
療育・福祉サービス	32
塾・習い事	26
同世代の子どもとの遊び・交流	19
外出・イベント	15
すまいるスクール、一時預かり	15
スポーツ	12
家庭で過ごす	10
子ども向け施設	6
部活、クラブ活動	4
地域活動	2
その他	17

児童福祉法による障害児通所支援について

問 23 ア、イのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。

利用している方は、利用日数も記入してください。

(それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ〇)

<全体の傾向>

放課後等デイサービスの「現在の利用状況」について、「利用している」が53.7%、「利用していない」が42.5%となっています。「今後の利用希望」については、「(今後も) 利用したい」が49.4%と最も割合が高く、次いで「わからない」が15.8%、「利用希望はない」が11.6%となっています。

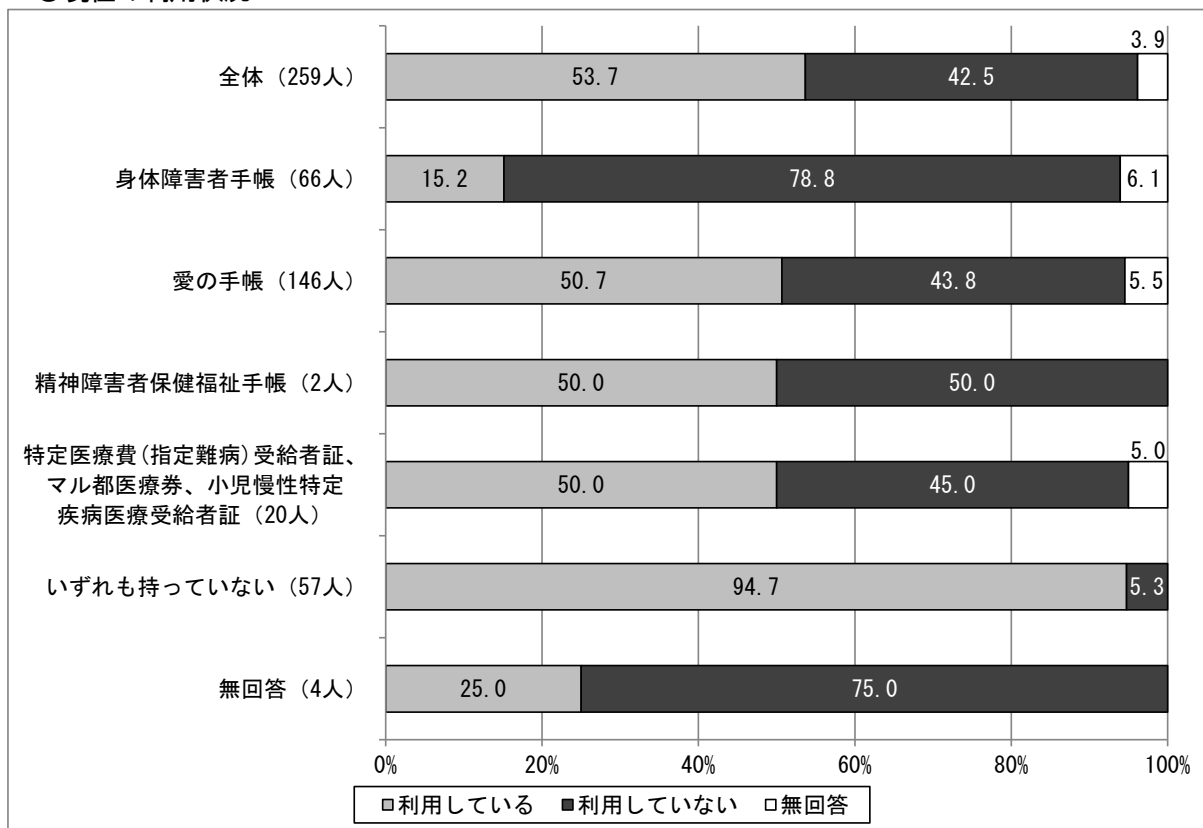
また、保育所等訪問支援の「現在の利用状況」について、「利用していない」が57.5%、「利用している」が0.4%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が22.4%と最も割合が高く、次いで「わからない」が16.2%、「(今後も) 利用したい」が3.1%となっています。

<手帳種別の傾向>

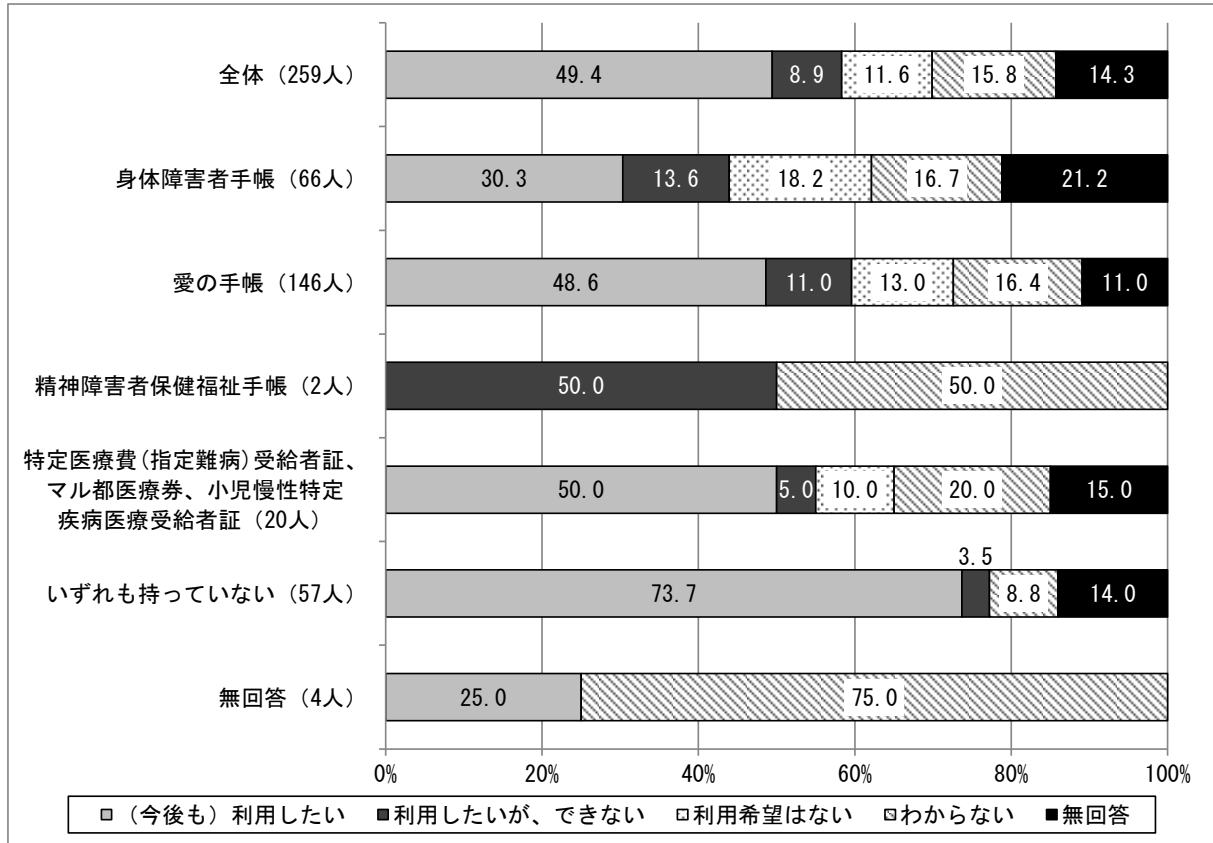
放課後等デイサービスの「現在の利用状況」について、「身体障害者手帳」では「利用していない」が78.8%、「いずれも持っていない」では「利用している」が94.7%と高い割合となっています。また、「今後の利用希望」については、「いずれも持っていない」では「(今後も) 利用したい」が73.7%と高い割合となっています。

ア 放課後等デイサービス

○現在の利用状況



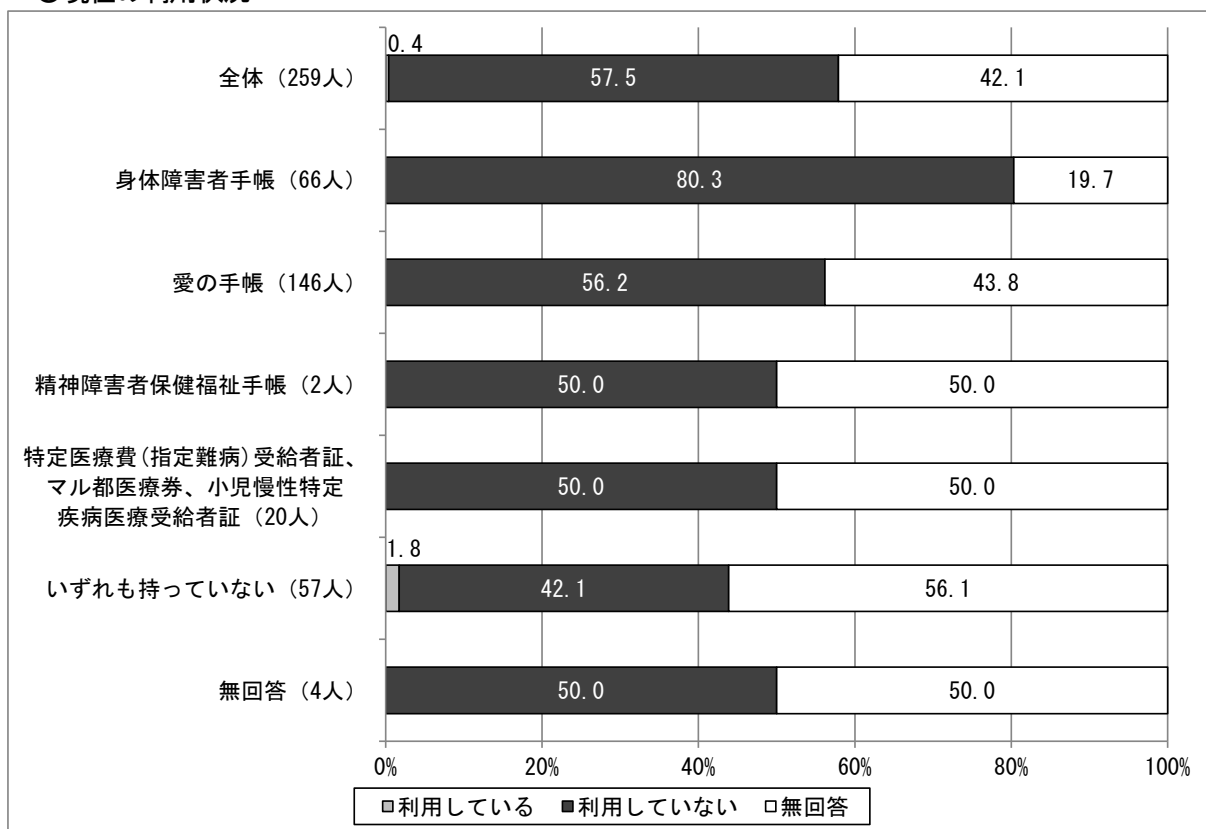
○今後の利用希望



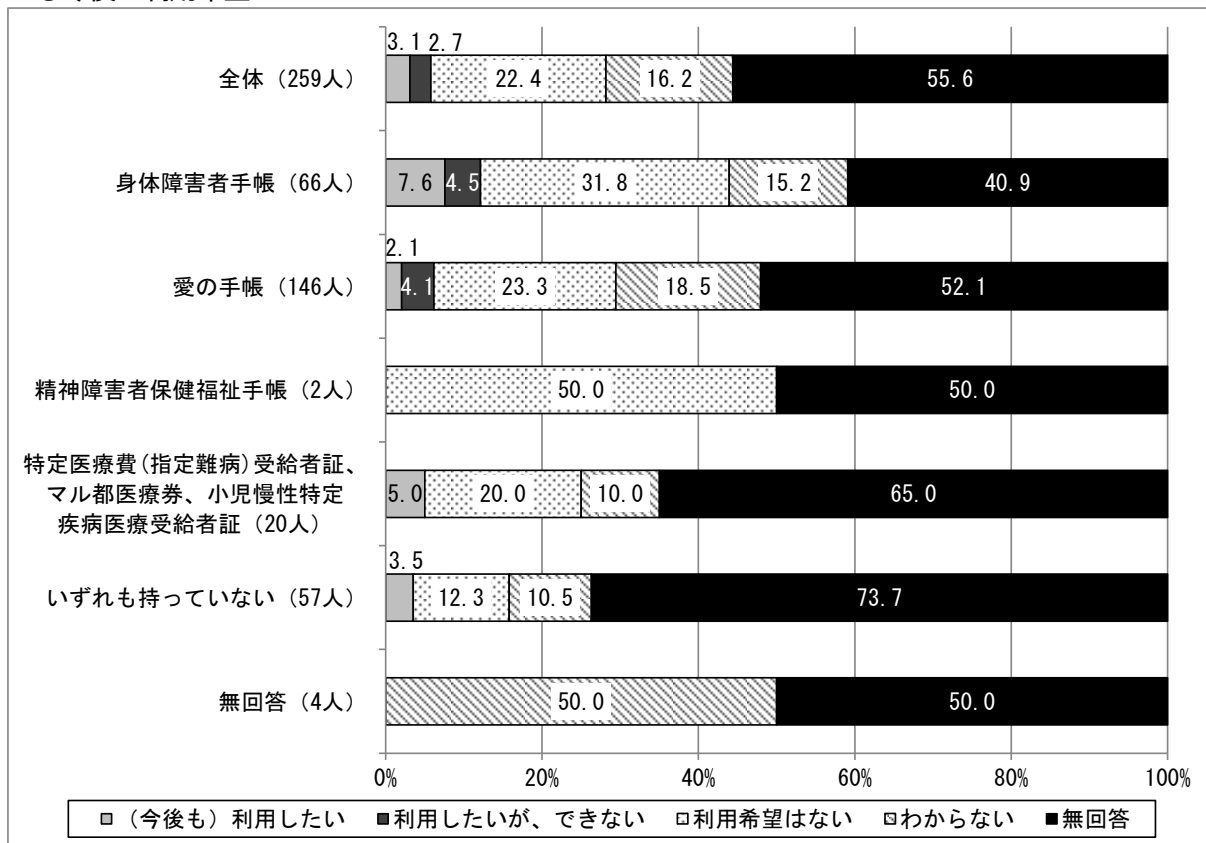
## Ⅱ-2 就学児以上 18歳以下の方への調査

### イ 保育所等訪問支援

#### ○現在の利用状況



#### ○今後の利用希望





問 24 問 23 でア、イの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします。

① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。

（現在利用しているサービスごとに、1つに○）

＜全体の傾向＞

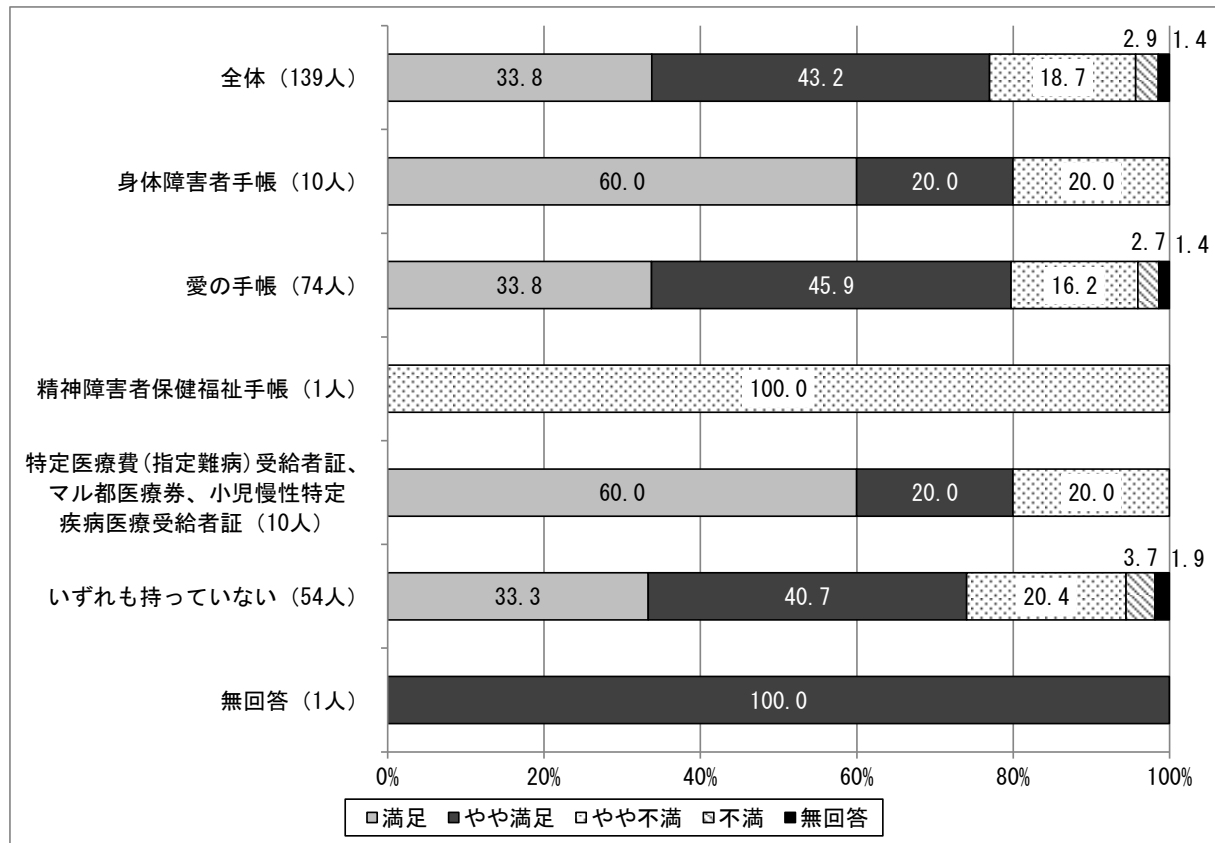
放課後等デイサービスの満足度について、「やや満足」が 43.2%と最も割合が高く、次いで「満足」が 33.8%、「やや不満」が 18.7%となっています。

保育所等訪問支援（該当者 1 人）の満足度について、「不満」の回答が得られています。

＜手帳種別の傾向＞

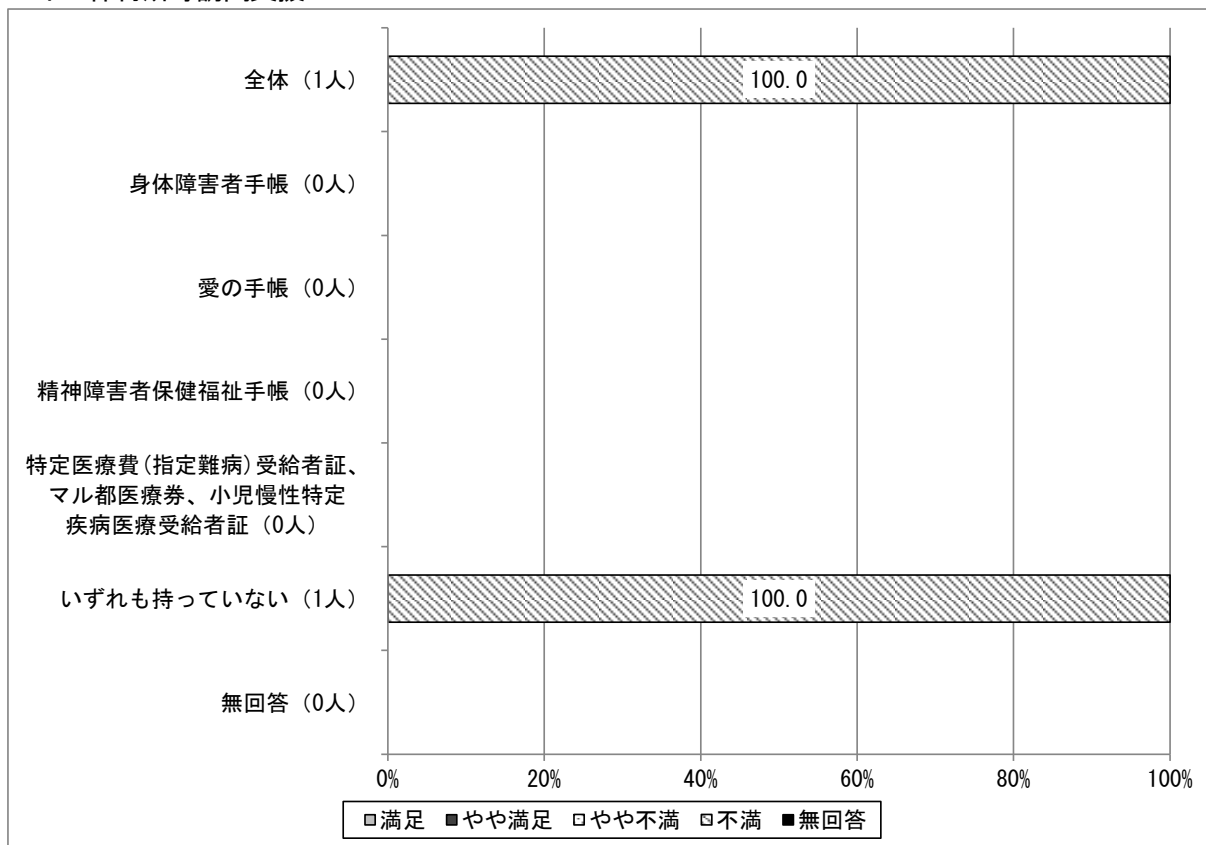
放課後等デイサービスの満足度について、「身体障害者手帳」と「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では「満足」の割合が高くなっています。

ア 放課後等デイサービス



## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### イ 保育所等訪問支援



② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。

(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

＜全体の傾向＞

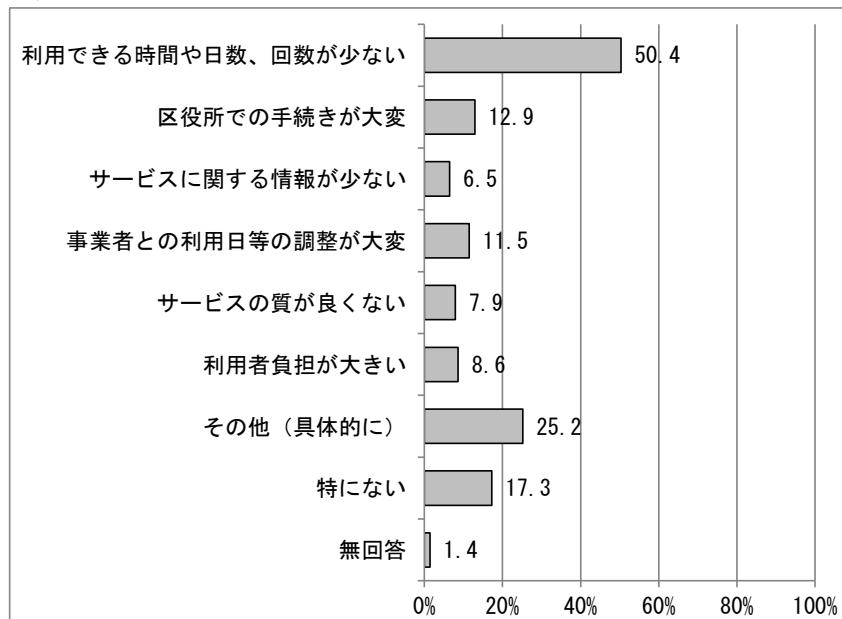
現在利用しているサービスの困っていることについて、放課後等デイサービスでは、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が50.4%と最も割合が高く、次いで「その他」が25.2%、「区役所での手続きが大変」が12.9%、「事業者との利用日等の調整が大変」が11.5%となっています。また、「特にない」が17.3%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

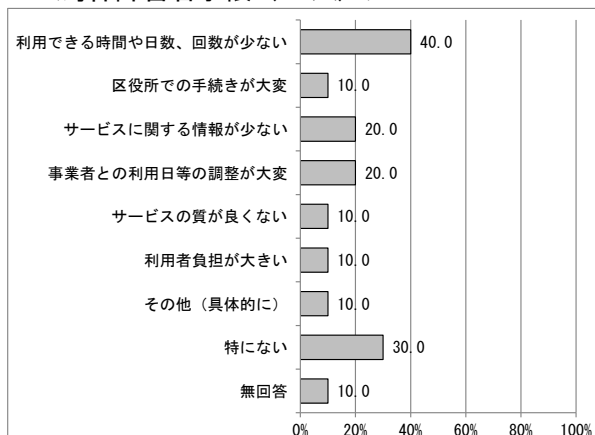
手帳種別の特徴はみられません。

ア 放課後等デイサービス

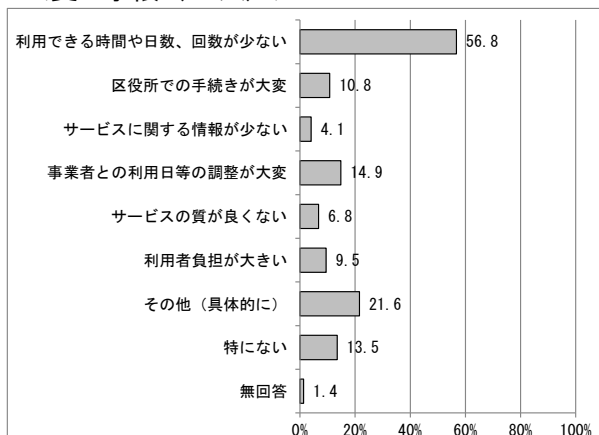
＜全体（139人）＞



＜身体障害者手帳（10人）＞

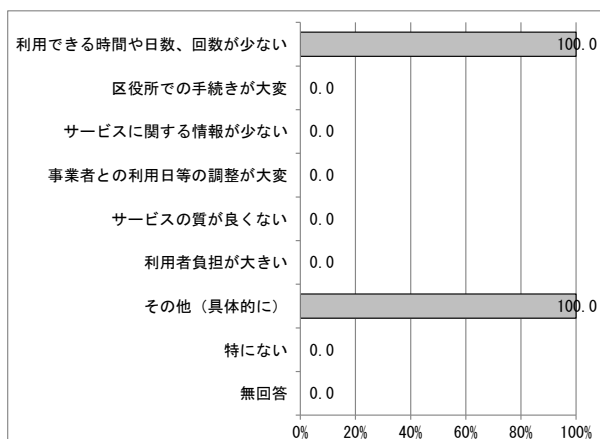


＜愛の手帳（74人）＞

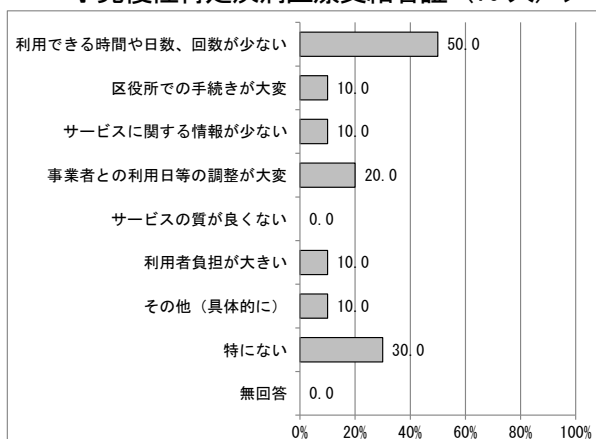


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

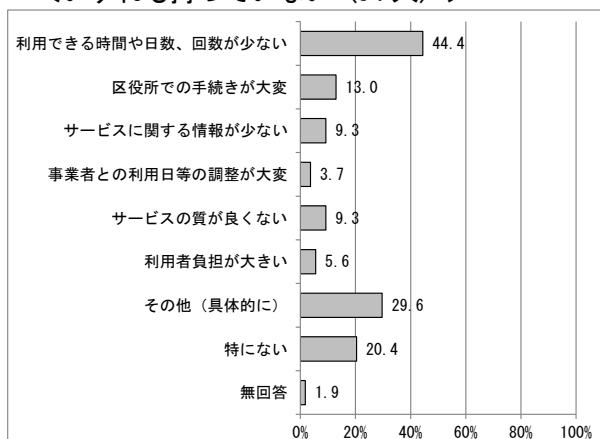
### <精神障害者保健福祉手帳（1 人）>



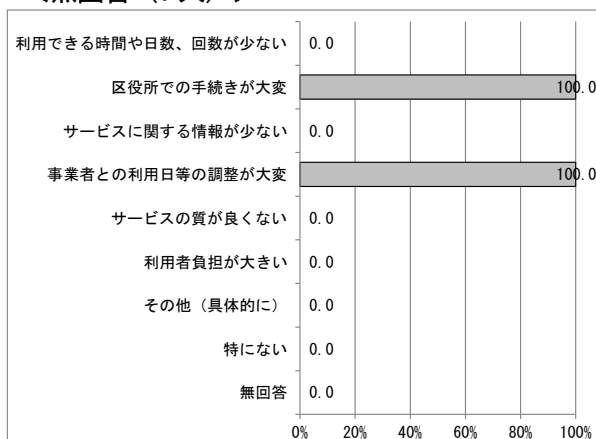
### <特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（10 人）>



### <いずれも持っていない（54 人）>

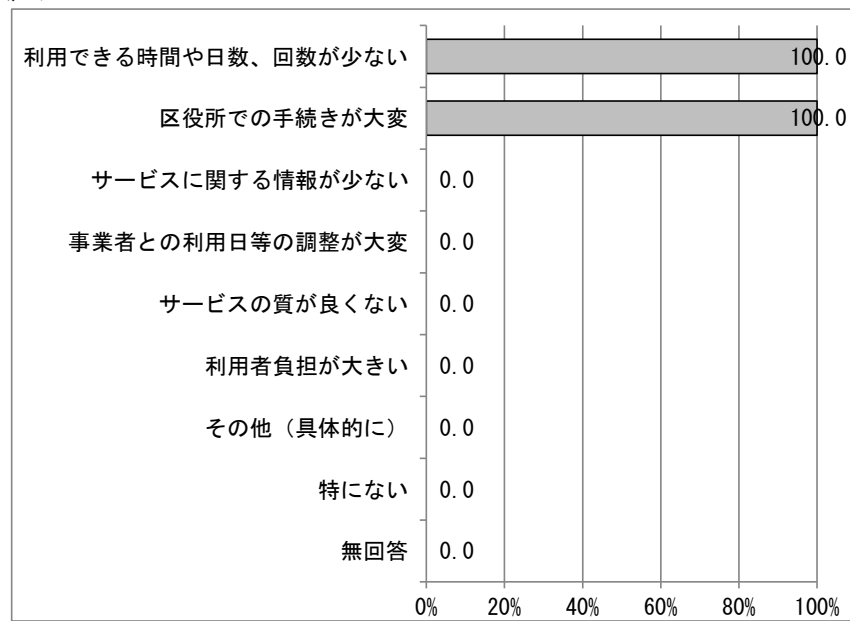


### <無回答（1 人）>

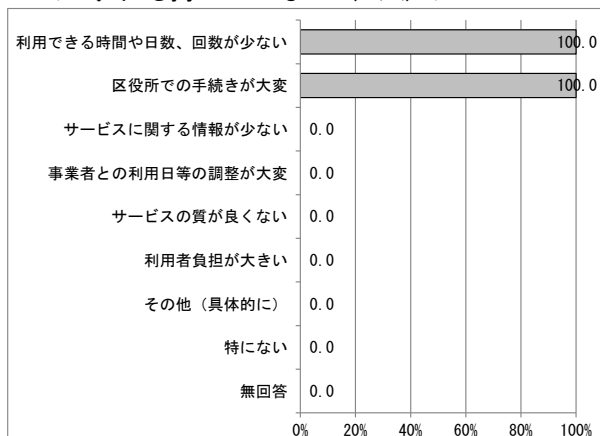


イ 保育所等訪問支援

<全体(1人)>



<いずれも持っていない(1人)>



※回答のあった分類のみ記載

## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

- ③ ②でア、イのいずれかで「1」（利用できる時間や日数、回数が少ない）と回答した方におたずねします。現在利用しているサービスについて、そう感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

サービス量が少ないと感じる理由について、放課後等デイサービスでは「利用できる日数が少ない」という回答が最も多く、次いで「利用したいときに利用できない」「長期休暇中に多く利用したい」という回答が多くみられます。

保育所等訪問支援の回答者（1人）から、「利用できる日数が少ない」「職員が少なく、連絡がとりづらい」という回答が得られています。

### ア 放課後等デイサービス

分 類	回答数
利用できる日数が少ない	37
利用したいときに利用できない	10
長期休暇中に多く利用したい	8
利用できる時間が短い、時間が合わない	7
他地域との比較	7
週末に多く利用したい	2
定員を増やしてほしい	2
デイサービスに通わせたい	2
費用負担が大きい	2
施設が遠い	1
事業者が少ない	1
その他	4

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

### イ 保育所等訪問支援

分 類	回答数
利用できる日数が少ない	1
職員が少なく、連絡がとりづらい	1

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

- ④ ①でア、イのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

＜全体の傾向＞

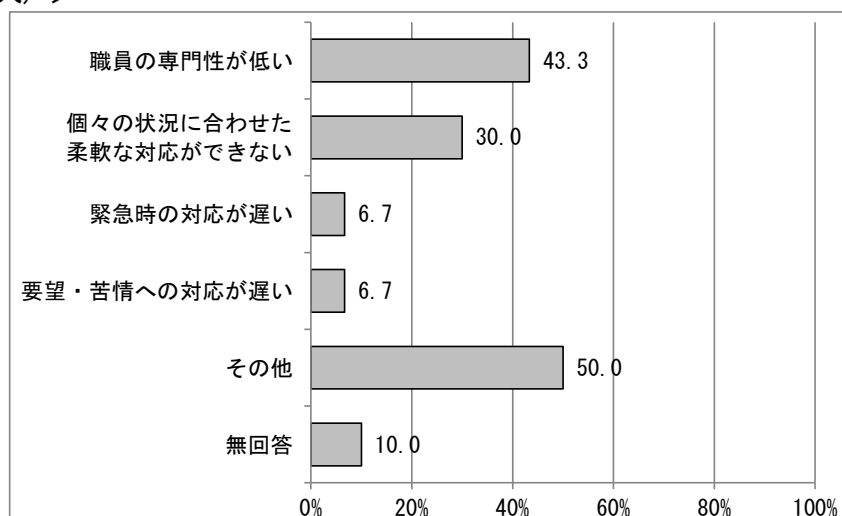
放課後等デイサービスの不満な理由について、「その他」が50.0%と最も割合が高くなっています。なお、不満の内容としては「職員の専門性が低い」が43.3%と最も割合が高く、次いで、「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」が30.0%となっています。

＜手帳種別の傾向＞

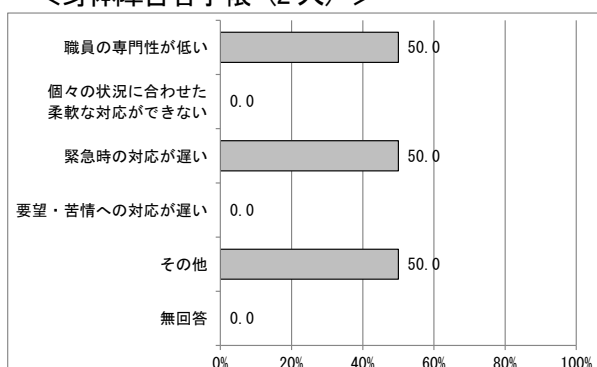
手帳種別の特徴はみられません。

ア 放課後等デイサービス

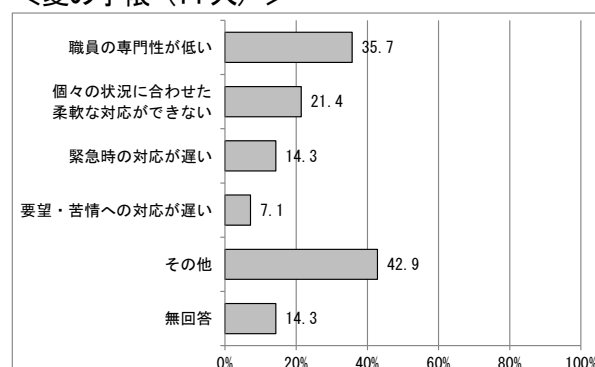
＜全体（30人）＞



＜身体障害者手帳（2人）＞

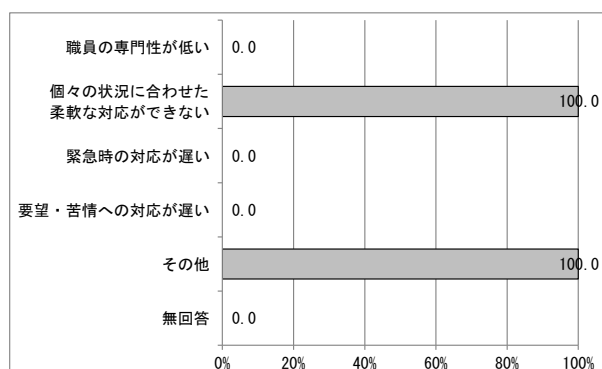


＜愛の手帳（14人）＞

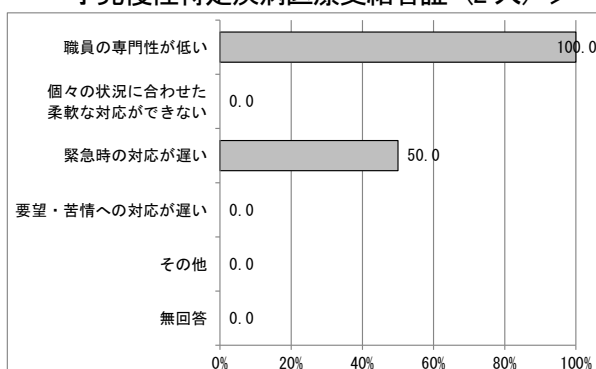


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

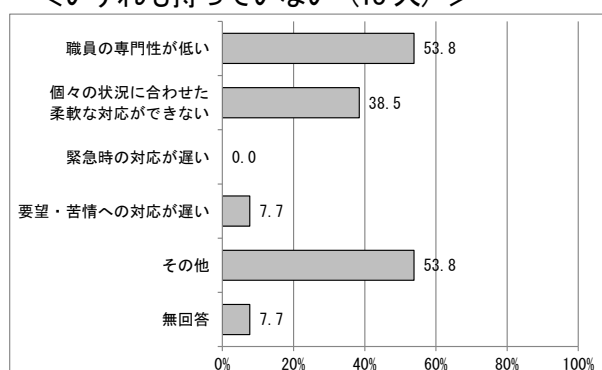
### <精神障害者保健福祉手帳（1 人）>



### <特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（2 人）>



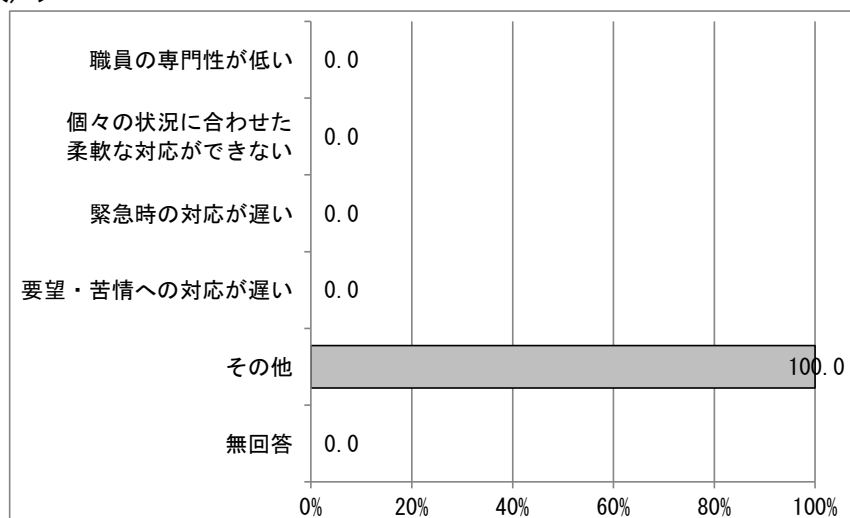
### <いずれも持っていない（13 人）>



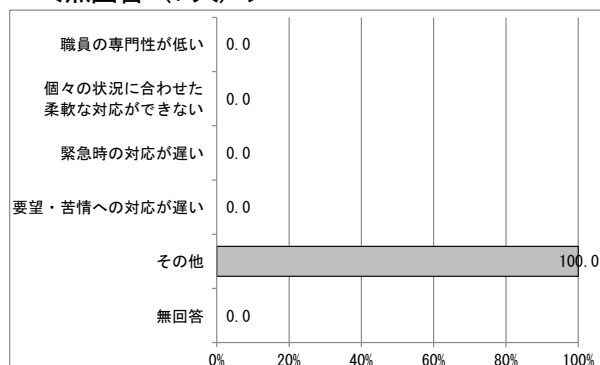
※回答のあった分類のみ記載



イ 保育所等訪問支援  
 <全体 (1 人)>



<無回答 (1 人)>



※回答のあった分類のみ記載

## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問25 問23でア、イの「今後の利用希望」のいずれかで「2」（利用したいが、利用できない）と回答した方におたずねします。その理由は何ですか。（主なものを2つまでに○）

### <全体の傾向>

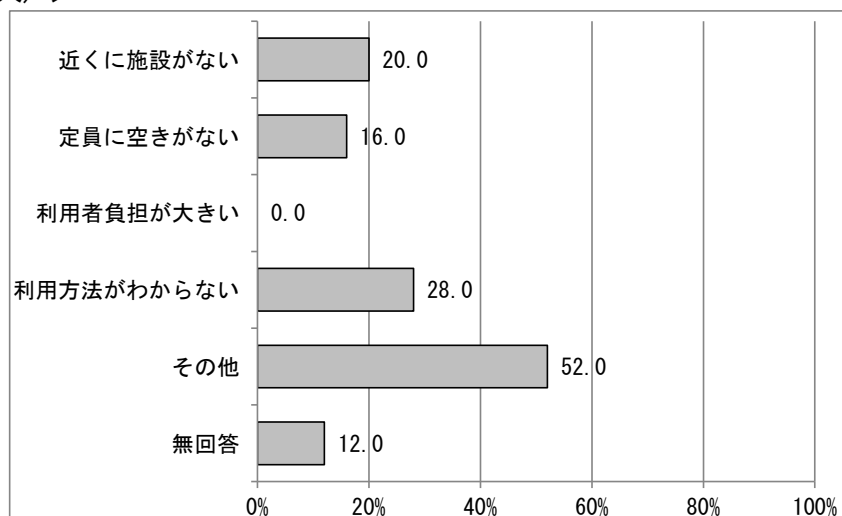
放課後等デイサービスを「利用したいが、できない」理由について、「その他」が52.0%と最も割合が高くなっています。

なお、「利用したいが、できない」理由としては、「利用方法がわからない」が28.0%、と最も割合が高く、次いで「近くに施設がない」が20.0%、「定員に空きがない」が16.0%となっています。

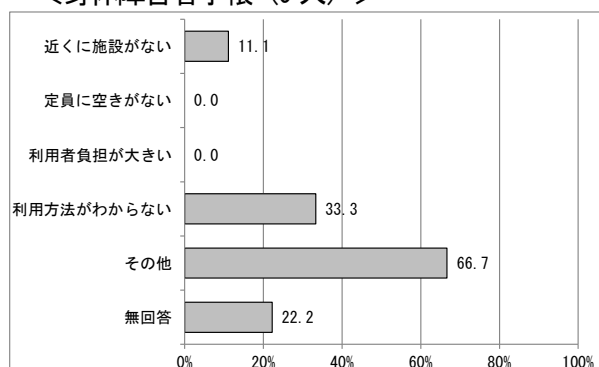
### <手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

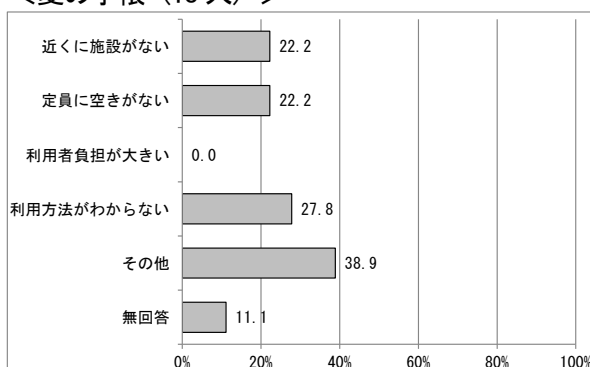
### <全体（25人）>



### <身体障害者手帳（9人）>

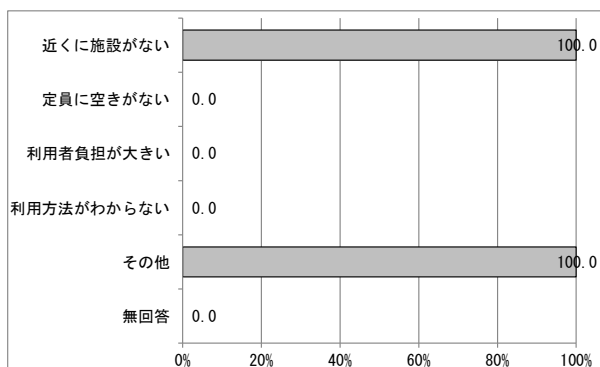


### <愛の手帳（18人）>

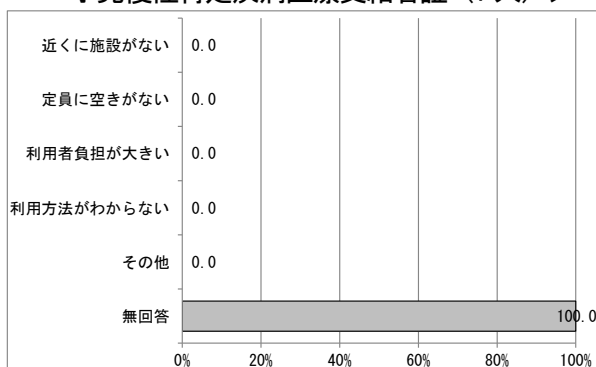


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

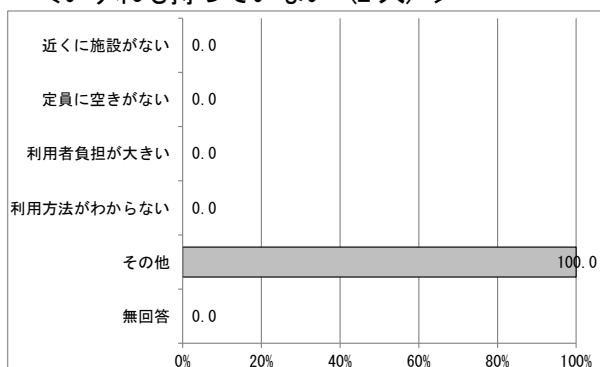
<精神障害者保健福祉手帳（1人）>



<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（1人）>



<いずれも持っていない（2人）>



※回答のあった分類のみ記載

障害福祉サービスの利用状況・利用希望について

問 26 ア～ケのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。

(それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ〇)

<全体の傾向>

居宅介護（ホームヘルプ）の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 84.9%と最も割合が高く、「利用している」が 1.9%となっています。「今後の利用希望」については「利用希望はない」が 40.5%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 17.4%、「(今後も) 利用したい」が 7.7%となっています。

同行援護の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 86.9%と最も割合が高くなっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 48.6%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 14.7%、「(今後も) 利用したい」が 2.3%となっています。

行動援護の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 86.5%と最も割合が高く、「利用している」が 0.4%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 40.5%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 19.3%、「(今後も) 利用したい」が 5.8%となっています。

短期入所（ショートステイ）の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 83.8%と最も割合が高く、「利用している」が 4.6%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 31.7%と最も割合が高く、「(今後も) 利用したい」と「わからない」が 18.5%となっています。

移動支援事業の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 82.6%と最も割合が高く、「利用している」が 6.6%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 27.4%と最も割合が高く、次いで「(今後も) 利用したい」が 23.9%、「わからない」が 18.9%となっています。

日中一時支援事業の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 77.6%と最も割合が高く、「利用している」が 11.6%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 30.9%と最も割合が高く、次いで「(今後も) 利用したい」が 20.1%、「わからない」が 18.5%となっています。

手話通訳者派遣事業の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 86.1%と最も割合が高く、「利用している」が 0.8%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 51.7%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 10.8%、「(今後も) 利用したい」が 5.0%となっています。

要約筆記者派遣事業の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 86.9%と最も割合が高くなっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 51.0%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 12.4%、「(今後も) 利用したい」が 3.9%となっています。

日常生活用具給付等事業の「現在の利用状況」について、「利用していない」が 80.3%と最も割合が高く、「利用している」が 6.9%となっています。「今後の利用希望」については、「利用希望はない」が 39.4%と最も割合が高く、次いで「わからない」が 17.8%、「(今後も) 利用したい」が 10.0%となっています。

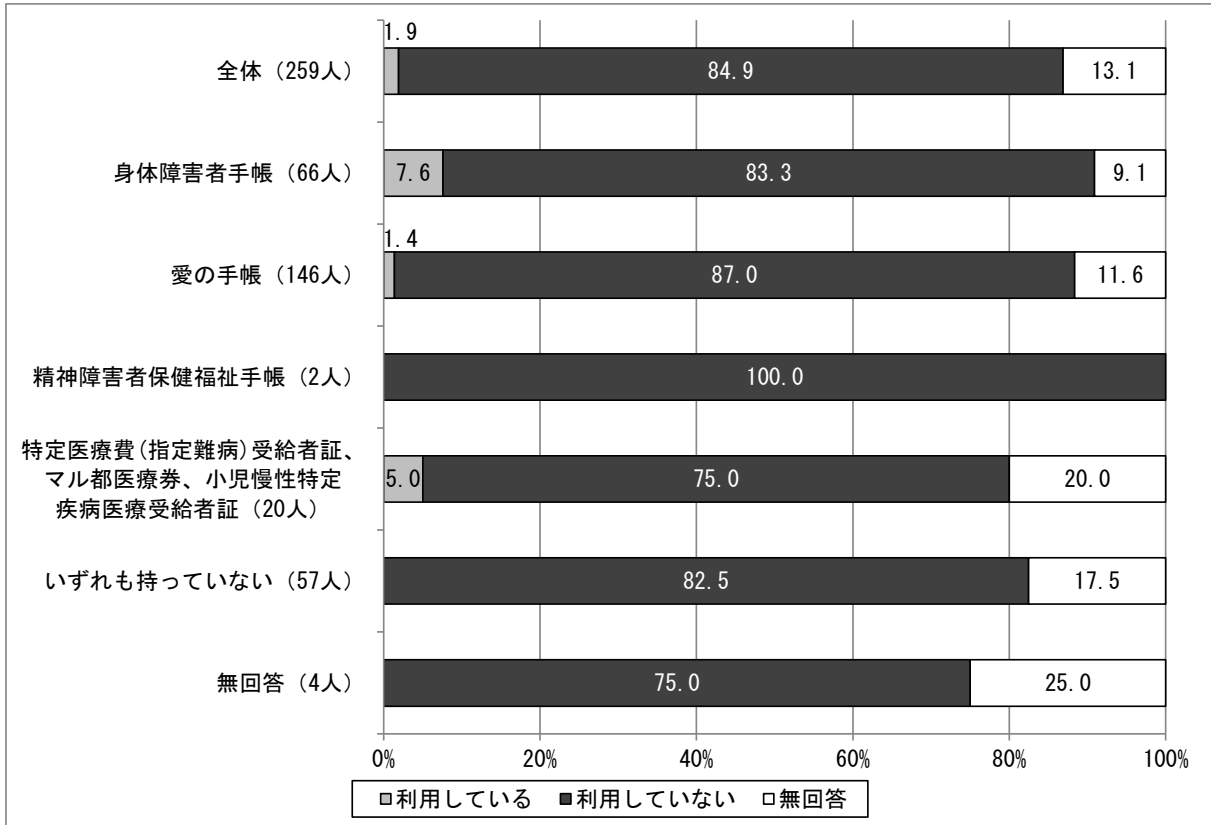
＜手帳種別の傾向＞

短期入所（ショートステイ）と移動支援事業、日中一時支援事業の「今後の利用希望」について、「いずれも持っていない」では「利用希望はない」が比較的高い割合となっています。

また、日常生活用具給付等事業の「今後の利用希望」について、「身体障害者手帳」では「(今後も)利用したい」が 34.8%と比較的高い割合となっています。

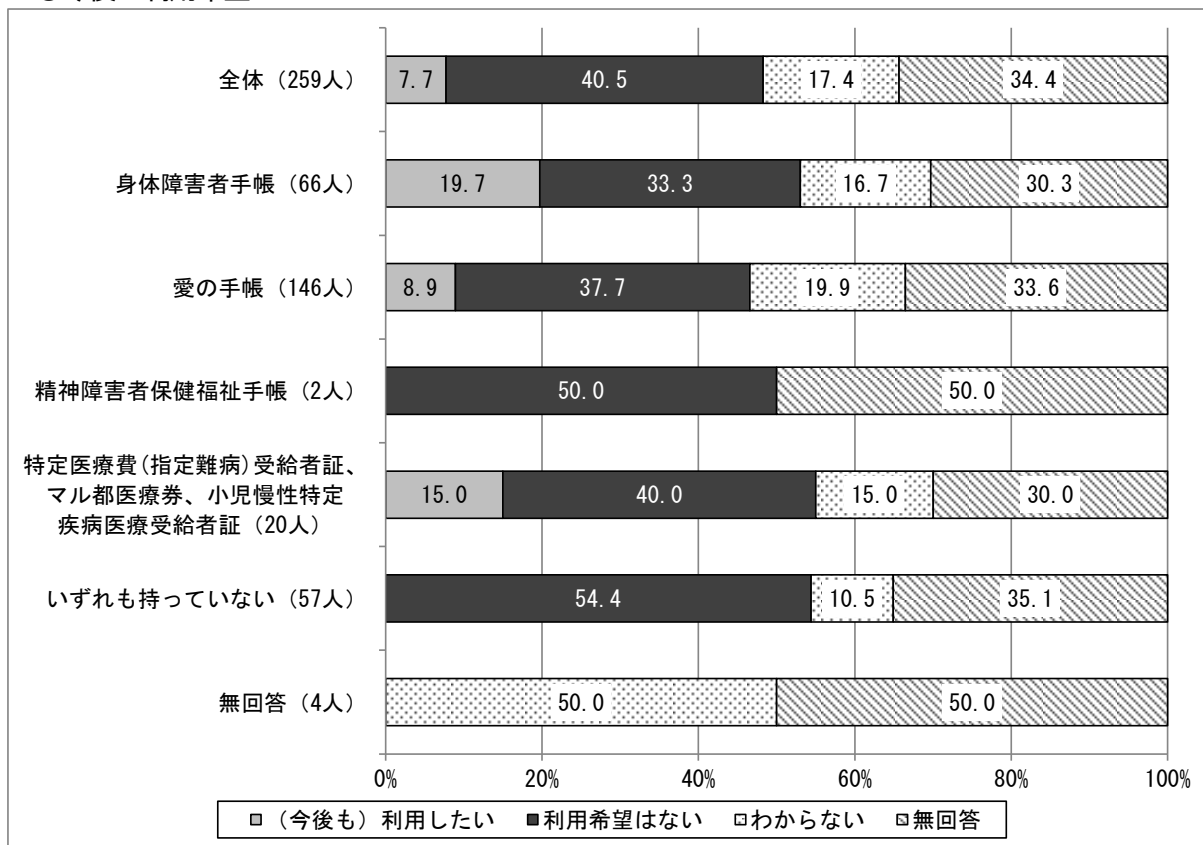
ア 居宅介護（ホームヘルプ）

○現在の利用状況



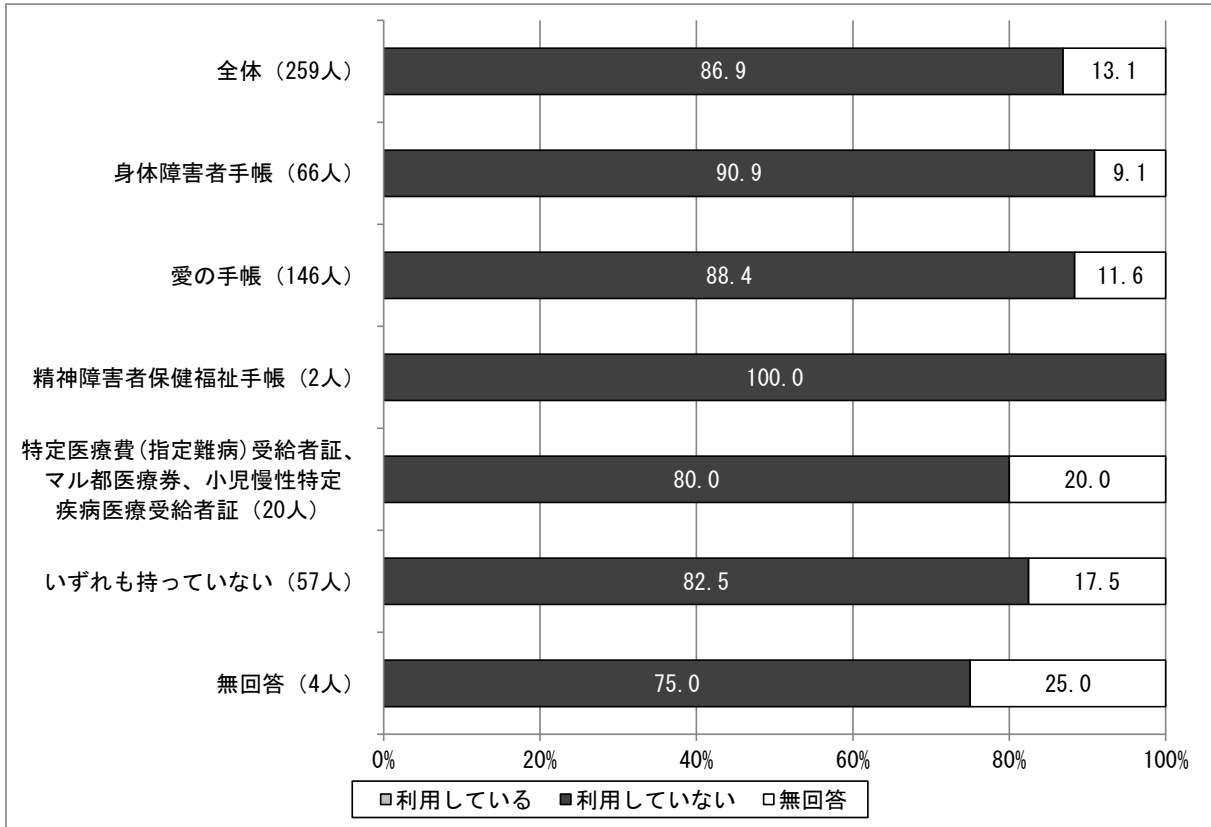
Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

○今後の利用希望

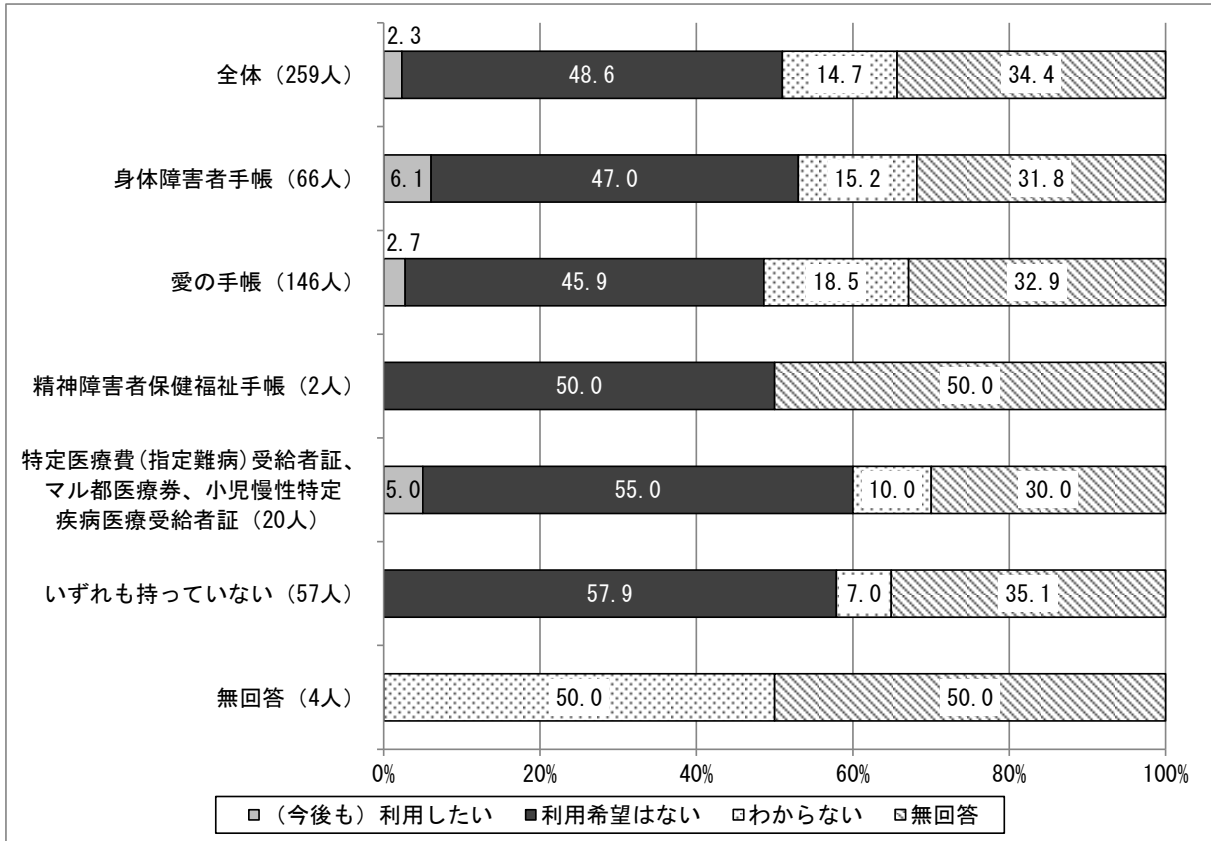


イ 同行援護

○現在の利用状況



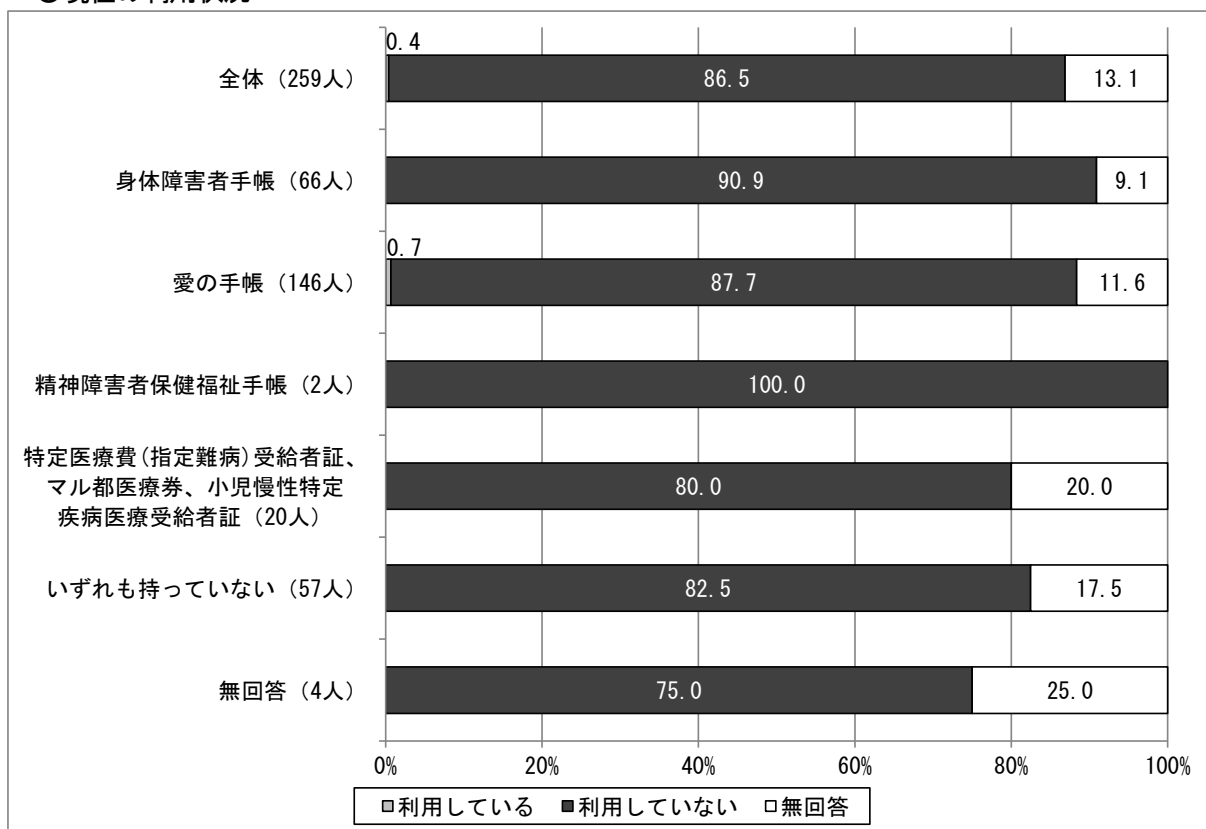
○今後の利用希望



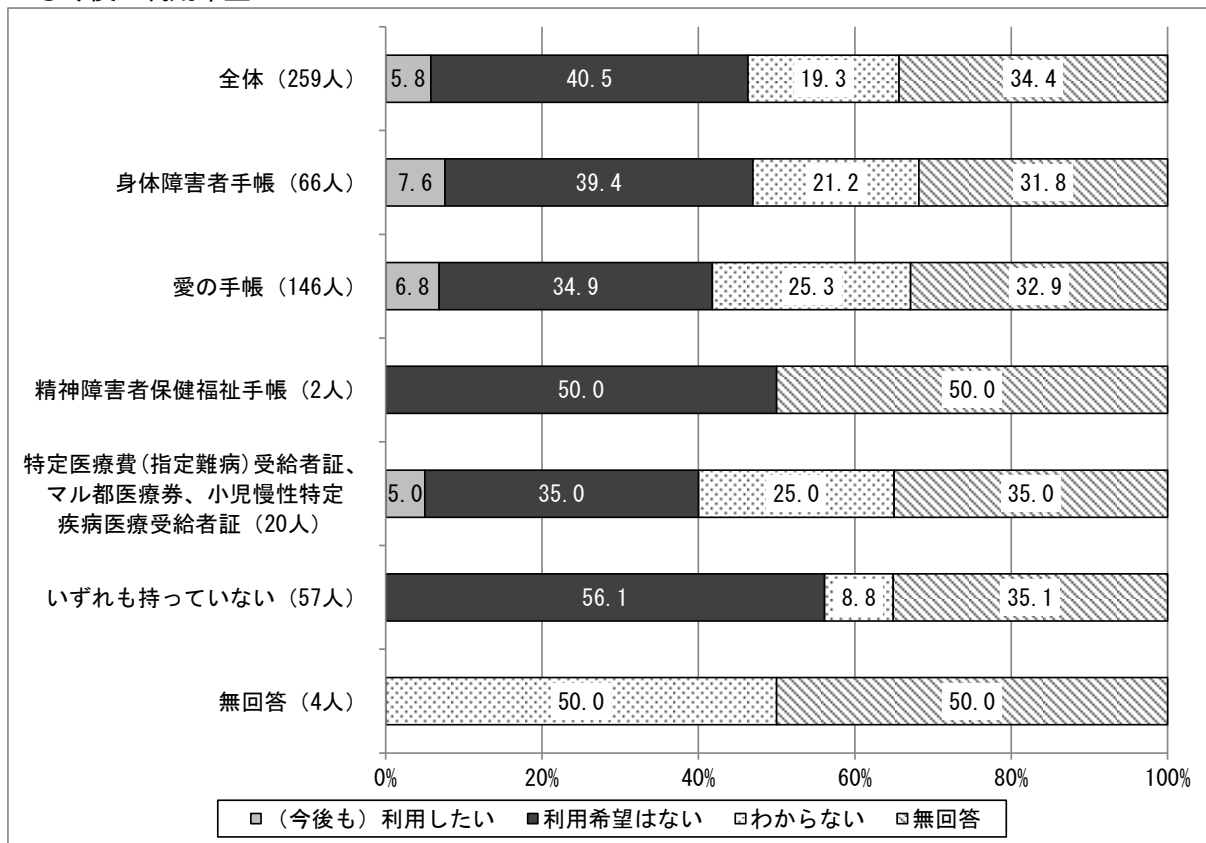
## Ⅱ-2 就学児以上 18歳以下の方への調査

### ウ 行動援護

#### ○現在の利用状況



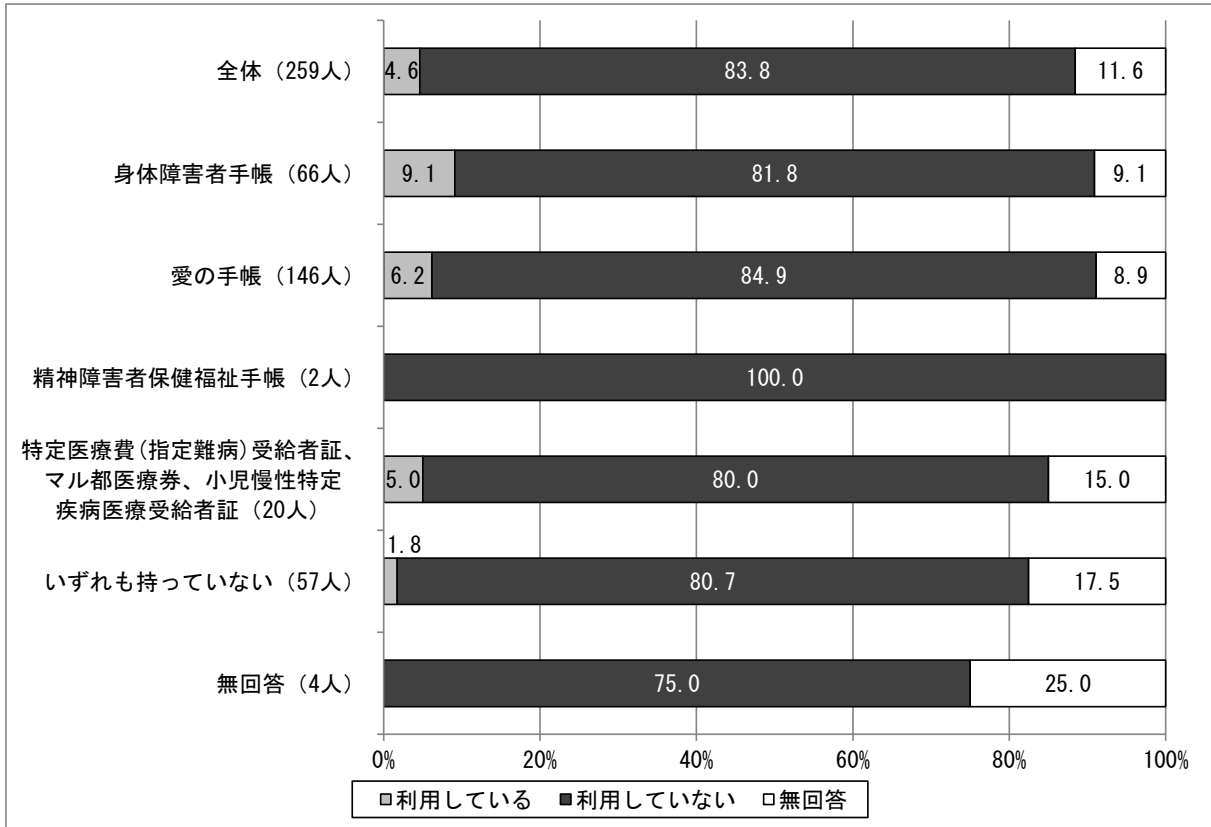
#### ○今後の利用希望



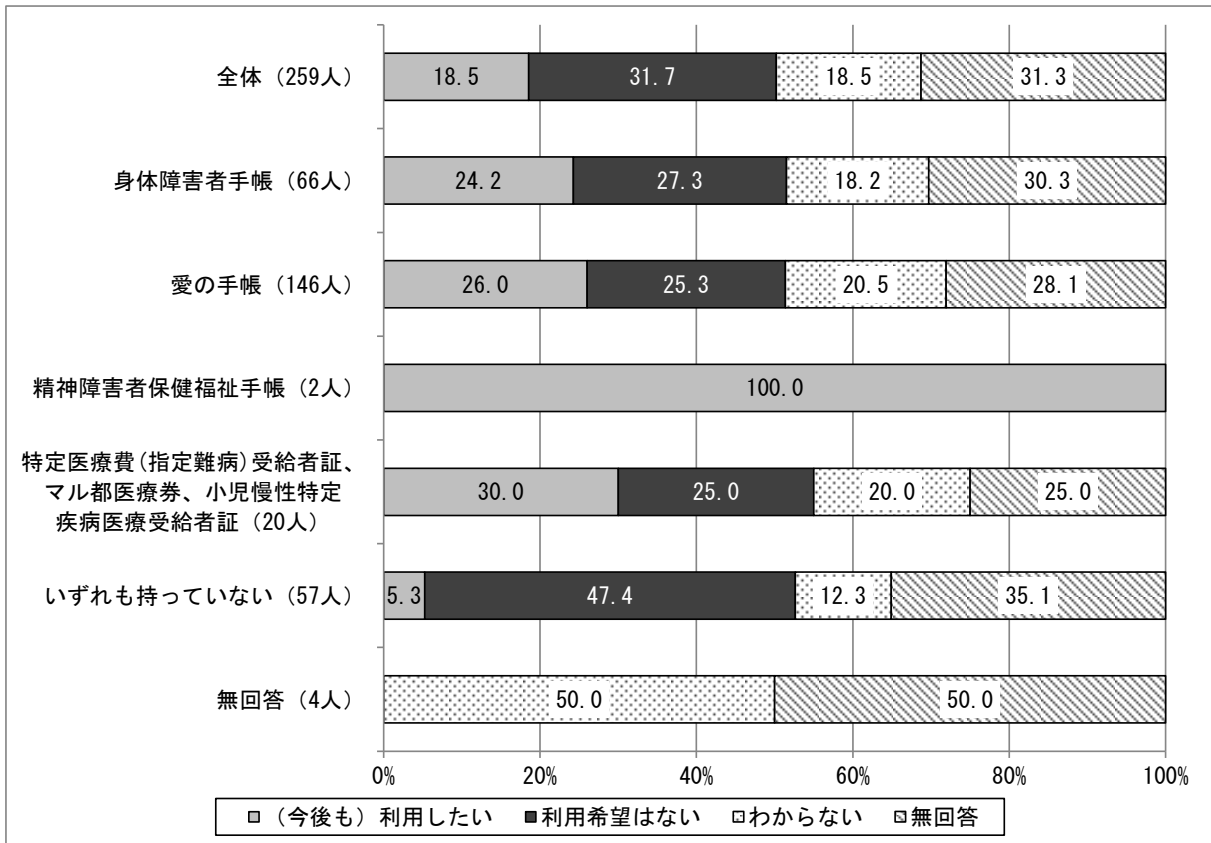


エ 短期入所（ショートステイ）

○現在の利用状況



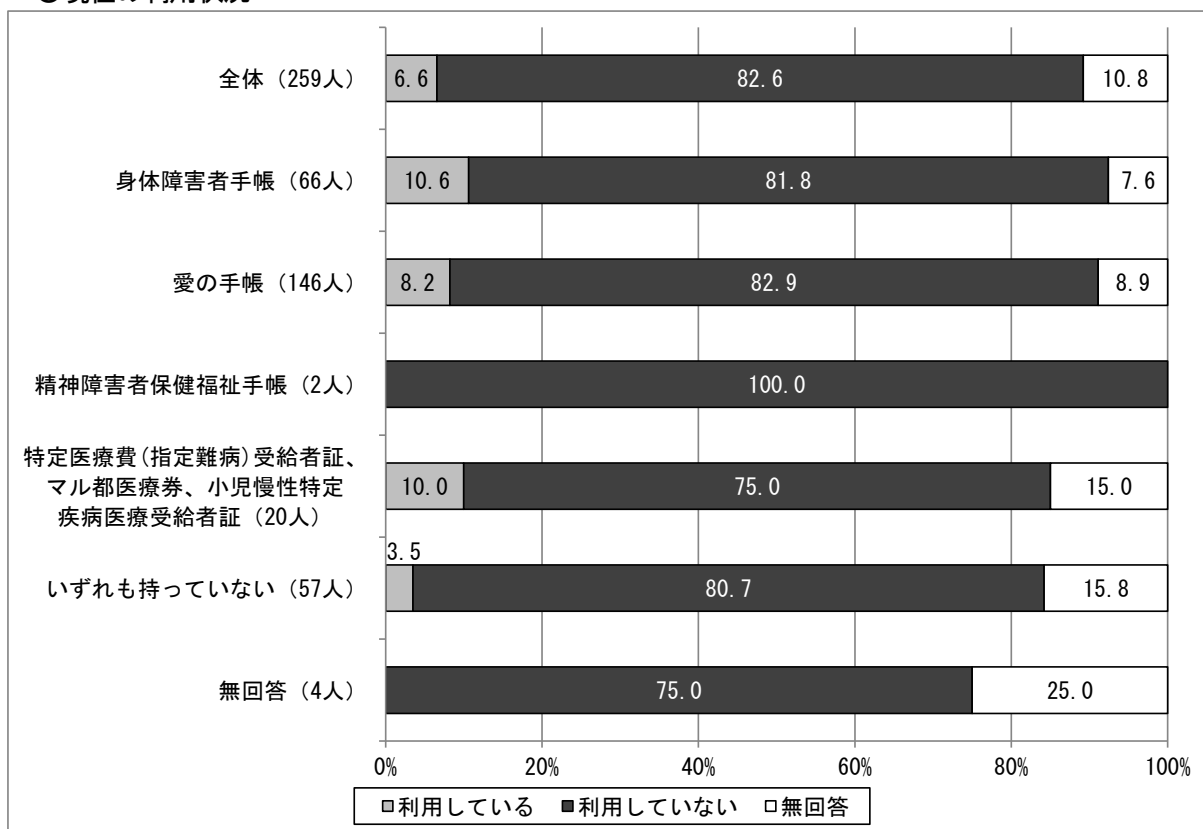
○今後の利用希望



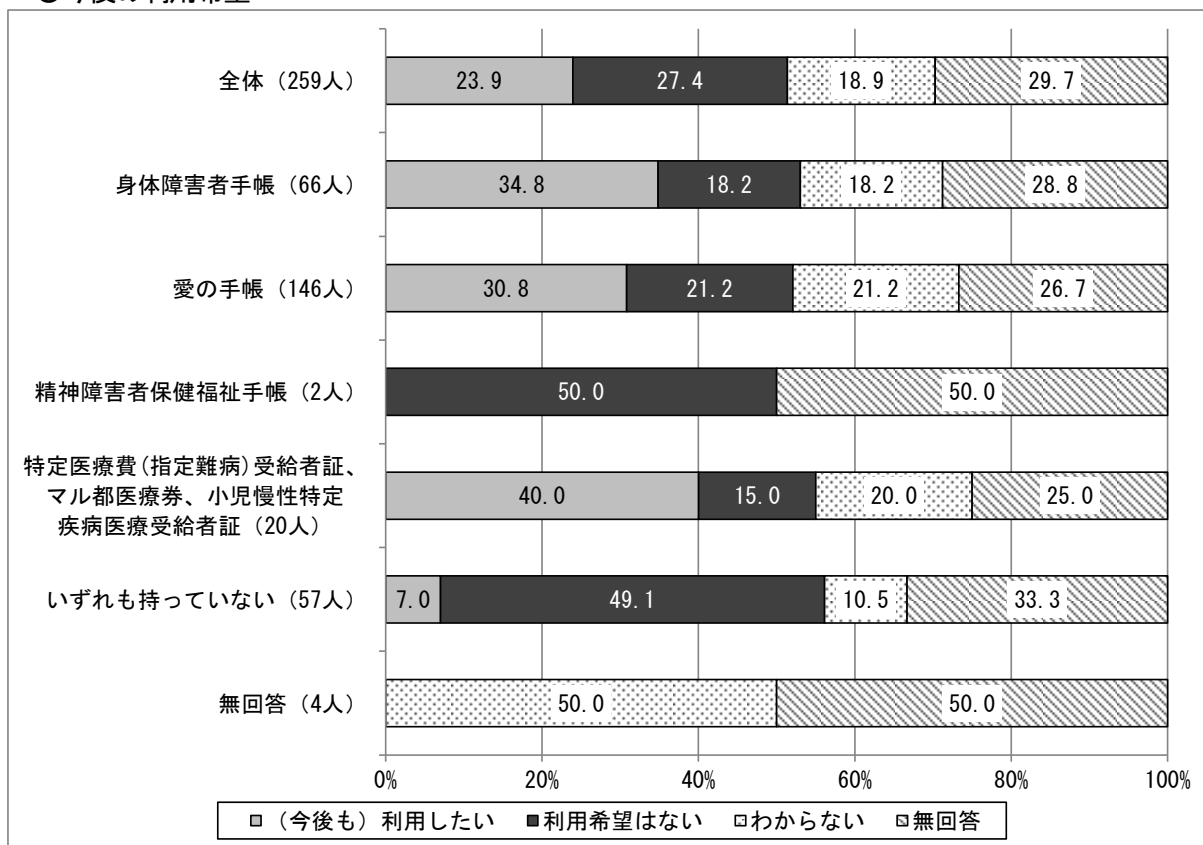
## Ⅱ-2 就学児以上 18歳以下の方への調査

### オ 移動支援事業

#### ○現在の利用状況

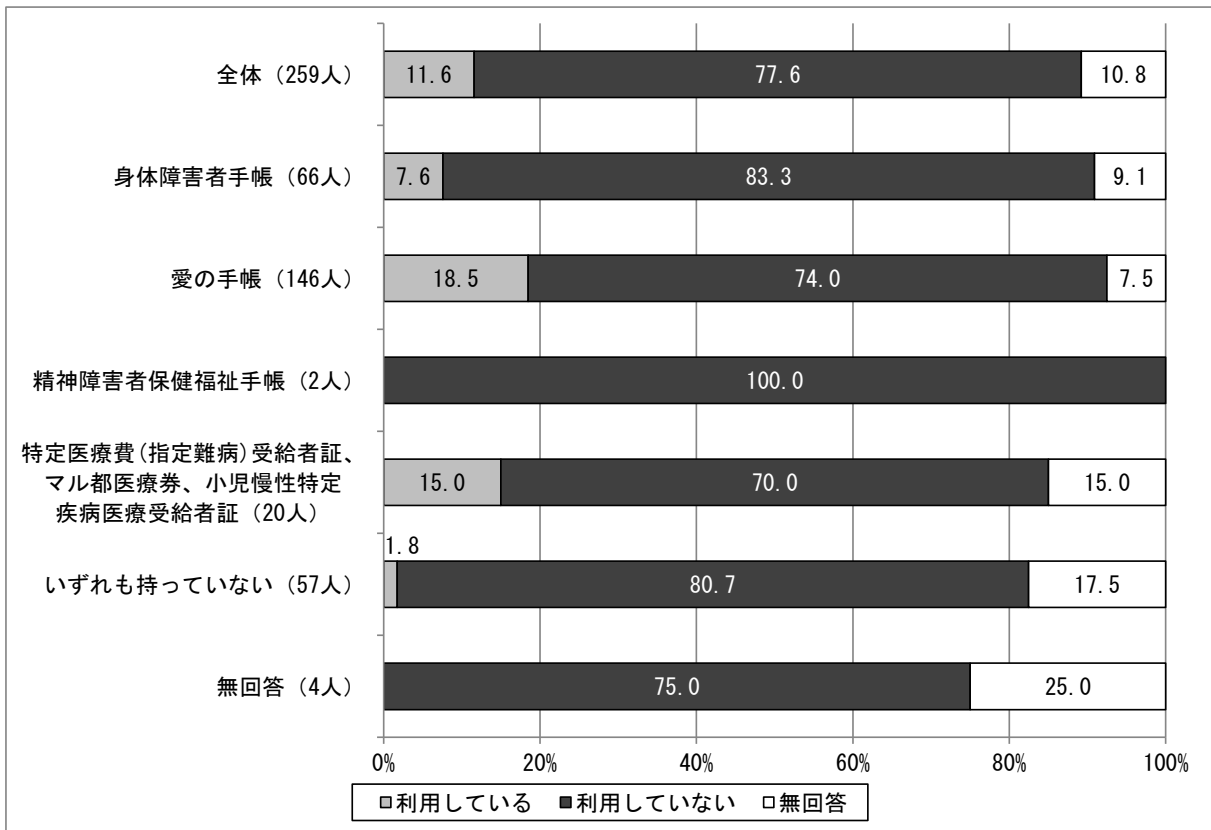


#### ○今後の利用希望

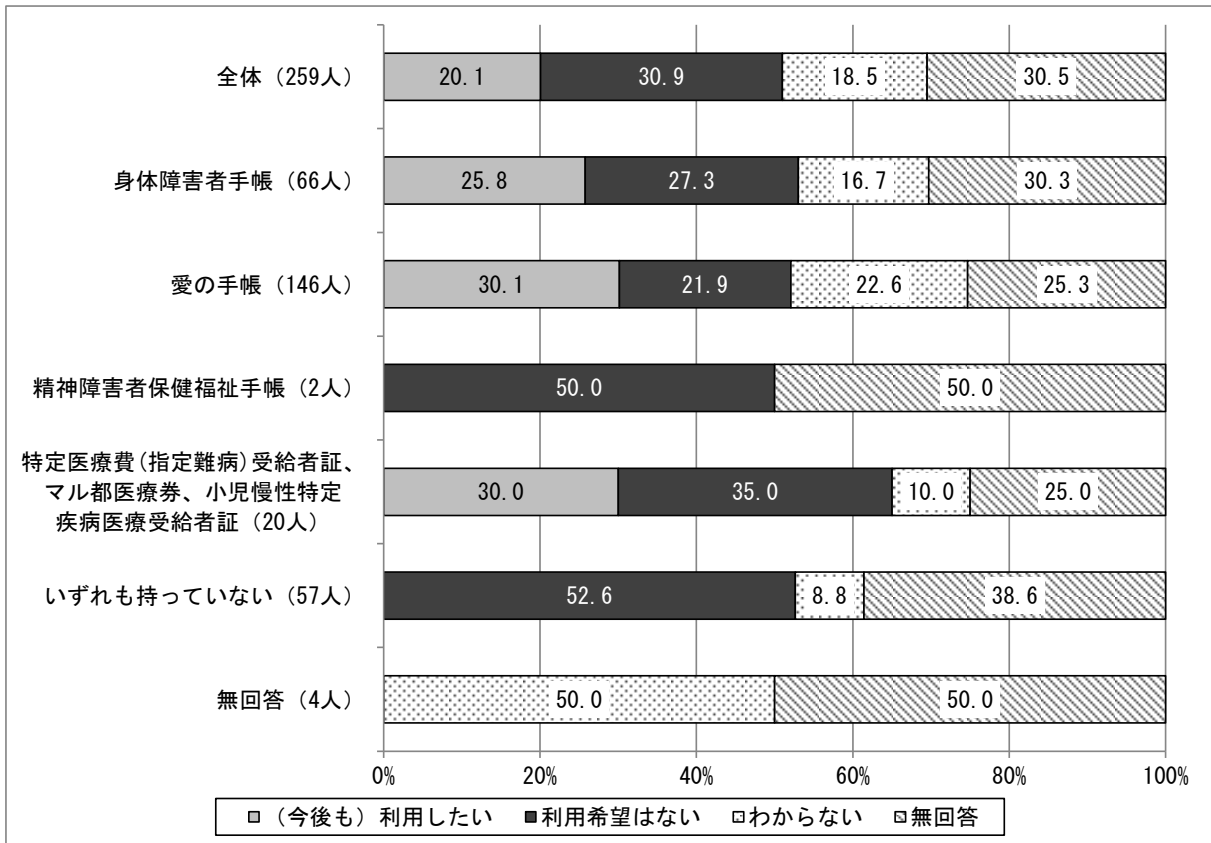


カ 日中一時支援事業

○現在の利用状況



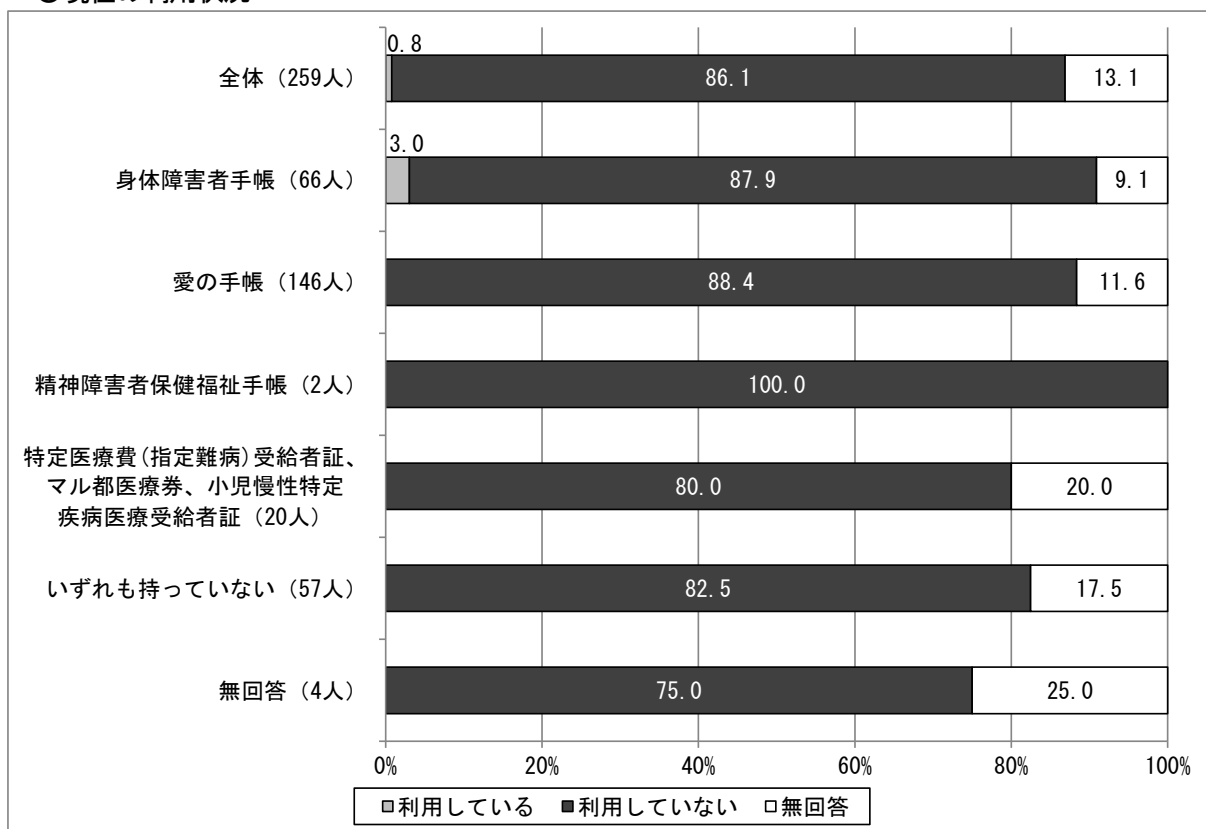
○今後の利用希望



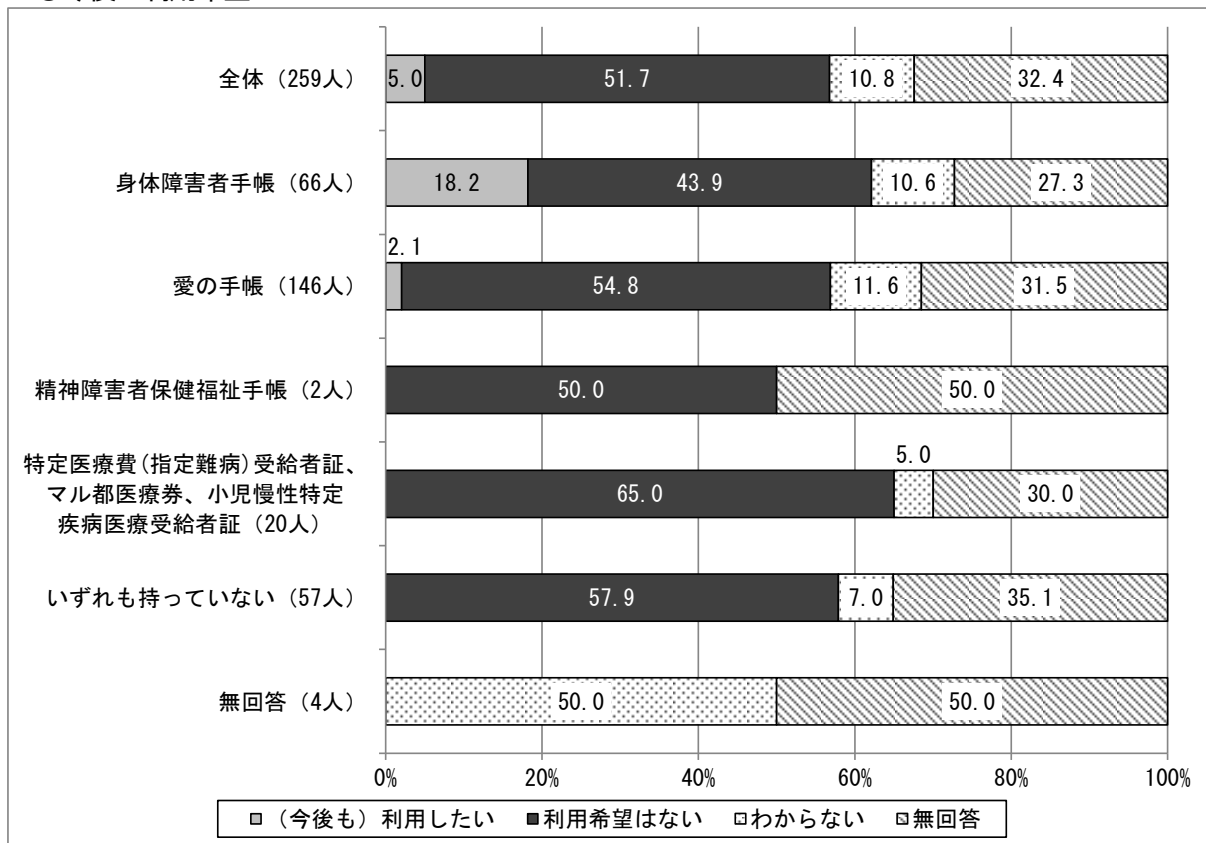
## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### キ 手話通訳者派遣事業

#### ○現在の利用状況

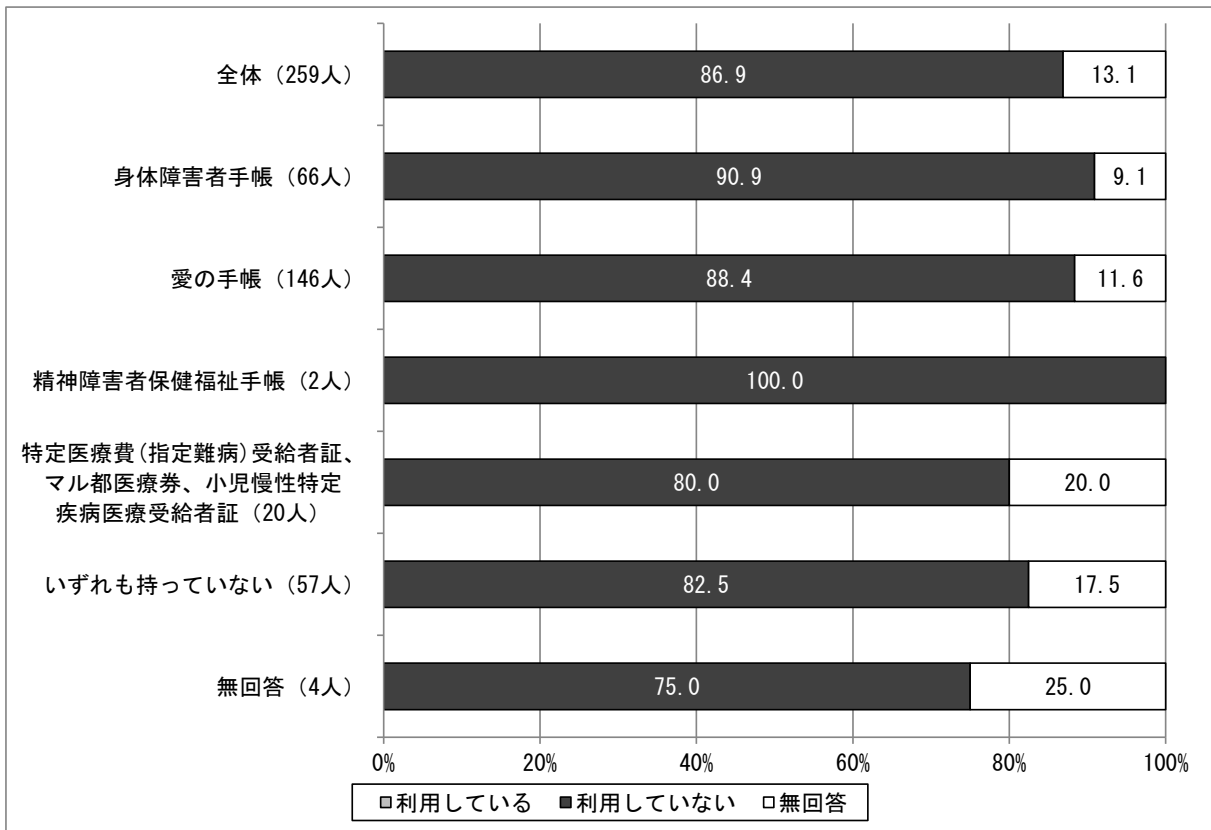


#### ○今後の利用希望

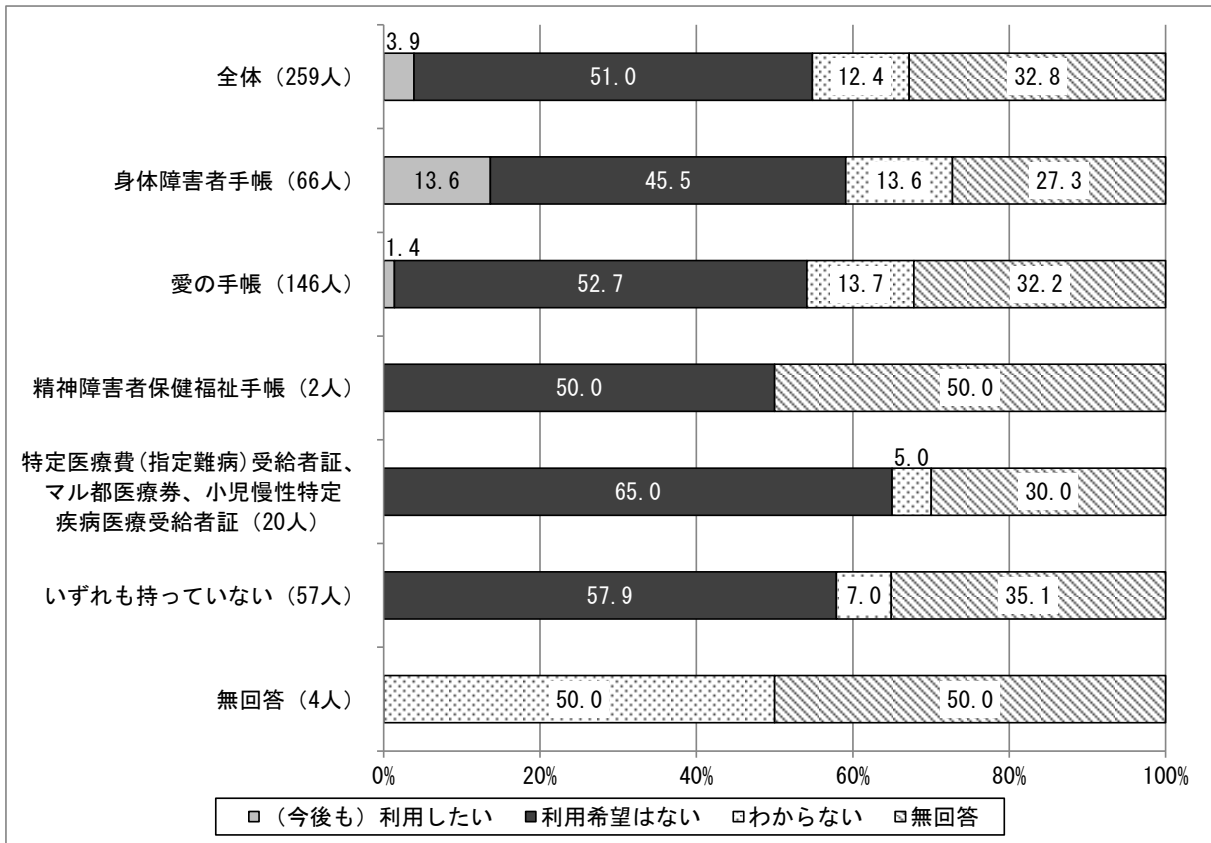


ク 要約筆記者派遣事業

○現在の利用状況



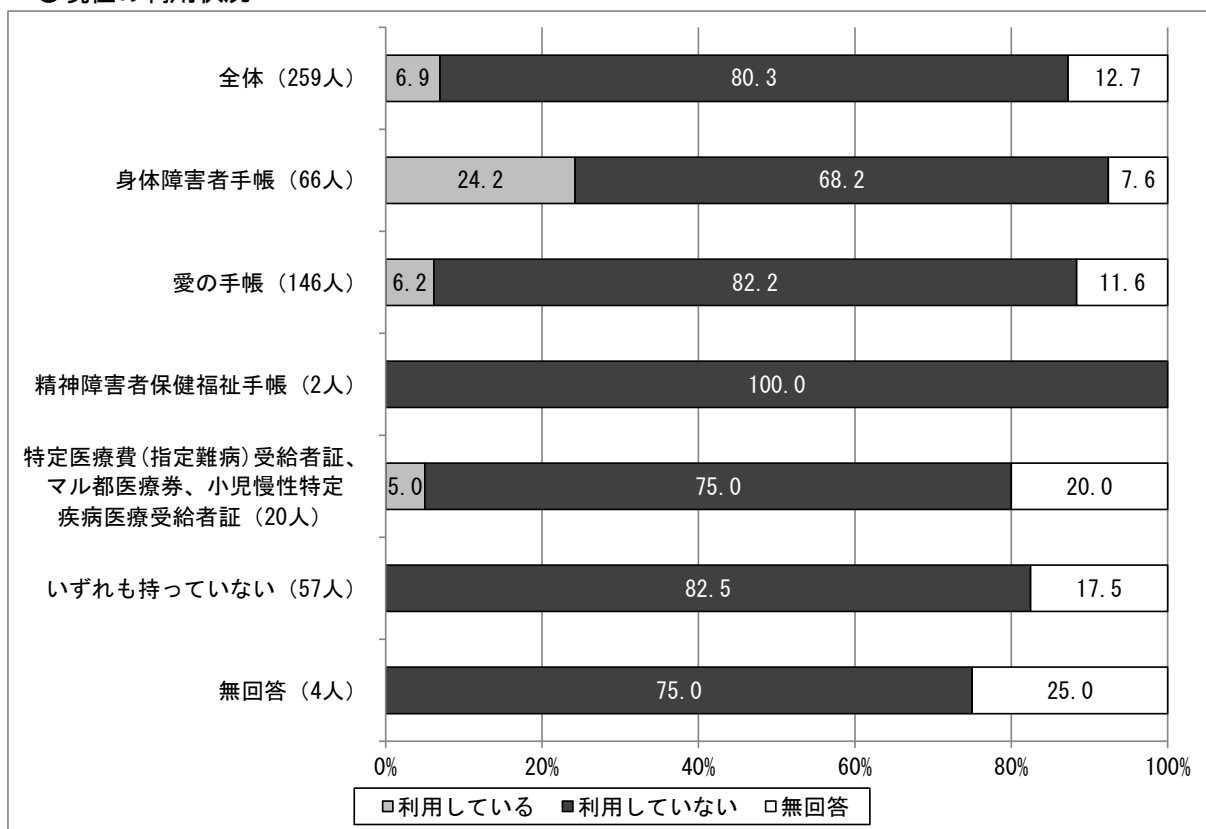
○今後の利用希望



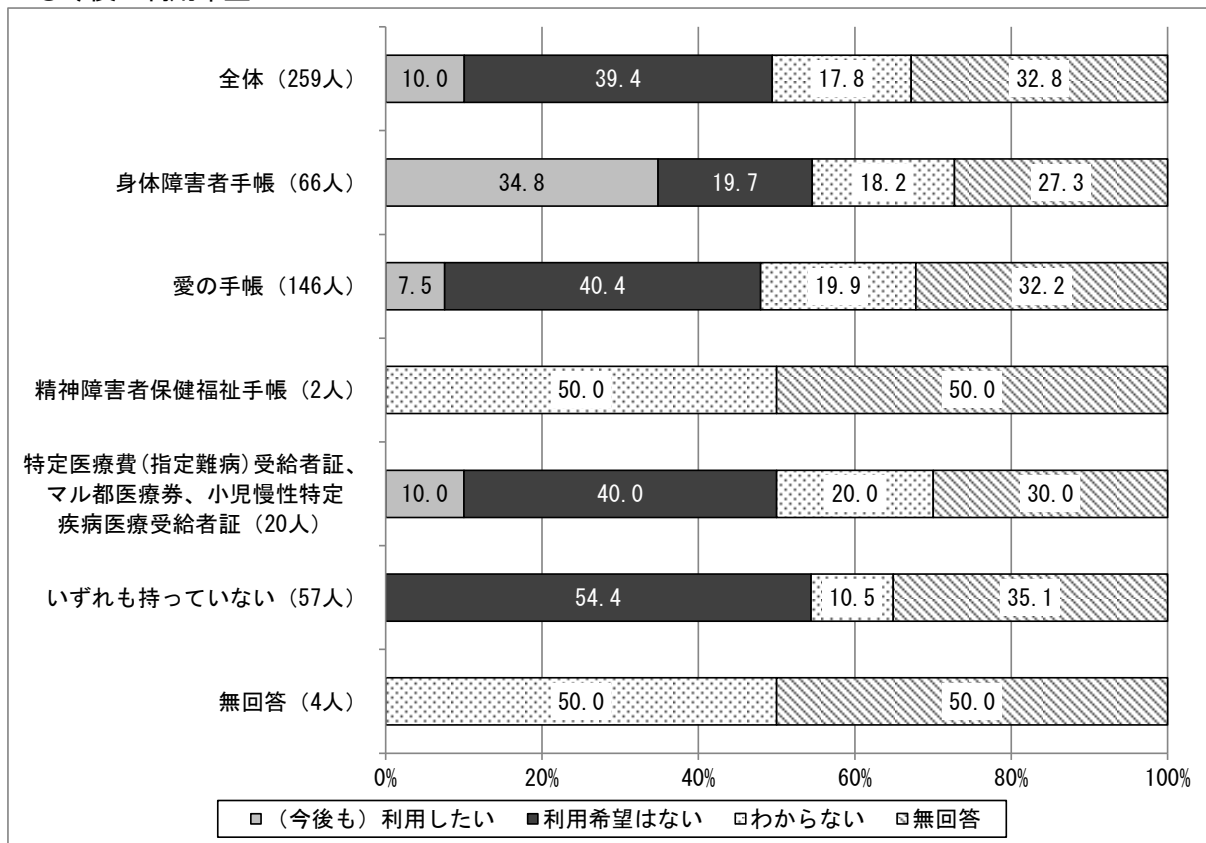
## Ⅱ-2 就学児以上 18歳以下の方への調査

### ケ 日常生活用具給付等事業

#### ○現在の利用状況



#### ○今後の利用希望



問27 問26でア～ケの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします。

① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。

（現在利用しているサービスごとに、1つに○）

<全体の傾向>

現在利用しているサービスの満足度について、居宅介護（ホームヘルプ）では、「満足」が60.0%、「やや満足」が40.0%となっています。

行動援護（該当者1人）では、「やや満足」との回答が得られています。

短期入所（ショートステイ）では、「満足」が41.7%と最も割合が高く、次いで「やや不満」が33.3%、「やや満足」が16.7%となっています。

移動支援事業では、「満足」が47.1%と最も割合が高く、次いで「やや満足」が29.4%、「やや不満」が17.6%となっています。

日中一時支援事業では、「やや満足」が40.0%と最も割合が高く、次いで「満足」と「やや不満」が26.7%、「不満」が3.3%となっています。

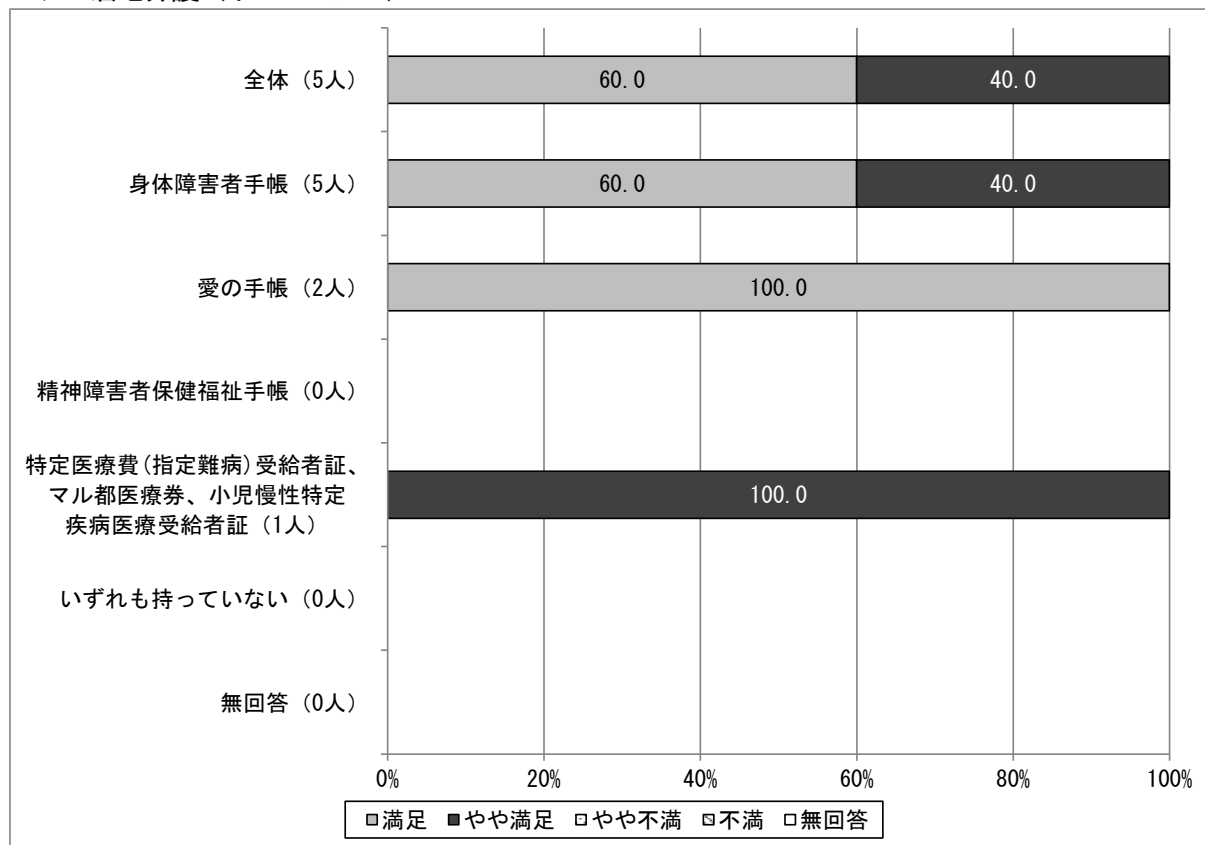
手話通訳者派遣事業では、「やや満足」と「やや不満」がともに50.0%（各1人）となっています。

日常生活用具給付等事業では、「やや満足」が55.6%と最も割合が高く、「満足」が38.9%、「不満」が5.6%となっています。

<手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

ア 居宅介護（ホームヘルプ）

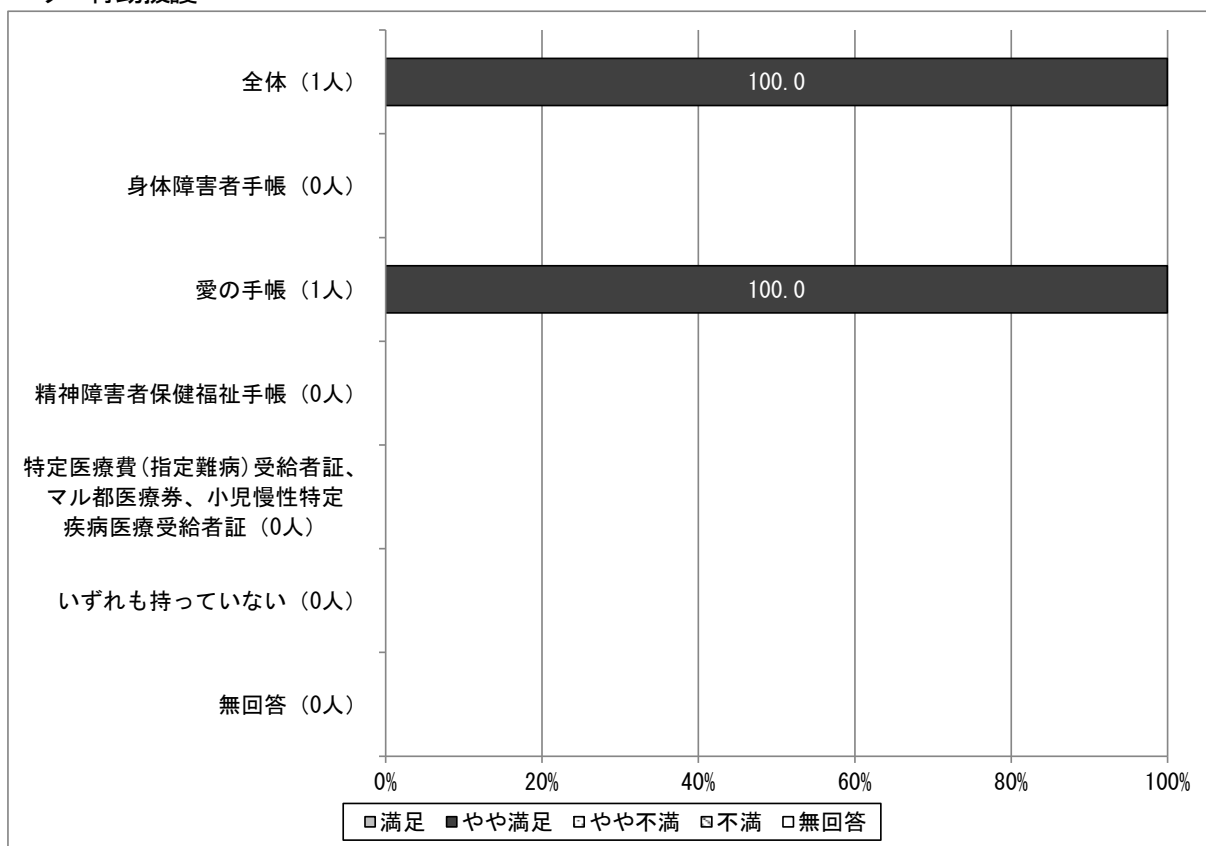


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### イ 同行援護

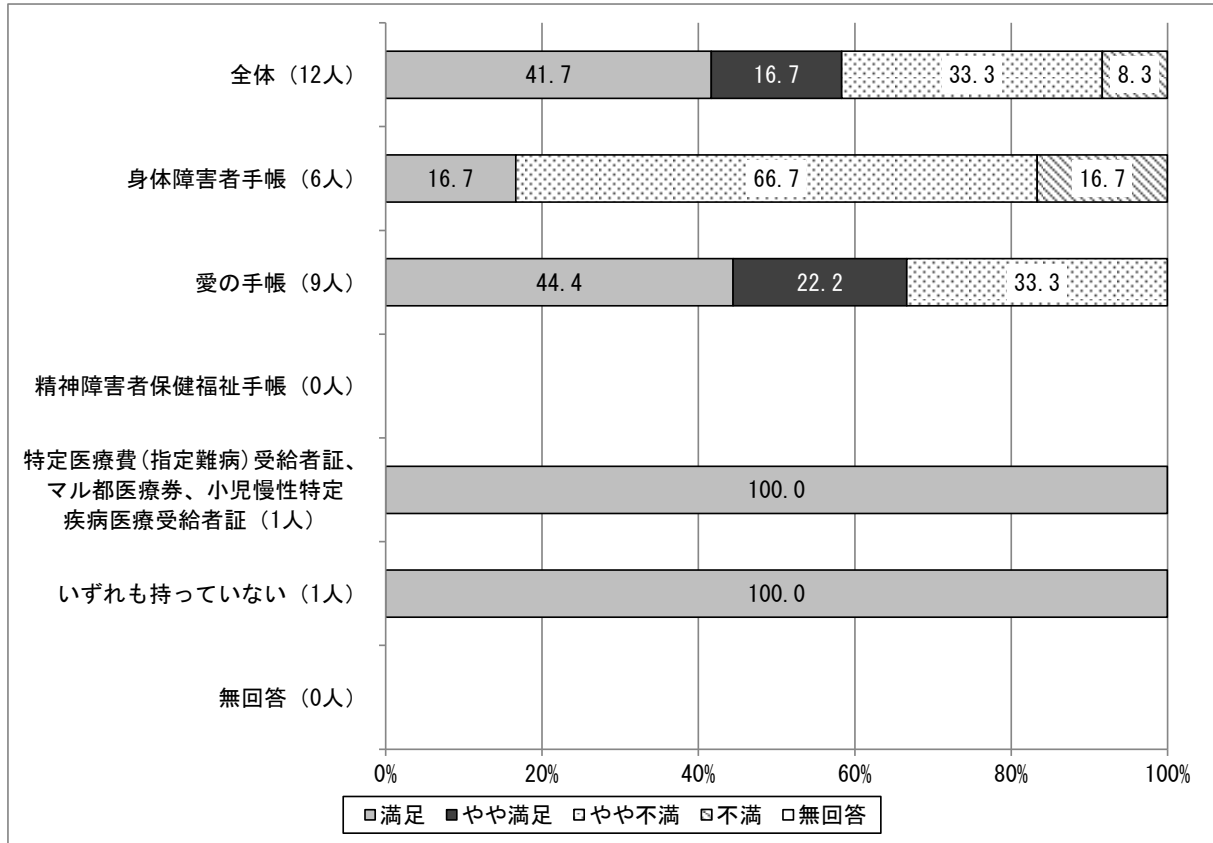
※ 回答者なし

### ウ 行動援護

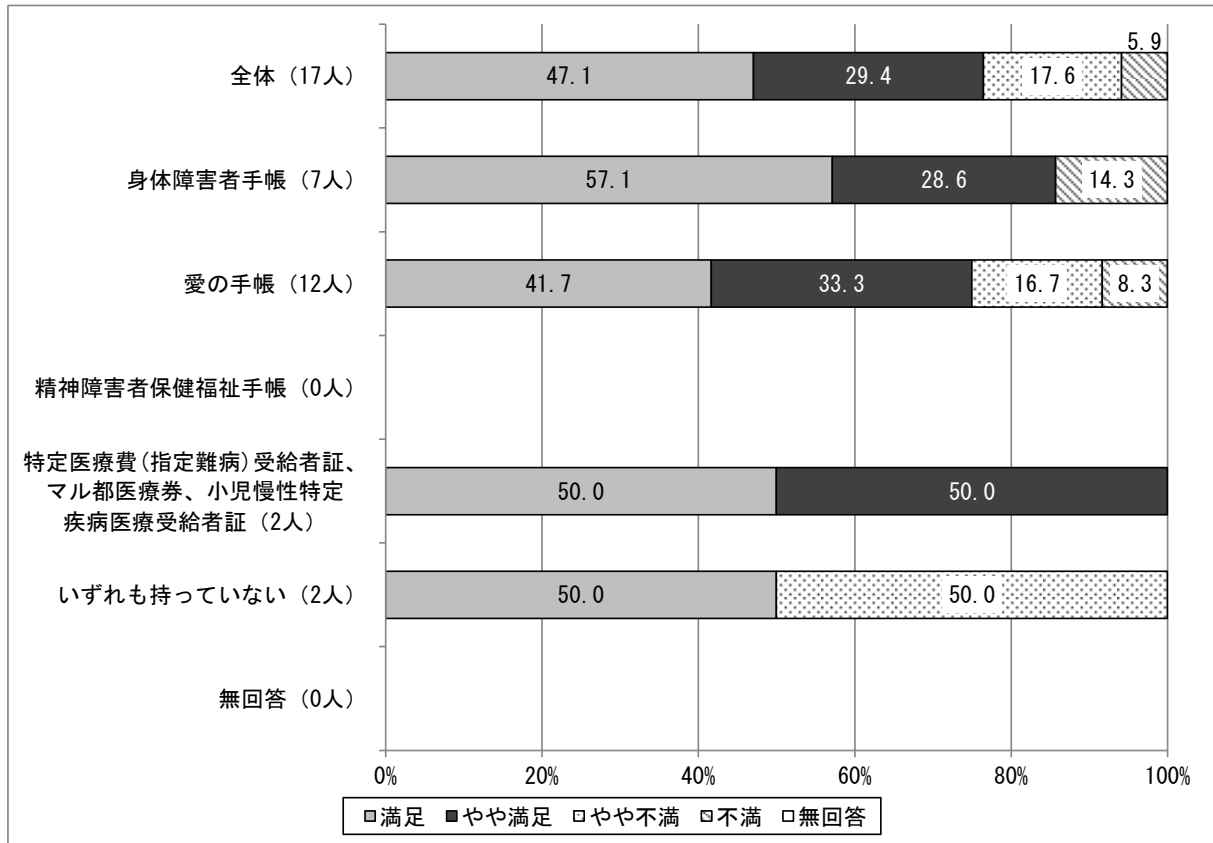




エ 短期入所（ショートステイ）

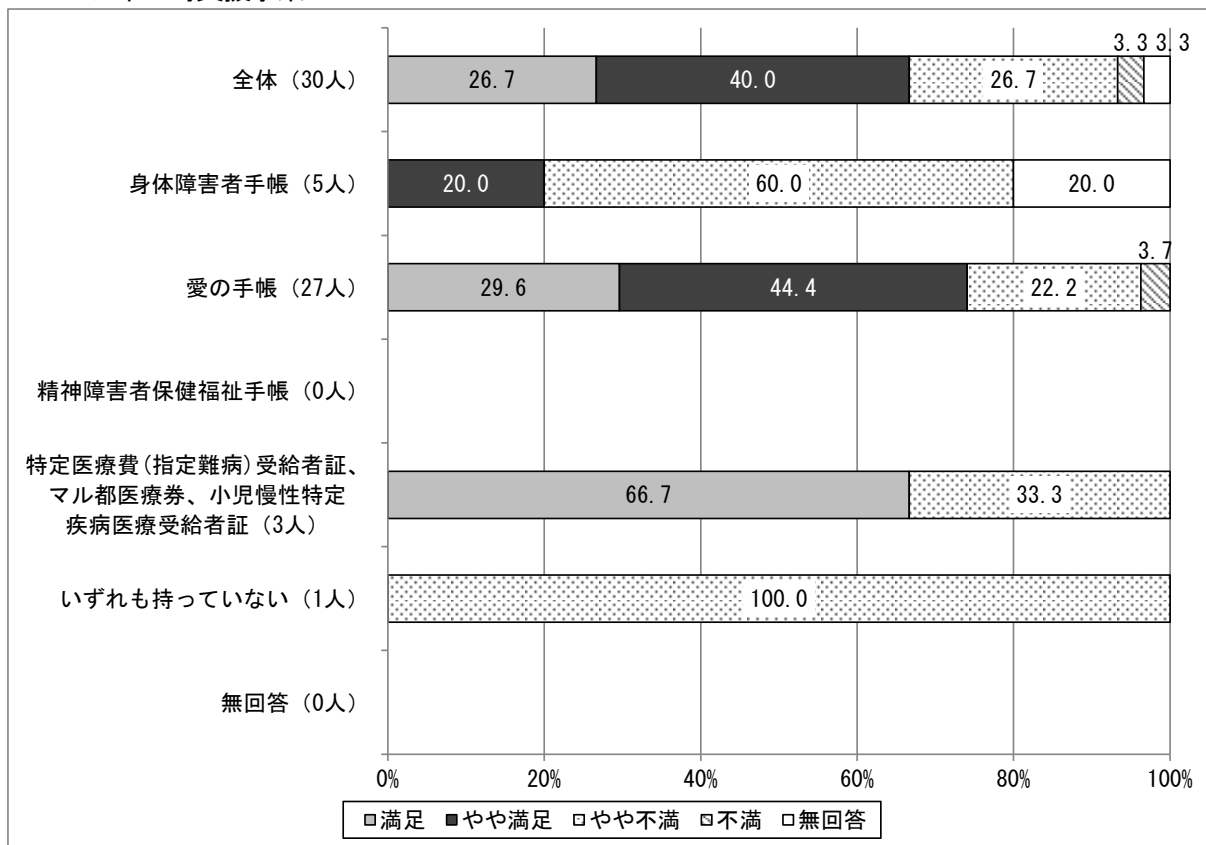


オ 移動支援事業

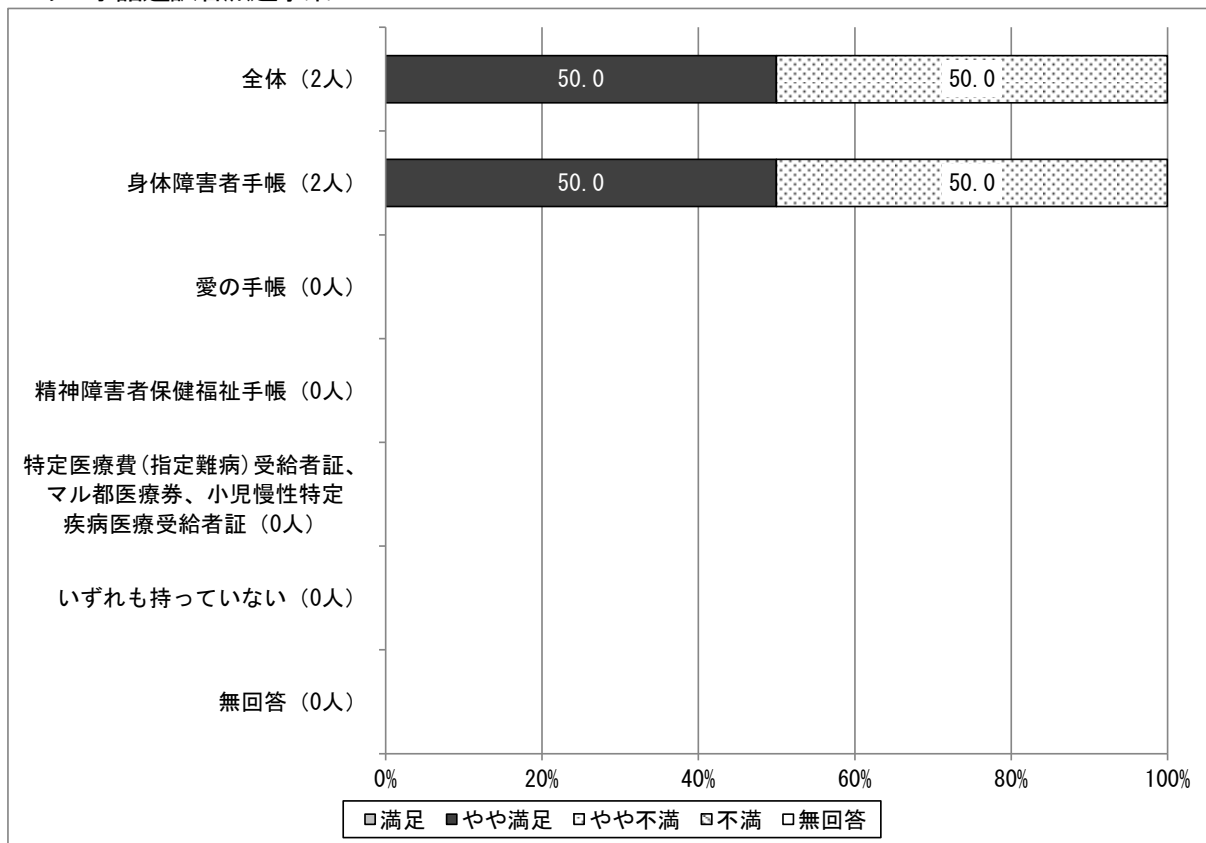


## Ⅱ-2 就学児以上18歳以下の方への調査

### カ 日中一時支援事業



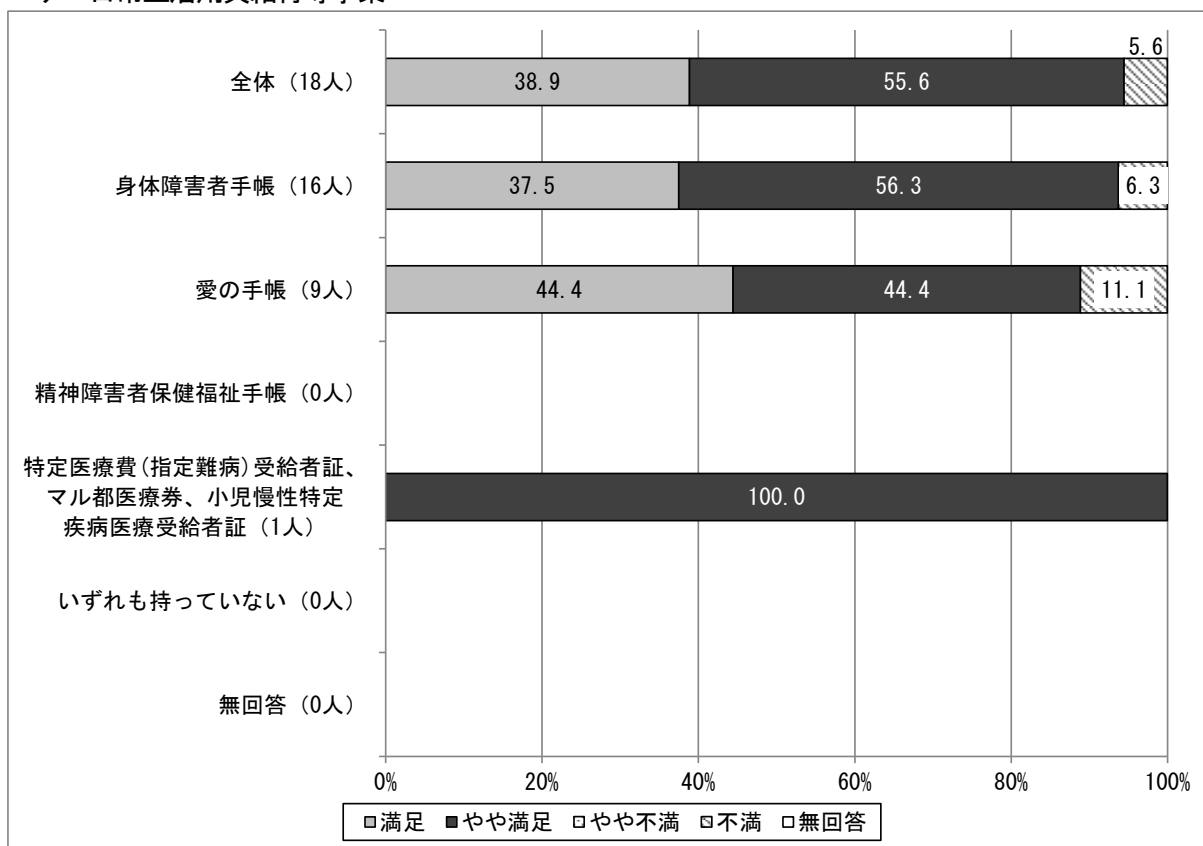
### キ 手話通訳者派遣事業



ク 要約筆記者派遣事業

※ 回答者なし

ケ 日常生活用具給付等事業



## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### ② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。

(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

#### <全体の傾向>

障害福祉サービスで困っていることについては、居宅介護（ホームヘルプ）「利用できる時間や日数、回数が少ない」が 60.0%と最も割合が高く、次いで「利用者負担が大きい」が 40.0%となっています。

短期入所（ショートステイ）について、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が 33.3%と最も割合が高く、次いで「事業者との利用日等の調整が大変」が 25.0%、「その他」と「特にない」が 16.7%となっています。

移動支援事業について、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が 41.2%と最も割合が高く、次いで「特にない」が 29.4%、「事業者との利用日等の調整が大変」が 23.5%となっています。

日中一時支援事業について、「利用できる時間や日数、回数が少ない」が 33.3%と最も割合が高く、次いで「その他」が 30.0%、「事業者との利用日等の調整が大変」が 20.0%となっています。

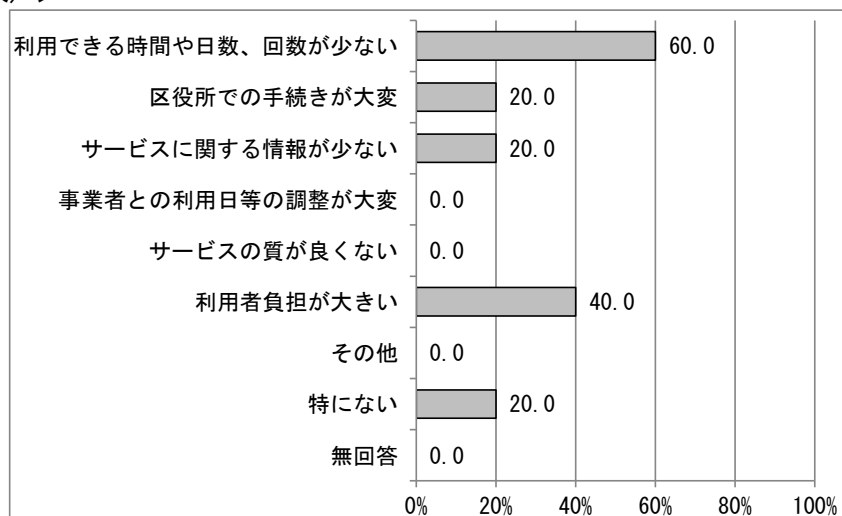
日常生活用具給付等事業について、「特にない」が 27.8%と最も割合が高く、次いで「利用者負担が大きい」が 22.2%、「区役所での手続きが大変」と「その他」が 11.1%となっています。

#### <手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

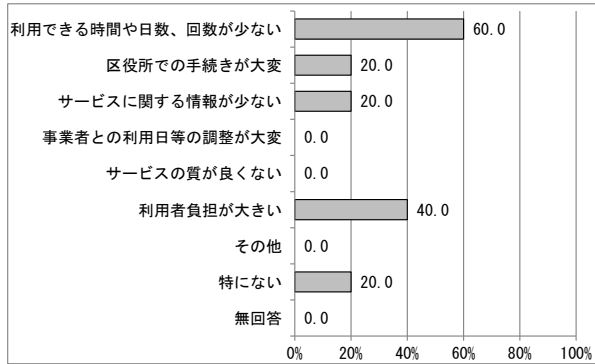
### ア 居宅介護（ホームヘルプ）

#### <全体（5人）>

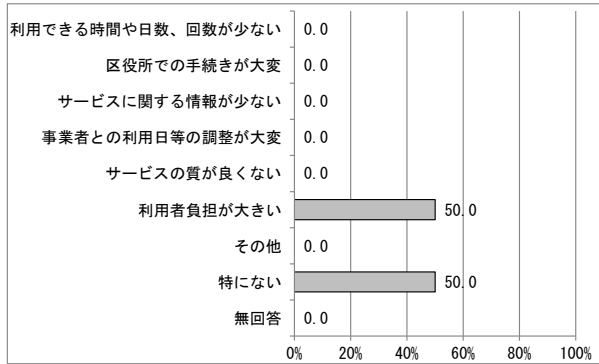


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

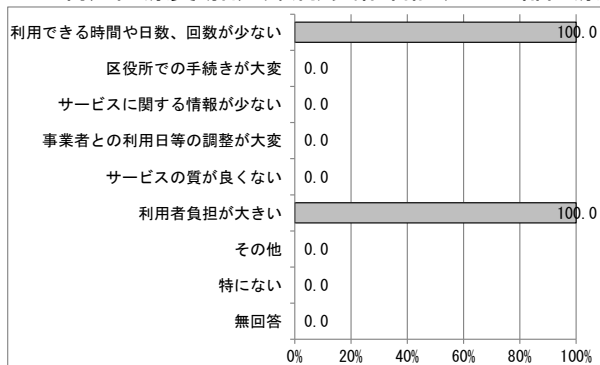
### <身体障害者手帳（5人）>



### <愛の手帳（2人）>



### <特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（1人）>



※回答のあった分類のみ記載

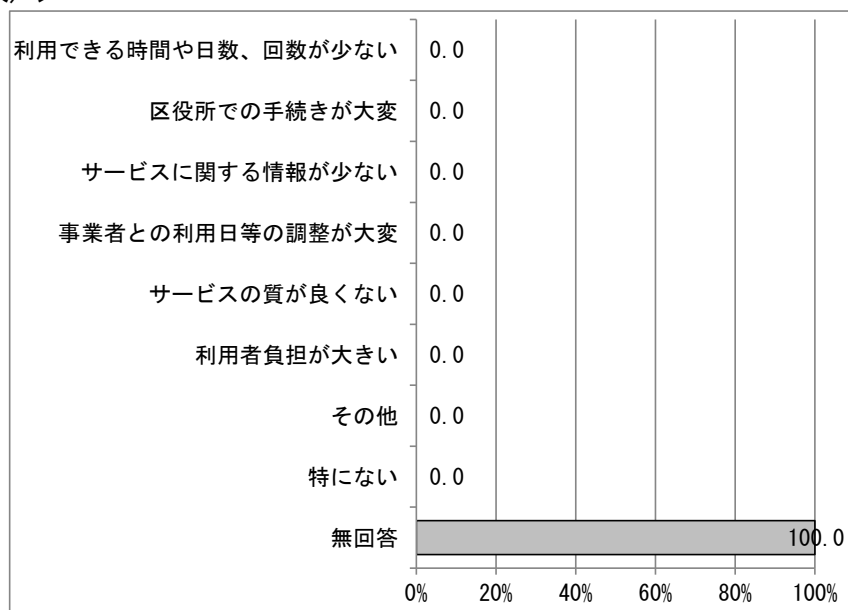
### イ 同行援護

※ 回答者なし

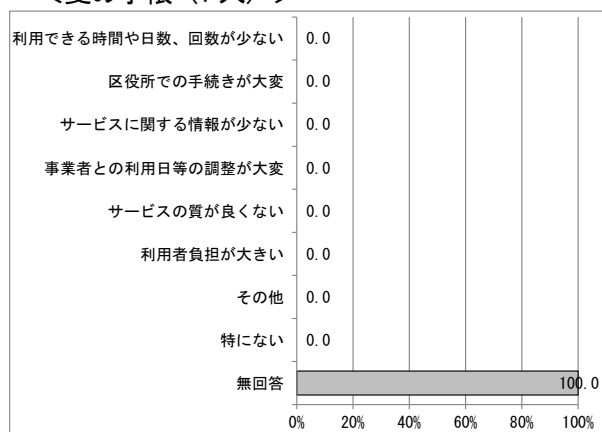
## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### ウ 行動援護

<全体 (1 人)>



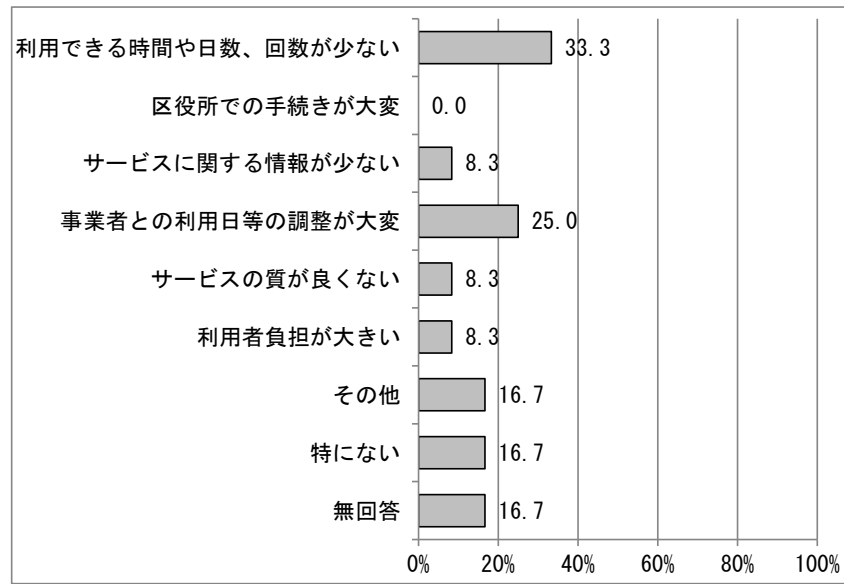
<愛の手帳 (1 人)>



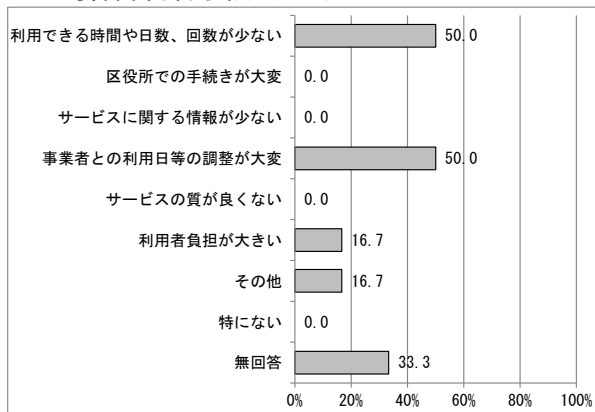
※回答のあった分類のみ記載

エ 短期入所（ショートステイ）

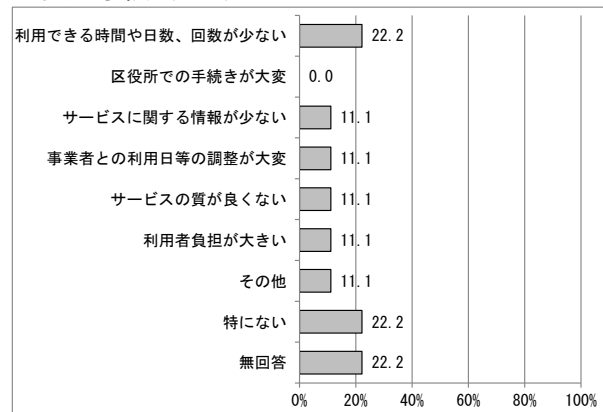
<全体（12 人）>



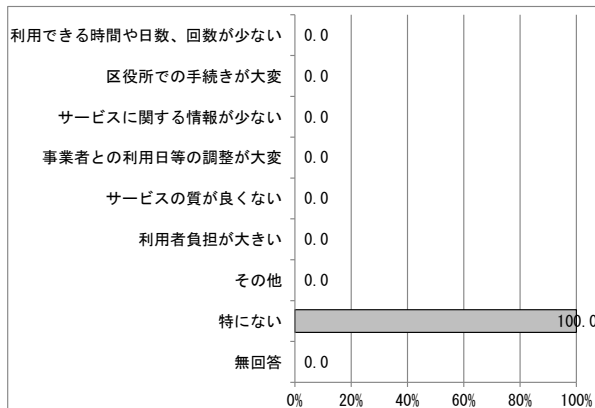
<身体障害者手帳（6 人）>



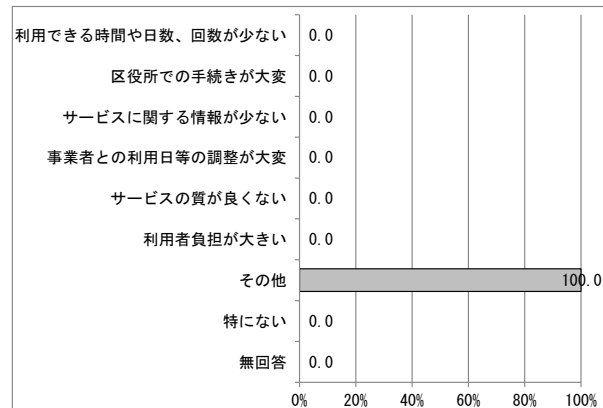
<愛の手帳（9 人）>



<特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（1 人）>



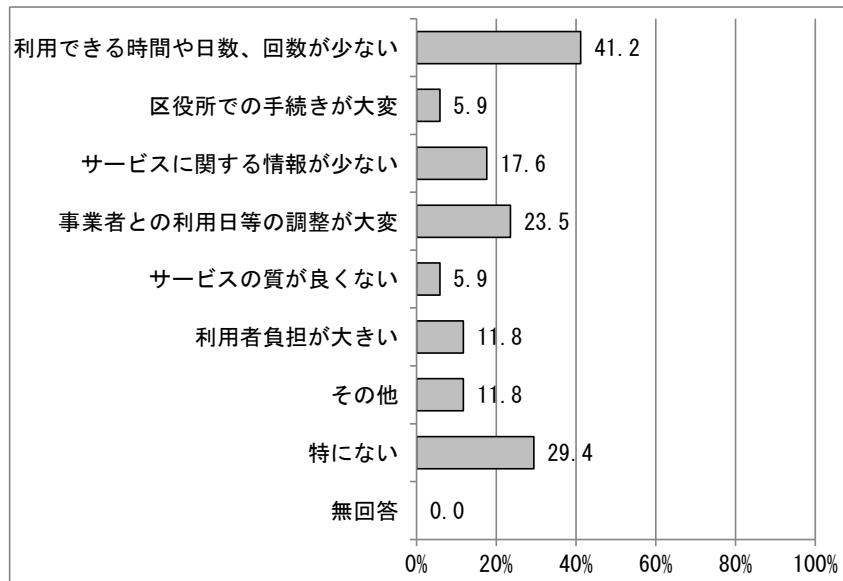
<いずれも持っていない（1 人）>



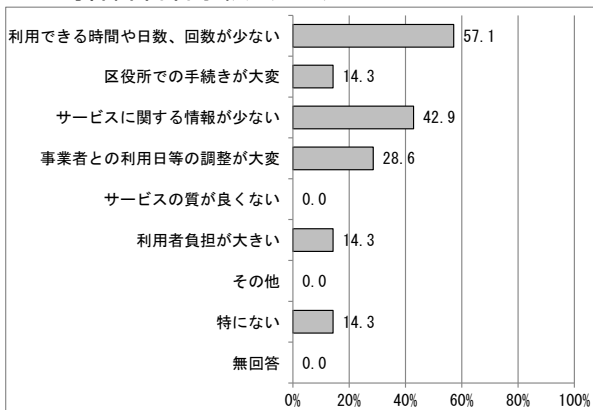
※回答のあった分類のみ記載

## Ⅱ-2 就学児以上18歳以下の方への調査

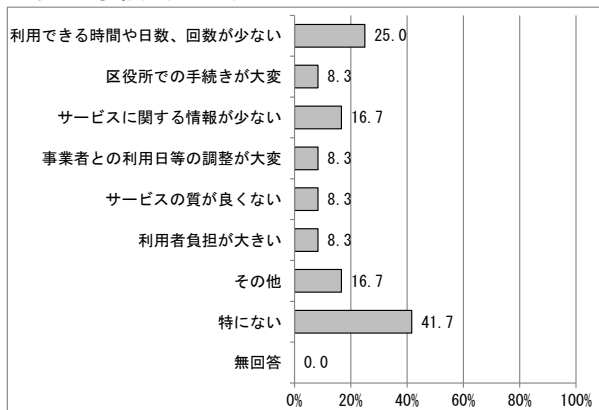
### オ 移動支援事業 ＜全体（17人）＞



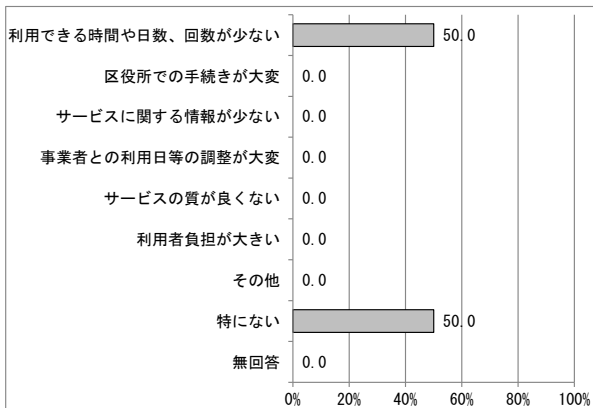
### ＜身体障害者手帳（7人）＞



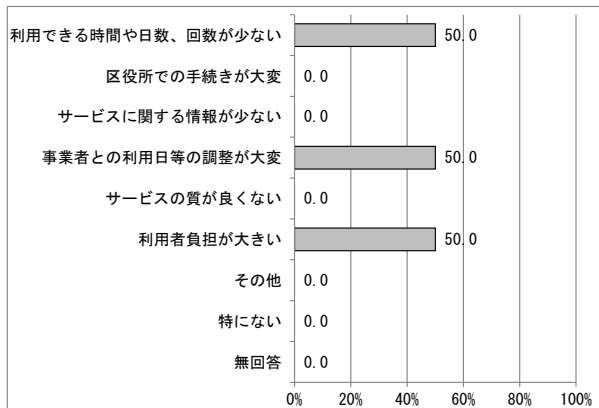
### ＜愛の手帳（12人）＞



### ＜特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（2人）＞



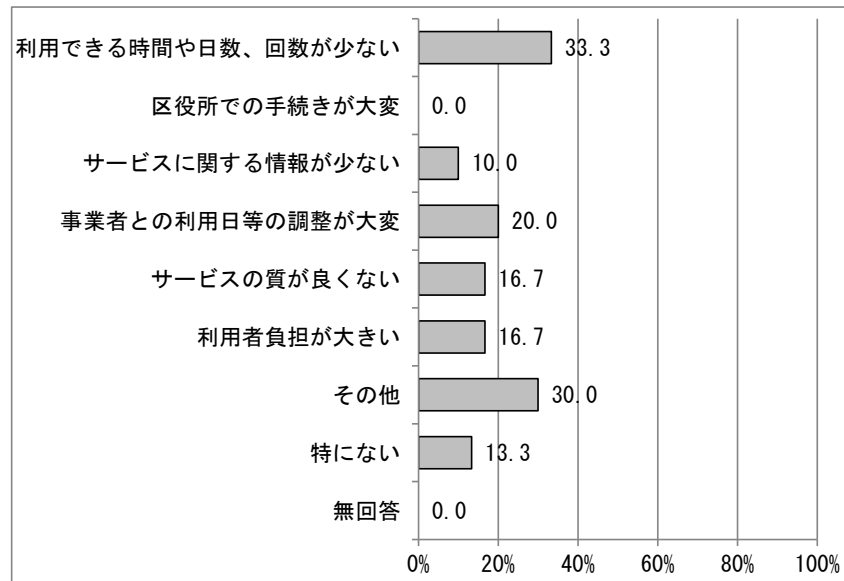
### ＜いずれも持っていない（2人）＞



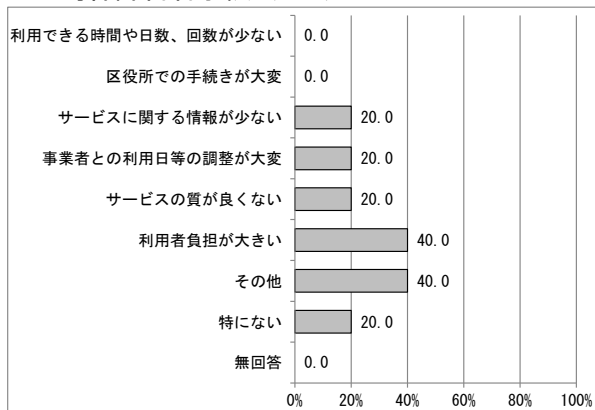
※回答のあった分類のみ記載



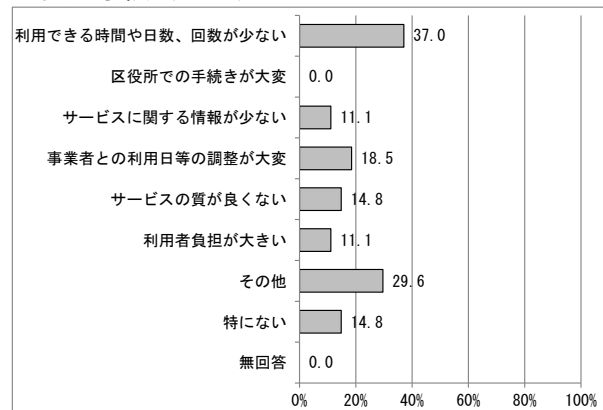
カ 日中一時支援事業  
 <全体 (30 人)>



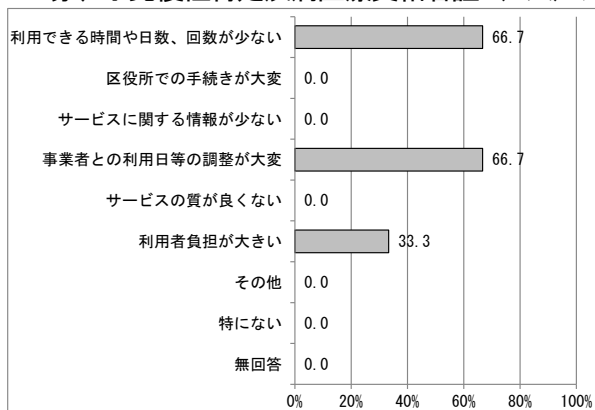
<身体障害者手帳 (5 人)>



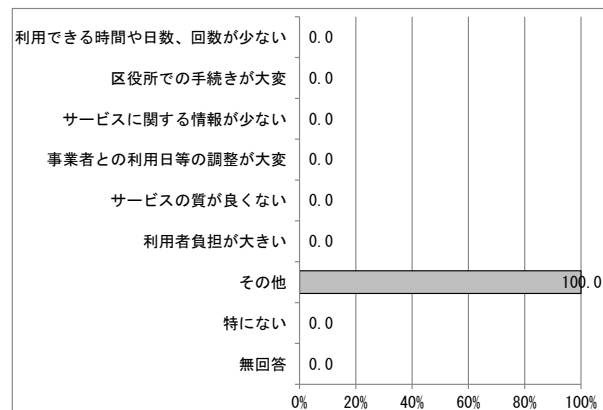
<愛の手帳 (27 人)>



<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (3 人)>



<いずれも持っていない (1 人)>

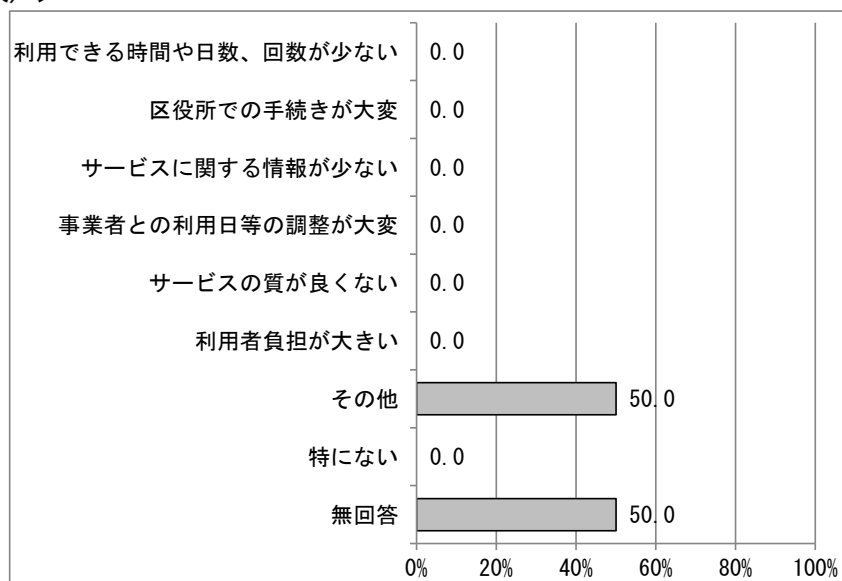


※回答のあった分類のみ記載

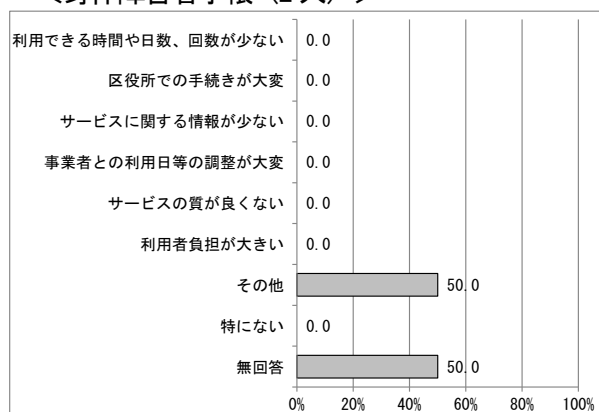
## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### キ 手話通訳者派遣事業

<全体 (2人)>



<身体障害者手帳 (2人)>



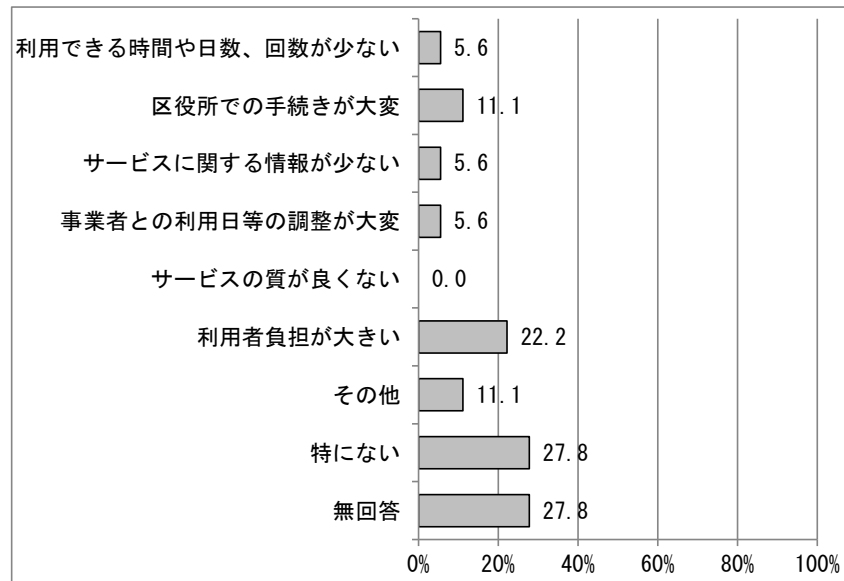
※回答のあった分類のみ記載

### ク 要約筆記者派遣事業

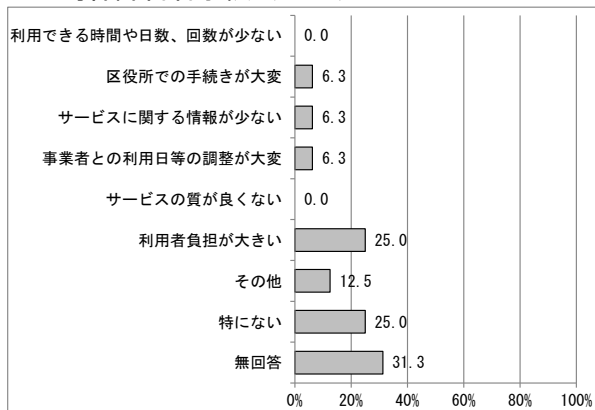
※ 回答者なし

ケ 日常生活用具給付等事業

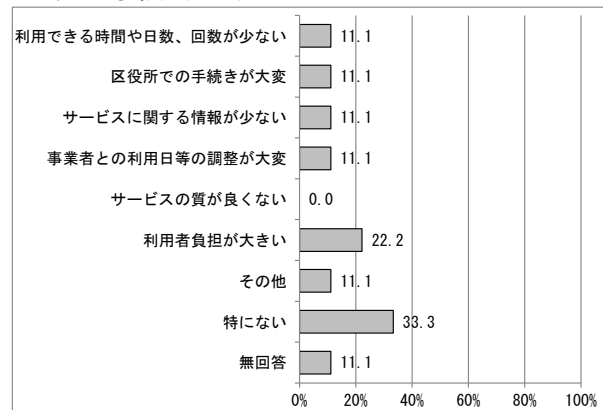
<全体 (18 人)>



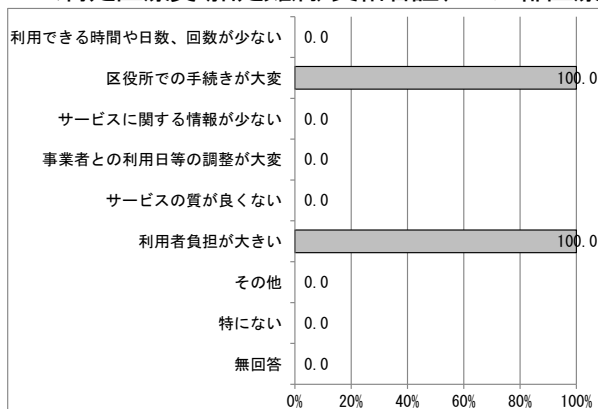
<身体障害者手帳 (16 人)>



<愛の手帳 (9 人)>



<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (1 人)>



※回答のあった分類のみ記載

## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

- ③ ①でア～ケのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

### <全体の傾向>

不満の理由について、短期入所（ショートステイ）では「その他」が 40.0%、「職員の専門性が低い」と「緊急時の対応が遅い」がともに 20.0%となっています。

移動支援事業では「その他」が 75.5%、「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」と「緊急時の対応が遅い」がともに 25.0%となっています。

日中一時支援事業では「その他」が 66.7%、「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」が 33.3%となっています。

手話通訳者派遣事業、日常生活用具給付等事業（ともに該当者 1 人）では「個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない」と「その他」の回答が得られています。

### <手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。

#### ア 居宅介護（ホームヘルプ）

※ 該当者なし

#### イ 同行援護

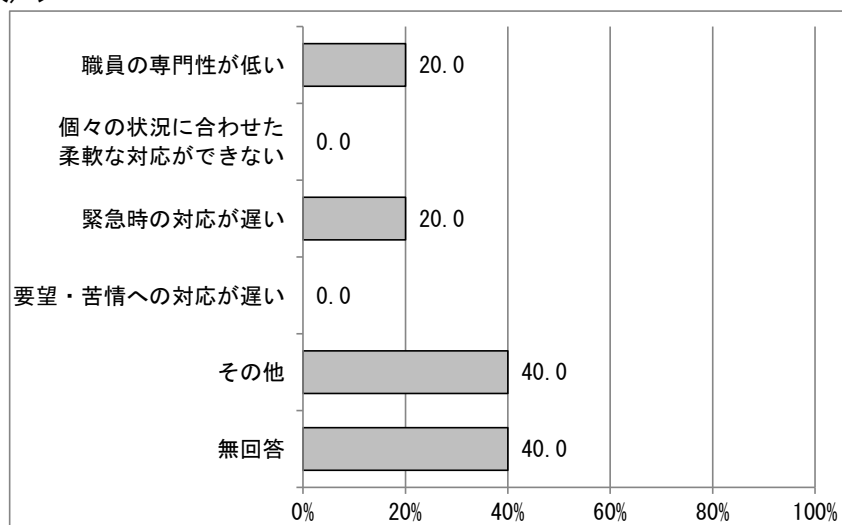
※ 該当者なし

#### ウ 行動援護

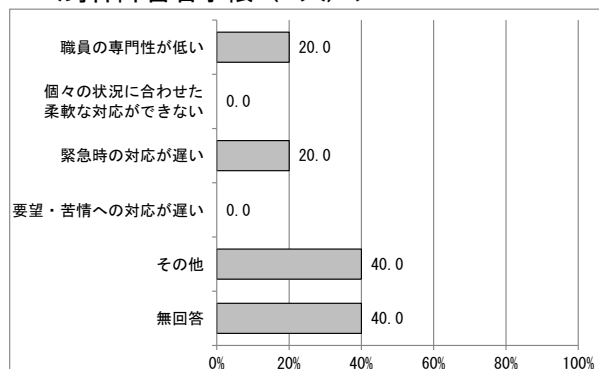
※ 該当者なし

エ 短期入所（ショートステイ）

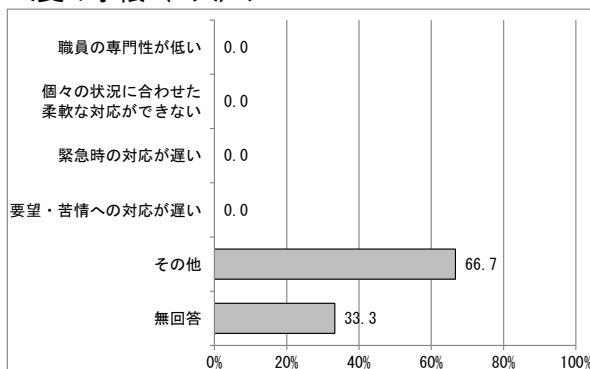
<全体（5人）>



<身体障害者手帳（5人）>



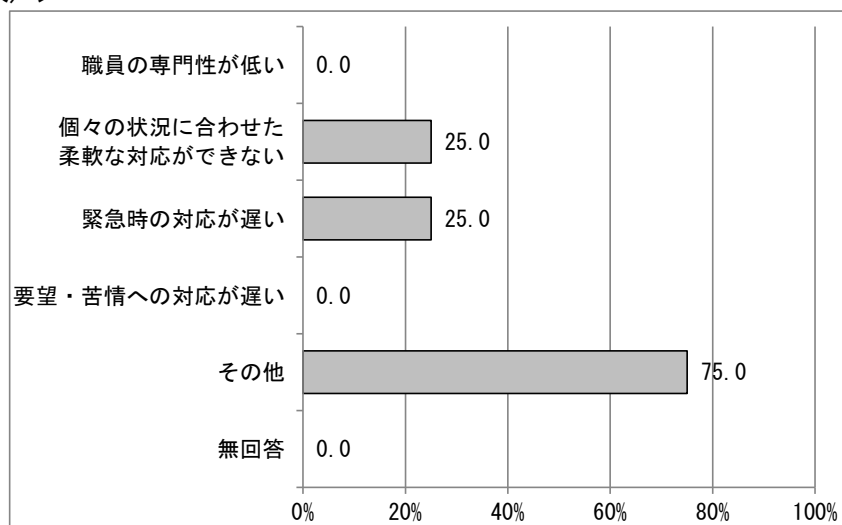
<愛の手帳（3人）>



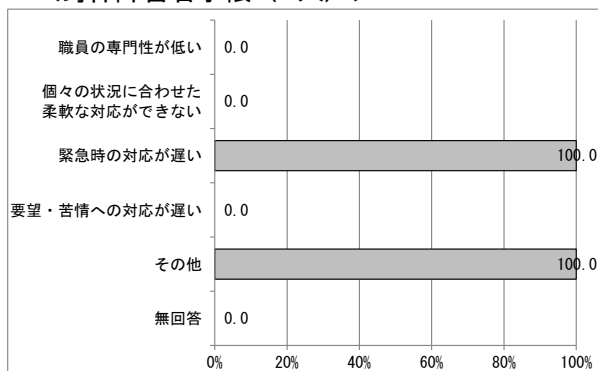
※回答のあった分類のみ記載

## Ⅱ-2 就学児以上18歳以下の方への調査

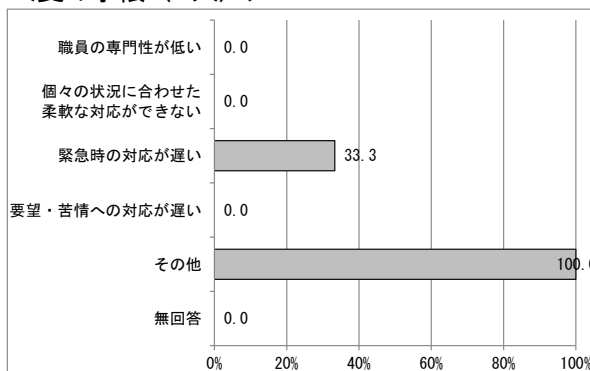
### オ 移動支援事業 ＜全体（4人）＞



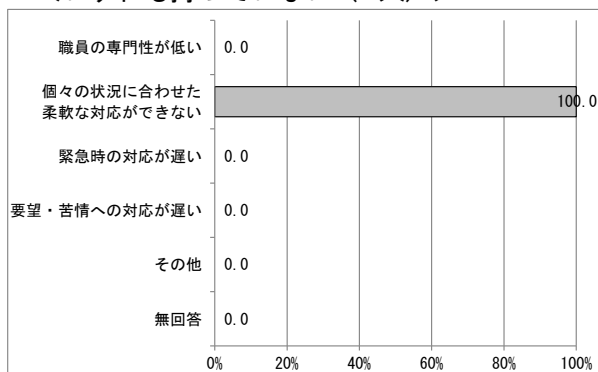
### ＜身体障害者手帳（1人）＞



### ＜愛の手帳（3人）＞

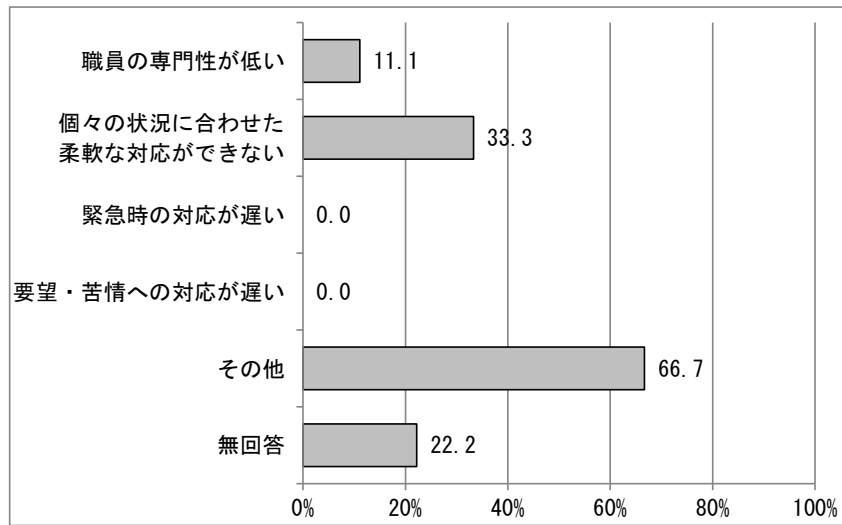


### ＜いずれも持っていない（1人）＞

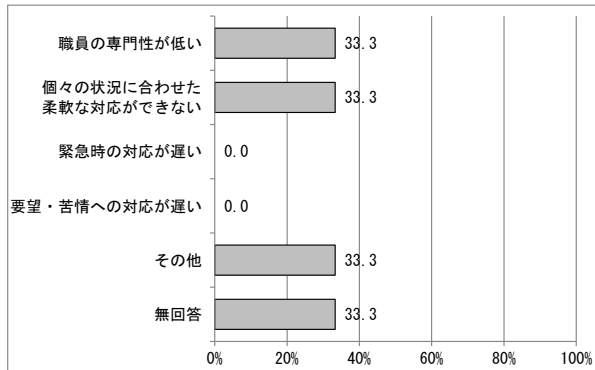


※回答のあった分類のみ記載

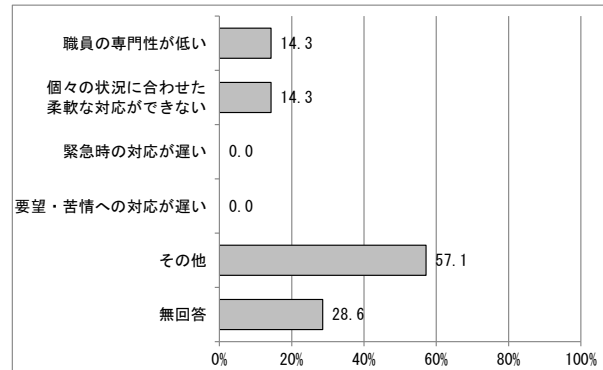
カ 日中一時支援事業  
 <全体 (9人)>



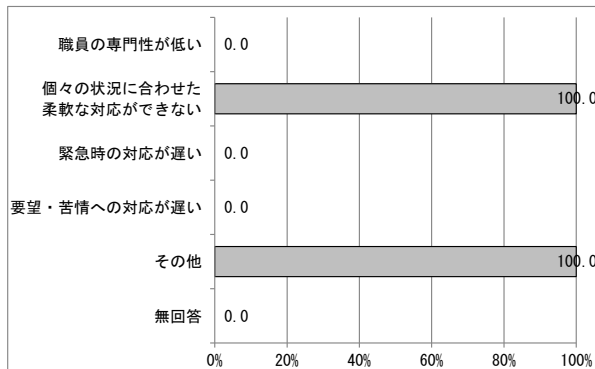
<身体障害者手帳 (3人)>



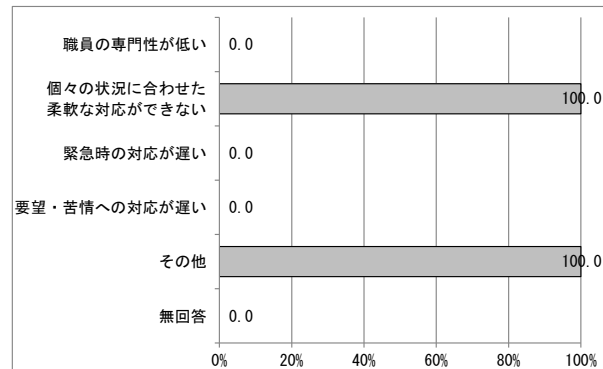
<愛の手帳 (7人)>



<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (1人)>



<いずれも持っていない (1人)>

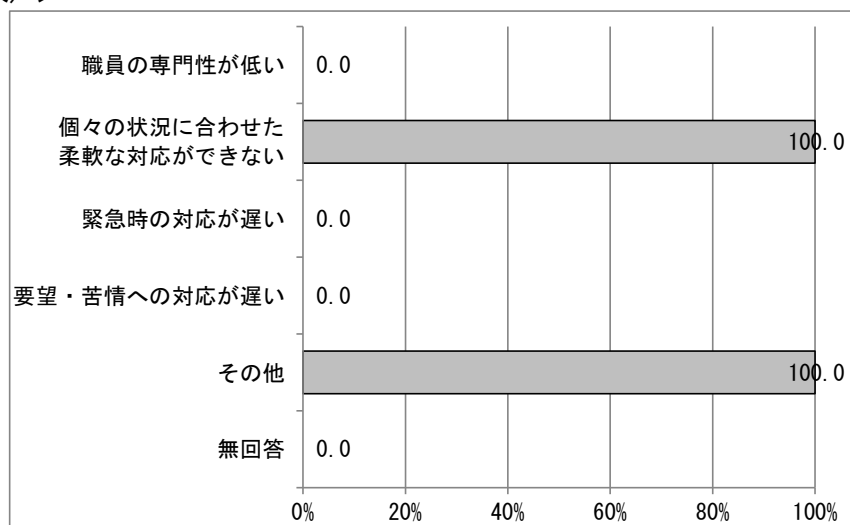


※回答のあった分類のみ記載

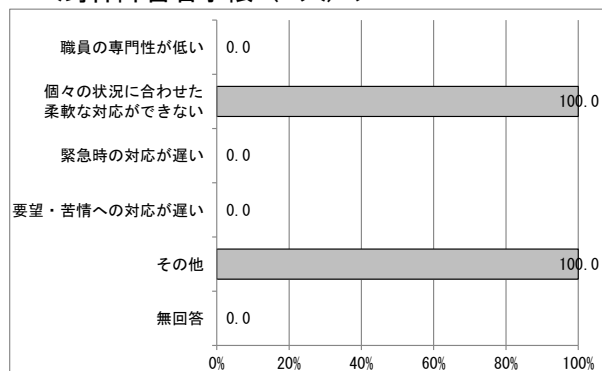
## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### キ 手話通訳者派遣事業

<全体 (1 人)>



<身体障害者手帳 (1 人)>



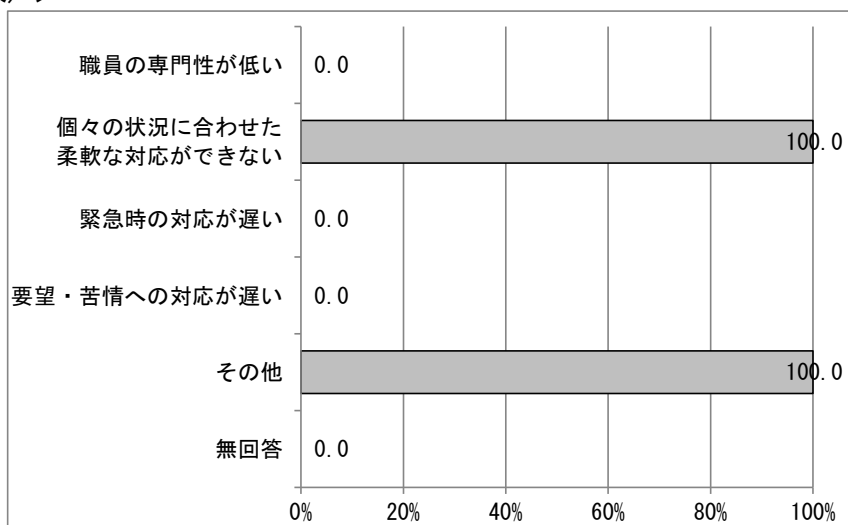
※回答のあった分類のみ記載

### ク 要約筆記者派遣事業

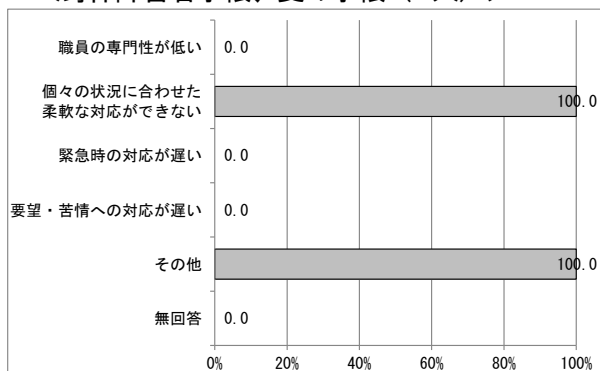
※ 回答者なし



ケ 日常生活用具給付等事業  
 <全体 (1 人)>



<身体障害者手帳、愛の手帳 (1 人)>



※回答のあった分類のみ記載

## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 28 問 26 でア～ケの「現在の利用状況」のいずれかで「2」（利用していない）と回答した方におたずねします。現在利用していないサービスについて、その理由は何ですか。

（現在利用していないサービスごとに、主なもの2つまでに○）

### <全体の傾向>

障害福祉サービスを利用していない理由は、居宅介護（ホームヘルプ）について、「必要がない」が73.2%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が9.1%、「利用方法がわからない」が8.2%となっています。

同行援護について、「必要がない」が73.8%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が10.2%、「利用方法がわからない」が8.9%となっています。

行動援護について、「必要がない」が66.1%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が13.8%、「利用方法がわからない」が11.2%となっています。

短期入所（ショートステイ）について、「必要がない」が58.1%と最も割合が高く、次いで「利用方法がわからない」が16.1%、「サービスを知らなかった」が11.1%となっています。

移動支援事業について、「必要がない」が50.9%と最も割合が高く、次いで「利用方法がわからない」が18.2%、「サービスを知らなかった」が13.6%となっています。

日中一時支援事業について、「必要がない」が54.2%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が15.4%、「利用方法がわからない」が13.9%となっています。

手話通訳者派遣事業について、「必要がない」が79.4%と最も割合が高く、次いで「利用方法がわからない」が5.8%、「サービスを知らなかった」が4.9%となっています。

要約筆記者派遣事業について、「必要がない」が78.7%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が5.8%、「利用方法がわからない」が5.3%となっています。

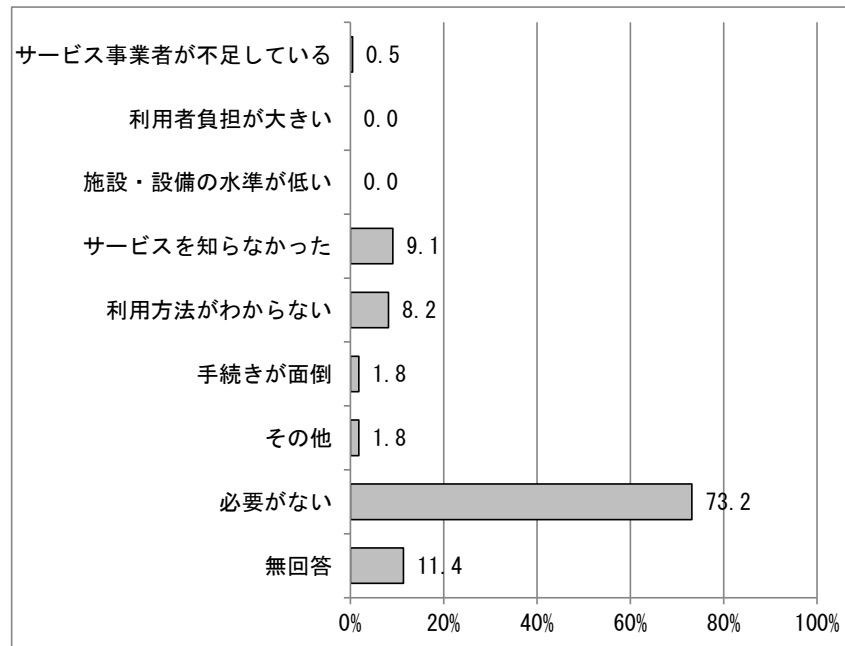
日常生活用具給付等事業について、「必要がない」が71.6%と最も割合が高く、次いで「サービスを知らなかった」が9.6%、「利用方法がわからない」が8.7%となっています。

### <手帳種別の傾向>

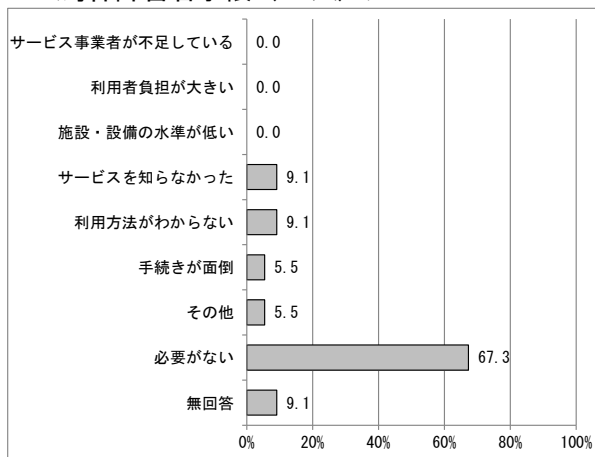
手帳種別の特徴はみられません。

ア 居宅介護（ホームヘルプ）

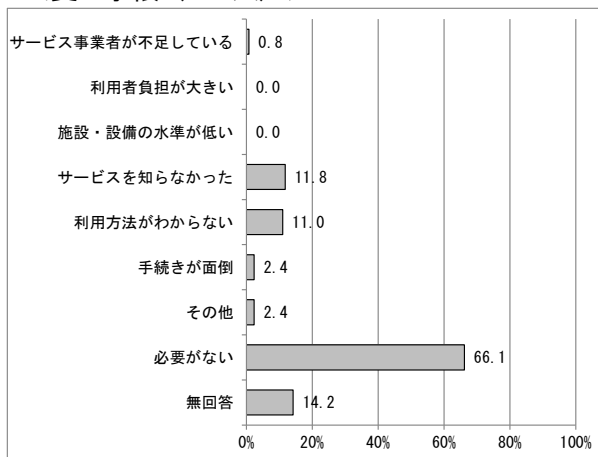
<全体（220人）>



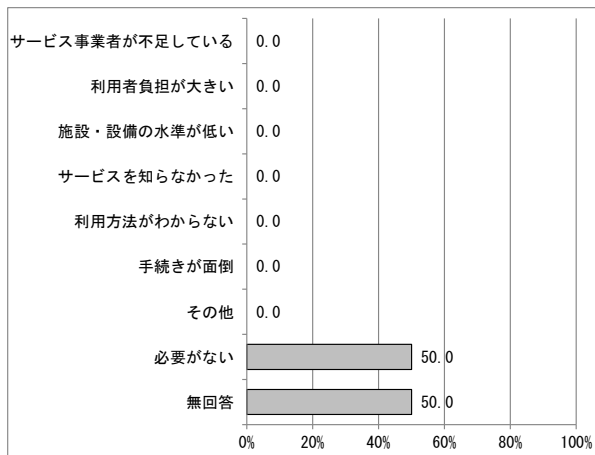
<身体障害者手帳（55人）>



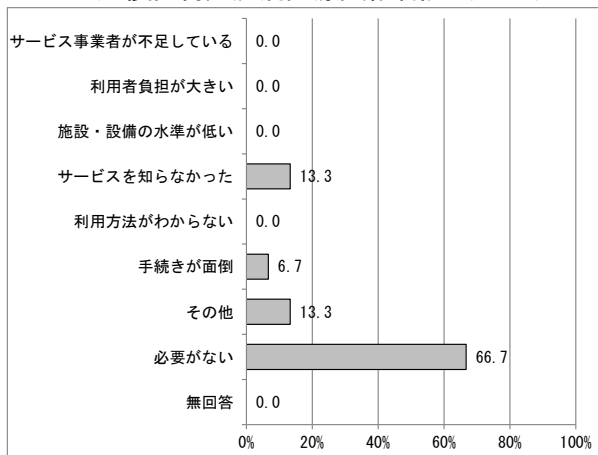
<愛の手帳（127人）>



<精神障害者保健福祉手帳（2人）>

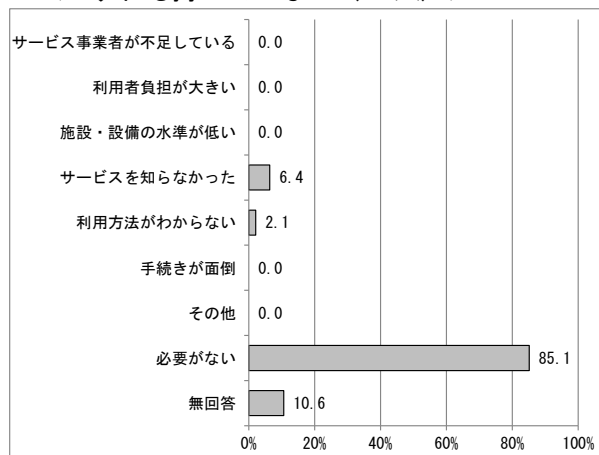


<特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（15人）>

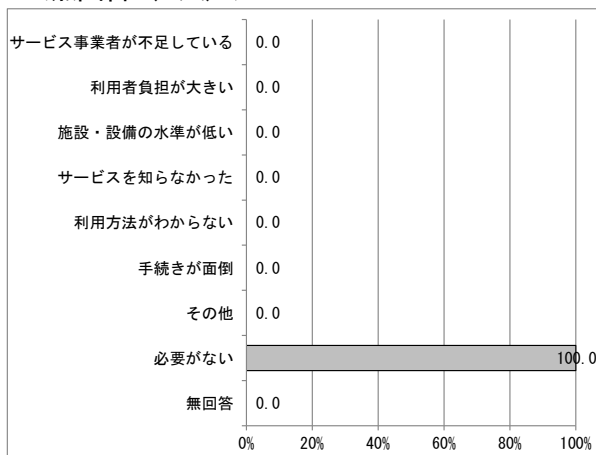


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

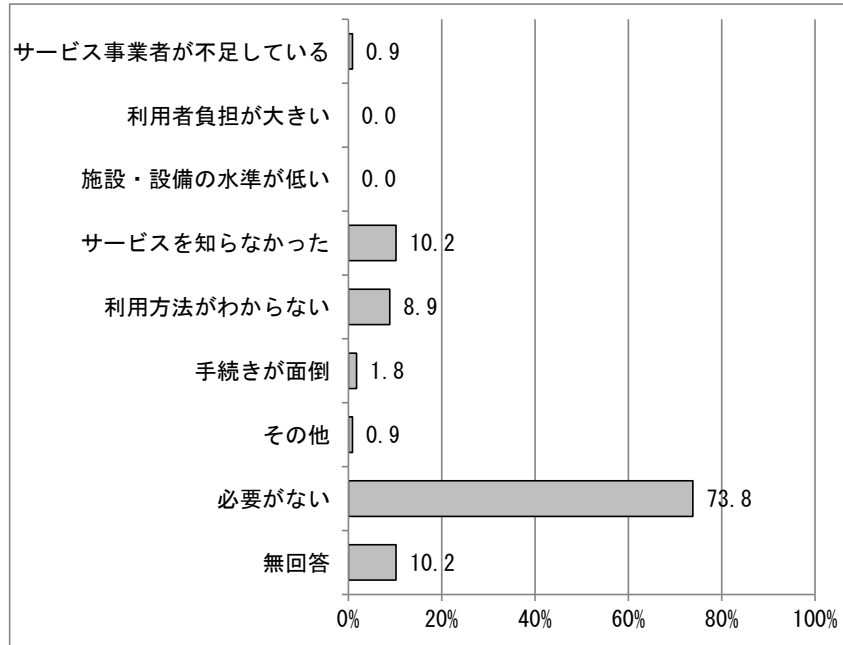
### <いずれも持っていない (47 人) >



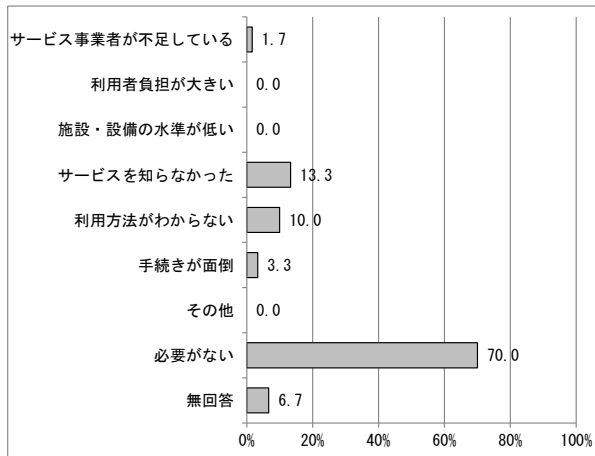
### <無回答 (3 人) >



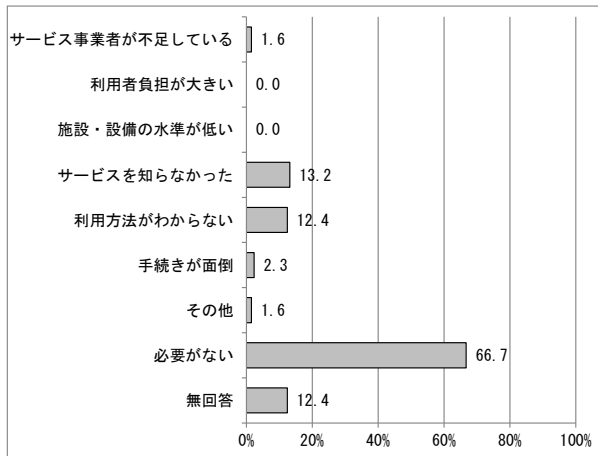
イ 同行援護  
 <全体 (225 人)>



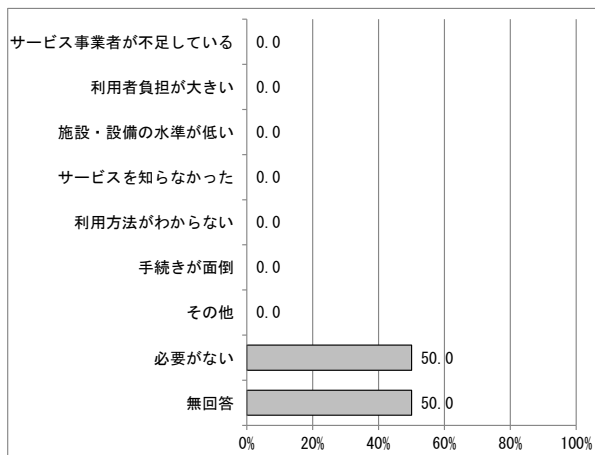
<身体障害者手帳 (60 人)>



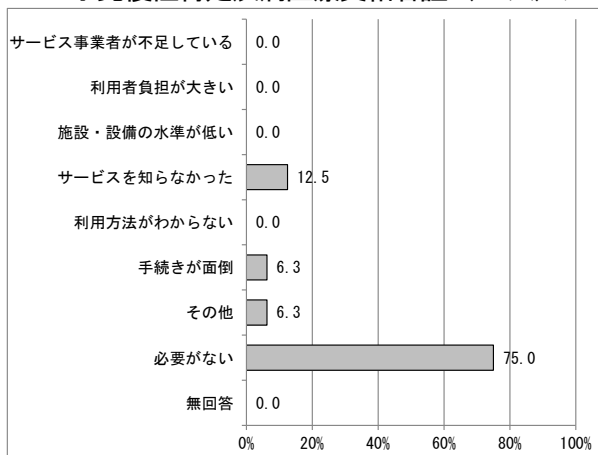
<愛の手帳 (129 人)>



<精神障害者保健福祉手帳 (2 人)>

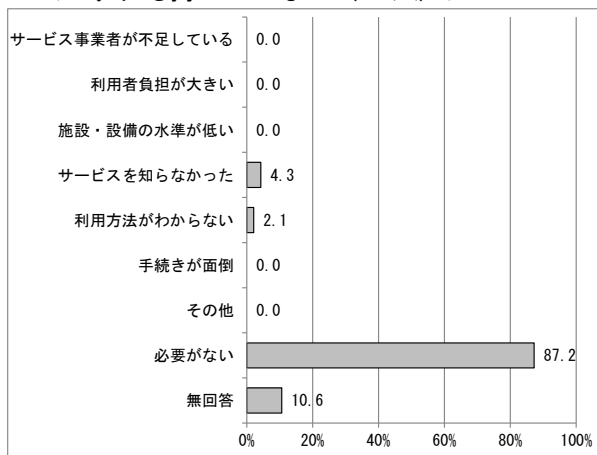


<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、  
 小児慢性特定疾病医療受給者証 (16 人)>

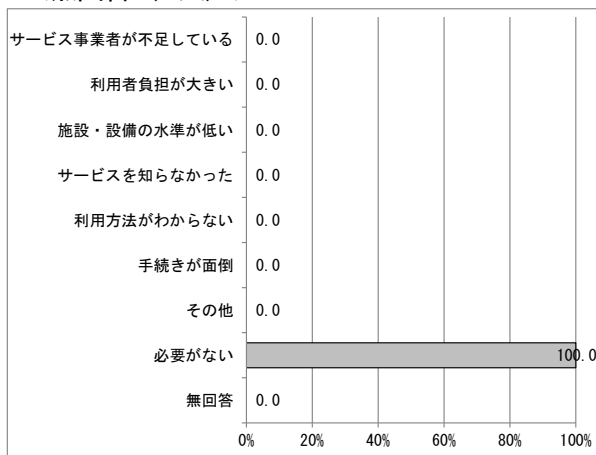


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

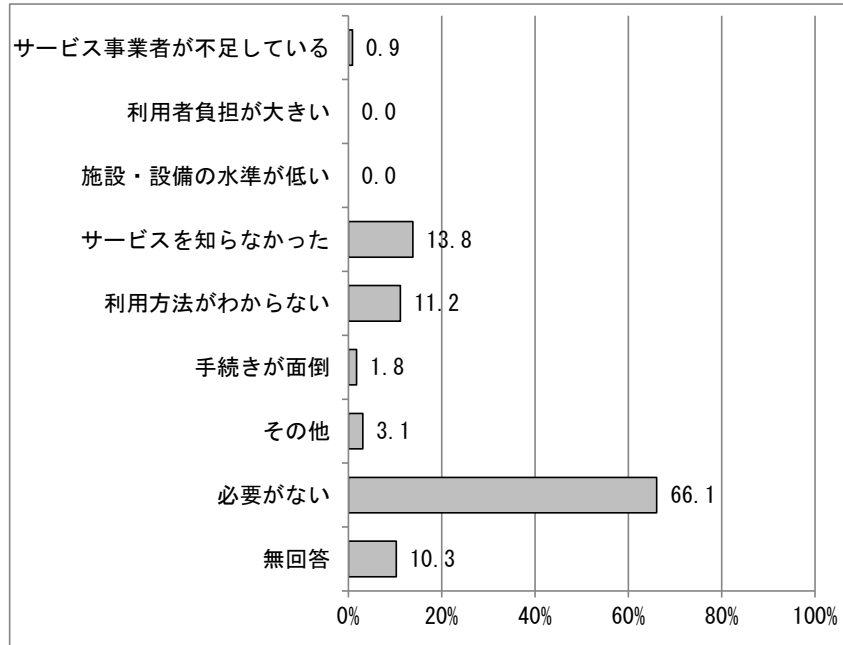
＜いずれも持っていない（47人）＞



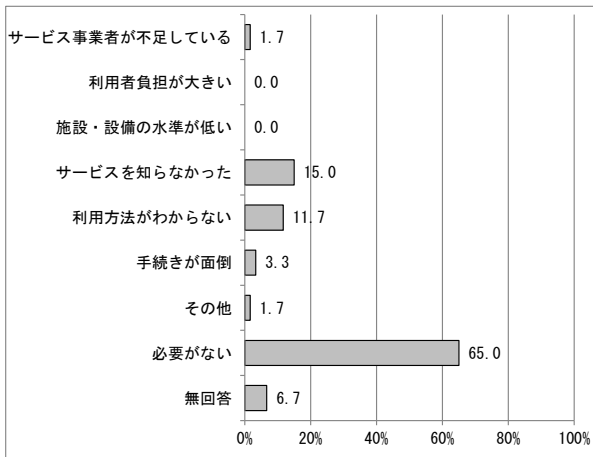
＜無回答（3人）＞



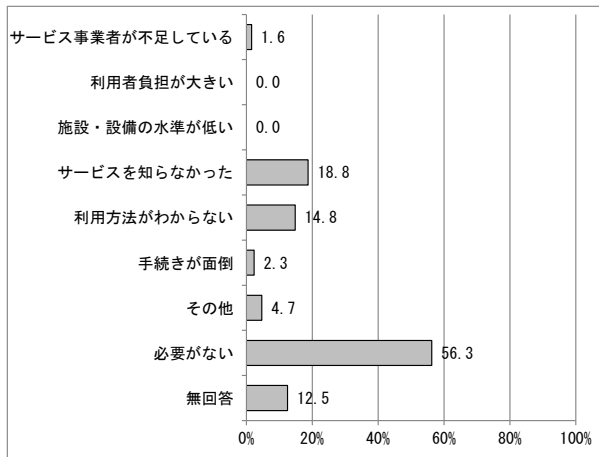
ウ 行動援護  
 <全体 (224 人)>



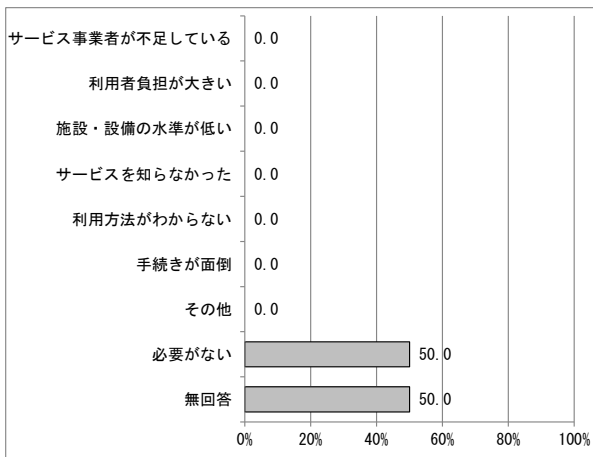
<身体障害者手帳 (60 人)>



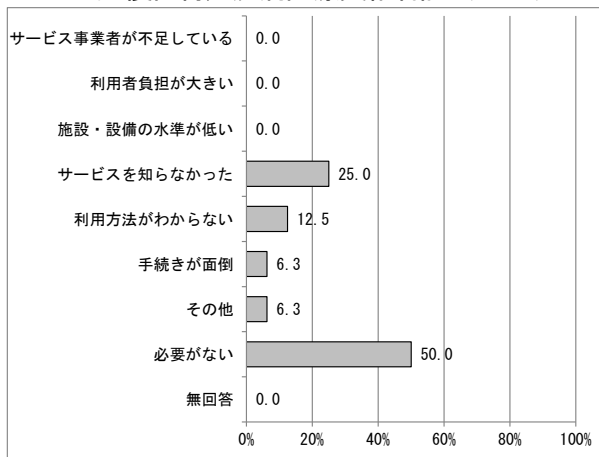
<愛の手帳 (128 人)>



<精神障害者保健福祉手帳 (2 人)>

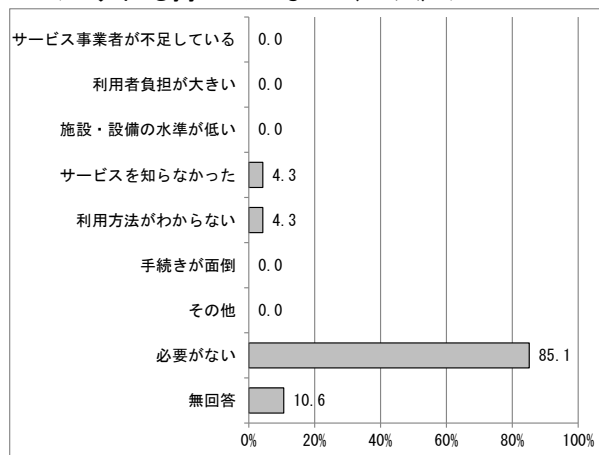


<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、  
 小児慢性特定疾病医療受給者証 (16 人)>

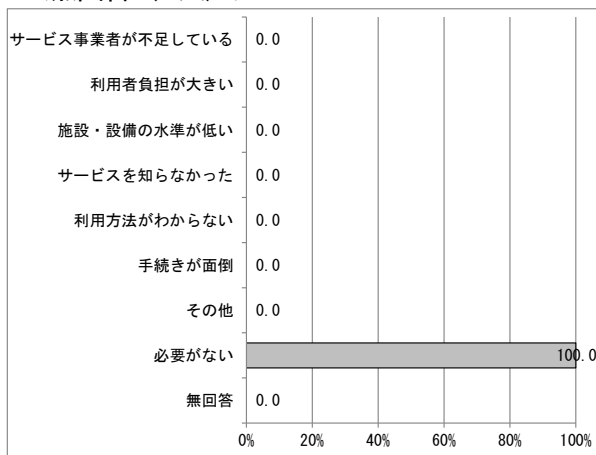


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### <いずれも持っていない (47 人) >



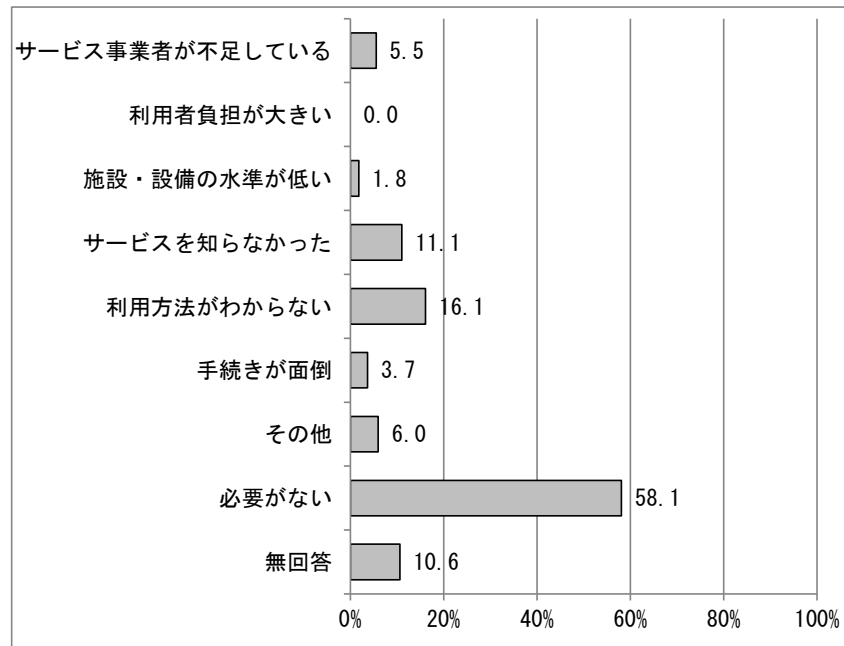
### <無回答 (3 人) >



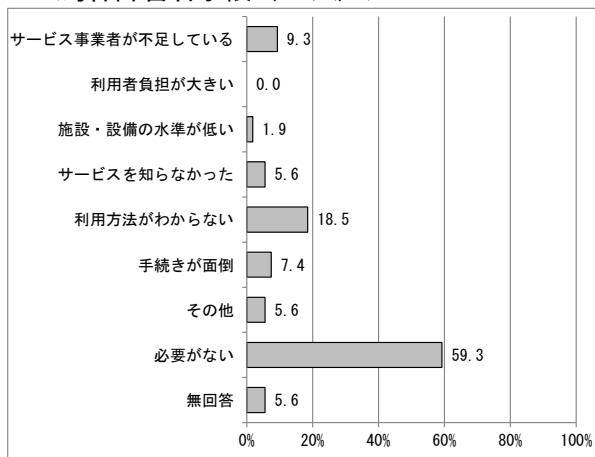


エ 短期入所（ショートステイ）

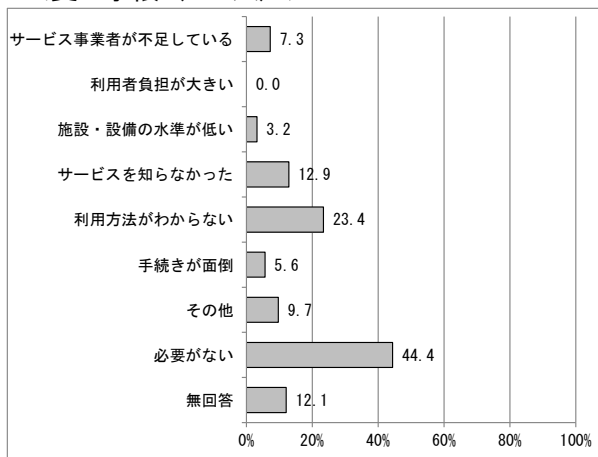
<全体（217人）>



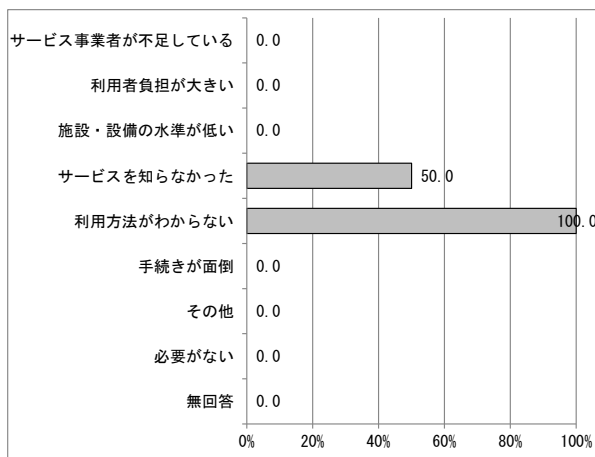
<身体障害者手帳（54人）>



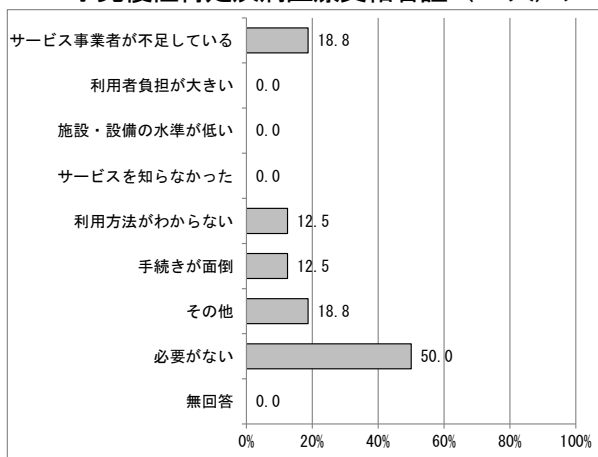
<愛の手帳（124人）>



<精神障害者保健福祉手帳（2人）>

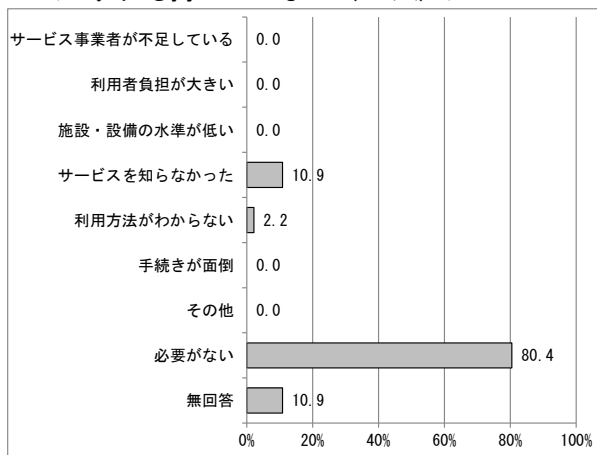


<特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（16人）>

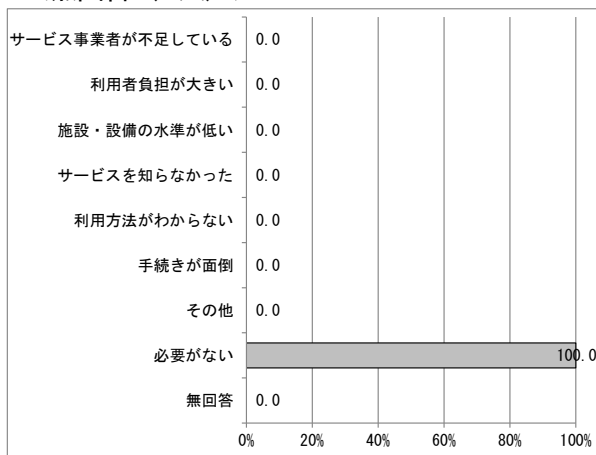


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

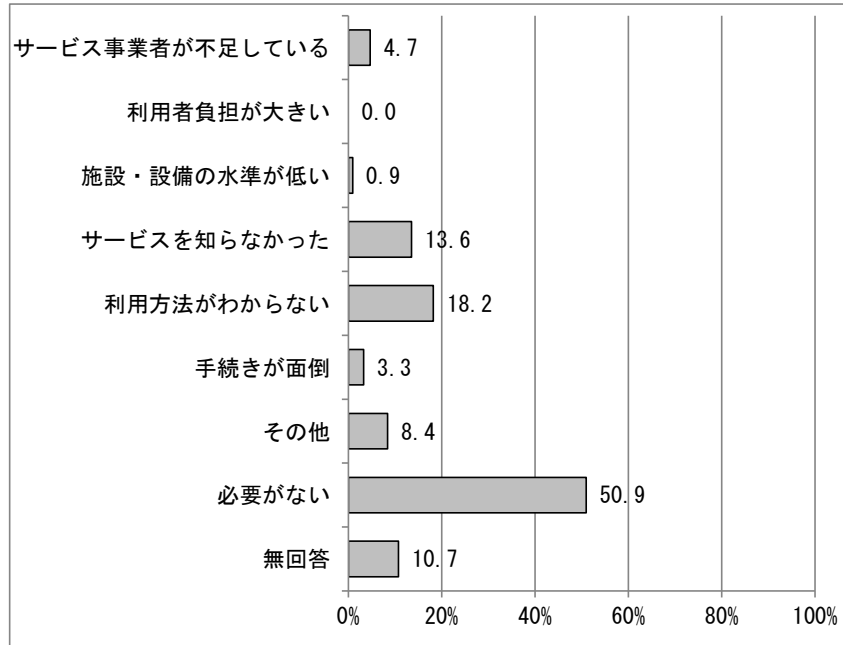
<いずれも持っていない (46 人) >



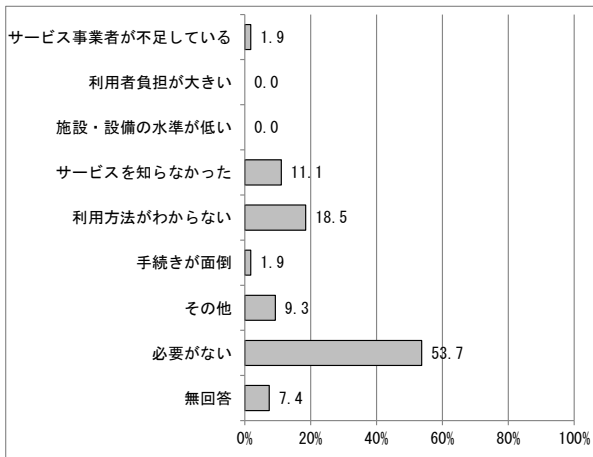
<無回答 (3 人) >



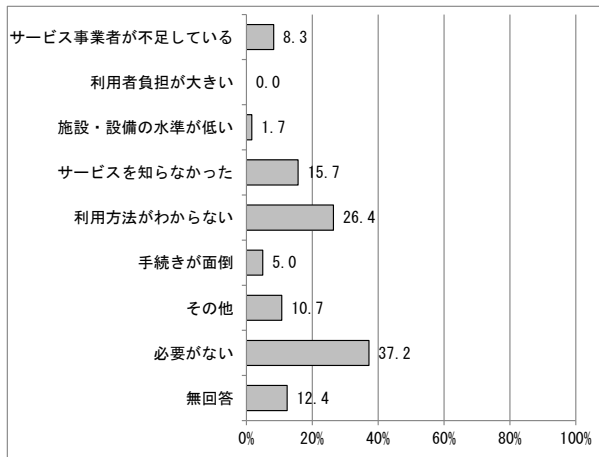
オ 移動支援事業  
 <全体 (214 人)>



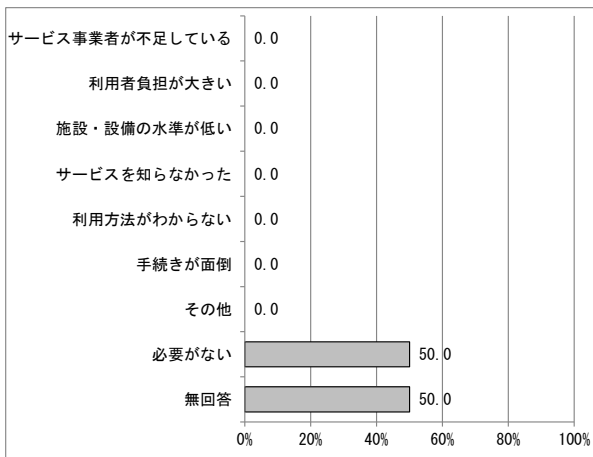
<身体障害者手帳 (54 人)>



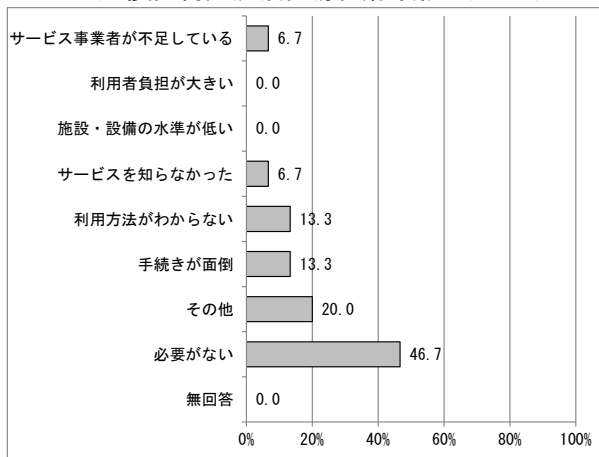
<愛の手帳 (121 人)>



<精神障害者保健福祉手帳 (2 人)>

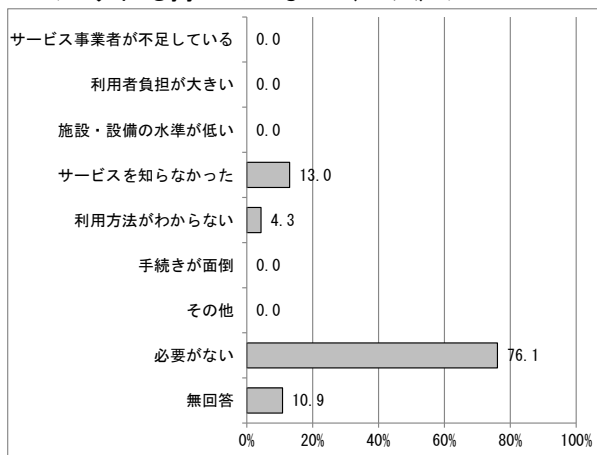


<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、  
 小児慢性特定疾病医療受給者証 (15 人)>

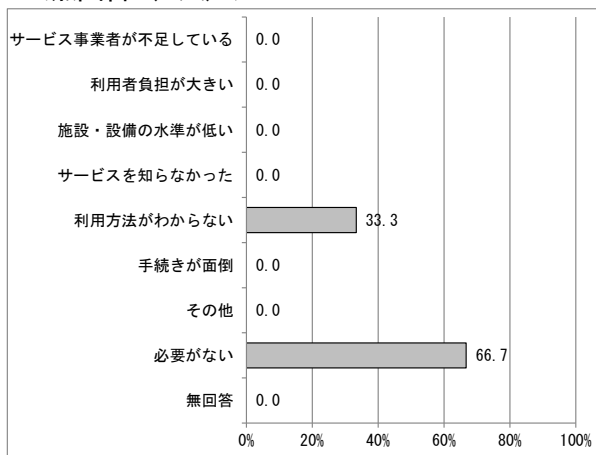


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

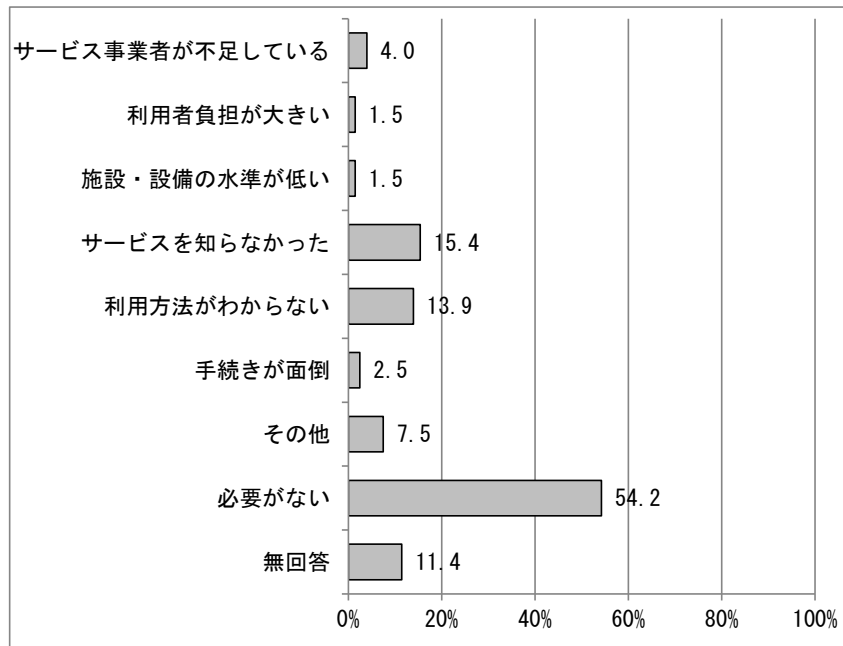
<いずれも持っていない (46 人) >



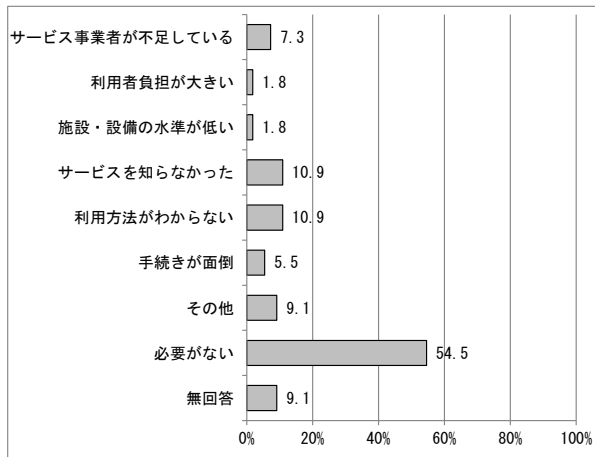
<無回答 (3 人) >



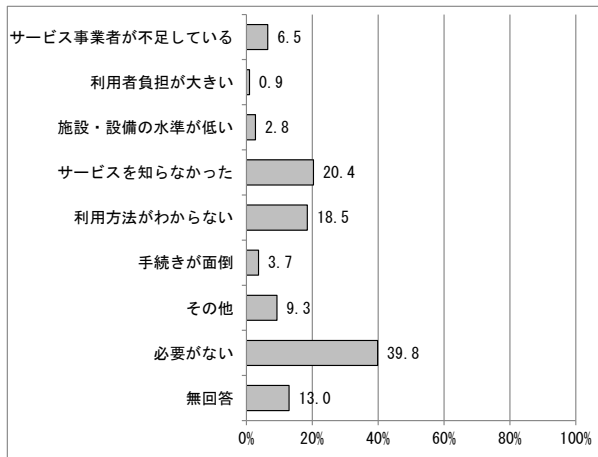
カ 日中一時支援事業  
 <全体 (201 人)>



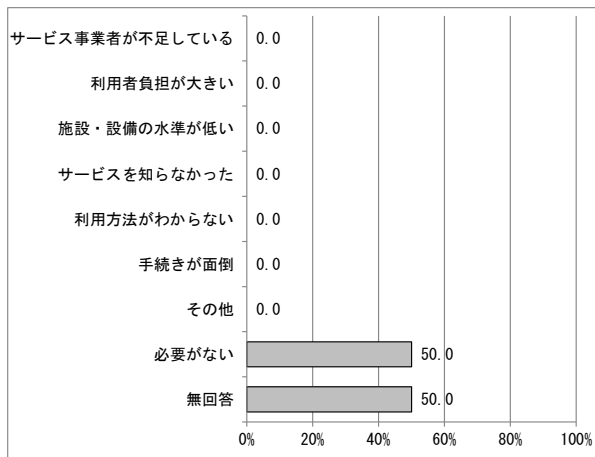
<身体障害者手帳 (55 人)>



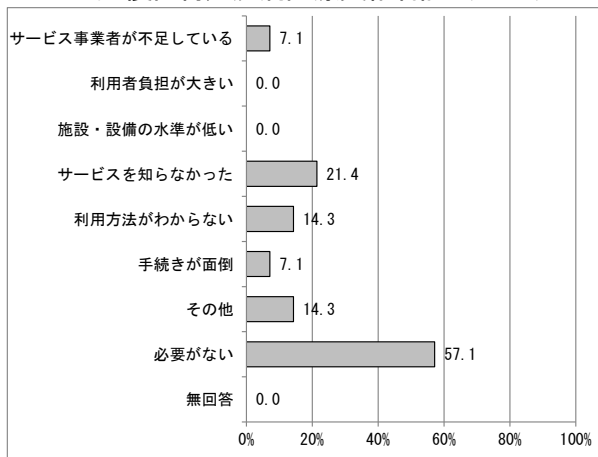
<愛の手帳 (108 人)>



<精神障害者保健福祉手帳 (2 人)>

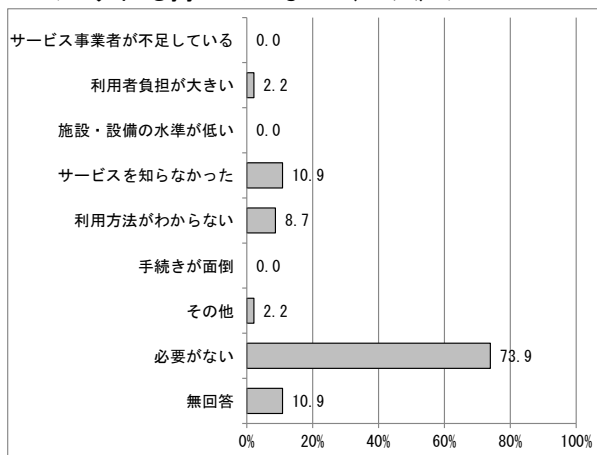


<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、  
 小児慢性特定疾病医療受給者証 (14 人)>

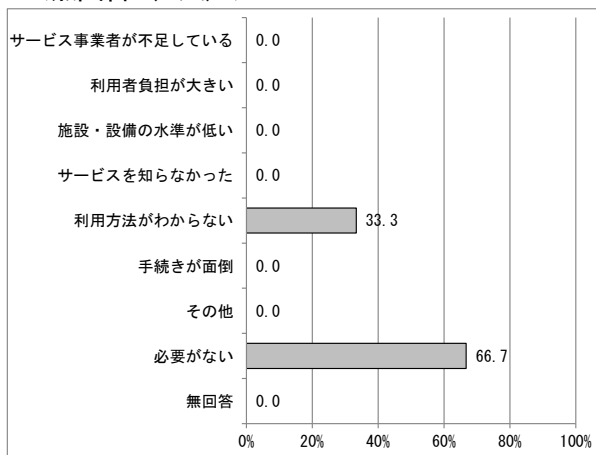


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### <いずれも持っていない (46 人) >

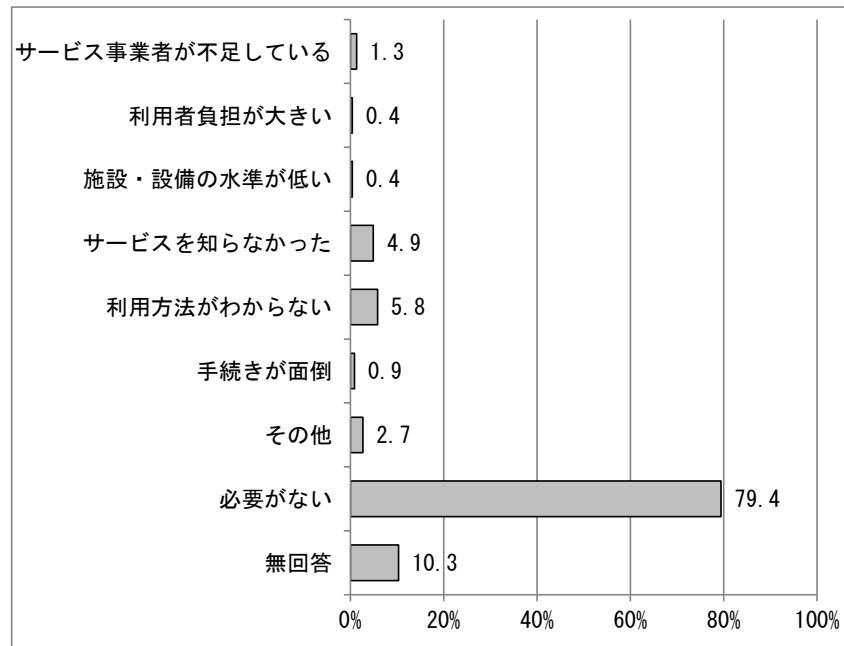


### <無回答 (3 人) >

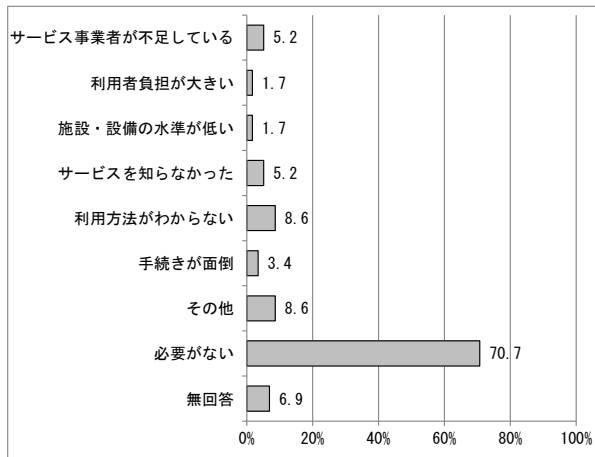


キ 手話通訳者派遣事業

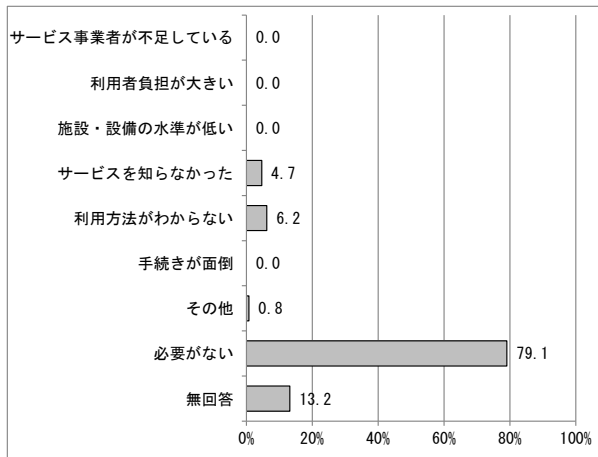
<全体 (223 人)>



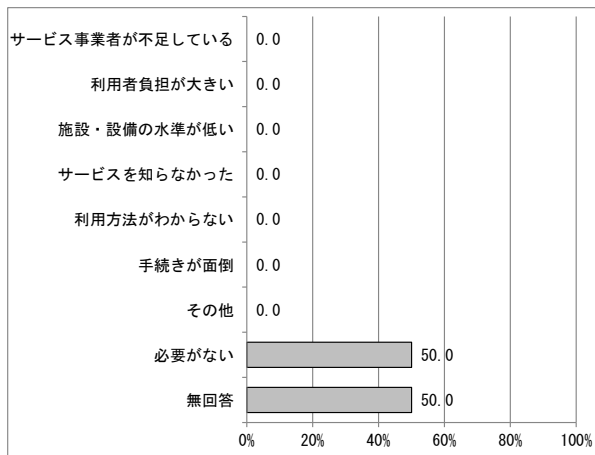
<身体障害者手帳 (58 人)>



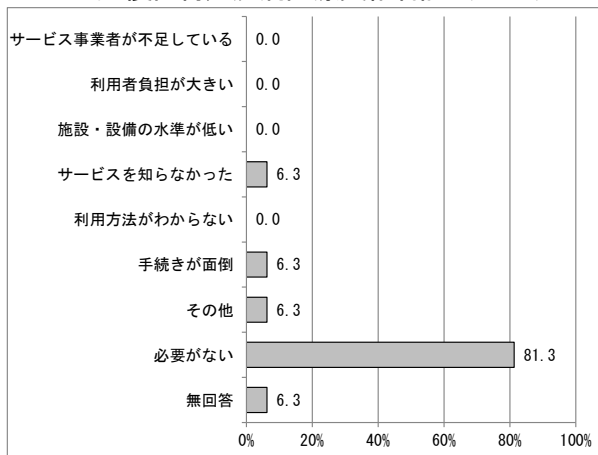
<愛の手帳 (129 人)>



<精神障害者保健福祉手帳 (2 人)>

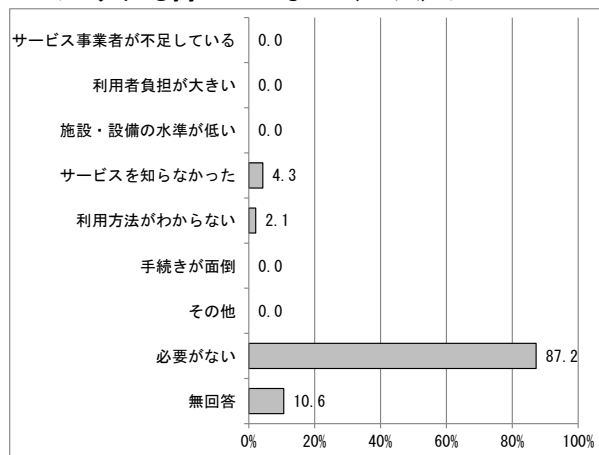


<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (16 人)>

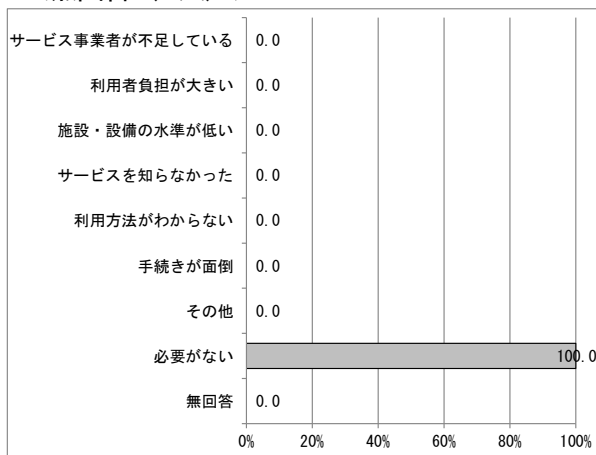


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### <いずれも持っていない (47 人) >



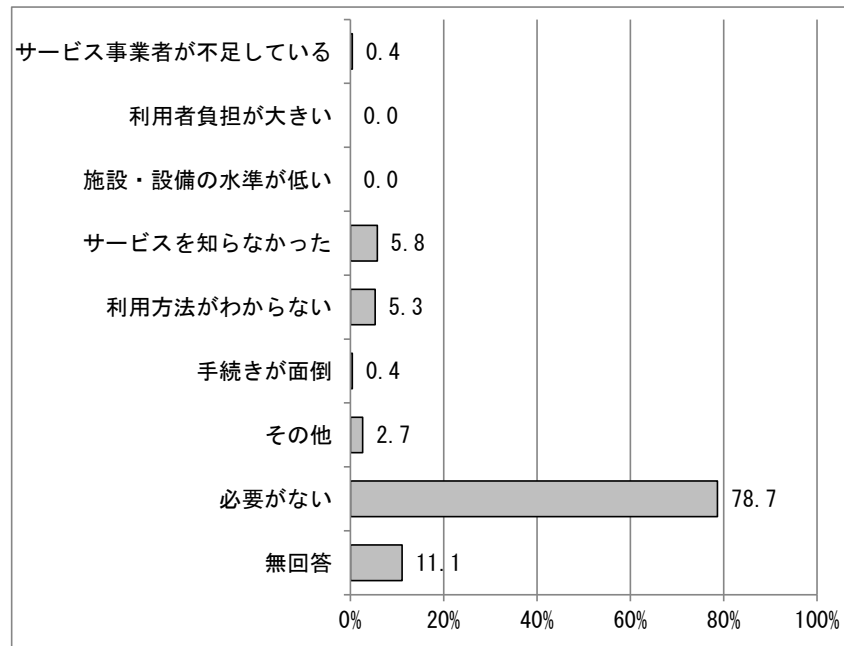
### <無回答 (3 人) >



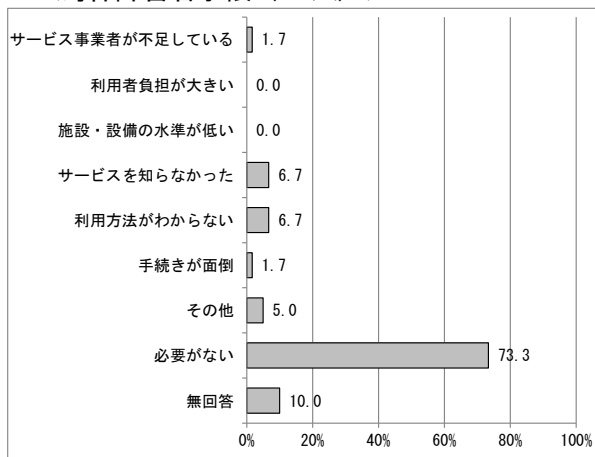


ク 要約筆記者派遣事業

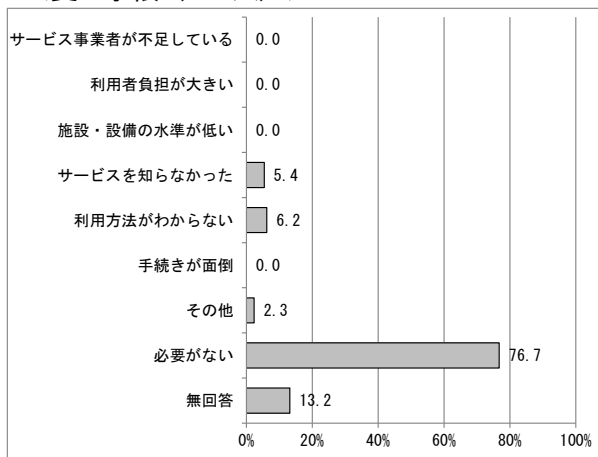
<全体 (225 人)>



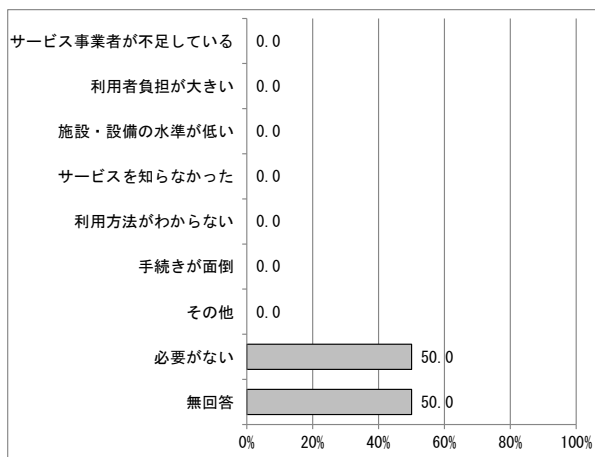
<身体障害者手帳 (60 人)>



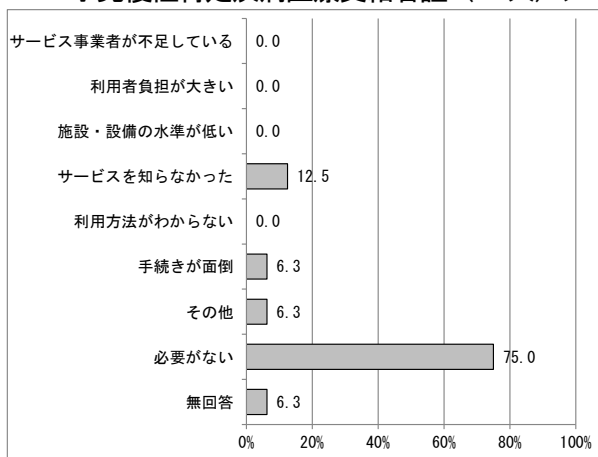
<愛の手帳 (129 人)>



<精神障害者保健福祉手帳 (2 人)>

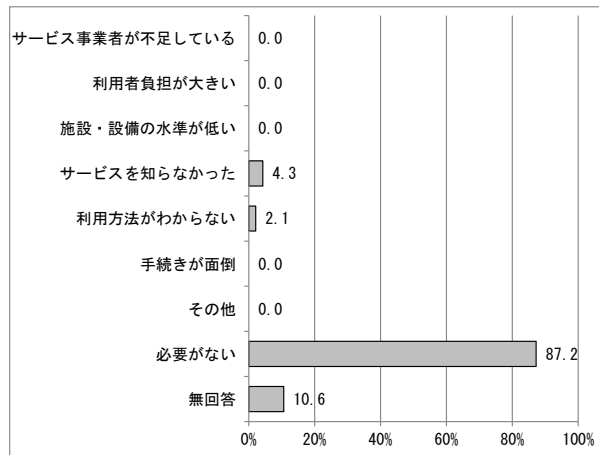


<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (16 人)>

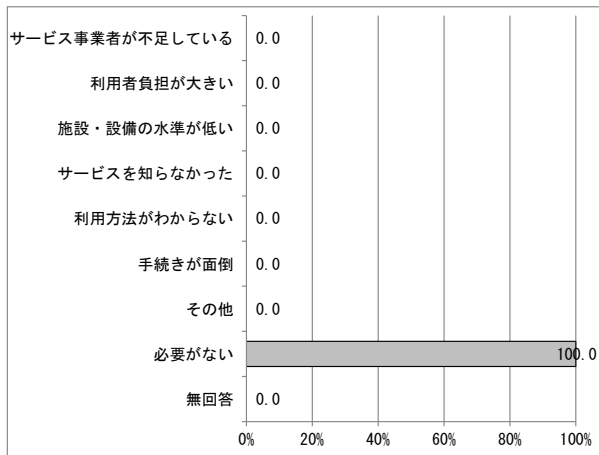


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

### <いずれも持っていない (47 人) >

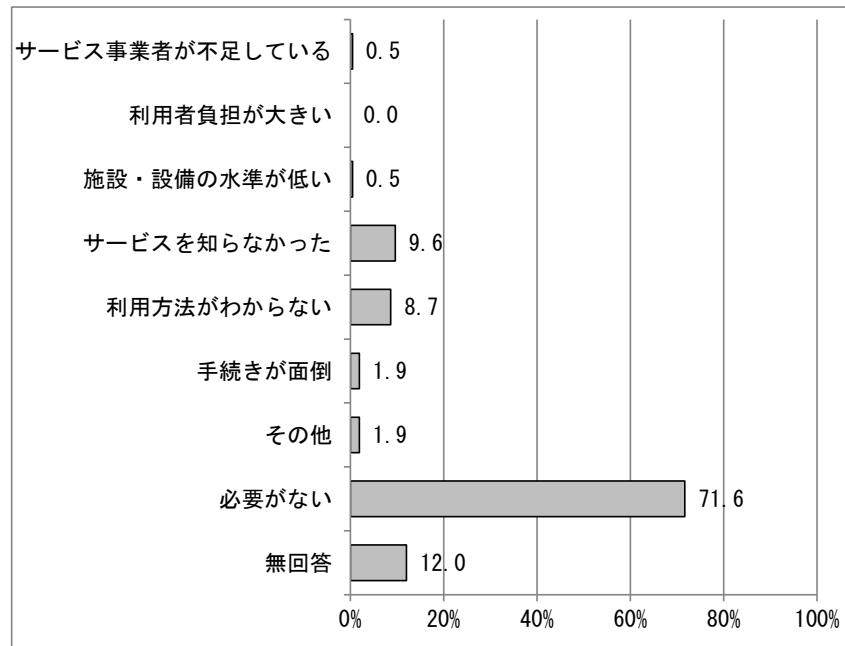


### <無回答 (3 人) >

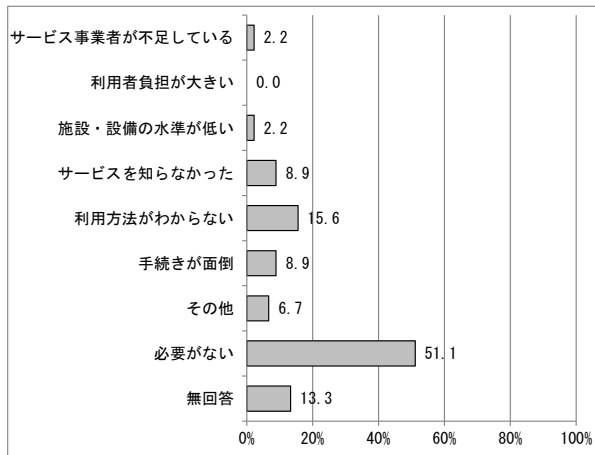


ケ 日常生活用具給付等事業

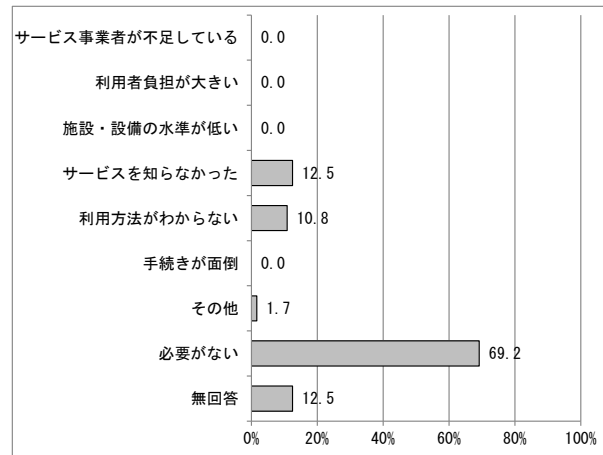
<全体 (208 人)>



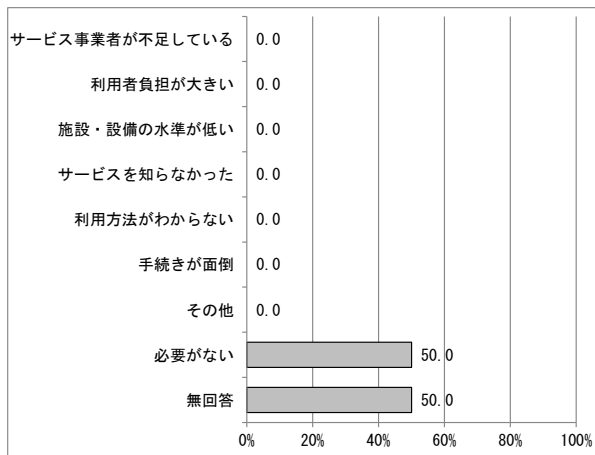
<身体障害者手帳 (45 人)>



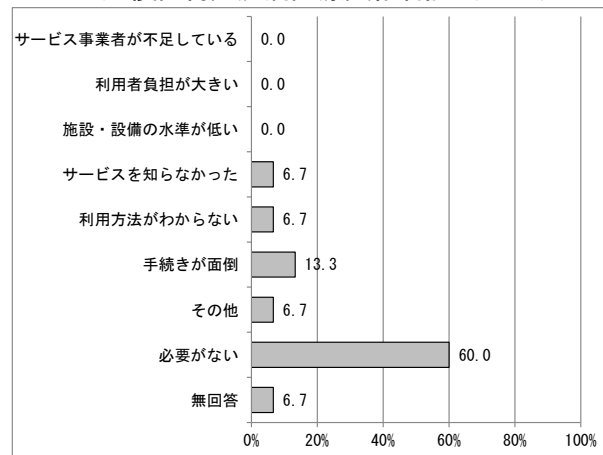
<愛の手帳 (120 人)>



<精神障害者保健福祉手帳 (2 人)>

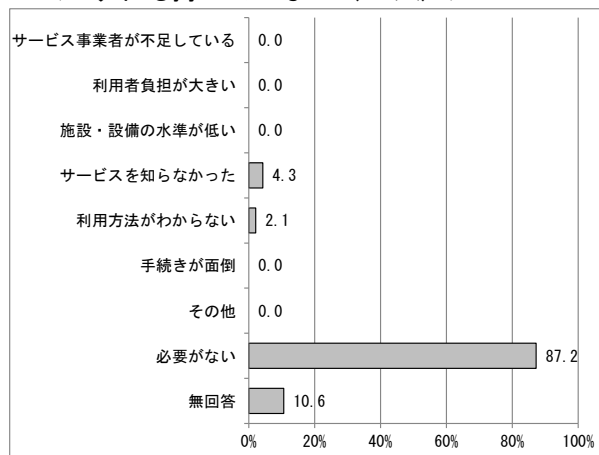


<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (15 人)>

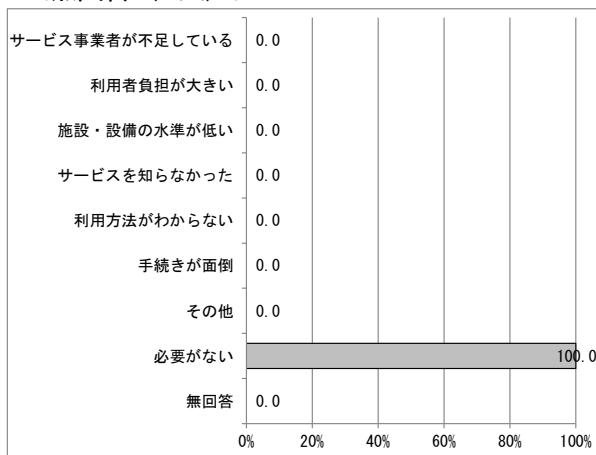


## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

＜いずれも持っていない（47人）＞



＜無回答（3人）＞



## 障害に対する理解について

問 29 普段の暮らしの中で、障害や病気への差別・偏見を感じるときがありますか。

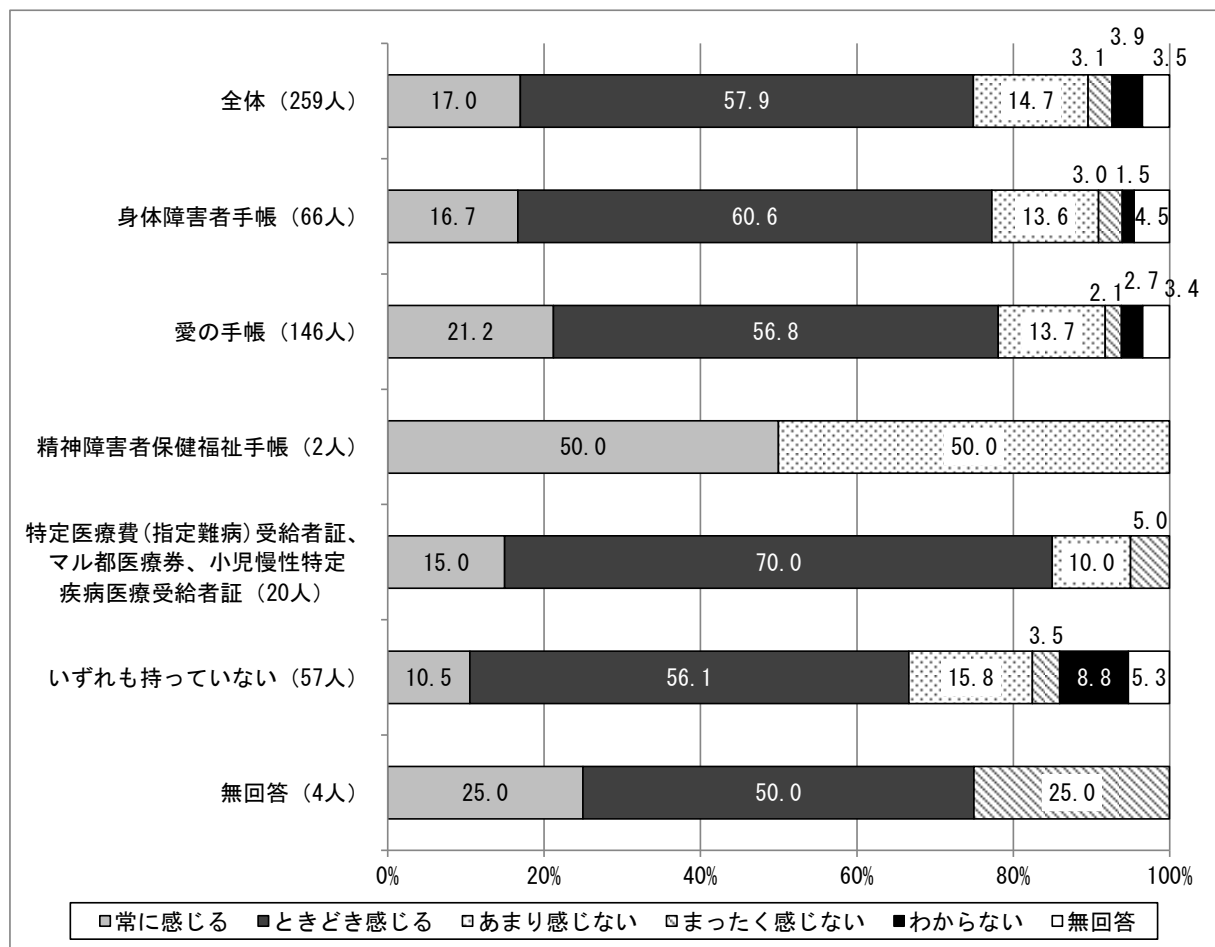
(1つに〇)

### <全体の傾向>

障害や病気への差別・偏見について、「ときどき感じる」が 57.9%と最も割合が高く、次いで「常に感じる」が 17.0%、「あまり感じない」が 14.7%となっています。

### <手帳種別の傾向>

手帳種別の特徴はみられません。



## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問 30 周囲の人たちに対して、障害への理解を進めていくためにどのようなことを重視すべきだと思いますか。（主なもの2つまでに○）

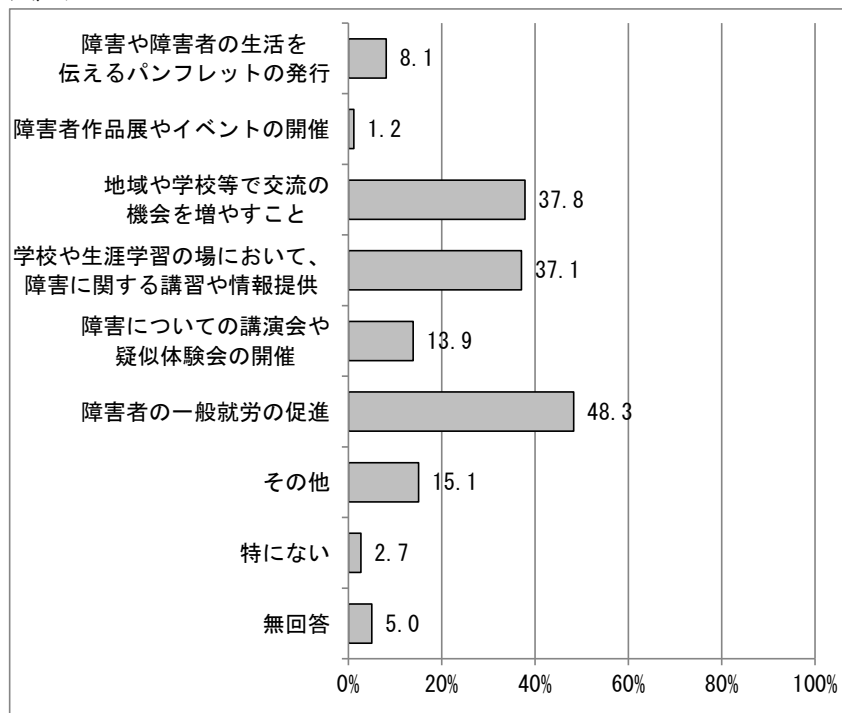
### <全体の傾向>

障害への理解を進めていくために重視すべきことについて、「障害者の一般就労の促進」が 48.3%と最も割合が高く、次いで「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が 37.8%、「学校や生涯学習の場において、障害に関する講習や情報提供」が 37.1%となっています。

### <手帳種別の傾向>

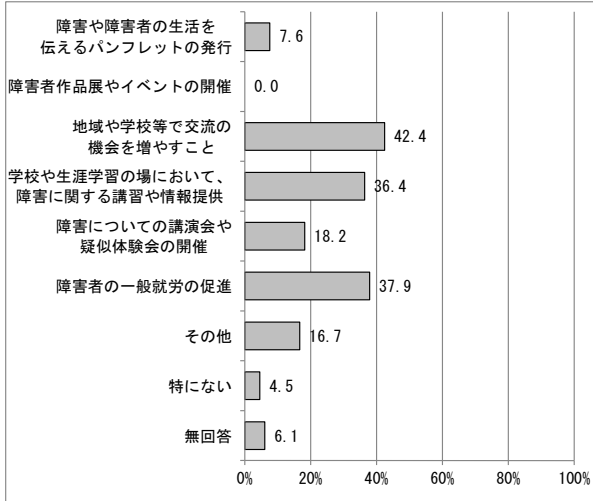
「身体障害者手帳」と「特定医療費（指定難病）受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証」では、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が最も割合が高く、「いずれも持っていない」では、「学校や生涯学習の場において、障害に関する講習や情報提供」が最も割合が高くなっています。

### <全体（259人）>

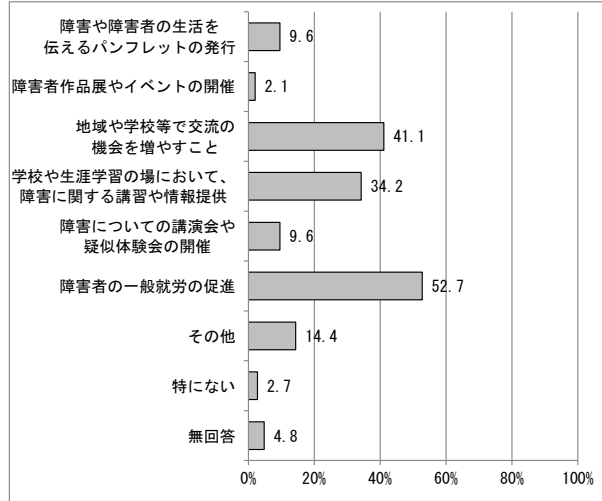


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

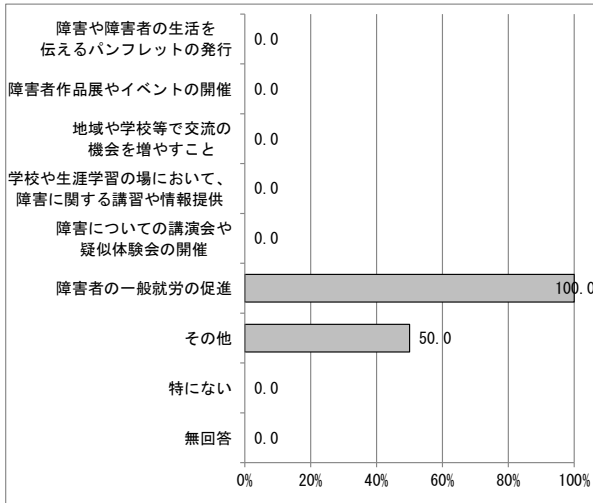
<身体障害者手帳 (66 人) >



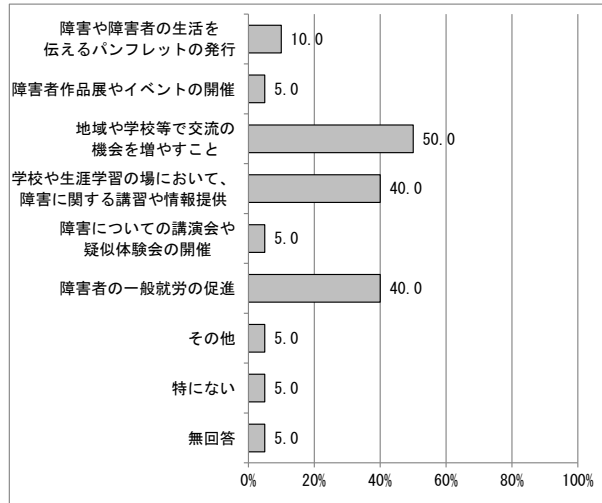
<愛の手帳 (146 人) >



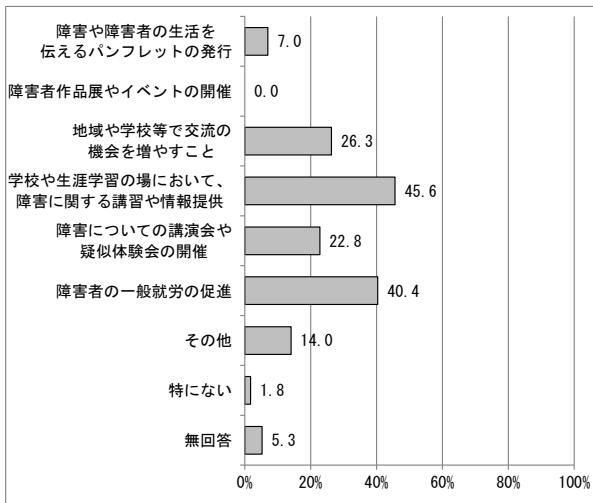
<精神障害者保健福祉手帳 (2 人) >



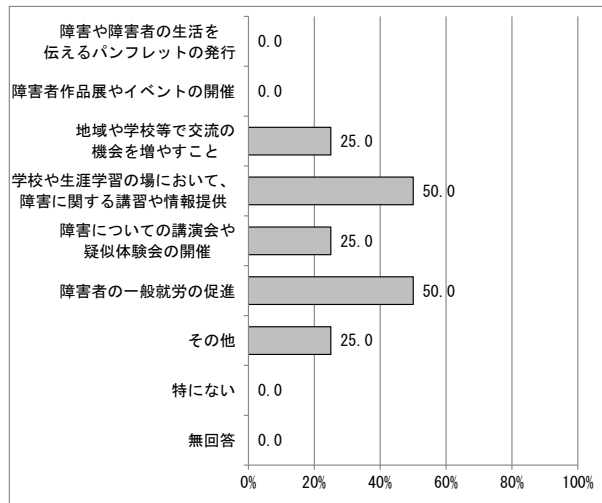
<特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証 (20 人) >



<いずれも持っていない (57 人) >



<無回答 (4 人) >



## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

問31 品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちですか。（1つに○）

### <全体の傾向>

品川区の暮らしやすさについて、「どちらかという暮らしやすい」が47.5%、次いで「わからない」が15.4%、「とても暮らしやすい」が14.7%となっています。

### <手帳種別の傾向>

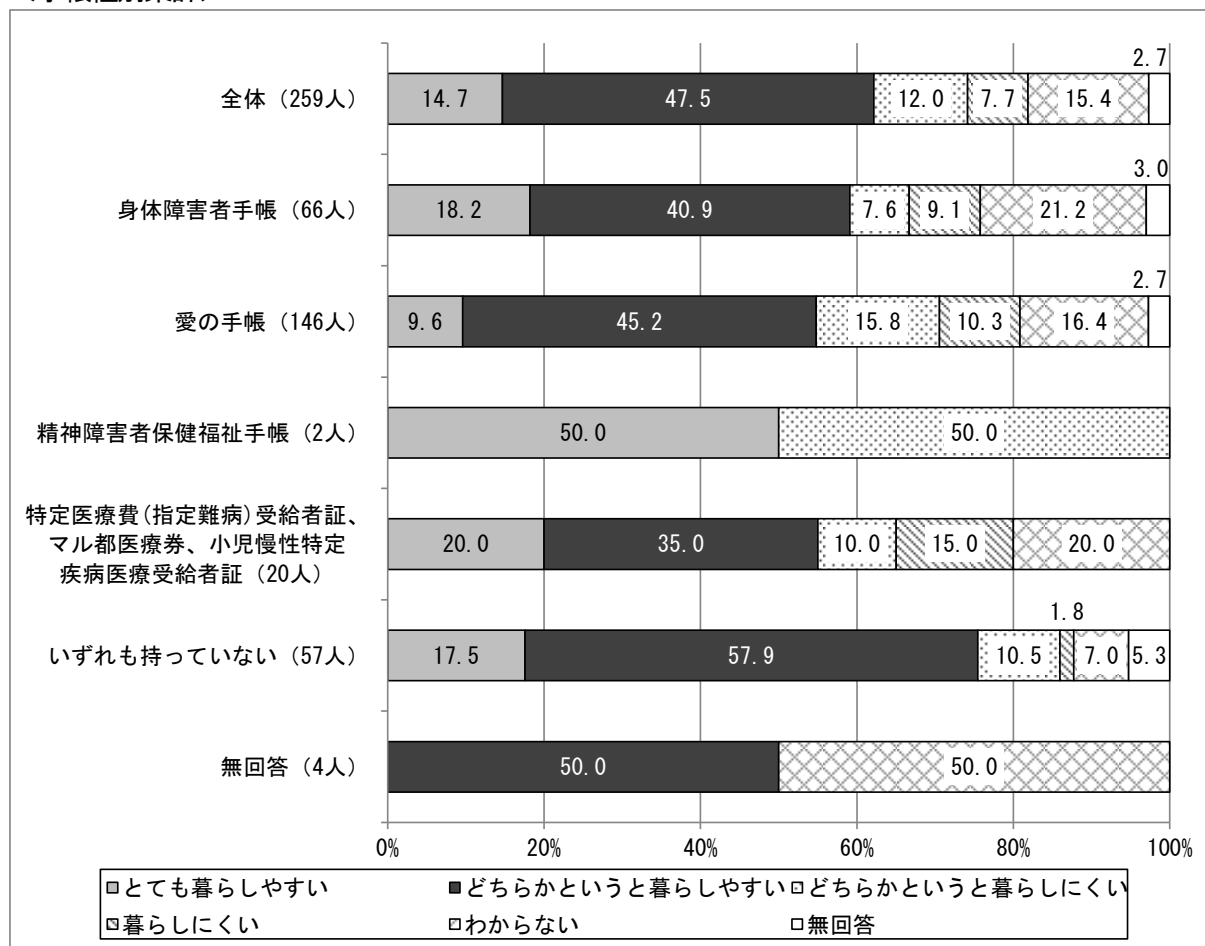
「いずれも持っていない」では、「どちらかという暮らしやすい」が57.9%と最も割合が高く、「どちらかという暮らしにくい」と「暮らしにくい」は合わせて12.3%となっており、他の種別と比較して低い割合となっています。

### <地域別の傾向>

品川地区では「とても暮らしやすい」が21.6%となっており、比較的高い割合となっています。

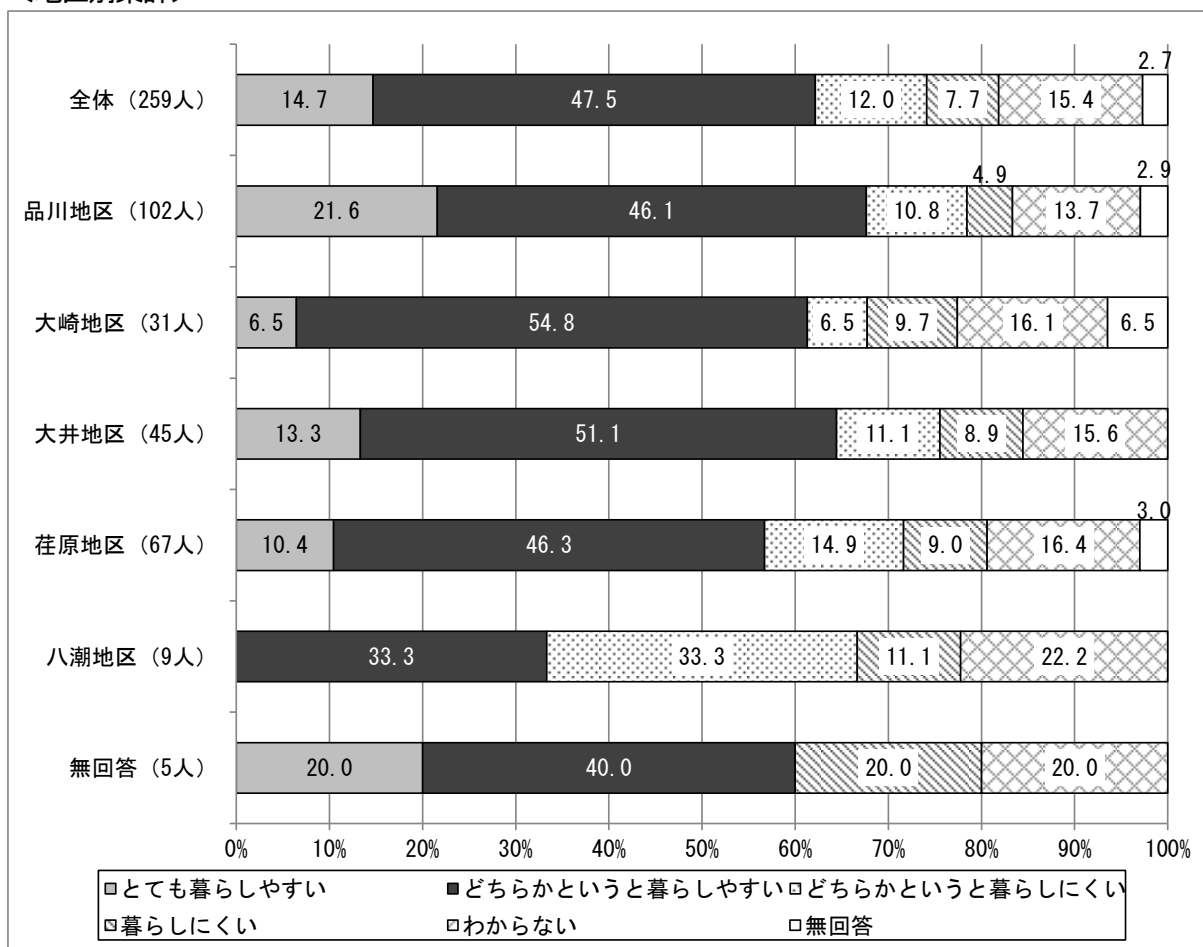
荏原地区では「どちらかという暮らしにくい」が14.9%、「暮らしにくい」9.0%となっており、暮らしにくさを感じている回答者が比較的多くみられます。

### <手帳種別集計>





<地区別集計>



生活の状況・区の施策について

問 32 障害のある方が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。  
 (主なものを2つまでに○)

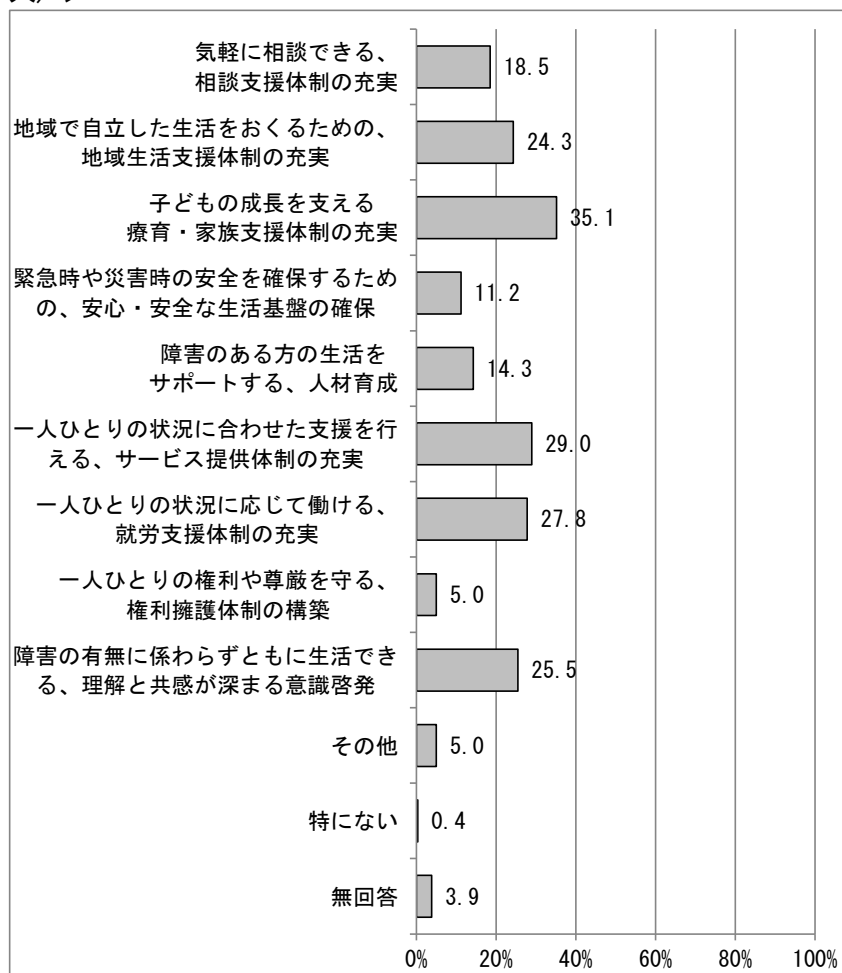
<全体の傾向>

障害のある方のために重要な施策について、「子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実」が 35.1%と最も割合が高く、次いで「一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実」が 29.0%、「一人ひとりの状況に応じて働ける、就労支援体制の充実」が 27.8%となっています。

<手帳種別の傾向>

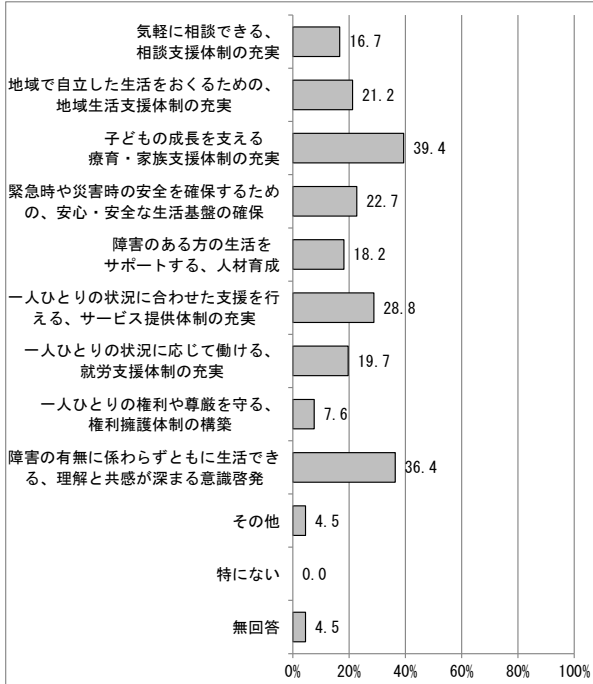
「愛の手帳」では、「地域で自立した生活をおくるための、地域生活支援体制の充実」が 30.1%、「いずれも持っていない」では、「気軽に相談できる、相談支援体制の充実」が 29.8%と比較的高い割合となっています。

<全体 (259 人) >

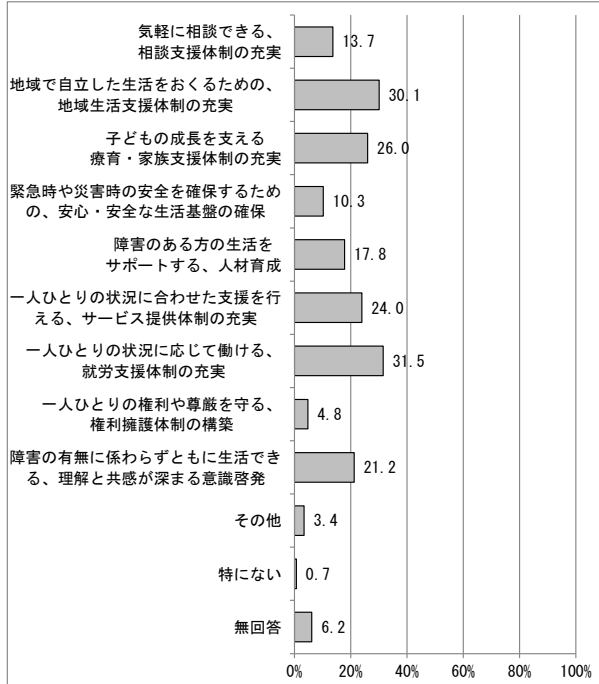


Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

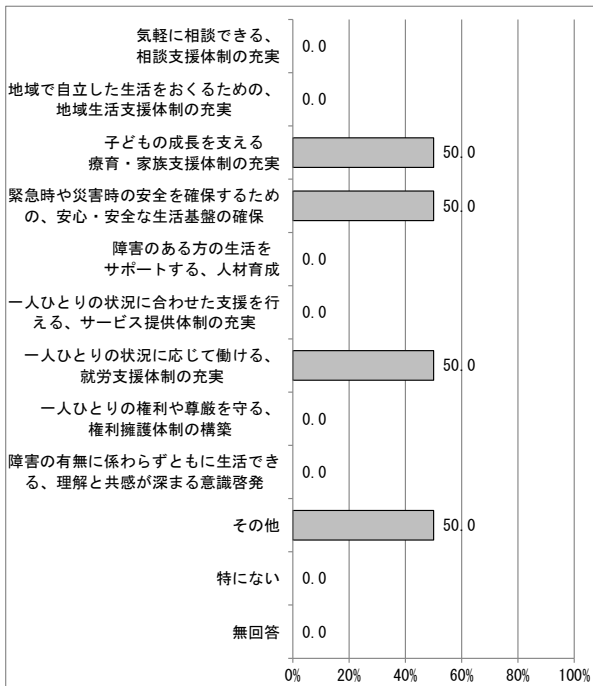
＜身体障害者手帳（66 人）＞



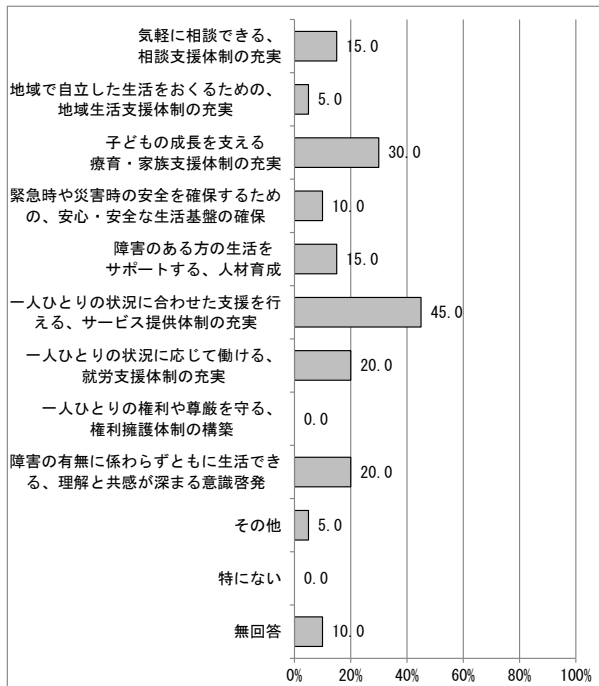
＜愛の手帳（146 人）＞



＜精神障害者保健福祉手帳（2 人）＞

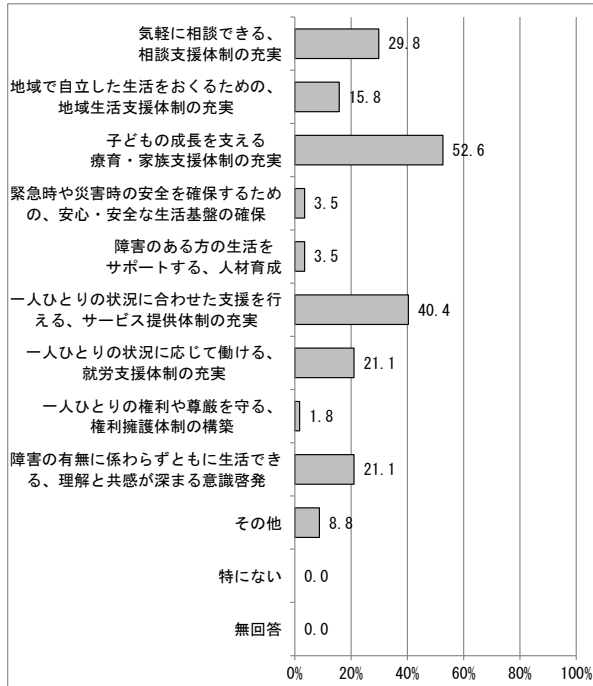


＜特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証（20 人）＞

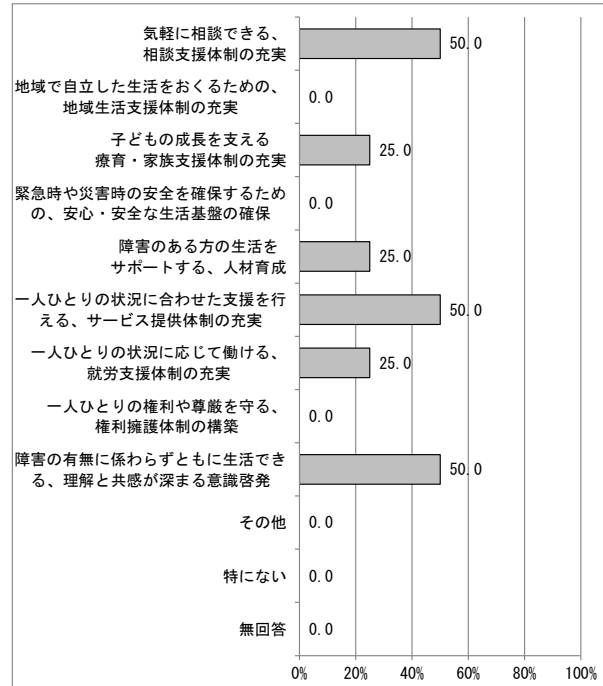


## Ⅱ-2 就学児以上18歳以下の方への調査

### <いずれも持っていない (57人)>



### <無回答 (4人)>



問 33 障害のある方への支援施策について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

障害のある方への支援施策について、「サービス・質の向上について」の回答が 97 件と多く、次いで「行政施策について」が 65 件、「子どもの学習・将来について」が 59 件みられます。

分 類	回答数
サービス・質の向上について	97
行政施策・体制について	65
子どもの学習・将来について	59
施設利用しやすさについて	33
生活環境の改善について	29
施設の整備・充実について	24
情報収集、情報発信について	22
経済的支援について	12
他地域との比較で感じることにについて	8
その他	38

※自由記述の内容を分類。複数回答あり。

<自由意見（抜粋）>

<p>駅の改札や、地域センター、大井町駅サービスコーナー等で、筆談ボードをもっと増やしていただけると助かります。</p>
<p>給付金などは、所得制限があり支給できません。障害を抱えているという点は平等に認められ、本人も家族もそれなりに負いを持って生活していますが、所得があると給付が受けられないというのは、不平等に思えるときがあります。</p>
<p>塾など習い事に、移動支援は使えないそうですが、1人で行けない身体障害者（子ども）にとって習い事の移動支援こそ必要だと思います。</p>
<p>障害がある子の年齢に応じた社会との接点が必要です。中学生ならば普通学校の中学生と交流する機会を持たせてください。時間を共有する中で互いに知り合うことから始まり、学ぶこともあると思います。</p> <p>文字の表記も「障害」より、「ハンディキャップのある」など言葉の使い方にも配慮されることで世の中の人たちの認知や理解が変化し、誰しものが暮らしやすい社会になるよう願っています。</p>
<p>小学校（通常級）における母親が介助しなければならない日をなくしてほしい。仕事、妊娠など諦める必要があり、大変負担です。教員を目指す人などに介助員を経験させ人手を増やせば良い。</p>
<p>個々のレベルは違ってはいても、社会に貢献できる何かがあると思う。</p> <p>小さいうちから、特技を見抜けるシステムを進め、本人の得意な仕事をやれる範囲でできれば、社会の一員として、少子化のこの先も、自立して生きられれば、親としては嬉しい。企業も雇いやすいよう、国レベルで動いてくれると良いのだが。</p>

## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

<p>将来的に、一人ひとりの障害を持っている人が自分で自立した生活がおくれるような支援を生まれたときから受けられる制度を望みます。</p> <p>また、養育や介助をしている家族のサポートの充実もお願いしたい。</p>
<p>金銭的に厳しいです。</p>
<p>品川区に住み続けると将来どんな選択肢があって、実際どのくらいの児童がどう暮らしているのだろうというビジョンがあまり具体的に持てていません。これまでとこれからのざっくりとした絵がわかると良いなと思うことはあります。</p>
<p>障害児に関する情報が、こちらから役所等に行き行って聞く、ということをしなくてまったく入ってこない。インターネットなどで調べたりはしているが、品川区でできること、行っていることなど、もっと手軽に情報を知ることができると思う。（他、同様意見複数）</p>
<p>ショートステイや預かる施設を増やしてほしい。</p> <p>就労支援でも送迎をしてほしい。</p>
<p>将来に対して漠然とした不安が強くなります。子どもの成長のために、個々に合わせた療育を受けることができたら嬉しいです。</p>
<p>「障害」を「個性」ととらえられる社会になってほしいと思います。そのためには、障害者を区別した学校に通わせたりせず、(重度の場合や本人に苦痛な場合はもちろんその必要がありますが。) 広い視野を持てる子どもを育成すべく小さな年齢の頃から自然に受け入れることができるよう、工夫していただきたいと心から願っております。</p>
<p>療育施設・グループホーム・居宅介護等、すべてにおいて人や数が少ないと思う。</p> <p>働く場所ももっとたくさんあれば一人ひとりにあった仕事につけ、力を発揮できれば、周りとの共存も少しでも理解が深まり、生きていきやすくなる。理解があるかないかは、お互いに一緒に過ごすために一番必要なことなので、家族や親戚周りに障害の方がいない人に障害者のことをわかってもらえる機会の場を増やすこともしてほしい。障害者が安心して暮らせるようになってほしい。</p>
<p>皆が皆、放課後デイや日中一時支援をフルで使いたいわけではなく、家での子育ても大切にしたいと思っています。ただ、それだと社会から孤立しそうで不安なのです。そこにスポットを当てた政策を考えてくだされば嬉しいです。（気軽に相談できる、孤立しないなど。）</p>
<p>今後の少子化を考えると、障害者でも働く気のある人は貴重であると思われます。いかに意識を高めるか、行政がいかに障害者でも働ける環境を作れるか。</p> <p>発達障害は一人ひとりが異なるので困難ではありますが、周りの人たちの協力、ご支援で社会貢献できるよう、願います。</p>
<p>卒業してせつかく就職できても、人間関係・仕事の難しさ、または逆に単純すぎる作業・職場の障害への理解不足などの問題により、辞めてしまったり、働けなくなってしまったり、ひきこもりになってしまったりしている子どもたちが多くいます。</p> <p>職場の理解さえあれば、社会の一員として幸せに生きていくことができる子どもたちがたくさんいます。職場への個別の説明、ジョブコーチの増員・相談窓口など、1人でも多くの子どもたちが、長期間仕事を続けられるように考えていただければ、障害児の親としてとてもありがたいです。</p>
<p>新しい場所を利用するたびに、一から説明し、情報共有をするにあたって時間を取るの、間に入ってくださる専門の方がいてくれると助かります。</p>

<p>住んでいる地域の民生委員の方かお世話役の方（町内会）の方に障害のあることを知っていただいた方が、災害時に理解と協力を求めることができるでしょうか？普通の避難所には行けないと思うので、災害時にどうしたら良いかと思っています。</p>
<p>早期発見、早期療育を受けて身につけて学ぶことが大事。 一人ひとりがお互い様の気持ちを持つよう心がけるだけで、より良く変わると思います。</p>
<p>成人後も短時間でも預かっていただけたところがあると、家族が縛られなくてありがたい。小さいうちは力も強くなかったのに、病院での処置などもやりやすかったが、体が大きくなってきて拒否をされると力が強くて敵わない。</p>
<p>放課後等デイサービスの支給量「基本 10 日」の方針を廃止してください。</p>
<p>移動支援など、親以外の人と係わるのも、自立や社会に出るととても良い経験になると思うのですが、金銭面での負担も大きいので、なかなか利用できません。 就労 A 型も数が少なく、もっと増やして一人ひとりの状況に応じて働ける環境を作ってもらいたいと思います。</p>
<p>具体的な支援、サービス、障害者が暮らしやすいシステムの実現には、社会の偏見がなくなり理解が進むことが大事で必須とされます。 以前より「発達障害」という言葉が社会に知られてきてはいますが、体験に基づく理解が必要とされます。</p>
<p>卒業後の余暇活動（一時預かり）が少ないのが心配。</p>
<p>就労支援体制等の充実をお願いしたい。プチレーブのような場所がもっともって増やしても良いと思うし、地域で働ける場所があると助かる。障害者への理解も進むのではないかな。</p>
<p>長期休暇のサポートや放課後のサポートがいろいろ増えてほしい。</p>
<p>放課後等デイサービスの利用日数を増やしていただきたい。（他、同様意見複数）</p>
<p>将来、親の死後誰が助けてくれるのか、信頼できるのか、考えると不安。</p>
<p>発達障害の講演はよくやっているが、ペアレントトレーニングの機会を増やしていただけたらありがたい。</p>
<p>すべての小学校に特別支援級を設けることで、児童期から健常の子どもたちが、障害を持った子どもに接する機会を増やしていけると思う。その中で、自然とノーマライゼーションの意識を育てていくことが大切であると思う。また、障害の程度に応じての就労機会の確保が促進されれば、おのずとボーダーレスな感覚が健常の人たちの中に生まれるのではないかな。障害のある人間も就労により、納税できるシステムづくりが実現できる社会を望む。</p>
<p>学校・学童・放課後等デイサービス間でもっと情報等の連携をスムーズにしてほしいです。（他、同様意見複数）</p>
<p>放デイで個別指導いただける療育施設が品川区に少ないことで、仕事を制限し送迎する必要があること、その後の帰宅時間が遅くなることで子どもの負担になっているのではという点が現在の課題です。 集団療育は一般的な習い事、すまいるスクールでも補える部分があるので、やはり個別療育が学校の近くにある、すまいるのように学校内にあるというのが理想です。</p>
<p>今後の進学・就職に関する援助・アドバイス、療育が増えると良い。</p>

Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

<p>日常生活での（発達障害）習慣づけなど、もっと指導について高学年に対応する施設が増えると良いと思う。</p> <p>思春期・進学・就職など悩み事は増えるため、公立中学校も対応が充実してもらえるとありがたいです。</p>
<p>将来の就労等に結びつくスキルの訓練（パソコン等。）が早くから支援してもらえる場があったりすると良いと思います。大人になったときに、いかに自立して自身で働き生きていけるかが大事だと思います。</p>
<p>今後も今ある支援体制を継続していただき、新しいニーズにどんどん支援体制を広げてもらえたら社会で活躍できる子や人が増えていくと感じます。</p> <p>子どもの社会での居場所・特性に合わせた日常的な学習支援が受けられるところがあると良いと思います。</p>
<p>専門の病院への連携をもっとしてほしい。子ども発達相談室からスムーズに紹介してもらえるシステムなど。</p>
<p>学校や教育委員会への指導や啓発、保護者と学校の橋渡しをもっと積極的にお願いできないかと思います。障害者福祉課だけでなく、品川区全体で取り組んでくださることを心から願います。（他、同様意見複数）</p>
<p>0歳から大人になるまで一貫した養育、就労ができ、自立した生活ができるようにする支援対策、施設があれば親である私が死んでからも安心です。</p>
<p>両親が安心して仕事ができ、子どもたちも将来自立して働くことが目標です。そのサポートをしていただけると嬉しいです。</p>
<p>人材育成に力を入れてほしい。</p>
<p>手帳などを作るとき（その他の手続きも。）等、手続きが複雑すぎる。</p>
<p>乳児期～就学期後の成人期～まで継続して支援をいただけたらありがたいと思います。</p>
<p>自分の子どもが、現状あるデイサービスに適しているのか不安である。</p> <p>サービス事業者の充実（量・質）を希望します。</p>
<p>医療的ケアがあっても預けられるショートステイが区内にもあってほしい。（他、同様意見複数）</p> <p>医療的ケアがあっても週5日通所したい。</p>
<p>利用者が制度を探すのではなく、総合的にコーディネートしてほしい。</p>
<p>身体・知的・内部障害をお持ちの方との交流（特に小学校）が大切だと思います。</p>
<p>補聴器の費用支援を受けるのにお医者様の意見書が必要かと思いますが、1年に1回しかその大病院には行かないのと、予約で4か月待ちという状況で、なかなか書類がそろわず、大変でした。耳が悪いのはずっとなのでお医者様の意見書がなくても2台目以降は購入（支援）できるようにしていただけると助かります。</p> <p>補聴器の費用支援をいただけることについては、大変ありがたく感謝はしております。</p>
<p>兄弟がASDの診断を受けました。支援機関にて相談しています。アンケート本人は、学校で相談にのってもらえますが、家庭全体での問題について援助してもらえるところがありません。障害のある個々の支援も必要ですが、家の全体を見て相談にのってもらえる機関がほしいです。</p>



<p>日々の生活に追われている私たちが訴えの場や環境の変化、または民間事業者とのやりとりで疲労しているのは、区役所ではもはや周知の事実ではないかと思えます。</p> <p>生活レベルで、人々の無知さには閉口です。自分が知らないから断る、やったことがないから断る。否定しか口にできない人が多い中、救いの手は必ずやってくるのですが、この子が大人になる頃には、みんな違って当たり前前の生活になってほしいです。また兄弟姉妹の権利も考えられる柔軟性を。</p>
<p>にじのひろばの枠を減らしてでも良いので、小学校高学年から移動支援が使えるもしくはにじのひろば枠と選択にする、などあればありがたいです。</p> <p>余暇の時間、子どもの体力についていけないことが出てきて、そうした選択肢があれば良いなときどき思います。</p>
<p>現在、高等学校卒業後のことについて考えておりますが、品川区の就労施設の少なさには驚きました。五反田、荏原地区にはないことも、今後新設する予定がないことにも、とても残念に思っています。</p> <p>卒業後の人生の方が長いため、充実した時間を過ごすことができるよう荏原地区にも就労施設及び余暇支援をしていただける場所ができることをお願いしたいと思います。</p>
<p>小学校の支援学級に通っていましたが、普通級の生徒さんの意識ということが、支援級にないと感じました。入学前には交流がたくさんできると思っていたのですが、ほぼ別々で、子どもたちの理解が得られるとは思えませんでした。中学でも同様な気がします。幼少の交流より、小学校の中で交流の方が大切ではないかと思いました。</p>
<p>小学校、幼稚園などの場で、障害についての授業等をもっと積極的に行い、子どもたちに理解してもらおう場を設けるべき。すまいる等で小学校や児童センターに行くと、子どもたちは単刀直入に障害について質問してくる。それにちゃんと答えると、障害のある自分の子への接し方も変わり、子どもは素直だと感じる。大人も含めて、接し方がわからない人が多い気がする。子どもの頃から障害や高齢者などについて学んでいれば、障害者も自然と地域に溶け込めると思うので、そういう機会を是非増やしてほしい。</p>
<p>ショートステイ、日中一時支援について知らなかった。知っていれば利用したかった。知らせてほしかった。長期休業には一日中家で過ごさせるのがかわいそうだった。</p>
<p>年齢がたってもできることが少ない場合、家族の負担は小さな赤ちゃんが何年もいると同じ程度です。それがこれからも続きます。収入に応じた経済的支援でなく、すべての家庭にある年齢までは一定の支援をしてほしいです。</p>
<p>区民の意識の違いが大きく、まずは行政から障害者理解を学んでいかないと、ハード面での変容は厳しいと思う。区に統括した療育センターがあってもおかしくない。(医療・療育PT・OT・STなど、相談、プールやリハビリなど。)バラバラの場所であり、たらい回しになったりしたので、まずは品川区行政からの一からスタートを望む。</p>

## Ⅱ－２ 就学児以上 18 歳以下の方への調査

次男の出産時には、移動支援の受給者証を出していただいたり、困ったときには何とかなるように支援してくださっていることに、感謝しております。

長男は高2になり、卒後のことが心配といえば心配です。特に、住む場所はあるのか、ということとは切実です。できれば、親が元気なうちにグループホームや施設に入所して、親自身が安心な老後を迎えたいと願っています。

身近にいないと、本当の理解を得ることはできないかもしれない。講演会等を企画しても、興味・関心を持つ人しか参加しないのが実情だと思う。子ども同士の関係は良くても、その親の理解のなさが気になることもある。

現在、小学校の支援級に通っています。中学の支援級に進むと内申点が付かず、進路の選択が少なくなることを心配しています。知的な遅れのない発達障害児も多いので、それぞれが希望する進路に進めるようになってほしいです。

発達障害を見てくれる病院へ区からも協力を促してほしい。発達障害の受け皿として病院が徐々にフェードアウトしている様子に、子どもの成長に合わせた専門的サポートをあてにしていたのに、不安しかありません。

今はまだこれからの成長の期待もあり、両親もまだ動ける年齢なので大変だなあと感じることもあるけど楽しいこともあります。

ただ将来のことを考えると今から不安も感じます。昨今、利用者が増えている割には社会には理解がない人もたくさんいます。

今は、学校やデイサービスなど居場所があるので私も「子育て」楽しめてはいます。

利用している短期入所施設では、人手不足の状況を伺わせることがいくつか見受けられ、少し不安を感じるようになりました。施設の方も、大変なのだろうなと思います。短期入所までしなくても、デイサービスを受けられると、本当に助かるのですが、現実的に肢体不自由のデイサービス施設は、ありません。区から、肢体不自由児の新しいデイサービス情報があれば、いただきたいです。

質問や相談をすれば、対応してくれるが、何がわからない、何を相談したら良いのかの段階で手を差し伸べる状況が本当の支援になると思います。

## Ⅲ 資料編

## 1 未就学児へのアンケート調査票

## 支援の必要なお子さんへのアンケート調査 (未就学児)

### ～アンケート調査へのご協力をお願い～

日頃から、品川区の福祉行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
区では、児童福祉法の改正に伴い、今年度に「品川区障害児福祉計画」を策定します。  
そのため、区内で生活をしている世帯のうち、行政からの支援を受けている、もしくは  
障害者手帳を所持している就学前のお子さん（未就学児）のいる世帯を対象に、生活の  
様子やサービスの利用状況、支援への意向を把握するためのアンケート調査を実施しま  
す。

調査は無記名で行いますので、個人が特定されたり、個人の回答内容が明らかになる  
ことはありません。また、お答えいただいた内容は統計的に処理したうえで、計画策定  
の基礎資料としてのみ活用し、その他の目的に使用することは一切ありません。

調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、お願いいたします。

平成 29 年 8 月

品川区 福祉部 障害者福祉課

### ご記入にあたっての注意事項

- ① 回答は、ご家族や介助者の方が、封筒のあて名のお子さんのことについてお答えくだ  
さい。
- ② 回答は、○印を記入していただく設問、数字を記入していただく設問、内容を記入し  
ていただく設問があります。それぞれの指示に従って記入してください。
- ③ ○印を記入していただく設問について、あてはまる選択肢の番号に直接○印を記入し  
てください。なお、「1つに○」「あてはまるものすべてに○」等、指示にしたがって  
記入してください。
- ④ 「その他」に○印を記入したときは、その内容を（ ）内にご記入ください。

記入した調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに

**平成 29 年 8 月 28 日（月）**までに、ポストに投函してください。

問合せ先 品川区 福祉部 障害者福祉課 福祉改革担当

電話：03-5742-6762 FAX：03-3775-2000

お子さん・世帯の状況について

問1 お子さんの性別をお答えください。(1つに○)

1 男性	2 女性
------	------

問2 平成29年4月2日現在のお子さんの年齢をお答えください。(数字を記入)

	歳
--	---

問3 お子さんがお持ちの障害者手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

手帳の種類	等級			
1 身体障害者手帳	1 1級	3 3級	5 5級	
	2 2級	4 4級	6 6級	
2 愛の手帳	1 1度	2 2度	3 3度	4 4度
3 精神障害者保健福祉手帳	1 1級	2 2級	3 3級	
4 特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証				
5 いずれも持っていない				

問4 現在お住まいの地区をお答えください。(1つに○)

1 品川地区	3 大井地区	5 八潮地区
2 大崎地区	4 荏原地区	

問5 現在同居している家族をすべてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1 父親	3 兄弟姉妹	5 その他親族
2 母親	4 祖父母	6 その他( )

問6 お子さんは、日頃どこに通っていますか。(1つに○)

1 保育園	4 保育園や幼稚園と療育施設の併用
2 幼稚園	5 どこにも通っていない(自宅にいる)
3 障害児の療育施設	6 その他( )

お子さんの障害・疾病の状況について

問7 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）に最初に気付いたのはいつ頃ですか。（1つに○）

1 出生時	3 1歳	5 3歳	7 5歳
2 0歳	4 2歳	6 4歳	8 6歳

問8 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）について、最初に気付いたのはどのようなときでしたか。（1つに○）

1 出生時	4 3歳児健診	7 保育園、幼稚園の教職員
2 家族や周りの人	5 育児相談等	8 その他
3 1歳6か月児健診	6 医療機関で診察したとき	9 覚えていない

問9 お子さんには、どのような障害がありますか。（あてはまるものすべてに○）

1 身体障害（視覚障害）	} 問11へ
2 身体障害（聴覚障害・平衡機能障害）	
3 身体障害（音声・言語・そしゃく障害）	
4 身体障害（肢体不自由）	
5 身体障害（内部障害）	
6 知的障害	
7 重症心身障害	
8 高次脳機能障害	
9 発達障害	→ 問10へ
10 その他（	） → 問11へ

問10 問9で「9」と回答した方におたずねします。お子さんは次のような診断を受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

1 広汎性発達障害	6 学習障害（LD）
2 自閉症・自閉症スペクトラム	7 非定型自閉症
3 高機能自閉症・高機能広汎性発達障害	8 その他（
4 アスペルガー症候群	9 診断は受けていない
5 注意欠陥多動性障害（ADHD）	

困りごとの相談、介助者への支援について

問11 お子さんを主に介助している方（主な介助者）はどなたですか。（1つに○）

1 父親	} 問12へ	6 その他 ( )	} 問13へ
2 母親		7 介助は受けていない・不要	
3 兄弟姉妹			
4 同居している祖父母			
5 その他親族			

問12 問11で「1」から「5」のいずれかに回答した方におたずねします。主な介助者をサポートしてくれる親族・知人の方はいますか。（主なもの2つまでに○）

1 父親	4 同居している祖父母	7 その他 ( )
2 母親	5 その他親族	8 サポートしてくれる人はいない
3 兄弟姉妹	6 近所の人	

問13 子育てについて、困っていることはありますか。（主なもの2つまでに○）

1 お子さんから目が離せない	6 買い物等の外出ができない
2 兄弟姉妹の面倒がみられない	7 近所や親族の協力・理解が得られない
3 気持ちが休まらない	8 自由な時間が取れない
4 身体の疲労がぬけない	9 その他 ( )
5 出費が多い	10 特に困っていることはない

問14 家族や知人以外で、日常生活の中で困ったときの相談先はどこですか。（主なもの2つまでに○）

1 医療機関	} 問15へ	8 相談支援事業所	} 問15へ
2 区の障害者福祉課		9 利用しているサービス事業者	
3 保健センター		10 障害者の会や家族の会	
4 障害者福祉課以外の区の窓口		11 民生委員・児童委員	
5 品川児童学園 「子ども発達相談室」		12 その他 ( )	
6 幼稚園・保育園		13 相談する相手はいない → 問16へ	
7 利用している療育施設			

問15 問14で「1」から「12」と回答した方におたずねします。

① 主な相談内容は何ですか。具体的にお書きください。

② その相談先は、相談しやすいですか。(1つに○)

- |   |   |                  |
|---|---|------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 気軽に相談できる</li> <li>2 時間や手間はかかるが、相談に応じてもらえる</li> <li>3 相談しにくい</li> </ul> | } | 問16へ<br><br>→ ③へ |
|---|---|------------------|

③ ②で「3」と回答した方におたずねします。「相談しにくい」と感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

問16 区や事業者などの相談窓口に期待することはありますか。(主なもの2つまでに○)

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1 日常生活・介助についてのアドバイス  | 4 お子さんに適したサービス情報の提供 |
| 2 新しい施策やサービスなどの情報提供  | 5 その他( )            |
| 3 障害・病気に適した専門的なアドバイス | 6 特にない              |

問17 子育てのために、必要な支援は何ですか。(主なもの2つまでに○)

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1 早期の療育         | 6 家事の支援      |
| 2 働き続けられる保育環境   | 7 経済的な支援     |
| 3 お子さんの一時的預かり   | 8 兄弟姉妹の相手・面倒 |
| 4 同じ状況の保護者同士の交流 | 9 その他( )     |
| 5 専門的な相談支援体制    | 10 特に必要ない    |

医療的ケアの必要なお子さんについて

問18 お子さんは日常生活において、以下の医療的ケアを必要としていますか。

(あてはまるものすべてに○)

1 たん吸引	} 問19へ	6 気管切開	} 問19へ
2 経管栄養		7 人工呼吸器	
3 胃瘻・腸瘻		8 その他	
4 酸素吸入		( )	
5 導尿		9 必要な医療的ケアはない → 問20へ	

問19 問18で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。

① 主に医療的ケアを行っているのはどなたですか。(1つに○)

1 父親	5 その他親族
2 母親	6 医師・看護師
3 兄弟姉妹	7 その他( )
4 同居している祖父母	

② 主な介助者の方は、現在働いていますか。(1つに○)

1 フルタイムで働いている	} ⑥へ	4 産休または育休中	} ③へ
2 パートタイムで働いている		5 働いていない	
3 自営業で働いている			

③ ②で「4」または「5」と回答した方におたずねします。主な介助者の方は、今後、働きたいと思いますか。(1つに○)

1 働きたい	} ④へ	3 働きたいとは思わない	} ⑥へ
2 条件が合えば、働きたい		4 わからない	

④ ③で「1」または「2」と回答した方におたずねします。働くにあたり、どのようなサービスを利用したいと思いますか。(1つに○)

1 保育園	} ⑤へ	4 その他の療育施設	} ⑥へ
2 幼稚園		5 利用希望はない	
3 認定こども園			



⑤ ④で「1」から「3」のいずれかに回答した方におたずねします。いつ頃からの利用を希望しますか。(1つに○)

1 来年度から	2 2年後から	3 3年後から	4 時期は未定
---------	---------	---------	---------

⑥ 医療的ケアの必要なお子さんの日常生活について、困っていること、今後の希望等がありましたら、ご自由にお書きください。

### お子さんの生活について

問 20 幼稚園や保育園、療育施設等を利用している方におたずねします。

① 幼稚園や保育園、療育施設等の生活で、困っていることや心配していることはありますか。(主なもの2つまでに○)

1 療育施設への送迎	7 周囲の子どもとの関係
2 療育施設での本人の成長	8 周囲の保護者との関係
3 通わせる施設の選択肢が少ない	9 困ったときの相談窓口がわからない
4 費用等の経済的な負担	10 その他
5 保育や教育・療育に関する情報が少ない	( )
6 療育・リハビリテーションの機会が少ない	11 特に困っていることや心配はない

② 幼稚園や保育園、療育施設等にいる以外の時間は、どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1 家族と過ごしている	4 習い事や塾へ行っている
2 友人、知人と過ごしている	5 その他 ( )
3 一人で過ごしている	6 特に何もしていない

Ⅲ-1 1 未就学児へのアンケート調査票

- ③ 幼稚園や保育園、療育施設等にいる以外の時間について、現在の過ごし方以外にどのような過ごし方を希望しますか。ご自由にお書きください。

問 21 小学校入学時は、どの教育機関を希望しますか。(1つに○)

- |                           |              |
|---------------------------|--------------|
| 1 小学校の通常学級                | 4 特別支援学校の小学部 |
| 2 小学校の通常学級(特別支援教室・通級指導学級) | 5 わからない      |
| 3 小学校の特別支援学級              |              |

問 22 お子さんの今後の生活や進学等について、心配していることがありましたら、ご自由にお書きください。





Ⅲ-1 1 未就学児へのアンケート調査票

問24 問23でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします。

- ① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。  
 （現在利用しているサービスごとに、1つに○）

サービスの種類	満足	やや満足	やや不満	不満
ア 児童発達支援	1	2	3	4
イ 医療型児童発達支援	1	2	3	4
ウ 保育所等訪問支援	1	2	3	4

- ② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。  
 （現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

サービスの種類	利用できる時間や日数、回数が少ない	区役所での手続きが大変	サービスに関する情報が少ない	事業者との利用日等の調整が大変	サービスの質が良くない	利用者負担が大きい	その他（具体的に）	特にない
ア 児童発達支援	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
イ 医療型児童発達支援	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
ウ 保育所等訪問支援	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8

↓  
③ハ

- ③ ②でア～ウのいずれかで「1」（利用できる時間や日数、回数が少ない）と回答した方におたずねします。現在利用しているサービスについて、そう感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

- ④ ①でア～ウのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

サービスの種類	職員の専門性が低い	個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない	緊急時の対応が遅い	要望・苦情への対応が遅い	その他（具体的に）
ア 児童発達支援	1	2	3	4	5 ( )
イ 医療型児童発達支援	1	2	3	4	5 ( )
ウ 保育所等訪問支援	1	2	3	4	5 ( )

- 問25 問23でア～ウの「今後の利用希望」のいずれかで「2」（利用したいが、利用できない）と回答した方におたずねします。その理由は何ですか。（主なもの2つまでに○）

1 近くに施設がない	4 利用方法がわからない
2 定員に空きがない	5 その他 ( )
3 利用者負担が大きい	

障害福祉サービスの利用状況・利用希望について

※ 問26～問28は、下表の障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスや関連する事業について、利用状況・利用希望をおたずねします。

サービス名	サービスの内容
ア 居宅介護（ホームヘルプ）	自宅で身体介護や家事援助等を行います。
イ 行動援護	行動障害のある方に、移動介護や危険回避の援護等を行います。
ウ 短期入所（ショートステイ）	介助者が介助できないとき、短期間、施設で生活できます。

問26 ア～ウのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。  
（それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ○）

サービスの種類	現在の利用状況		今後の利用希望		
	利用している	利用していない	利用したい (今後も)	利用希望はない	わからない
ア 居宅介護（ホームヘルプ）	1	2	1	2	3
イ 行動援護	1	2	1	2	3
ウ 短期入所（ショートステイ）	1	2	1	2	3

↓                      ↓  
問27へ              問28へ

問27 問26でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします

- ① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。  
（現在利用しているサービスごとに、1つに○）

サービスの種類	満足	やや満足	やや不満	不満
ア 居宅介護（ホームヘルプ）	1	2	3	4
イ 行動援護	1	2	3	4
ウ 短期入所（ショートステイ）	1	2	3	4

② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。

(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

サービスの種類	回数 が少ない	利用できる時間や日数、 区役所での手続きが大変	少ない サービスに関する情報が	事業者との利用日等の 調整が大変	サービスの質が良くない	利用者負担が大きい	その他(具体的に)	特 に ない
ア 居宅介護 (ホームヘルプ)	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
イ 行動援護	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
ウ 短期入所 (ショートステイ)	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8

③ ①でア～ウのいずれかで「3」または「4」(不満)と回答した方におたずねします。

不満な理由は何ですか。(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

サービスの種類	職員の専門性が低い	個々の状況に合わせた 柔軟な対応ができない	緊急時の対応が遅い	遅い 要望・苦情への対応が	その他(具体的に)
ア 居宅介護 (ホームヘルプ)	1	2	3	4	5 ( )
イ 行動援護	1	2	3	4	5 ( )
ウ 短期入所 (ショートステイ)	1	2	3	4	5 ( )

Ⅲ-1 1 未就学児へのアンケート調査票

問28 問26でア～ウの「現在の利用状況」のいずれかで「2」（利用していない）と回答した方におたずねします。現在利用していないサービスについて、その理由は何ですか。

（現在利用していないサービスごとに、主なもの2つまでに○）

サービスの種類	サービス事業者が不足している	利用者負担が大きい	施設・設備の水準が低い	サービスを知らなかった	利用方法がわからない	手続きが面倒	その他（具体的に）	必要がない
ア 居宅介護 （ホームヘルプ）	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
イ 行動援護	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
ウ 短期入所 （ショートステイ）	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8





障害に対する理解について

問 29 普段の暮らしの中で、障害や病気への差別・偏見を感じる時がありますか。

(1つに○)

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1 常を感じる   | 4 まったく感じない |
| 2 ときどき感じる | 5 わからない    |
| 3 あまり感じない |            |

問 30 周囲の人たちに対して、障害への理解を進めていくためにどのようなことを重視すべきだと思いますか。(主なもの2つまでに○)

- |                               |  |
|-------------------------------|--|
| 1 障害や障害者の生活を伝えるパンフレットの発行      |  |
| 2 障害者作品展やイベントの開催              |  |
| 3 地域や学校等で交流の機会を増やすこと          |  |
| 4 学校や生涯学習の場において、障害に関する講習や情報提供 |  |
| 5 障害についての講演会や疑似体験会の開催         |  |
| 6 障害者の一般就労の促進                 |  |
| 7 その他 ( )                     |  |
| 8 特にない                        |  |

問 31 品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちですか。(1つに○)

- |                 |          |
|-----------------|----------|
| 1 とても暮らしやすい     | 4 暮らしにくい |
| 2 どちらかという暮らしやすい | 5 わからない  |
| 3 どちらかという暮らしにくい |          |

生活の状況・区の施策について

問 32 障害のある方が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(主なもの2つまでに○)

- 1 気軽に相談できる、相談支援体制の充実
- 2 地域で自立した生活をおくるための、地域生活支援体制の充実
- 3 子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実
- 4 緊急時や災害時の安全を確保するための、安心・安全な生活基盤の確保
- 5 障害のある方の生活をサポートする、人材育成
- 6 一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実
- 7 一人ひとりの状況に応じて働ける、就労支援体制の充実
- 8 一人ひとりの権利や尊厳を守る、権利擁護体制の構築
- 9 障害の有無に係わらずともに生活できる、理解と共感が深まる意識啓発
- 10 その他 ( )
- 11 特にない

問 33 障害のある方への支援施策について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

お答えいただき、ありがとうございました。

記入した調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に封入して、切手を貼らずに、

**平成 29 年 8 月 28 日 (月)** までにポストに投函してください。

2 就学児以上 18 歳以下の方へのアンケート調査票

## 支援の必要なお子さんへのアンケート調査 (就学児以上 18 歳以下の方)

～アンケート調査へのご協力をお願い～

日頃から、品川区の福祉行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
区では、児童福祉法の改正に伴い、今年度に「品川区障害児福祉計画」を策定します。  
そのため、区内で生活をしている世帯のうち、行政からの支援を受けている、もしくは  
障害者手帳を所持している就学児以上 18 歳以下のお子さんのいる世帯を対象に、生活  
の様子やサービスの利用状況、支援への意向を把握するためのアンケート調査を実施し  
ます。

調査は無記名で行いますので、個人が特定されたり、個人の回答内容が明らかになる  
ことはありません。また、お答えいただいた内容は統計的に処理したうえで、計画策定  
の基礎資料としてのみ活用し、その他の目的に使用することは一切ありません。

調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、お願いいたします。

平成 29 年 8 月

品川区 福祉部 障害者福祉課

### ご記入にあたっての注意事項

- ① 回答は、ご家族や介助者の方が、封筒のあて名のお子さんのことについてお答えください。
- ② 回答は、○印を記入していただく設問、数字を記入していただく設問、内容を記入していただく設問があります。それぞれの指示に従って記入してください。
- ③ ○印を記入していただく設問について、あてはまる選択肢の番号に直接○印を記入してください。なお、「1つに○」「あてはまるものすべてに○」等、指示にしたがって記入してください。
- ④ 「その他」に○印を記入したときは、その内容を（ ）内にご記入ください。

記入した調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに

**平成 29 年 8 月 28 日 (月)** までに、ポストに投函してください。

問合せ先

品川区 福祉部 障害者福祉課 福祉改革担当

電話：03-5742-6762 FAX：03-3775-2000

Ⅲ-2 就学児以上 18 歳以下の方へのアンケート調査票

お子さん・世帯の状況について

問1 お子さんの性別をお答えください。(1つに○)

1 男性	2 女性
------	------

問2 平成 29 年 4 月 2 日現在のお子さんの年齢をお答えください。(数字を記入)

	歳
--	---

問3 お子さんがお持ちの障害者手帳の種類と等級をお答えください。  
(あてはまるものすべてに○)

手帳の種類	等級			
1 身体障害者手帳	1 1級	3 3級	5 5級	
	2 2級	4 4級	6 6級	
2 愛の手帳	1 1度	2 2度	3 3度	4 4度
3 精神障害者保健福祉手帳	1 1級	2 2級	3 3級	
4 特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券、小児慢性特定疾病医療受給者証				
5 いずれも持っていない				

問4 現在お住まいの地区をお答えください。(1つに○)

1 品川地区	3 大井地区	5 八潮地区
2 大崎地区	4 荏原地区	

問5 現在同居している家族をすべてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1 父親	3 兄弟姉妹	5 その他親族
2 母親	4 祖父母	6 その他( )

お子さんの障害・疾病の状況について

問6 お子さんの障害(もしくは、発達・発育で気になる点)に最初に気付いたのはいつ頃ですか。(1つに○)

1 出生時	4 2歳	7 5歳	9 9~11歳
2 0歳	5 3歳	8 6~8歳	10 12歳以上
3 1歳	6 4歳		

問7 お子さんの障害（もしくは、発達・発育で気になる点）について、最初に気付いたのはどのようなときでしたか。（1つに○）

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1 出生時      | 6 医療機関で診察したとき |
| 2 家族や周りの人  | 7 保育園、幼稚園の教職員 |
| 3 1歳6か月児健診 | 8 その他（ ）      |
| 4 3歳児健診    | 9 覚えていない      |
| 5 育児相談等    |               |

問8 お子さんには、どのような障害がありますか。（あてはまるものすべてに○）

- |                      |        |
|----------------------|--------|
| 1 身体障害（視覚障害）         | } 問10へ |
| 2 身体障害（聴覚障害・平衡機能障害）  |        |
| 3 身体障害（音声・言語・そしゃく障害） |        |
| 4 身体障害（肢体不自由）        |        |
| 5 身体障害（内部障害）         |        |
| 6 知的障害               |        |
| 7 重症心身障害             |        |
| 8 高次脳機能障害            |        |
| 9 発達障害               | → 問9へ  |
| 10 その他（ ）            | → 問10へ |

問9 問8で「9」と回答した方におたずねします。お子さんは次のような診断を受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| 1 広汎性発達障害           | 6 学習障害（LD）  |
| 2 自閉症・自閉症スペクトラム     | 7 非定型自閉症    |
| 3 高機能自閉症・高機能広汎性発達障害 | 8 その他（ ）    |
| 4 アスペルガー症候群         | 9 診断は受けていない |
| 5 注意欠陥多動性障害（ADHD）   |             |

困りごとの相談、介助者への支援について

問10 お子さんを主に介助している方（主な介助者）はどなたですか。（1つに○）

1 父親	} 問11へ	6 その他	} 問12へ
2 母親		( )	
3 兄弟姉妹		7 介助は受けていない・不要	
4 同居している祖父母			
5 その他親族			

問11 問10で「1」から「5」のいずれかに回答した方におたずねします。主な介助者をサポートしてくれる親族・知人の方はいますか。（主なもの2つまでに○）

1 父親	5 その他親族
2 母親	6 近所の人
3 兄弟姉妹	7 その他( )
4 同居している祖父母	8 サポートしてくれる人はいない

問12 子育てについて、困っていることはありますか。（主なもの2つまでに○）

1 お子さんから目が離せない	6 買い物等の外出ができない
2 兄弟姉妹の面倒がみられない	7 近所や親族の協力・理解が得られない
3 気持ちが休まらない	8 自由な時間が取れない
4 身体の疲労がぬけない	9 その他( )
5 出費が多い	10 特に困っていることはない

問13 家族や知人以外で、日常生活の中で困ったときの相談先はどこですか。（主なもの2つまでに○）

1 医療機関	} 問14へ	8 相談支援事業所	} 問14へ
2 区の障害者福祉課		9 利用しているサービス事業者	
3 保健センター		10 障害者の会や家族の会	
4 障害者福祉課以外の区の窓口		11 民生委員・児童委員	
5 品川児童学園 「子ども発達相談室」		12 その他	
6 幼稚園・保育園		( )	
7 利用している療育施設		13 相談する相手はいない → 問15へ	

問 14 問 13 で「1」から「12」と回答した方におたずねします。

① 主な相談内容は何ですか。具体的にお書きください。

② その相談先は、相談しやすいですか。(1つに○)

- |   |                   |
|---|-------------------|
| 1 気軽に相談できる<br>2 時間や手間はかかるが、相談に応じてもらえる<br>3 相談しにくい | } 問 15 へ<br>→ ③ へ |
|---|-------------------|

③ ②で「3」と回答した方におたずねします。「相談しにくい」と感じる理由は何ですか。具体的にお書きください。

問 15 区や事業者などの相談窓口に期待することはありますか。(主なもの2つまでに○)

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1 日常生活・介助についてのアドバイス  | 4 お子さんに適したサービス情報の提供 |
| 2 新しい施策やサービスなどの情報提供  | 5 その他 ( )           |
| 3 障害・病気に適した専門的なアドバイス | 6 特にない              |

問 16 主な介助者のために、必要な支援は何ですか。(主なもの2つまでに○)

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1 早期の療育         | 6 家事の支援      |
| 2 働き続けられる保育環境   | 7 経済的な支援     |
| 3 お子さんの一時的預かり   | 8 兄弟姉妹の相手・面倒 |
| 4 同じ状況の保護者同士の交流 | 9 その他 ( )    |
| 5 専門的な相談支援体制    | 10 特に必要ない    |

医療的ケアの必要なお子さんについて

問17 お子さんは日常生活において、以下の医療的ケアを必要としていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1 たん吸引	} 問18へ	6 気管切開	} 問18へ
2 経管栄養		7 人工呼吸器	
3 胃瘻・腸瘻		8 その他	
4 酸素吸入		( )	
5 導尿		9 必要な医療的ケアはない → 問19へ	

問18 問17で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。

① 主に医療的ケアを行っているのはどなたですか。(1つに○)

1 父親	4 同居している祖父母	6 医師・看護師
2 母親	5 その他親族	7 その他
3 兄弟姉妹		( )

② 医療的ケアの必要なお子さんの日常生活について、困っていること、今後の希望等がありましたら、ご自由にお書きください。

お子さんの進路・将来について

問19 お子さんの通学状況をお答えください。(1つに○)

1 小学校の通常学級	} 問20へ	9 高等学校	} 問21へ
2 小学校の通常学級(特別支援教室・通級指導学級)		10 特別支援学校の高等部	
3 小学校の特別支援学級		11 その他の学校	→ 問22へ
4 特別支援学校の小学部		12 自宅で過ごしている	} 問23へ
5 中学校の通常学級		13 その他	
6 中学校の通常級(通級指導学級)		( )	
7 中学校の特別支援学級			
8 特別支援学校の中学部			



問20 問19で「1」から「8」のいずれかに回答した方におたずねします。中学校（中学部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（1つに○）

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1 高等学校（夜間を含む）    | 5 どこにも通わない |
| 2 特別支援学校の高等部     | 6 その他（ ）   |
| 3 通信制高校等         | 7 わからない    |
| 4 生活訓練や就労支援の訓練施設 |            |

問21 問19で「9」または「10」と回答した方におたずねします。高等学校（高等部）卒業後はどのような進路を希望しますか。（1つに○）

- |                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| 1 大学や短期大学へ通う     | 6 就労継続支援事業所や就労移行支援事業所へ通う |
| 2 専門学校や専修学校へ通う   | 7 生活介護の施設へ通う             |
| 3 職業訓練学校へ通う      | 8 地域活動支援センターへ通う          |
| 4 企業等へ就職する（一般就労） | 9 その他（ ）                 |
| 5 自分で仕事する（自営業等）  | 10 わからない                 |

問22 問19で「1」から「11」のいずれかに回答した方におたずねします。

① お子さんの現在の生活で、困っていることや心配していることはありますか。（主なもの2つまでに○）

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 1 療育施設への送迎            | 7 周囲の子どもとの関係       |
| 2 療育施設での本人の成長         | 8 周囲の保護者との関係       |
| 3 通わせる施設の選択肢が少ない      | 9 困ったときの相談窓口がわからない |
| 4 費用等の経済的な負担          | 10 その他（ ）          |
| 5 教育・療育に関する情報が少ない     | 11 特に困っていることや心配はない |
| 6 療育・リハビリテーションの機会が少ない |                    |

② 学校等にいる以外の時間（放課後や長期休業中など）は、どのように過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| 1 家族と過ごしている         | 6 にじのひろばを利用している |
| 2 友人、知人と過ごしている      | 7 習い事や塾へ行っている   |
| 3 一人で過ごしている         | 8 その他（ ）        |
| 4 すまいるスクールを利用している   | 9 特に何もしていない     |
| 5 放課後等デイサービスを利用している |                 |

Ⅲ－２ 就学児以上 18 歳以下の方へのアンケート調査票

③ 学校等にいる以外の時間（放課後や長期休業中など）について、現在の過ごし方以外にどのような過ごし方を希望しますか。ご自由にお書きください。

児童福祉法による障害児通所支援について

※ 問 23～問 25 は、下表の児童福祉法に基づく障害児通所支援サービスについて、利用状況・利用希望をおたずねします。

サービス名	サービスの内容
ア 放課後等デイサービス	放課後や夏休み等の長期休暇中に生活能力向上の訓練等を行うとともに、社会参加の機会を提供します。
イ 保育所等訪問支援	専門職が障害児のいる保育所等の施設を訪問し、集団生活に適応できるよう、専門的な支援等を行います。

問 23 ア、イのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。  
 利用している方は、利用日数も記入してください。  
 （それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ○）

サービスの種類	現在の利用状況		今後の利用希望			
	利用している	利用していない	利用したい (今後も)	利用できないが、	利用希望はない	わからない
ア 放課後等 デイサービス	1 ( _____ 日/月)	2	1	2	3	4
イ 保育所等訪問支援	1 ( _____ 日/月)	2	1	2	3	4

↓  
問 24 へ

↓  
問 26 へ

↓  
問 25 へ

問 24 問 23 でア、イの「現在の利用状況」のいずれかで「1」（利用している）と回答した方におたずねします。

① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。  
 （現在利用しているサービスごとに、1つに○）

サービスの種類	満足	やや満足	やや不満	不満
ア 放課後等デイサービス	1	2	3	4
イ 保育所等訪問支援	1	2	3	4

② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。  
 (現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

サービスの種類	利用できる時間や 日数、回数が少ない	区役所での手続き が大変	情報が少ない	サービスに関する 事業者との利用日 等の調整が大変	サービスの質が良 くない	利用者負担が大き い	その他(具体的に)	特 に ない
ア 放課後等 デイサービス	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
イ 保育所等 訪問支援	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8

↓  
③へ

③ ②でア、イのいずれかで「1」(利用できる時間や日数、回数が少ない)と回答した方  
 におたずねします。現在利用しているサービスについて、そう感じる理由は何ですか。  
 具体的にお書きください。

④ ①でア、イのいずれかで「3」または「4」(不満)と回答した方におたずねします。  
 不満な理由は何ですか。(現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

サービスの種類	職員の専門性が低い	個々の状況に合わせた 柔軟な対応ができない	緊急時の対応が遅い	要望・苦情への対応が 遅い	その他(具体的に)
ア 放課後等 デイサービス	1	2	3	4	5 ( )
イ 保育所等訪問支援	1	2	3	4	5 ( )

Ⅲ-2 就学児以上 18 歳以下の方へのアンケート調査票

問 25 問 23 でア、イの「今後の利用希望」のいずれかで「2」（利用したいが、利用できない）と回答した方におたずねします。その理由は何ですか。（主なもの2つまでに○）

1 近くに施設がない	3 利用者負担が大きい	5 その他
2 定員に空きがない	4 利用方法がわからない	( )

障害福祉サービスの利用状況・利用希望について

※ 問 26～問 28 は、下表の障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスや関連する事業について、利用状況・利用希望をおたずねします。

分類	サービス名	サービスの内容
訪問系サービス	ア 居宅介護 (ホームヘルプ)	自宅で身体介護や家事援助等を行います。
	イ 同行援護	視覚障害のある方に、外出先で代筆、代読、移動等の支援を行います。
	ウ 行動援護	行動障害のある方に、移動介護や危険回避の援護等を行います。
	エ 短期入所 (ショートステイ)	介助者が介助できないとき、短期間、施設で生活できます。
地域生活支援事業	オ 移動支援事業	自立生活や社会参加のための外出時に、ヘルパーの支援を受けられます。
	カ 日中一時支援事業	特別支援学校に通学する知的障害児の放課後や夏休み等の長期休暇中の活動の場を確保します。
	キ 手話通訳者派遣事業	手話通訳者の派遣により、コミュニケーションを支援します。
	ク 要約筆記者派遣事業	要約筆記者の派遣により、コミュニケーションを支援します。
	ケ 日常生活用具給付等 事業	日常生活に必要な福祉用具の給付または貸与を行います。

Ⅲ-2 就学児以上 18 歳以下の方へのアンケート調査票

問 26 ア～ケのサービスの「現在の利用状況」と「今後の利用希望」をお答えください。  
 (それぞれの項目について、現在、今後に1つずつ○)

サービスの種類	現在の利用状況		今後の利用希望		
	る利用 してい	ない利用 してい	利用 したい (今後も)	ない利用 希望は	ないわ から
ア 居宅介護 (ホームヘルプ)	1	2	1	2	3
イ 同行援護	1	2	1	2	3
ウ 行動援護	1	2	1	2	3
エ 短期入所 (ショートステイ)	1	2	1	2	3
オ 移動支援事業	1	2	1	2	3
カ 日中一時支援事業	1	2	1	2	3
キ 手話通訳者派遣事業	1	2	1	2	3
ク 要約筆記者派遣事業	1	2	1	2	3
ケ 日常生活用具給付等事業	1	2	1	2	3

↓                      ↓  
 問27へ      問28へ

問 27 問 26 でア～ケの「現在の利用状況」のいずれかで「1」(利用している)と回答した方におたずねします。

- ① 現在利用しているサービスについて、どのように感じますか。  
 (現在利用しているサービスごとに、1つに○)

サービスの種類	満足	やや満足	やや不満	不満
ア 居宅介護 (ホームヘルプ)	1	2	3	4
イ 同行援護	1	2	3	4
ウ 行動援護	1	2	3	4
エ 短期入所 (ショートステイ)	1	2	3	4
オ 移動支援事業	1	2	3	4
カ 日中一時支援事業	1	2	3	4
キ 手話通訳者派遣事業	1	2	3	4
ク 要約筆記者派遣事業	1	2	3	4
ケ 日常生活用具給付等事業	1	2	3	4

Ⅲ－２ 就学児以上 18 歳以下の方へのアンケート調査票

- ② 現在利用しているサービスについて、困っていることがありますか。  
 (現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○)

サービスの種類	回数 が少ない	利用できる 時間や日数、 少ない	区役所での 手続きが大変	サービスに 関する情報 が少ない	事業者との 利用日等の 調整が大変	サービスの 質が良くない	利用者負担 が大きい	その他 (具体的に)	特 に ない
ア 居宅介護 (ホームヘルプ)	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8	
イ 同行援護	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8	
ウ 行動援護	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8	
エ 短期入所 (ショートステイ)	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8	
オ 移動支援事業	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8	
カ 日中一時支援事業	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8	
キ 手話通訳者 派遣事業	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8	
ク 要約筆記者 派遣事業	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8	
ケ 日常生活用具 給付等事業	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8	

Ⅲ－２ 就学児以上18歳以下の方へのアンケート調査票

③ ①でア～ケのいずれかで「3」または「4」（不満）と回答した方におたずねします。  
 不満な理由は何ですか。（現在利用しているサービスごとに、主なもの2つまでに○）

サービスの種類	職員の専門性が低い	個々の状況に合わせた柔軟な対応ができない	緊急時の対応が遅い	遅い要望・苦情への対応が	その他（具体的に）
ア 居宅介護（ホームヘルプ）	1	2	3	4	5 ( )
イ 同行援護	1	2	3	4	5 ( )
ウ 行動援護	1	2	3	4	5 ( )
エ 短期入所（ショートステイ）	1	2	3	4	5 ( )
オ 移動支援事業	1	2	3	4	5 ( )
カ 日中一時支援事業	1	2	3	4	5 ( )
キ 手話通訳者派遣事業	1	2	3	4	5 ( )
ク 要約筆記者派遣事業	1	2	3	4	5 ( )
ケ 日常生活用具給付等事業	1	2	3	4	5 ( )

Ⅲ－２ 就学児以上 18 歳以下の方へのアンケート調査票

問 28 問 26 でア～ケの「現在の利用状況」のいずれかで「2」（利用していない）と回答した方におたずねします。現在利用していないサービスについて、その理由は何ですか。

（現在利用していないサービスごとに、主なもの2つまでに○）

サービスの種類	サービス事業者が不足している	利用者負担が大きい	施設・設備の水準が低い	サービスを知らなかった	利用方法がわからない	手続きが面倒	その他（具体的に）	必要がない
ア 居宅介護 （ホームヘルプ）	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
イ 同行援護	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
ウ 行動援護	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
エ 短期入所 （ショートステイ）	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
オ 移動支援事業	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
カ 日中一時支援事業	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
キ 手話通訳者 派遣事業	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
ク 要約筆記者 派遣事業	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8
ケ 日常生活用具 給付等事業	1	2	3	4	5	6	7 ( )	8



障害に対する理解について

問 29 普段の暮らしの中で、障害や病気への差別・偏見を感じる時がありますか。  
(1つに○)

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1 常を感じる   | 4 まったく感じない |
| 2 ときどき感じる | 5 わからない    |
| 3 あまり感じない |            |

問 30 周囲の人たちに対して、障害への理解を進めていくためにどのようなことを重視すべきだと思いますか。(主なもの2つまでに○)

- |                               |
|-------------------------------|
| 1 障害や障害者の生活を伝えるパンフレットの発行      |
| 2 障害者作品展やイベントの開催              |
| 3 地域や学校等で交流の機会を増やすこと          |
| 4 学校や生涯学習の場において、障害に関する講習や情報提供 |
| 5 障害についての講演会や疑似体験会の開催         |
| 6 障害者の一般就労の促進                 |
| 7 その他 ( )                     |
| 8 特にない                        |

問 31 品川区は、お子さんやご家族の方にとって暮らしやすいまちですか。(1つに○)

- |                 |          |
|-----------------|----------|
| 1 とても暮らしやすい     | 4 暮らしにくい |
| 2 どちらかという暮らしやすい | 5 わからない  |
| 3 どちらかという暮らしにくい |          |

生活の状況・区の施策について

問 32 障害のある方が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(主なもの2つまでに○)

- 1 気軽に相談できる、相談支援体制の充実
- 2 地域で自立した生活をおくるための、地域生活支援体制の充実
- 3 子どもの成長を支える療育・家族支援体制の充実
- 4 緊急時や災害時の安全を確保するための、安心・安全な生活基盤の確保
- 5 障害のある方の生活をサポートする、人材育成
- 6 一人ひとりの状況に合わせた支援を行える、サービス提供体制の充実
- 7 一人ひとりの状況に応じて働ける、就労支援体制の充実
- 8 一人ひとりの権利や尊厳を守る、権利擁護体制の構築
- 9 障害の有無に係わらずともに生活できる、理解と共感が深まる意識啓発
- 10 その他 ( )
- 11 特にない

問 33 障害のある方への支援施策について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

お答えいただき、ありがとうございました。

記入した調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に封入して、切手を貼らずに、

**平成 29 年 8 月 28 日 (月)** までにポストに投函してください。

品川区障害児福祉計画策定実態・意向調査報告書

---

発行：平成 29 年 11 月

発行者：品川区

編集：品川区役所 福祉部 障害者福祉課

〒140-8715 品川区広町2-1-36

TEL:03-5742-6707 / FAX:03-3775-2000

---